

平成
22
年度

新たな過疎対策に関する調査研究
報告書

平成
23
年3月

長野県大町市
財団法人地方自治研究機構

新たな過疎対策に関する調査研究 報告書

平成 23 年 3 月

長野県大町市
財団法人地方自治研究機構

目次

序章 調査の概要	3
1 調査研究の背景と目的	3
2 調査研究の方法	4
3 調査研究の実施体制	7
第1章 八坂地区・美麻地区の現状	11
1 自然的条件.....	11
2 歴史的条件.....	12
3 社会経済的条件	12
4 過疎の状況.....	13
5 産業構造の変化、地域の経済的な立地特性と社会経済的発展の方向	13
6 人口及び産業の推移と動向	14
第2章 八坂地区・美麻地区の主要な地域活動	23
1 八坂地区	23
2 美麻地区	28
第3章 市民意識調査	41
＜八坂地区・美麻地区における地域づくり事業に関する住民意識調査＞	41
1 実施状況	41
2 集落の現状と課題.....	43
3 事業評価の分析方法	52
4 主要事業の比較	53
5 主要事業の事業カルテ	67
6 事業評価	88
7 自由意見の整理	93
＜小中学生向け地域づくりアンケート＞	109
1 実施状況	109
2 地域の良いところ.....	111
3 地域で気になること	112
4 期待する地域の将来像	113
5 住んでみたい街	115
6 地域のために協力すること	120
7 自由意見の整理	124

第4章 事例調査	129
1 島根県海士町.....	131
2 高島市.....	140
3 日田市大山町.....	148
4 北海道鹿追町.....	155
5 コラム（参考）.....	161
第5章 八坂地区・美麻地区のソフト事業のあり方	173
1 基本的な考え方.....	173
2 地域の自立促進の基本方針.....	174
資料編	183
1 住民意識調査票（八坂地区）.....	183
2 住民意識調査票（美麻地区）.....	192
3 小中学生向け意識調査票（八坂地区）.....	201
4 小中学生向け意識調査票（美麻地区）.....	203
5 住民意識調査の年齢別クロス集計結果.....	205
委員会名簿	217

はじめに

近年、環境対策、観光振興、地域産業の活性化、少子高齢化対策、地域コミュニティの活性化等の地方公団体が取り組むべき課題が複雑化・多様化している。また、住民に身近な行政は、地方公共団体が自主的かつ主体的に取り組むとともに、地域住民が自らの判断と責任において地域の諸課題に取り組むことが重要となってきた。

このため、当機構では、地方公共団体が直面している諸課題を多角的・総合的に解決するため、地方公共団体と共同して課題を取り上げ、全国的な視点と個々の地方公共団体の地域の実情に即した視点の双方から問題を分析し、その解決方策の研究を実施している。

過疎対策立法は、昭和 45 年より 4 次 40 年間にわたり、議員立法により適用期間 10 年間の法律が制定施行されてきたが、平成 22 年 3 月までの時限立法であった「過疎地域自立促進特別措置法」は、過疎債をソフト事業の財源とすることを可能とする一部改正が行われ 6 年間延長された。この改正を受け、過疎債を活用しどのようなソフト事業を実施し地域の自立を促進していくかは、過疎地域において極めて重要な検討課題である。本調査研究は、大町市の二つの過疎地域である八坂地区・美麻地区のソフト事業の計画策定を支援することを目的として、住民の意向に沿いながら、両地区の地域づくり委員会を中心に協議を行い、過疎地域の振興事例も参考にしたうえで、八坂・美麻両地区の個性を活かす事業や大町市との一体化を促進する事業、さらには、将来必要となる新規事業等を提案するものである。

本研究の企画及び実施にあたっては、研究委員会の委員長及び委員をはじめ、関係者の方々から多くのご指導とご協力をいただいた。

ここに謝意を表する次第である。

本報告書が広く地方公共団体の施策展開の一助となれば幸いである。

平成 23 年 3 月

財団法人 地方自治研究機構
理事長 佐野 徹治

序章 調査の概要

序章 調査の概要

1 調査研究の背景と目的

平成 22 年 3 月までの時限立法であった「過疎地域自立促進特別措置法」は、一部改正のうへ 6 年間延長され、3 月 10 日議決成立した。今回の改正は、法律の名称はそのままにしての延長という形式をとっているものの、過疎債をソフト事業（基金の積み立てを含む）の財源とすることを可能とする条文（第 12 条の 2 項）が加えられた点で、きわめて大きな改正と評価されている。

対象となるソフト事業は、地域医療の確保や住民の足の確保、集落の維持及び活性化など、住民が将来にわたり安全に安心して暮らすことのできる地域社会の実現を図るために、特別に地方債を財源として行うことが必要と認められる事業として、過疎地域の市町村が市町村計画（市町村議会の議決を要する）に定めるものとされている。なお、このようなソフト事業を実施するために設置する基金を積み立てる場合も過疎債の対象とされている。ただし、各市町村の過疎債（ソフト分）の発行限度額は、人口、面積、財政状況などの条件を考慮して定める額とされており、特に、ソフト対策に係る資金の確保・充実に万全を期すこと、過疎地域の実情に応じた主体的かつ創意工夫に富んだソフト対策の取り組みを十分に尊重することとされている。

かかる状況のもと、過疎債を活用してどのようなソフト事業を実施していくかは、過疎地域の活性化において重要な検討課題である。地域住民の安全・安心を確保し、生活の利便性を高めるためにはどのようなソフト事業が必要か、都会からの定住を促進し地域の人口減少に対応していくためにはどのようなソフト事業が重要か、さらには、地域の特産品等を開発し地域ブランドを構築して地域を活性化していくためには、どのようなソフト事業が必要か、地域住民とともに検討していく必要がある。その検討においては、従来から継続して実施している地域活動の発展に加えて新たな事業の導入についても、事業の担い手を確保するためにも地域住民とともに意見交換しながら決定していく必要がある。

大町市の過疎地域である二つの地区（八坂地区と美麻地区）では、従来より住民自治の一環として多くの地域活動が実施されているが、新過疎法の制定を機に、一層、行政と住民との協働により、自立促進に寄与する新たなソフト事業に取り組み、地域を活性化していくことが期待されている。

本調査研究は、新過疎法に基づく八坂地区・美麻地区のソフト事業の計画策定を支援することを目的として、住民の意向に沿いながら、両地区の地域づくり委員会を中心に協議を行い、また、過疎地域の振興事例も参考にしながら、八坂・美麻両地区の個性を活かす事業や大町市との一体化を促進する事業、さらには、将来必要となる新規事業等を提案するものである。

2 調査研究の方法

このような調査の背景と目的を踏まえ、次の3つの視点から調査を実施し、調査目的である「両地区のソフト事業案」をとりまとめるものである。

(1) 第1の視点 住民意識の観点からの評価

既存のソフト事業に対する評価や新規事業に対する要望について、八坂・美麻両地区の16歳以上の全住民にアンケート調査を行い、住民の合意に基づく事業計画を策定する。

加えて、次世代を担う小・中学生に対しても、まちづくりに対する意識調査を行う。

具体的な調査概要は、以下のとおりである。

- 八坂地区・美麻地区における課題
- 主要なソフト事業に対する評価・意見
 - ・ 認知度・必要性・期待できる成果・活動参加意欲
 - ・ 運営参加意欲・行政支援の必要性
- 両地区が独自の個性として発展させる事業
- 大町市の祭りや行事と連携できる事業
- 新たなソフト事業に対する必要性

(2) 第2の視点 地域づくり委員会による協議

両地区の住民自治を支える「地域づくり委員会」における協議を中心にソフト事業案を策定する。各地区において、独自の事業に関する協議を進めるとともに、地域づくり合同委員会を開催し、地域連携のソフト事業や新規事業について協議を行う。

具体的な調査概要は、以下のとおりである。

- ソフト事業に対する評価と期待
- 新たなソフト事業に対する期待
- 地域連携の検討
- 新規ソフト事業の検討

(3) 第3の視点 過疎地域の地域振興事例

全国の過疎地域における新たな地域振興事例について、必要性や重要性の観点から検討し、特に効果が期待でき、導入の可能性も高い事業については、事業概要をとりまとめ、事業化を検討する。

具体的な候補地域は、以下のとおりである。

- 島根県海士町

- 滋賀県高島市
- 大分県大山町
- 北海道鹿追町

(4) 調査の成果物

これら3つの視点から調査研究を実施し、新過疎計画におけるソフト事業案を提案する。

- 既存事業の継続的发展事業
- 新規事業
- 大町市との一体化促進事業

以上の調査研究方法を体系的に示すと、次図のとおりである。

新たな過疎対策に関する調査研究企画書案 - ソフト事業を中心として -

【調査目的】

既存の過疎計画に基づくハード事業に対する効果検証を行うとともに、新過疎法に基づく八坂地区・美麻地区のソフト事業の計画策定を支援するための調査である。
 具体的には、両地区のハード・ソフト事業に対して、住民意識調査を行うとともに、両地区の地域づくり委員会を中心に協議を行い、過疎地域の振興事例も参考にしながら、八坂・美麻両地域の個性を活かす事業や大町市との一体化を促進する連携事業、さらには、将来必要となる新規事業等について提案する。

7~8月 住民意識

第2章 住民意識調査

- アンケート方法
 - 八坂・美麻地区の16歳以上の住民
 - 手渡し配布、郵送回収
- アンケート項目(案)
 - ① 既存過疎振興計画におけるハード事業に対する効果の検証
 - ② ソフト事業に関する質問

■ 既存ソフト事業に対する質問

 - ① 主なるソフト事業に対する評価・意見
 - ・認知度・必要性・重要性
 - ・これまでの成果や期待できる成果
 - ・活動参加意欲
 - ・運営参加意欲
 - ・行政支援の必要性
 - ② 主なるソフト事業と大町市の祭り・行事との連携可能性

・各地区が独自の個性として発展させる事業

 - これまでの活動を理解し持続できるプラン
 - 大町市の祭りや行事と連携できる事業
 - 他者との調和、他地域の活動との連携から、思いやりや絆が育つプラン

■ 新規ソフト事業に対する質問

 - ① 八坂地区・美麻地区における課題
 - ・日常生活の具体的な問題(例示) 若者不足 人材育成 就業の場の不足
 - ② 新たなソフト事業の必要性・可能性
 - 住民の合意による、共感から始まるプラン

7~8月

第3章 八坂地域づくり委員会(協議案)

- #### 第1回 ソフト事業に対する評価と期待
- ① 八坂地区の課題
- ・活動の必要性・重要性・行政支援の必要性
 - ・八坂地区独自で運営すべき事業
 - これまでの活動を理解し持続できるプラン
 - 大町市の祭りや行事と連携できる事業
 - 他地域の活動との連携から、思いやりや絆が育つプラン
- #### 第2回 新たなソフト事業の検討
- ① 八坂地区の課題
- 地域の新産業創造・定住促進 新規農業者誘致
 - (例示) 特産品開発・販売促進 地産地消推進 新規農業者誘致
 - 新たな住民自治の創造
 - 地域を担う自治の仕組み、新しい秩序の創造があるプラン
 - (例示) 地域づくり協議会の役割と新たな協働のしくみづくり

第4章 美麻地域づくり委員会(協議案)

- #### 第1回 ソフト事業に対する評価と期待
- ① 美麻地区の課題
- ・活動の必要性・重要性・行政支援の必要性
 - ・美麻地区独自で運営すべき事業
 - これまでの活動を理解し持続できるプラン
 - 大町市の祭りや行事と連携できる事業
 - 他地域の活動との連携から、思いやりや絆が育つプラン
- #### 第2回 新たなソフト事業の検討
- ① 美麻地区の課題
- 地域の新産業創造・定住促進 新規農業者誘致
 - (例示) 特産品開発・販売促進 地産地消推進 新規農業者誘致
 - 新たな住民自治の創造
 - 地域を担う自治の仕組み、新しい秩序の創造があるプラン
 - (例示) 地域づくり協議会の役割と新たな協働のしくみづくり

7~8月

地域づくり委員会

第4回 地域連携の検討

- 八坂・美麻の祭りやイベントについて語り合おう
 事業の課題や解決策について話し合おう
 将来、必要な事業について話そう

第3回 八坂・美麻と大町市との合同活動の検討

- 八坂・美麻の祭りやイベントへの参加を考えよう
 各地区の活動に市民の参加を呼びかけよう
 大町市と連携する新規事業を考えよう

第4回 新規ソフト事業の検討

- 八坂・美麻の祭りやイベントについて語り合おう
 事業の課題や解決策について話し合おう
 将来、必要な事業について話そう

9~10月

第3回 八坂・美麻と大町市との合同活動の検討

- 八坂・美麻の祭りやイベントについて語り合おう
 事業の課題や解決策について話し合おう
 将来、必要な事業について話そう

9~10月

第4回 新規ソフト事業の検討

- 八坂・美麻の祭りやイベントについて語り合おう
 事業の課題や解決策について話し合おう
 将来、必要な事業について話そう

8~10月

主なソフト事業関係者へのヒアリング調査

— 事業目的、事業推移、運営状況、課題、将来像 —

全国過疎地域の振興事例調査

「過疎地域振興策の体承図」参照

11月~

第5章 過疎振興ソフト事業案の提案 - 地域連携の可能性を目指して -

- 第1の視点 既存事業の継続的発展
- 第2の視点 新規事業へのチャレンジ
- 第3の視点 大町市の一体化促進

9

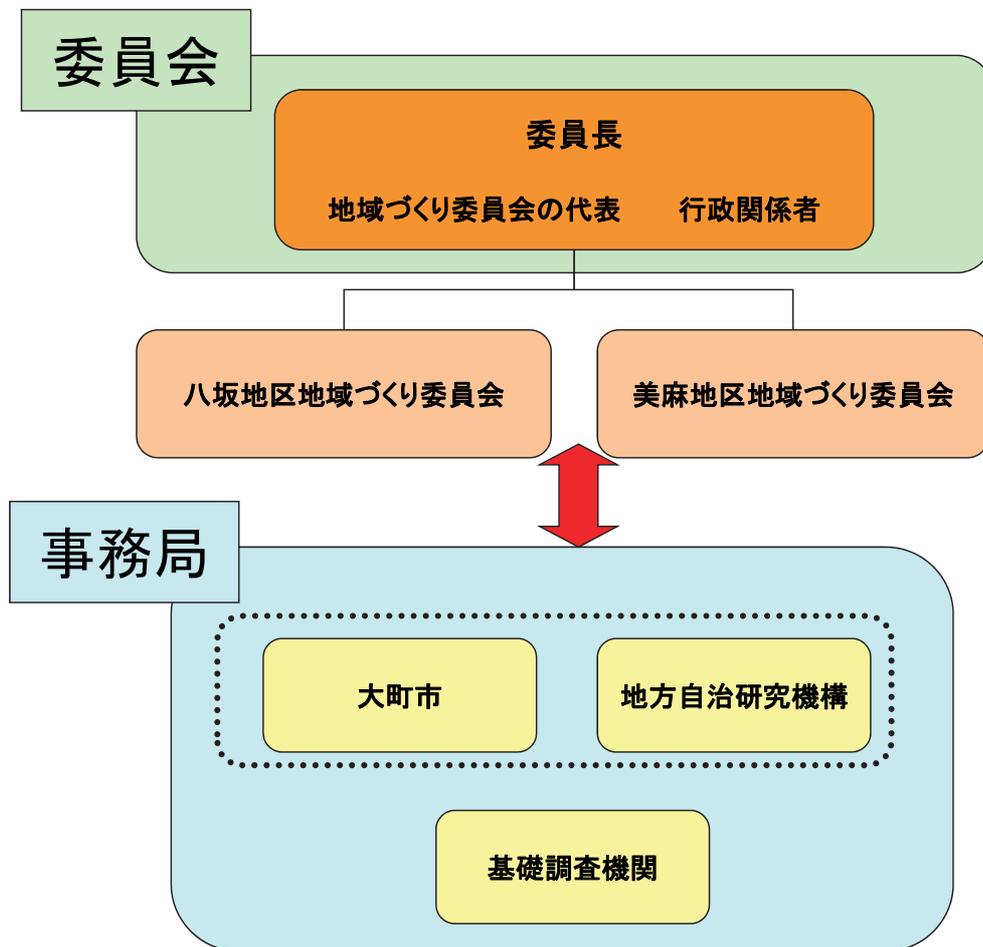
過疎振興計画策定のための基礎資料

— ソフト事業案の提案 —

3 調査研究の実施体制

本調査では、学識経験者、地域の有識者、各種関係団体、行政関係者等で組織する「新たな過疎対策に関する調査研究委員会」（以下「委員会」という。）を設置し、調査方法や調査結果の分析などについて、様々な観点から議論を行いながら、調査研究を実施する。

この委員会の下に、大町市及び財団法人地方自治研究機構で構成する事務局を設置し、委員会での審議に必要な資料の収集並びに各種調査研究を実施する。また、調査研究の一部を、基礎調査機関に委託する。



第 1 章 八坂地区・美麻地区の現状

第 1 章 八坂地区・美麻地区の現状

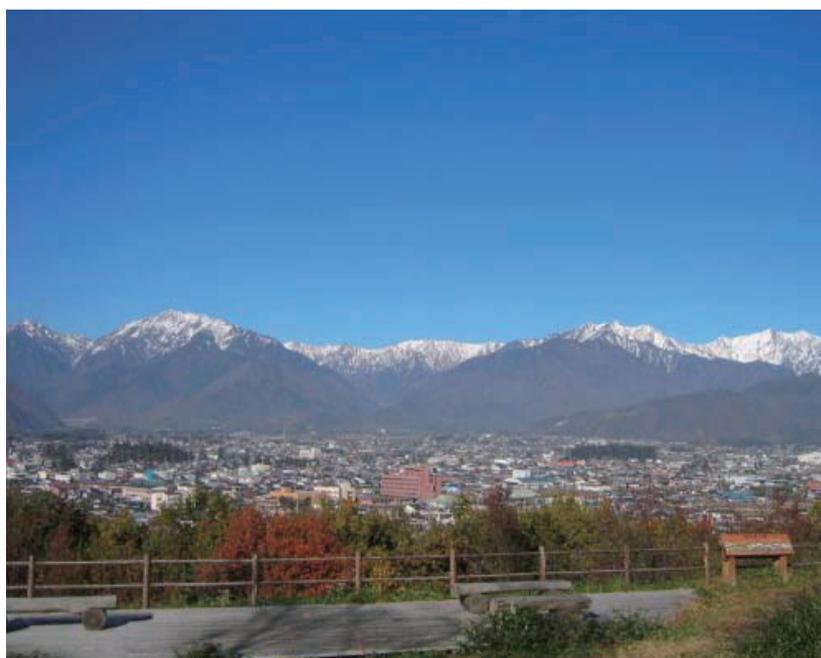
1 自然的条件

(1) 大町市全域

長野県の北西部に位置する内陸都市で、北は白馬村、東は長野市、信州新町、小川村、南は池田町、松川村、西は富山県、岐阜県などと接している。

市域の総面積は、564.99 k m²で、うち過疎地域自立促進特別措置法第 33 条第 2 項の規定により、過疎地域とみなされる 2 地区（八坂地区 33.94 k m²、美麻地区 66.21 k m²）で市域全体の約 2 割を占めている。

地勢は、西に北アルプスの雄大な山々が連なり、東には四季折々の変化に富んだ美しく豊かな自然に囲まれた里山地帯で形成されている。気候は、内陸性気候で寒暖の差が大きく、乾燥した空気が特徴である。夏は日中比較的気温が上昇するが、朝夕は涼しく、また湿度が低いため、しのぎやすい気候である。冬は厳しい寒さで、山間地だけでなく、降雪量が多いのが特徴である。



(2) 八坂地区

市の中心部より東に位置し、山々に囲まれた起伏に富んだ地形で、豊かな自然に恵まれた地区である。東部犀川流域の 440m から西に向かって高くなり、鷹狩山頂の 1,164m まで及んでいる。地層は第 3 期層で、地質は、大部分が水成岩を基盤とする粘土質であり、火成岩を含んだ植壤土と犀川沿線の砂質泥岩が帯状に分布している。

(3) 美麻地区

市中心部より北東に位置し、西に北アルプスが迫り地区内随所からの眺望に恵まれている。権現山の 1,222m を最高に最低標高 550m と標高差が大きく、いたるところに小脈が起伏し全体に急峻で複雑な地形をなしている。地質的には大部分が第 3 期層に属する堆積岩で構成され、火成岩が帯状に分布しており複雑な状況である。

2 歴史的条件

(1) 大町市全域

今から千年以上も前の平安時代からこの地域は、豪族仁科氏によって治められてきた。仁科氏が京と結びつきが強かったこともあり、中央の文化を取り入れながら独自の文化を育み多くの文化財が残されている。また、古くからこの地方は内陸信濃と日本海側を結ぶ「千国道」（糸魚川街道・通称「塩の道」）が開かれ、交易が盛んであった。特に江戸時代になると、海産物や塩、麻、たばこ等の集散地として栄えた。

明治維新後は松本県、ついで筑摩県の管理下に入り、明治 9 年以降は長野県となった。この間、合併が進み、明治 8 年には大町村、平村、社村、常盤村となり、その後、大町村は明治 5 年に大町へと名称変更し、同 22 年の町村制施行により移行した。さらに、これら 1 町 3 村は昭和 29 年に合併して大町市となり、平成 18 年 1 月には隣接する八坂村、美麻村を編入合併し、更に市域を拡大し新たなまちづくりを推進している。

(2) 八坂地区

地区の起源は古く、鷹狩山麓北部からは、旧石器時代末のナイフ型石器や縄文式土器などが出土している。また、藤尾覚音寺に安置され、国の重要文化財に指定されている千手観音立像は、平安末期の治承 3 年造立とされており、古くから集落が形成されていたことが伺える。

明治 8 年に相川新田村、大平村、切久保新田村・大塚新田村・野平新田村・舟場村・左右村・槍平新田村・丹生子村枝郷菅之窪が合併し八坂村となった。

昭和に入って旧広津村の一部の菖蒲地区を編入し、左右地区を信州新町へ分離し、平成 18 年 1 月に大町市と合併し現在に至っている。

(3) 美麻地区

この地区に人々が住み始めたのは、今から 8,000 年前の縄文時代早期の人と知られている。地区には多くの縄文時代の遺跡があるが、その多くは少数の人々が短い期間だけ住んでいたと考えられる小規模遺跡だと言われている。

また、麻の特産地として知られその栽培の歴史は弥生時代から始まり、信濃の国の麻布として正倉院にも献上麻布が残されているほどである。

明治 8 年に大塩村、二重村、高地村、千見村、青具村、新行新田村、切明新田村の 7 村が合併し美麻村となり、平成 18 年 1 月 1 日に大町市と合併し現在に至っている。

3 社会経済的条件

(1) 大町市全域

国道、県道が市内を通過し、市域を連絡する重要な路線としての役割を担っている。又、オリンピック道路の整備により、大都市圏がより身近になりあらゆる分野での地域間交流を拡大させ、産業、経済、観光等において大きな影響を与えている。

土地利用については、恵まれた自然環境・条件を活かしながら稲作中心の振興が進められてきた。

観光については、立山・黒部アルペンルートをはじめ多くの観光資源を有し、全国に親しまれる観光地として発展を続け、多くの観光客が訪れている。

(2) 八坂地区

地区の南側を主要地方道大町麻績インター千曲線が通過しているほか、県道が西部と東部地区を結び、国道 19 号とともに通勤通学をはじめ主要な生活路線となっている。

主な産業は、農業で稲作や野菜栽培を中心に耕作されてきたが、立地条件の悪さから近代化が遅れ、従事者の兼業化と高齢化が進んでいる。

製造業を中心に企業誘致や第 3 セクターの設立等を行い就労の場を確保してきたが、多くの住民の就労は、地区外の企業等に依存している状況である。

(3) 美麻地区

交通の便では、県道 6 路線により他地域と連絡しており、オリンピック関連道路や高速交通網の整備等により、県内主要都市及び首都圏等との時間的距離は大幅に短縮され、その結果、県都長野市へは、1 時間以内の距離となっている。

地域の経済は、古くは薪炭を中心とする林業と、養蚕・麻を中心とする畑作により支えられてきたが、林業が衰退するとともに需要の減少などから養蚕や麻も廃れ、現在では水稻栽培を中心としながら、その担い手も 90%以上が製造業や建設業等との兼業により営まれている。

4 過疎の状況

(1) 過疎地域全体

八坂・美麻地域を合算した人口は、昭和 35 年の 6,033 人から、平成 17 年には 2,347 人と 40%以下に減少している。

その中でも特に年少人口（0 歳～14 歳）の減少幅が大きく、昭和 35 年の 2,034 人から、平成 17 年には 394 人と、約 80.6%の減少となっている。

逆に老年人口（65 歳以上）は増加しており、高齢者比率は、昭和 35 年の 9.8%から、平成 17 年の 31.8%へと急激に高くなっており、少子高齢化が急速に進行している。

また、住民が高齢化した集落が点在していることから、これら集落住民の生活環境の維持向上の対策、特に交通手段の確保が重要な課題となっている。

これまで、過疎対策事業等により、道路・水道等の基盤整備、市営住宅等の生活環境、福祉施設の整備、農林業・観光を中心とした産業基盤の整備など、生活環境基盤整備を進めてきたが、高齢化の一層の進展や児童・生徒数の減少など、新たな段階を迎えた過疎問題と併せて、地域活性化の諸施策を更に積極的に推進する必要がある。

5 産業構造の変化、地域の経済的な立地特性と社会経済的発展の方向

(1) 八坂地区

昭和 35 年の国勢調査における産業構造は、第一次産業が 81.3%、第二次産業が 7.7%、第三次産業が 11.0%と、第一次産業の占める割合が高く、昭和 50 年までは、産業別就業人口の中で第一次産業の占める割合が一番多い状況が続いていたが、その後は、調査ごとに

第二、第三次産業への移行が進み、平成 17 年は、第一次産業が 23.1%、第二次産業が 31.6%、第三次産業が 45.3%となっている。

産業構造の変化を踏まえ、第一次産業との兼業化に対応した事業の推進を図るとともに、都市、地域間交流を進める中で、地区の人的、物的資源を最大限に活用した特色ある産業の創出、高齢者の福祉を充実するサービスの提供、農林業、観光、商業等、異業種間の連携による産業振興など、時代とニーズにあった地域経済の発展を様々な方向から模索していくことが重要となっている。

(2) 美麻地区

昭和 35 年の国勢調査における産業構造は、第一次産業が 81.1%、第二次産業が 7.2%、第三次産業が 11.7%と農業中心の産業構造であったが、平成 17 年度国勢調査による産業構造は、第一次産業が 19.1%、第二次産業が 28.3%、第三次産業が 52.6%と第二、第三産業への移行が見られる。

今後は、従来型の産業だけではない、農林業と観光事業や交流事業との連携強化による体験型観光の積極的開発・導入や、全国に先駆けて超高齢社会を迎えている当地域の特徴を逆手に取った副産業の創出など、大胆な発想が求められている。また、法人の農業参入による新規就農促進や、消費者との交流の上にとった稲作や商品作物の開発等、農業活性化に向けた新たな動きを積極的に取り入れることも重要な課題となっている。

6 人口及び産業の推移と動向

(1) 大町市全域

大町市全域の人口の推移を合併前の大町市、旧八坂村、美麻村で合算した数値で見ると、平成 17 年の国勢調査で 32,145 人であり、昭和 35 年の 41,184 人と比較し、9,039 人、21.9%減少している。

年齢構成比の推移を見ると、年少人口（0 歳～14 歳）と生産年齢人口（15 歳～64 歳）が大きく減少している一方、老年人口（65 歳以上）は増加しており、少子高齢化が進行している。

産業就業別人口の比率を見ると、第一次産業では、昭和 35 年の 40.8%から平成 17 年には 10.9%と大幅に減少しており、農業離れが進んでいる。第二次産業では、昭和 35 年の 30.3%から昭和 60 年には 40.5%と増加を続けてきたが、その後減少に転じ、平成 17 年には 30.9%に減少しており、景気の悪化による建設業の縮小等が主な要因であると見られる。第三次産業では、昭和 35 年の 28.9%から、平成 17 年には 58.3%と増加しており、これは情報関連産業を中心とするサービス業等の成長が主な要因と見られ、今後も増加が見込まれる。

(2) 過疎地域全体

八坂・美麻地域を合算した人口は、昭和 35 年の 6,033 人から、平成 17 年には 2,347 人と 40%以下に減少している。

その中でも特に年少人口（0 歳～14 歳）の減少幅が大きく、昭和 35 年の 2,034 人から、平成 17 年には 394 人と、約 80.6%の減少となっている。

逆に老年人口（65歳以上）は増加しており、高齢者比率は、昭和35年の9.8%から、平成17年の31.8%へと急激に高くなっており、少子高齢化が急速に進行している。

産業就業別人口の比率を見ると、第一次産業では、昭和35年の81.2%から、平成17年には20.9%へと大幅な減少となっており、農業離れが進んでいる。第二次産業では、昭和35年の7.4%から平成2年には49.0%と増加を続けてきたが、その後減少に転じ、平成17年には29.8%に減少しており、景気の悪化による建設業の縮小等が主な要因であると見られる。第三次産業では、昭和35年の11.4%から、平成17年には49.3%と増加し、第一次産業、第二次産業を上回っており、今後も増加が見込まれる。

八坂地区の概要

表1 ◇八坂地区人口の推移 (単位:人;H21.10.1現在)

年	世帯数		人口		増減率	備考
	男	女	男	女		
昭和50	409		1,727	849		
55	399		1,503	752	-12.97%	
60	405		1,499	743	-0.27%	
平成2	386		1,363	684	-9.07%	
7	411		1,296	643	-4.92%	
10	412		1,251	624	-3.47%	
11	409		1,237	618	-1.12%	
12	411		1,222	616	-1.21%	-1.04%
13	405		1,238	610	1.31%	
14	413		1,174	573	-5.17%	
15	414		1,161	570	-1.11%	
16	411		1,146	554	-1.29%	-4.68%
17	402		1,119	541	-2.36%	
18	401		1,087	533	-2.86%	
19	387		1,032	504	-5.06%	
20	382		992	484	-3.88%	
21	383		970	477	-2.22%	
22/4月	384		968	474	-0.21%	-10.76%

表3 ◇65歳以上の高齢者が住民の50%以上となる集落 (H21.10.1現在)

地区名	集落名		計	全集落数
	戸数	人数		
大平			0	7
石原	塩の貝・菖蒲・石原・菅の窪・小松尾		5	7
切久保	宮の尾・押の田・曹山		3	4
中央	長畑		1	4
野平	池の平・地志原		2	4
舟場	枋沢		1	3
合計			12	29
				割合
				41.4%

表4 ◇転入・転出・転居者数(山村留学生除く) (単位:人)

期間	転入		転出・転居		差引き	備考
	市外	市内	計	計		
H18.10~H19.9	15	42	57	42	-42	タウン者6名・徳島県・埼玉県
H19.10~H20.9	31	26	40	66	-35	タウン者6名・神奈川県・県内
H20.10~H21.9	20	34	5	39	-19	タウン者5名・神奈川県・東京都

表2 ◇各自治振興会別高齢化率 (単位:人;H21.10.1現在)

地区名	人口		65歳以上高齢者数		高齢化率	
	男	女	男	女	男	女
大平	167	168	35	51	21.0%	30.4%
石原	42	52	12	23	28.6%	44.2%
切久保	96	77	21	25	21.9%	32.5%
中央	37	44	5	20	13.5%	45.5%
野平	83	82	165	34	41.0%	46.3%
舟場	51	71	122	20	39.2%	49.3%
合計	476	494	970	127	26.7%	38.9%

表5 ◇Iタウン者数(山村留学生関係は除く) (単位:戸・人;H21.10.1現在)

公営住宅	定住促進住宅等		宅地造成		空き家利用		住宅建設		合計
	戸数	人数	戸数	人数	戸数	人数	戸数	人数	
29	14	45	3	7	21	55	6	21	73
	84				939				22.60%
									全住民に占める割合

表6 ◇八坂児童・生徒数の推移

年度	八坂小学校				八坂中学校				留学除く 地区総数	備考
	児童数		生徒数		地区		山村留学			
	地区	山村留学生	生徒数	山村留学	地区	山村留学	山村留学			
10	83	74	9	52	41	11	115			
11	72	64	8	55	46	9	110			
12	77	66	11	46	41	5	107		-5.2%	
13	77	67	10	58	42	16	109			
14	79	72	7	42	28	14	100			
15	85	77	8	50	35	15	112			
16	82	72	10	45	34	11	106		5.0%	
17	79	70	9	48	35	13	105			
18	80	70	10	41	30	11	100			
19	62	55	7	43	34	9	89			
20	62	53	9	40	31	9	84		-7.0%	
21	67	55	12	48	38	10	93			
22	58	47	11	46	33	13	80			

(単位:人)

表7 ◇児童・生徒1ターナー者数(山村留学関係は除く)

公営住宅	定住促進住宅等			宅地完成			個人住宅建設			合計
	10	1	86	8	2	40				
19	10	1	86	8	2	40	全児童生徒数に占める割合			46.5%

(単位:戸・人;H21.10.1現在)

表8 ◇就学前乳幼児数 (単位:人・H22.4.2日現在)

年齢	人数			備考
	男	女	計	
0歳	2	1	3	28年入学生
1	2	3	5	27
2	3	2	5	26
3	0	1	1	25
4	4	1	5	24
5	5	3	8	23
6	0	4	4	22
合計	16	15	31	

表9 ◇乳幼児1ターナー者数

公営住宅	定住促進住宅等			宅地完成			空き家利用			合計
	8	0	31 <th>7</th> <th>0 <th>18 </th></th>	7	0 <th>18 </th>	18				
3	8	0	31	7	0	18	全乳幼児数に占める割合			58.1%

(単位:戸・人;H22.4.2現在)

表10 ◇過疎債事業項目別充当額

区分	(単位:万円)									
	年度	道路	農業・観光施設	消防施設	情報・交通施設	水道施設	その他	計		
12	18,050	37,650	1,290	240		610	57,840			
13	9,790	21,330	310				31,430			
14	2,220	31,560					33,780			
15	8,590					760	9,350			
16	9,070						9,070			
17	2,100			28,560			30,660			
計	49,820	90,540	1,290	29,110	0	1,370	172,130			
各年平均	8,303	15,090	215	4,852	0	228	28,688			
18	2,430		3,420			450	6,300			
19	730		2,050		2,030		4,810			
20	1,080		360		480		1,920			
計	4,240	0	5,830	0	2,510	0	13,030			
各年平均	1,060	0	1,458	0	628	0	3,258			

表11 ◇住宅整備の状況

項目	戸数	地区名	整備年度		起債事業名
			昭和58年~平成7年	平成9年~13年	
公営住宅	30	明野30戸			公営住宅債
定住促進住宅	17	明野6・野平8・切久保3			地域総合整備債
計	47				
集落移転整備事業	61	明野・梨平・地志原・上籠			過疎対策事業債
宅地完成事業	7	切久保			

(単位:戸・区画)

表12 ◇主な企業誘致等の状況

施設名	誘致年度	資本金	従業員数	(H20.10.1現在)	
				内八坂地区入数	市内1/2・住民1/2
㈱レジオン八坂工場	昭和47	30,000千円	45名	8名	
㈱八坂GAC	平成2	40,000千円	67名	19名	
㈱あすかの杜(第3セクター)	平成14	50,000千円	36名	18名	

表13 ◇協働のまちづくり事業の状況

事業名	補助事業名	事業内容	事業費	事業主体
「山村交流の道」整備事業	県元気づくり支援金	曾山地籍に防犯灯整備	1,680千円	地域づくり協議会
そば栽培で遊休化防止	県元気づくり支援金	そばコンバイン整備	5,850千円	八坂そば組合
唐花見温泉遊歩道整備	県元気づくり支援金	遊歩道(木道)200m整備	2,000千円	大町市
遊休農地の再活用事業	さらに輝く協働のまち	ラベンダー園整備等	800千円	野平自治振興会
アルプスビューポイント整備	さらに輝く協働のまち	相川川・ネル周辺整備	710千円	八坂商工倶楽部
花づくり事業	さらに輝く協働のまち	道路沿線等への花植え	856千円	地区内5団体

美麻地区の概要

表1 ◇美麻地区人口の推移 (単位:人; H21.10.1現在)

年	世帯数	人口		増減率	備考
		総数	男女		
昭和50	439	1,740	876 864		
55	436	1,614	788 826	-7.24%	
60	428	1,510	708 802	-6.44%	
平成2	405	1,328	630 698	-12.05%	
7	415	1,290	620 670	-2.86%	
10	422	1,294	619 675	0.31%	
11	433	1,293	618 675	-0.08%	
12	434	1,255	597 658	-2.94%	-1.62%
13	436	1,273	603 670	1.43%	
14	442	1,248	602 646	-1.96%	
15	430	1,227	594 633	-1.68%	
16	438	1,237	601 636	0.81%	-2.72%
17	435	1,214	584 630	-1.86%	
18	436	1,189	581 608	-2.06%	
19	432	1,158	566 592	-2.61%	
20	419	1,133	543 590	-2.16%	-7.32%
21	409	1,102	527 575	-2.74%	
22/4月	411	1,094	523 571	-0.73%	

表3 ◇65歳以上の高齢者が住民の50%以上となる集落 (H21.10.1現在)

地区名	集落名	計	全集落数
大塩	中の貝	1	9
二重		0	6
新行	東、西の上、西の下	3	6
青具	米山、日向、塩の川、石原、峠、片岡、万中	7	16
千見	外山、三百地、中の崎	3	7
合計		14	44

表4 ◇転入・転出・転居者数 (単位:人)

期間	転入		転出・転居		差引き	備考
	市外	市内	市外	市内		
H20.10~H21.9	37	14	57	71	-34	1ターナー者18名・大阪府・埼玉県・東京都 埼玉県・千葉県・岐阜県

表2 ◇各地区別高齢化率 (単位:人; H21.10.1現在)

地区名	人口		65歳以上高齢者数		高齢化率		計
	男	女	男	女	男	女	
大塩	136	143	279	26	40	66	23.7%
二重	97	105	202	21	31	52	25.7%
新行	69	81	150	21	30	51	34.0%
青具	162	171	333	58	72	130	39.0%
千見	61	71	132	20	40	60	45.5%
合計	525	571	1096	146	213	359	32.8%

表5 ◇1ターナー者数 (単位:戸・人; H21.10.1現在)

公営住宅	定住促進住宅等		宅地造成		空き家利用		住宅建設		合計		
	戸数	人数	戸数	人数	戸数	人数	戸数	人数			
39	110	9	28	14	44	48	104	25	70	135	356
全住民に占める割合 32.30%											

表6 ◇美麻児童・生徒数の推移

年度	八坂小学校			八坂中学校			留学除く 地区総数	備考
	児童数	地区	山村留学 生徒数	地区	山村留学 生徒数	地区総数		
10	86	77	9	36	8	113		
11	88	83	5	37	4	120		
12	96	91	5	36	5	122	12.4%	
13	100	93	7	34	7	127		
14	98	92	6	36	7	128		
15	102	96	6	34	6	130		
16	96	91	5	42	8	133		
17	91	84	7	47	40	124		
18	83	79	4	58	50	129		
19	79	74	5	55	47	121		
20	69	65	4	49	45	110		
21	68	65	3	44	38	103		
22	68	63	5	39	34	97		

表7 ◇児童・生徒1ターナー者数

公営住宅	定住促進住宅等		宅地完成		空き家利用		個人住宅建設		合計
	5	10	10	6	6	12	56		
23	山村留学を除く児童生徒数		94		全児童生徒数に占める割合		59.6%		

表8 ◇就学前乳幼児数

年齢	人数			備考
	男	女	計	
0歳	5	1	6	28年入学
1	1	1	2	27
2	8	5	13	26
3	1	1	2	25
4	2	8	10	24
5	2	5	7	23
6	6	2	8	22
合計	25	23	48	

表9 ◇乳幼児1ターナー者数

公営住宅	定住促進住宅等		宅地完成		空き家利用		個人住宅建設		合計
	8	5	2	13	2	30	62.5%		
	就学前乳幼児数		48		全乳幼児数に占める割合		62.5%		

表10 ◇過疎債事業項目別充当額

区分	年度							計
	12	13	14	15	16	17	計	
美麻村	道路	9,170	12,400	15,770	17,730	1,430	770	880
	農業・観光施設	6,950	4,740	5,490	1,260	29,580	0	6,097
	消防施設	6,950	4,740	5,490	1,260	29,580	0	6,097
各年平均	18	2,430	3,420	2,050	360	480	2,510	860
	19	730	2,050	360	480	2,510	0	450
(大坂町十美市)	20	1,080	360	480	2,510	0	0	480
	計	4,240	0	5,830	0	628	0	0
各年平均	1,060	0	1,458	0	628	0	0	3,258

表11 ◇住宅整備の状況

項目	戸数	地区名	整備年度	起債事業名	
				公営住宅	定住促進住宅
公営住宅	53	大塩、二重、新行、青具、千見	昭和51年～平成7年	公営住宅建設補助金(公営住宅債)	
定住促進住宅	9	青具 廻田地、川手	昭和51年、平成12年	過疎地域整備事業補助金(過疎対策事業債)	
計	62				
集落移転整備事業	34	青具川手、千見中の崎、青具米山、大塩	昭和50年～昭和52年	過疎地域自立促進モデル事業補助金(過疎対策事業債)	
宅地完成事業	34	大塩南村	平成6年、平成11、12年	過疎地域自立促進モデル事業補助金(過疎対策事業債)	

表12 ◇協働のまちづくり事業の状況

事業名	補助事業名	事業内容	事業費	事業主体
地域づくり活動	さらに輝く協働のまち	H18-H20 静の桜公園周辺の環境整備	2,657.4千円	しずかの環境を守る会
伝統文化継承	さらに輝く協働のまち	伝統祭囃子の保存継承	300千円	南村祭囃保存会
伝統文化継承	さらに輝く協働のまち	伝統祭囃子の保存継承	285千円	水上神社の会
伝統文化継承	さらに輝く協働のまち	伝統祭囃子の保存継承	300千円	新行神楽保存会
美麻いへことよつとくれフェア	県元気づくり支援金	道の駅周辺の活性化と遊休荒廃地の減少を目指す	588千円	地域づくり会議
美麻の宝「発見・伝」	県元気づくり支援金	地域の有形無形の未開発資源を発見共有し地域づくりに活かす	967千円	地域づくり会議
美し村開拓団入植促進プロジェクト	県元気づくり支援金	地域活性化と交流人口の増加を図る	1,130千円	地域づくり会議
大町美麻ニューフロンティア開拓事業	農山漁村地域力発掘支援モデル事業	ふるさと再生ワークショップを開催し、新たな交流産業を創出する	2,680千円	美し村開拓協議会

第2章 八坂地区・美麻地区の主要な地域活動

第2章 八坂地区・美麻地区の主要な地域活動

1 八坂地区

(1) 山村留学

①活動内容

ア 長期山村留学

- ・ 活動場所 八坂美麻学園
- ・ 活動内容 一年間を単位に小中学生が親元を離れて八坂美麻に移り住み、センターでの合宿生活と農家民泊を月の半分ずつ繰り返しながら、地元小中学校に通い、四季を通じて様々な自然体験（農作業、野外活動等）、文化体験（民俗芸能）、集団生活体験を行う。



イ 短期山村留学

- ・ 活動場所 八坂美麻学園
- ・ 活動内容 長期休業（夏休み、冬休み、春休み）中、5日から2週間程度まで、幼児低学年から高校生までを対象に、野外活動（キャンプ、登山、自然研究、スキー等）、農業・効果体験、塩の道など、様々な自然体験活動を行っている。他にも、通年（年6回）、週末活動を実施している。



ウ 自然体験教室

- ・ 活動場所 八坂美麻学園
- ・ 活動内容 地元の児童生徒や住民を対象に、通学合宿（5日間、センターで集団生活を送りながら学校に通学するもの）、アルプス登山、キャンプ、自然研究、食文化体験等の体験活動を実施している。

エ 都市農村交流事業・国際交流事業

- ・ 活動場所 八坂美麻学園
- ・ 活動内容 都市住民（山村留学OB）と地元住民による棚田保全の協働事業や地元農産物の直売、あるいは平成21年度からは、タイ高校生が日本の暮らしや文化

を学ぶため、1週間程度滞在し、自然体験や文化体験等を行う日本タイ青少年交流事業を行っている。

オ 補助事業・委託事業

- ・ 農林水産省子ども農山漁村交流プロジェクト対策事業（新グリーン・ツーリズム等支援事業）
- ・ 文部科学省青少年体験活動総合プラン

②活動経緯

- ・ 1968年 青木理事長、教員、父母、教育関係者により、任意団体として発足
- ・ 1969年 旧八坂村で短期山村留学を実施
- ・ 1972年 東京都知事より「財団法人育てる会」として認可される
- ・ 1973年 文部大臣より「財団法人育てる会」として認可される
- ・ 1976年 我が国初の一年間を単位とした長期山村留学事業を開始（八坂学園）
- ・ 1992年 八坂学園と併設し、美麻学園を開設
- ・ 2006年 文部科学大臣より「特定公益増進法人」の認可を受ける

③現在の課題

- ・ 参加費だけでは運営できないため、活動資金の調達に腐心、苦勞している。
- ・ 受け入れ農家の確保が大きな課題である。生活様式の変化等により、高齢でも車を運転して働きに出る女性が多く、従前と同様の形態や条件で子どもを預かることができる家庭が減っているため、受け入れ条件等を見直しながら広げていく時期に来ている。
- ・ 事業の理念、意義、趣旨を伝えていくことが難しく、ネットや文書も大切だが、地元住民に対して対話や交流を通じて広めていくことが大切である。

④今後の展望

- ・ 八坂美麻地区の魅力の一つは、恵まれた教育・子育て環境であり、この環境を求めてやってくる人たちの流れは、今後も途切れることはないと思われる。また、この地域は市街地から比較的近いため、物資の調達、人の輸送、緊急時の対応等、他の山間地と比べると有利な面も多い。山村留学発祥の地であり、アルプスに近い恵まれた自然環境の中にあり、生活のしやすさや安全確保の充実度が高いことを考え合わせると、この地域における山村留学事業は、今後も充実を図りながら継続していきたい。
- ・ 棚田保全事業、国際交流事業、小中学生のみならず高校大学生を対象にした体験活動等、センターを基点に様々な活動を展開している。これらは、社会から強く求められている活動や運動であるが、地域住民にはまだ浸透していないように思われたため、地域住民への啓蒙活動を積極的に図っていきたい。
- ・ 今後は、教育事業、交流事業、体験事業はもちろんのこと、移住・定住をも視野に入れた活動を展開していきたい。

(2) 体験館そばまつり・体験活動

①活動内容

- ア 体験館そばまつり
 - ・ 活動場所 ふるさと体験館
- イ そば・おやきの体験
 - ・ 活動場所 ふるさと体験館



②活動経緯

- ・ 2004年 八坂商工会として体験館の指定管理を実施
- ・ 2006年 八坂商工倶楽部として体験館の指定管理を継続



③現在の課題

- ・ 資金源がなく、活動資金の調達が課題である。
- ・ 随時、広告チラシの折込みを行ってきたが、情報発信が不足している。

④今後の展望

- ・ 毎年10月に実施している新そば祭りは、一定の実績を収めているが、通常営業での売上が伸びず、厳しい経営が続いているため、ホームページの開設や事業所・学校に対するPRの徹底など、効果的な情報発信を行っていききたい。
- ・ そば祭りは、これまで体験館と明日香荘が別々に行ってきたが、統合して地域の行事とすることによって大きな効果が期待できるのではないかと考えている。
- ・ 八坂産そばの成分分析を行い、ブランド化を検討していききたい。

(3) ラフティング事業

①活動内容

- ・ 現在、犀川においてラフティング事業を実施している。

②現在の課題

- ・ 宿泊を伴う滞在型の事業に発展させていく必要がある。
- ・ 修学旅行の受け入れも検討していく必要がある。
- ・ ラフティングとツーリズム（農家民泊）を融合させた事業やラフテ



ィングにフィールドアスレチックのようなスポーツ的要素を取り入れた新たな事業の展開も検討していきたい。

③今後の展望（有識者の意見）

A ラフティング

- ・ 一般客には 8000 円、団体客には 5000 円で提供している。
- ・ 5～6 月は中学生の修学旅行客、夏は親子連れが多く、9 月は大学生、その後 11 月の初旬までは高校生の修学旅行客が来る。
- ・ 夏期の客は白馬の宿泊客が多い。
- ・ 現在のスタッフでは 1 回につき 200 人までの受入が限界である。修学旅行が集中する時期には外部からガイドを呼んでいるため、地元の方にラフティングのガイド資格を取得してもらうなどし、繁忙期にサポートしてもらえるとありがたい。
- ・ ガイドの資格取得については、日本ラフティング協会が定めるガイドを育成するための研修プログラムがある。6 日間の研修で、最後の試験を通過するとガイドの最低ランクの資格が得られる。

B 修学旅行

- ・ 南信州観光公社などの受入組織があることから、長野県内には修学旅行が相当数来ている。
- ・ （株）ポップが八坂で提供しているラフティングも人気が高く、修学旅行のシーズンには予約がいっぱいの状況となっている。
- ・ 修学旅行では少人数に分かれて農家等に宿泊する民泊とラフティングのセットが人気のようだ。
- ・ 大町市には民泊がないため修学旅行生は八坂でラフティングをした後、他地域で民泊しており、大町市にはあまりお金が落ちない状況となっている（現状ではシャワー代や食事代がさざなみに支払われている程度）。大変残念に感じている。
- ・ 飯田の民泊は飽和状態となっており、長野県内の他地域でも受入が拡大している。大町市の近隣では鬼無里、大岡、信里（いずれも長野市）で受入が進んでいると聞いている。大町市でも民泊を用意すれば需要は十分にあると感じており、一日もはやく民泊受入の準備を進めるべきである。
- ・ 修学旅行は先生のロコミで行き先が決まることが多く、受入実績を作って満足を得られればおのずと学校数が増えると思われる。
- ・ 最近では長野県内で受入きれず、修学旅行が四国に流れているという話も聞く。
- ・ 修学旅行生は 180～200 名単位での受入が必要となり、1 校を受け入れるのに 30 件程度の民泊を用意する必要がある。しかし大町市だけで受け入れる必要はなく、他地域と連携していくとよい。
- ・ 民泊受入は、1 軒でいいので受入先を確保するところからスタートする。修学旅行は実際の受入の 2 年前に予約が入るため、まずは 1 校受け入れることを決めてしまい、2 年の間に受入体制や保険の整備、情報発信等の検討を進めればよい。
- ・ 学校によっては民泊先を農家に限らないところもあるので、民宿等を含めて考えてもよい。

- ・ 木崎や鹿島など、地理的に似ている地域と連携して進めることも一つの方法である。
- ・ 検討母体となる協議会を立ち上げるとよいと思われる。
- ・ 受入協議会に市が参加していると、学校側は信頼できる受入先として安心するようだ。
- ・ ただし修学旅行はシーズンに限られており、季節性があることに留意する必要がある。
- ・ 最近では台湾やシンガポールからのインバウンド客（修学旅行生）も来ている。体験と学校間交流を希望している。
- ・ 飯田市では、民泊を希望する学校には必ず特定のホテルもあわせて利用するように依頼している。こうすれば地元にもよりお金が落ち、民泊の負担も軽くできる。

C 新規事業の展開

- ・ 白馬にある EX アドベンチャー（体験料：1人 3500円）はかなり人気のため5～6月は飽和状態となっている。このアトラクションはロイヤリティ制で展開されており、運営ノウハウ等を教えてもらえる。2000万円程度で整備できる。
※EXアドベンチャー：地上8～12mの高さの様々な遊びを体験できるアドベンチャーコース。
学びの要素が盛り込まれ、企業の研修や子供の教育等にも活用されている。
- ・ 岩岳のサマーゲレンデが今期で営業終了するため、ファンスキーが実施できる場所を作ってもらえるとありがたい。
- ・ ラフティングは若い顧客向けだが、高齢者向けに船下りがいいと思う。ラフティングと船下りは天竜川等でも展開されており、共存が可能な事業である。
- ・ このような事業を実施することにより、インストラクター等の新しい雇用も生まれる。
- ・ 高齢化している民宿を賃貸に出し、若く自分で事業を実施する気概のある人に運営を任せることも選択肢の一つである。公募条件として調理師免許を持っているなどのハードルを設けてもよい。空家を活用してもよいと思われる。

（４）花の植栽事業（笹尾ビューティーフラワーズ）

①活動内容

- ア 美しい景観と地域コミュニティづくり
 - ・ 活動場所 八坂地区笹尾集落内

②活動経緯

- ・ 1995年 一万個の水仙の球根を集落周辺とブルーン畑土手に植える
- ・ 1998年 千個の水仙の球根を神社参道に植える
- ・ 1999年 チューリップ、百合、彼岸花の球根を植え、以降、植替えを実施
- ・ 2008年 大町市より八坂川久保地籍を借り、水仙を植える
- ・ 2009年 ヒマワリ、サルビア、花水木等を植える



③現在の課題

- ・ 大町市のきらり輝く協働のまちづくり事業として、補助金をいただき実施しているが、その事業終了後の資金づくりが課題である。
- ・ 年々高齢者が増えて作業が大変になってくるとか若い人がいないことなど、後継者がいないことが心配である。

④今後の展望

- ・ 地域全員で取組んでいくことが必要である。

(5) 藤尾覚音寺の例大祭

①活動内容

- ア 春の例大祭大般若転読
 - ・ 活動場所 藤尾覚音寺
- イ 秋の例大祭火祭り
 - ・ 活動場所 アキツ広場
- ウ 月例護摩供
 - ・ 活動場所 藤尾覚音寺
- エ 年越会
 - ・ 活動場所 藤尾覚音寺



②活動経緯

- ・ 1994年 春大祭、大般若経転読会再開
- ・ 1997年 秋大祭、大護摩供新設

2 美麻地区

(1) メンドシーノ交流事業

①活動内容

- ・ 今年、先生やボランティアを含めた大人14名の引率のもと、小学5・6年生の27名がメンドシーノを訪問した。
- ・ メンドシーノから帰ってきた児童が先日報告会を開催したが、特に印象に残ったこととして皆ホームステイをあげていた。暖かく迎えてもらったことがよかったようだ。
- ・ 通常、引率者は交流事業のサポートを行うボランティアネットワークに登録している人の中から選んでいるが、今年はそれらの人に加え、公募によって選ばれた2



名が参加した。英会話がある程度できることを条件として公募を行い、交流事業の趣旨に対する理解度を判断するため、レポートの提出を求めて評価した。参加したのは30代と40代の女性で、メンドシーノから来た児童のホームステイを受け入れた経験のある人もいた。



- ・ アメリカで教育に関する改革があり、これまで幼稚園、小学校、中学校と分かれていた学校が統合して「K-8」と呼ばれるようになった。K-8という制度のもとでは、校長の権限が従来より強くなり、メンドシーノ側の校長がこの交流事業に対して意義を認め賛成しなければ、事業自体の継続が難しくなる。メンドシーノ側の交流ボランティアの中に元学校長だった方がいて、こうした事態に対応するため、学校間で姉妹校協定を締結してはどうかという提案をいただいた。幸い現在のメンドシーノ側の校長からは事業に対する理解が得られていたため、本年度のメンドシーノ訪問団に校長が同行し、姉妹校の協定を締結した。
- ・ 交流事業とは別の取り組みであるが、メンドシーノとの交流のきっかけとなったアーティスト同士の交流が復活し、本年大町市でクラフトイベントが開催された。商店街の中にある「塩の道博物館」がメイン会場となり、メンドシーノのアーティスト作品の展示や和太鼓作りのワークショップが開催された。なお、製作された和太鼓はメンドシーノに贈られた。

②事業の効果

- ・ メンドシーノへ訪問した子ども達は、短い滞在期間中にもかかわらずヒアリング力が向上する。また、外国の方とすぐ打ち解けられるようになる。
- ・ 美麻への訪問経験のあるメンドシーノの学生が成長し、現在、日本で英語の教師をしている。空き枠がなく希望していた大町市への赴任はできなかったが、本交流事業で



メンドシーノから学生が来る際には、通訳としてサポートに来てくれている。このように交流事業参加者が成長し、事業運営のサポートを行う事例も出てきている。

③現在の課題

- ・ 美麻村は合併して大町市となり、本事業のことを指して美麻の小学生だけ特別扱いする

のか、といったコメントが聞かれることがある。

- ・ メンドシーノ訪問団のホームステイ先の確保が難しい。過去には役場職員が中心に受け入れていたが、最近ではメンドシーノに訪問した子供たちの親がお世話になった恩返しにと受け入れる事例が増えてきていた。ところが昨年の訪問団受け入れではそういった家庭の参加がなく、ボランティアネットワークや旧大町市の家庭の協力を得てようやく受入先を確保できた。美麻の中で恩返しの気持ちが育っていないようで、事業の意義を理解できていないのではないかと不安を感じる。
- ・ ボランティアネットワークには大町市内全体で現在 22 名の登録があるが、実際に活動しているのは 5~6 名程度である。一部のメンバーがメンドシーノ側とやりとりをして日程調整やホームステイ先の確保、交流活動の内容などを相談して決めており、過剰な負担がかかっていると感じる。
- ・ 以前は国際理解を深めるための教育と位置付け、総合学習の一環として平日に訪問していたが、現在ではカリキュラムが改定されたため、授業の時間を本プログラムに充てることができない。対応策としてメンドシーノに訪問した時間分の授業を夏休みに実施し、カリキュラムをこなしている。

④今後の展望

- ・ 小学 5・6 年生全員が海外へ行くという取り組みはどこにもないと思うので、是非継続したい。
- ・ 美麻だけ特別扱いするのかという議論は今後も出るだろうが、K-8 との姉妹校締結を締結しているのは美麻小学校である。メンドシーノ訪問は美麻の小学生のみとし、メンドシーノからの訪問団の受入は大町市全体でやっていきたい。
- ・ また、アーティスト間の交流が発展してクラフト関連のイベントが行われているが、メンドシーノでは音楽のイベントも開催されている。関連してこちらでも麻蔵を活用した音楽イベント開催に向けた動きがある。交流事業の実行委員会やボランティアメンバーに加え、新しいボランティアも参加してサポート体制も出来つつある。メンドシーノで活動している音楽家の中に歌手のマドンナをプロデュースした経験を持つ有名人がいると聞いているので、参加してもらえたらと考えている。
- ・ こういったクラフト・音楽によるイベントを開催することで、魅力ある地域づくりにつながればと考えている。

⑤その他

- ・ メンドシーノ側は学生の選抜を行い、選ばれた学生のみが美麻に訪れる。引率の大人と合わせて 30 名程度で、資金は全て自己負担で賄っている。

(2) 菜の花農業生産組合

①活動内容

- ・ 元大町スキー場の第二ゲレンデは新行の人が耕作しており、1000 m²ずつに分けて主にそばを植えていた。

- その後、酪農家と契約してなっていたが、平成 13 年に契約が打ち切られた後は、荒れ放題となっていた。
- その状況を見かねて、以前と同様にそばを植えるようになった。
- 平成 15 年からはそばと菜種を一緒に播いたところ、いい菜種が収穫できたため、以来二毛作を行っている。
- 平成 17 年に、長野県の「コモンズ支援金」制度（ハード事業については 2/3 補助）を活用して菜種の焙煎から搾油までが可能な機械を導入し、平成 18 年から本格的に稼働を始めている。
- 平成 19 年から販売を開始、価格は 1 本（200cc）1000 円～1200 円である。注文が入ってから搾油する受注生産体制を採用し、注文はレストラン等からが多い。
- 現在は中山高原を中心に 8ha に作付し、年間 1500 kg 収穫している。収穫量を増やすことも可能だが、菜種油の消費が少ないため、収穫の一部は畑に梳き込んでいます。
- 安全安心な菜種生産に気を遣っている。菜種油の成分を調べてもらったところ、残留農薬もなく、アレルギーの心配もないとの調査結果により、安全性が示された。
- また、菜種油に含まれるエルシン酸が心臓障害を引き起こすと言われていたため、低エルシン酸品種を作付し、種子は 2～3 年ごとに更新して使うようにしている。



菜の花農業生産組合



設立 平成 16 年 4 月
住所 長野県大町市美麻新行
代表 竹折敬吾他 7 名
事業内容 そば・菜種の栽培
ナタネ・エゴマ等の搾油及び販売
耕作地 中山高原及び美麻地区休耕地 計 10ha
搾油所 大町市美麻二重

「多くの人が夢を育てる、そして地域みんなが元気の出る農業を目指して！」
それが私たち組合員の目標です

私たちの活動の拠点となる中山高原は、かつてそばや菜種の栽培が行われていました。また昭和の初期から、なだらかな地形を生かして多くのスキー客を受入れても来ました。

昭和 30 年代にそばが輸入されるようになると、ほとんどの農家が耕作を放棄、そして 30 年ほど前から牧草地として管理されて来ましたが、数年前酪農家との契約も解除となり、荒れてしまいました。

私たちは中山高原そして美麻地区内の荒廃農地の復活を目指し、平成 16 年 4 月、活動を開始しました。

「都会の人達との交流」を目指して！



私たちの花組は、NPO 地域づくり工房および東京菜の花プロジェクト連絡会と連携し、市民参加の循環農業を目指しています。

菜の花組合
菜種等の育成・搾油
エコツアー受入れ
バイオ軽油消費

東京菜の花プロジェクト連絡会
消費費
エコツアー企画

↑ バイオ軽油 ↓ 搾油油

「荒廃農地の復活」を目指して！



私たちが美麻地域農業の核として、菜種・エゴマなどの搾油所「美麻のあふら屋さん」を開業しました。

大衆生産出来なかった事、また添加物の知識が無かったことが幸いし、「美麻なたね油」は石綿シェツから高い評価を受けています。

「地域の核づくり」を目指して！



「地域の核づくり」を目指して！



料理の鉄人石綿シェツと

②事業の効果

- 自分たちでは菜種油販売のための営業ができずに困っていたが、大町市に活動拠点を置く NPO 地域づくり工房（市民からの仕事おこしを理念として活動する市民団体）が菜種油に興味を持ち、菜の花オーナー制度やオイルソムリエなどの取り組みを展開するなど、販売に協力してくれている。
- NPO 地域づくり工房から依頼をうけ、8h のうち 3ha にはそばは播かず、菜種のみを



播いて収穫している。そばアレルギーを防止するためである。

- ・ 搾油機械を導入したことで、県内外から搾油場の視察が増えた。年間に 10 件程度を受け入れているが、これもNPO地域づくり工房がコーディネートを引き受けてくれている。
- ・ また、平成 22 年 5 月にはNPO地域づくり工房の助力で「菜の花ライブ」というイベントが実施され、盛況であった。

③現在の課題

- ・ 菜種は肥料が大量に必要な作物であるため生産コストが高く、300 円/kg程度である。1 本（200cc）に換算すると、原材料費だけで 700 円かかっている。これには、労賃は含まれていないため完全に赤字である。
- ・ そのため、菜種と一緒に植えているそばを売らなければ経営は成り立たない。そばは「麻の館」に 500 円/kgで買ってもらっている。これは農協の買い取り価格の 2 倍程度で、かなり高めの価格だが、「麻の館」のそばは人気があり問題ない。
- ・ ただ、そばは年によって収量が大きく変動するので、そばだけに頼ることは難しい。
- ・ また、菜種油の注文生産数が中々伸びない。道の駅等にも置いているが販売手数料が高いため、一般顧客向けの販売を増やす必要がある。菜種油を使ったレシピを添付するなどして消費者への理解を促したい。



④今後の展望

- ・ 菜種油だけでは採算がとれないため、景観を活用していきたい。
- ・ 来春のNHK連続テレビ小説の舞台が長野であり、大町でもロケが行われている。これを機に観光客を呼び込む方策を検討したい。
- ・ まず畑の中に歩道を整備するなどし、「菜の花を見てそばを食べて帰る」というルートを作りたい。
- ・ しかし、現在作付している土地の周辺には美麻以外の方が地主の場所があり、面として整備することが難しい。菜の花畑を一面的に整備できるよう行政の支援を得たい。
- ・ 菜の花の近くでそばを売るにも、その企画運営の担い手がない。自分たちは既存の取り組みで手一杯であるため、新しいアイデアを出して自ら活動するような若い人たちを呼びこむことが必要である。行政が仲立ちをして空き家を提供するなど生活基盤を整えてくれば、若い人たちの新しい取り組みに対するフォローはいくらでもしていきたい。
- ・ また、菜の花の取り組みの後継者を育てたい。若い人を巻き込み、取り組みを継続していく体制を作っていきたい。

⑤その他

- ・ 菜種とそばは、農業者戸別所得補償制度の対象となっている。
- ・ 様々な補助制度があり、制度自体はありがたいが、事務処理が煩雑なため、事務処理に多くの時間がとられる。もう少し現場に集中できるようにしてほしい。
- ・ 美麻地区のイベントとしては「そば祭り」が有名であり、今後、本イベントとの連携も考えられるが、「そば祭り」は歴史が長く参加メンバーも固定しているため、新しい取り組みを付加することは難しいとも思われる。別のイベントとして菜の花を活用した取り組みを実施することも検討していく必要があると考えている。

(3) 棚田や畑を守る活動

①活動

- ・ 活動を始めたのは平成 20 年からで、まだ準備段階という位置付けである。
- ・ 昭和 40 年代に耕作放棄地となった棚田を見るたび、景観のいい場所なので何かできないかと考えていた。
- ・ 美麻地域づくり会議の中で棚田を活用した事業ができないかと呼び掛け、まずは草刈りをしようということになった。



- ・ 50 人程度集まり、1 時間で作業を終えることができました。
- ・ 今年 400 m²に米を植えた。八坂地区で棚田を守る会に参加している山村留学 OB の親や市民農園利用者が手伝いに来てくれた。
- ・ 長野県の「元気づくり支援金」を活用し、平成 20、21 年に歩道整備と水抜きを行った。

②現在の課題

- ・ 今年の田植えで田んぼが水平でないことがわかった。再生のためには更に手をかける必要がある。
- ・ 地権者は高齢化しており、体力的に限界なのか、新しい活動に意欲を示さない。周囲には「取り組みを始めるのが 10 年遅かった」と言う人もいる。また、地区の人だけで活動を行うのは限界がある。

③今後の展望

- ・ 八坂地区のように、棚田のオーナー制度ができないかと考えている。また、体験観光も実施してみたい。
- ・ 美麻地域づくり会議の部会として本取り組みを位置付けることを検討している。メンバーも美麻地域づくり会議や美麻 wiki などを活用しながら、地域内外から募集する予定である。「棚田を何とかしなければ」という使命感だけでなく、事業として継続していくことができるよう、経済的な感覚を持った人にも参加してもらいたい。

- ・ まだ営農している棚田もあるので、取り組みのメリットを説明することで一緒に活動してもらえないのではないかと考えている。
- ・ 交流事業を展開するにあたり、行政からは基盤整備（圃場に対する投資やお手洗い等の施設整備）に対する補助をしてもらえるとありがたい。

④その他

- ・ 八坂地区の「棚田を守る会」は、山村留学に参加経験のある児童の保護者や切久保地区の住民で構成されていて、参加者間の交流が活発である。八坂支所もこの取り組みを支援している。

（４）伝統芸能継承活動

①活動内容

- ・ 大塩は世帯数約 90 の小さな地域だが、大塩にある 4 地区にはそれぞれ引き舞台があり、御神楽や獅子舞が保存されている。毎年のお祭りには 4 つの中から 1 台が持ち回りで出されている。すばらしい貴重な財産だが担い手が年々減少し、継続の危機にあった。
- ・ 移住者が中心となり、この財産を引き継いでいけないかと考えたところ、お囃子を録音したテープがあった。楽譜におこしてもらって練習し、祭りの際に演奏している。



②事業の効果

- ・ お祭りは地区がまとまる機会でもある。この機会に参加することで、移住者が地区に溶け込むきっかけとなった。お祭りの「神事」の部分は地元住民が担当するが、「伝統芸能」の部分は移住者でも参加できる。

③現在の課題

- ・ お祭りに使う舞台は毎年解体・保存しているが、組み立てたまま保存できる施設があるとよい。

④今後の展望

- ・ 美麻にある 5 地区ごとにこういった行事が残っているが、一部では「引き」という行事ができなくなったと聞いている。他地区でもこういった取り組みができるとよい。
- ・ これまで祭りは家長や男性が担ってきた。しかし、これからは老若男女問わず興味がある人が参加すればよいと考えている。

- ・ 学校でお雛子を教えてはどうかと考えている。地域の伝統を担うことが学校の特徴となり、ひいては学校の生き残り策に繋がるのではないかと。

(5) 市民農園

①活動内容

- ・ 今後、美麻地域づくり会議が市から指定管理者として業務を受ける方向で調整している。



②事業の効果

- ・ 田畑で作業をすると、地域の人と仲良くなりやすい。中には美麻でボランティアをしたいと言っている人もいます。

③現在の課題

- ・ 現在は別荘のように使われているため、市民農園の位置付けを再度検討する必要がある。
- ・ また、当初の規定に反して5年以上市民農園を利用している人もいます。ルールは守るようにしなければならない。

④今後の展望

- ・ 「市民農園は移住を体験する施設だという位置付け」を明確にするべきである。
- ・ 市民農園内のコミュニティや市民農園利用者と地域住民のコミュニティづくりを意識しながら、市民農園の利用者を人材として活かすことができるとよい。
- ・ また、市民農園の場を物販・商品開発・体験活動の拠点として、あるいは地域の公民館活動の場として活用していくことも考えられる。
- ・ 意欲のあるシェフを呼んできて1日試験的にレストランを運営してもらおう「1 day シェフ」のような取り組みもよいのではないかと。
- ・ 将来的には福祉施設としての活用もあり得る。



八坂地区の主なノブ事業

<p>山村留学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「(財)育てる会」が主催し、児童生徒が年間留学する長期留学と夏休み等の長期休暇に來訪する短期留学制度がある。 ● 長期留学：年30名程度・短期留学年間650名 	<p>棚田を守る活動 遊休畑の解消</p>	<p>1) 棚田を守る活動</p> <p>田舎らしい景観と環境を取り戻そうと、長年荒廃していた棚田の復活に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 重太郎棚田(梨の木地区)50a→地元有志とタナーン者が協力して実施 ● 切久保棚田30a→山村留学の父母と地元有志が協力して実施 ● 押の田棚田20a→棚田オーナー制を導入(オーナーは地区内非農家) <p>2) 遊休畑の解消</p> <p>「八坂そば組合」が中心となり、遊休化していた畑にそばを栽培し、遊休化の解消を図っている。(3ha)</p>
<p>八坂 地域づくり活動</p> <p>八坂地域づくり協議会 自治振興会活動</p>	<p>1) 八坂地域づくり協議会(6自治振興会・27団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 総務部会、健康福祉環境部会、公民館部会、産業交流部会の4部会を構成し活動している。広報活動、都市交流の推進、空き家活用等定住促進、その他地区課題を解決していく活動 <p>2) 自治振興会活動(6自治振興会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 会員相互の親睦をはじめ、郷土学習、ボランティア活動等、各々の実情に合わせた独自の活動を行っている。 ● 野平自治振興会のラベンダー園整備をはじめ、切久保番場沢の校、梅公園整備、石原の大滝周迎整備などの地域づくりを、自治振興会事業として取り組んでいる。 	<p>花いっぱい活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校及びPTA、老人クラブ、自治振興会、女性団体、各集落などで、道路や公共施設へ花を植栽し、美しい地域づくりを行っている。 ● 小学校では、毎年、住民向けに花苗を安価により販売している。
<p>八坂 新そば祭り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 10月下旬から11月初旬にかけて、「明日香荘」と「ふるさと体験館」において新そば祭りを実施している。 	<p>体験活動</p> <p>ふるさと体験館 さざなみ</p>	<p>1) 「八坂商工倶楽部」に指定管理している「ふるさと体験館」では、そば打ちやおやきづくりの体験を行っている。</p> <p>2) 国道19号沿線の「さざなみ」では、陣川ラフティングが行われ、修学旅行生を中心に年間15,000人の入込みがある。今後、来訪者をラフティングだけでなく、田舎体験に誘導していく取り組みが課題となっている。</p>
<p>八坂地区文化祭 地区運動会等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 八坂公民館を中心に実行委員会を組織し、10月初旬に地区運動会を11月初旬に文化祭を開催している。 ● 地区内の高校生が主体となって「学友会」を組織し、8月に盆球技大会を開催、60年以上続く伝統行事である。 	<p>藤尾覚音寺の例大祭 伝統芸能承継活動</p>	<p>1) 国の重要文化財の千手観音、持国天、多聞天を有する「藤尾覚音寺」では、春の例大祭として、大般若経600巻の転読会を、秋の例大祭として火祭り大護摩法要を行っている。特に、大護摩法要は、全国的にも珍しい祭りである。</p> <p>2) 各集落祭、お糰子保存活動、八坂青龍太鼓、八坂音頭保存会などの地域伝統芸能の継承活動を行っている。</p>
<p>道路愛護事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民自らが地域の道水路や公共施設等の美化を図ろうと清掃や草刈り、支障木の除去などの共同作業を年4回実施している。 ● この活動は、昭和43年から継続されており、住民連携と郷土意識の高揚に役立っている。 	<p>結婚対策事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成4年、旧八坂村の独身の青年たちが、女性との出会いの機会をつくり、結婚に結び付けようと「八坂You・Meくらぶ」(ゆめくらぶ)を結成した。 ● 中京方面のマッチングアプリを活用し、名古屋近郊の女性に、ツアーへの参加を呼びかけ、年1～2回の交流会を実施した。また、郷土学習や自己アピールの方法などを学習する講座を開催してきた。 ● この様な活動から今までに23組が成婚しており、嫁いだ女性達は、先輩の支援や仲介的な活動も担っている。 ● 近年は、青年達の意識が個人志向になって、相互に協力し合う活動を好まない風潮があり、活動が停滞気味であることから、活性化を図っていくため、市内や近隣市町村との連携を模索している。

美麻地区の主なソフト事業

<p>美麻 自治会活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 美麻地区は、5つの自治会を有し、自治会ごとに、会員相互の親睦をはじめ花いっぱい活動や河川清掃、道路清掃等の環境整備、地域課題の解決など独自の活動を行っている。 ● 美麻地区全体に係る課題については、美麻地区連合自治会長会議や美麻地区正副自治会長会議を開催して対応している。 	<p>遊休荒廃地 整備活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 藤地域棚田再生活動、しずかの桜公園周辺整備、公民館と地域づくり会議共催によるひまわりいっぱい運動などの地区内遊休荒廃地の活用促進。
<p>美麻 メンドシーノ 交流事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 昭和55年に旧美麻村と米国カリフォルニア州メノーノとの国際姉妹村締結。今年で30年目となる。 ● 平成18年に合併後の大町市と姉妹都市協定締結。 ● 平成4年から隔年の相互派遣交流を行っており、今年10回目の訪問団を派遣。 	<p>新行 そば祭り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎年10月10日から10月20日まで、新そばまつりを開催。 ● 今年で39回目をむかえる。
<p>美麻 地域づくり活動 美麻地域づくり会議 美し村開拓協議会</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 美麻地域づくり会議(加入団体等 43団体、8個人) 広報部会、事業部会、市民農園部会の3部会を構成し活動している。「広報部会」は広報「みあざづくり通信」の発行とホームページ「美麻Wiki」の運営など、「事業部会」は、畑・ミツハチの育成、道の駅活性化、ふるさと美麻会への参加、全国規模の自転車ロードレースの共催など、「市民農園部会」は都市との交流や地域の雇用確保を目的に、ふたえ市民農園管理を市から受託している。 2) 美し村(うましさと)開拓協議会 地域づくり会議会員に参加希望を募り組織した協議会として、美し村開拓団募集事業による交流人口の増加を目的とした美麻市などを開催。 	<p>菜の花栽培</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 菜の花農業生産組合により、新行中山高原を中心に休耕田を利用して菜の花を栽培し、菜種油の特産品化に取り組んでいる。 ● 菜の花のほか、そば、えごまの栽培にも取り組んでいる。
<p>市民農園運営 おおしお市民農園 ふたえ市民農園</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● おおしお市民農園とふたえ市民農園がある。 ● おおしお市民農園はシルババー人材センターに管理委託。 ● ふたえ市民農園は美麻地域づくり会議に管理委託。 	<p>ケーブルテレビ 運営事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● テレビ放送の難視聴地域解消を目的として、美麻地区平成14年、八坂地区平成18年から運営を開始。 ● 現在美麻情報交流センターから「大町市八坂及び美麻ケーブルテレビ放送事業」として両地区にサービスを提供している。
<p>地域伝統芸能 承継活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 各地区祭、秋祭舞台挽き揃え、お囃子保存活動、源流美麻太鼓の会などによる地域伝統芸能の継承活動を行っている。 	<p>山村留学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「(財)育てる会」が主催し、児童生徒が年間留学する長期留学と夏休み等の長期休暇に来訪する短期留学制度がある。 ● 長期留学：年30名程度・短期留学年間650名

第3章 市民意識調査

第3章 市民意識調査

＜八坂地区・美麻地区における地域づくり事業に関する住民意識調査＞

1 実施状況

(1) 実施概要

ソフト事業について検討するにあたり、地域住民が感じている現状と課題を把握し、地域で展開されている事業に対する評価を得るため「八坂地区・美麻地区における地域づくり事業に関する住民意識調査」を実施した。実施概要は次の通りである。

- ・調査方法：記入式アンケート配布による調査
- ・実施期間：2010年7月27日（火）～2010年8月30日（火）
- ・配布数：1824部（うち八坂地区799部、美麻地区935部、市民農園利用者90部）
- ・配布及び回収方法：
 - ＜配布＞大町市民：市職員による手渡し 市民農園利用者：郵送
 - ＜回収＞郵送

(2) 回収状況

配布数1824部に対し、回答は726部（うち八坂地区378部、美麻地区330部、市民農園利用者18部）、回収率は39.8%であった。

また、八坂地区、美麻地区における世代別回収率をまとめたものが次図表である。

八坂地区では全体の回収率が47.3%、最も回収率が高かったのは60代で54.3%、最も回収率が低かったのは10代の31.4%であった。

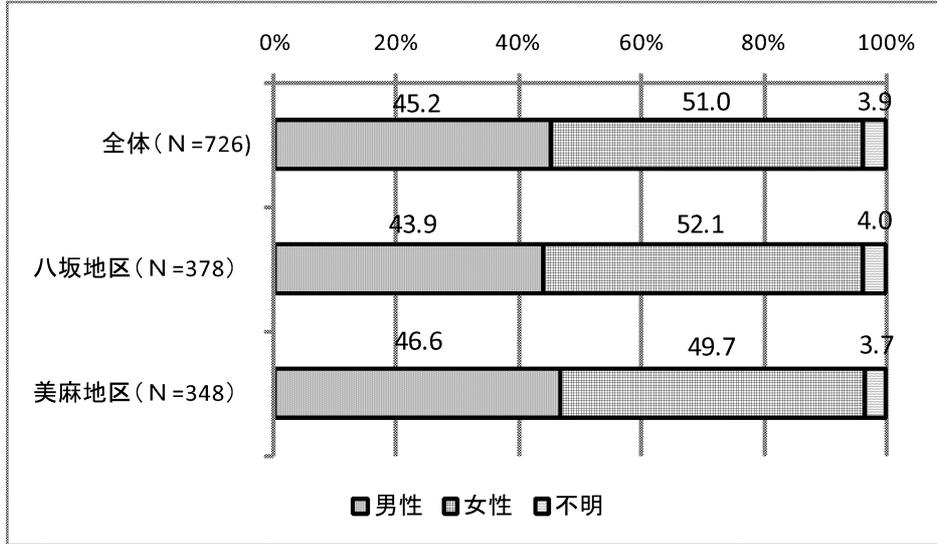
美麻地区では全体の回収率が35.3%、最も回収率が高かったのは70代以上で40.5%、最も回収率が低かったのは20代で19.4%であった。

図表 1 世代別回収率

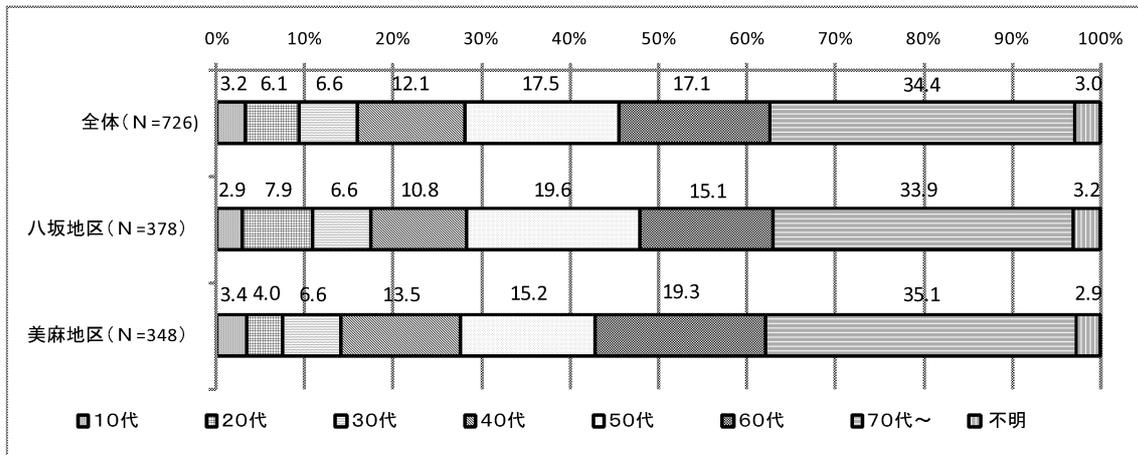
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	不明	合計
八坂地区	調査対象者数(人)	35	66	75	105	152	105	261	-	799
	回答者数(人)	11	30	25	41	74	57	128	12	378
	回答割合(%)	31.4	45.5	33.3	39.0	48.7	54.3	49.0	-	47.3
美麻地区	調査対象者数(人)	47	72	101	136	139	144	296	-	935
	回答者数(人)	12	14	23	45	52	54	120	10	330
	回答割合(%)	25.5	19.4	22.8	33.1	37.4	37.5	40.5	-	35.3
市民農園	調査対象者数(人)	-	-	-	-	-	-	-	-	90
	回答者数(人)	0	0	0	2	1	13	2	0	18
	回答割合(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0
合計	調査対象者数(人)	82	138	176	241	291	249	557	90	1824
	回答者数(人)	23	44	48	88	127	124	250	22	726

なお、回答者の性別、世代別構成比は次の通りである。

図表 2 回答者の性別構成比



図表 3 回答者の世代別構成比



2 集落の現状と課題

住民の感じている集落の現状と課題について把握するため、「①現状の暮らしの中で困っていること」「②行政に力を入れて欲しい施策」「③地域づくりにとって重要だと思うこと」の3点について回答を得た。

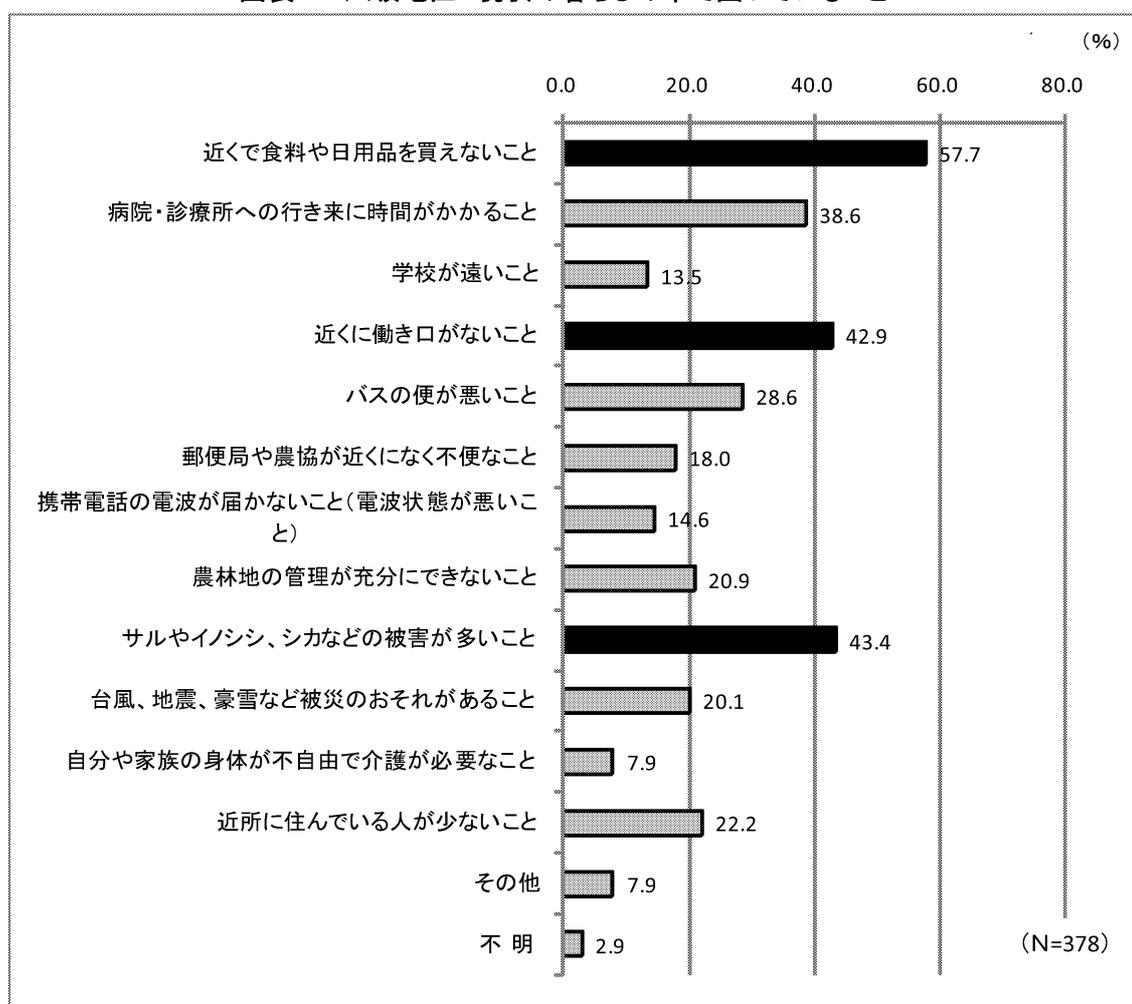
(1) 八坂地区

①現状の暮らしの中で困っていること

住民意識調査票において、次図表中にある選択肢を提示し、現状の暮らしの中で困っていることについて最大5つまで回答を求めた。

回答は「近くで食料や日用品を買えないこと」(57.7%)が最も多く、「サルやイノシシ、シカなどの被害が多いこと」(43.4%)、「近くに働き口がないこと」(42.9%)が続いている。

図表 4 八坂地区 現状の暮らしの中で困っていること

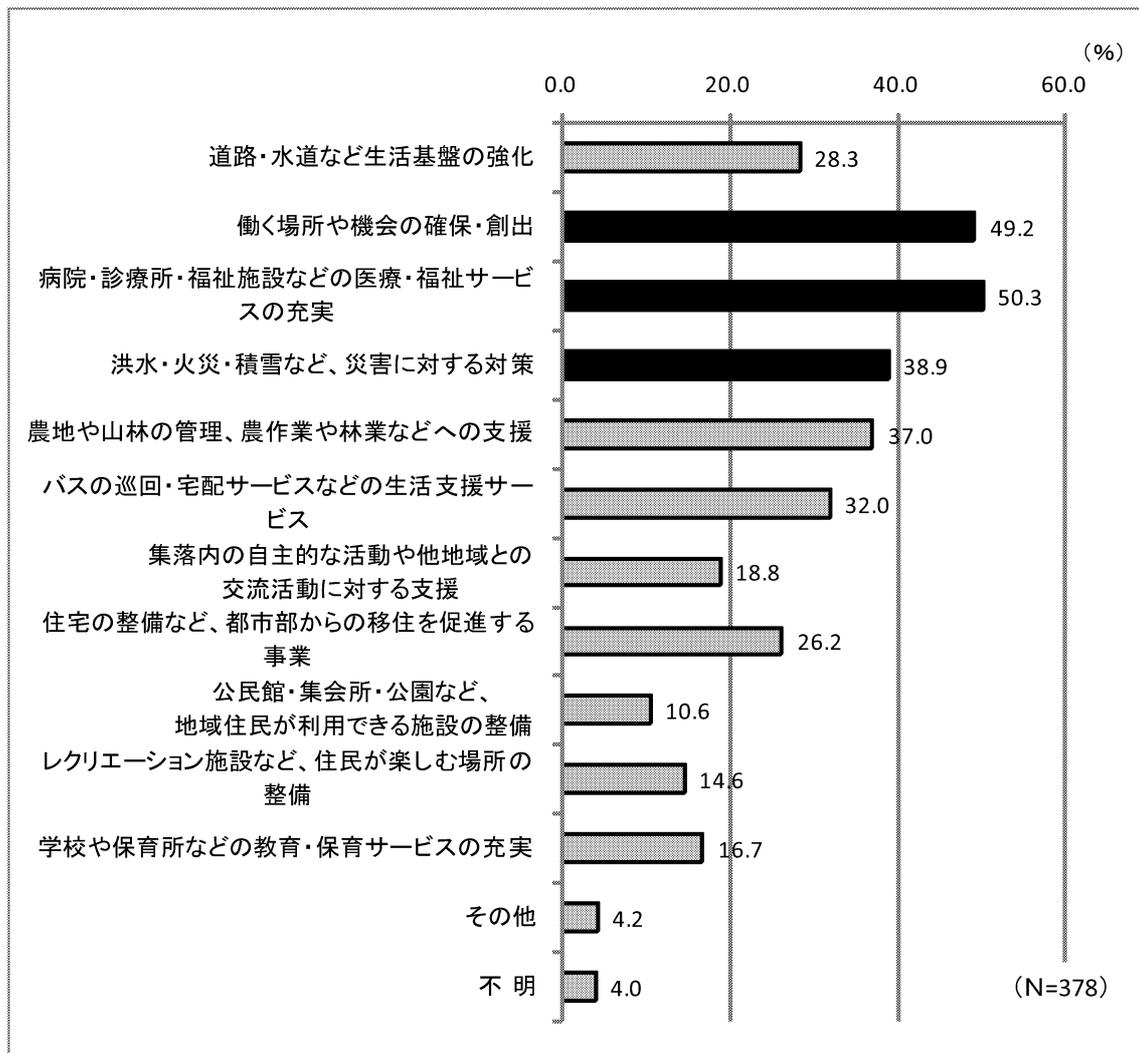


②行政に力を入れて欲しい施策

次図表中にある選択肢を提示し、行政に力を入れて欲しい施策について最大5つまで回答を求めた。

回答は「病院・診療所・福祉施設などの医療・福祉サービスの充実」(50.3%)が最も多く、「働く場所や機会の確保・創出」(49.2%)、「洪水・火災・積雪など、災害に対する対策」(38.9%)が続いている。

図表 5 八坂地区 行政に力を入れて欲しい施策

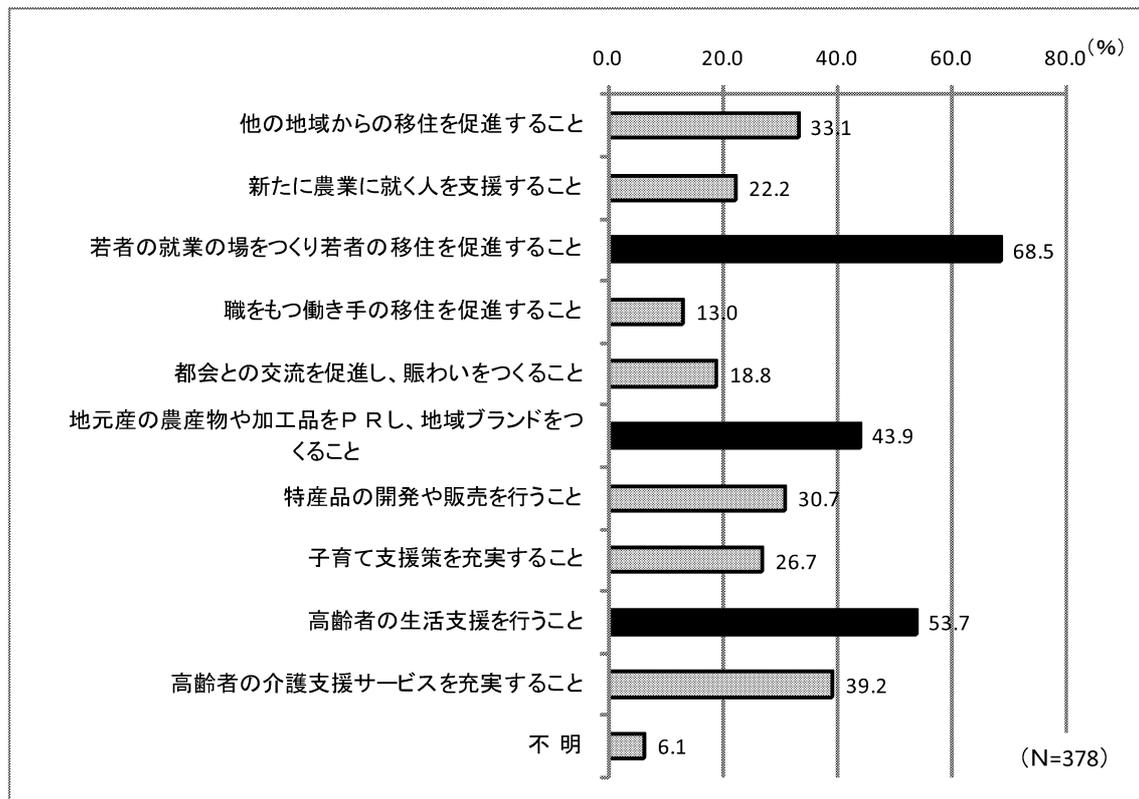


③地域づくりにとって重要だと思うこと

次図表中にある選択肢を提示し、地域づくりにとって重要だと思うことについて最大5つまで回答を求めた。

回答は「若者の就業の場をつくり若者の移住を促進すること」(68.5%)が最も多く、「高齢者の生活支援を行うこと」(53.7%)、「地元産の農産物や加工品をPRし、地域ブランドをつくること」(43.9%)が続いている。

図表 6 八坂地区 地域づくりにとって重要だと思うこと



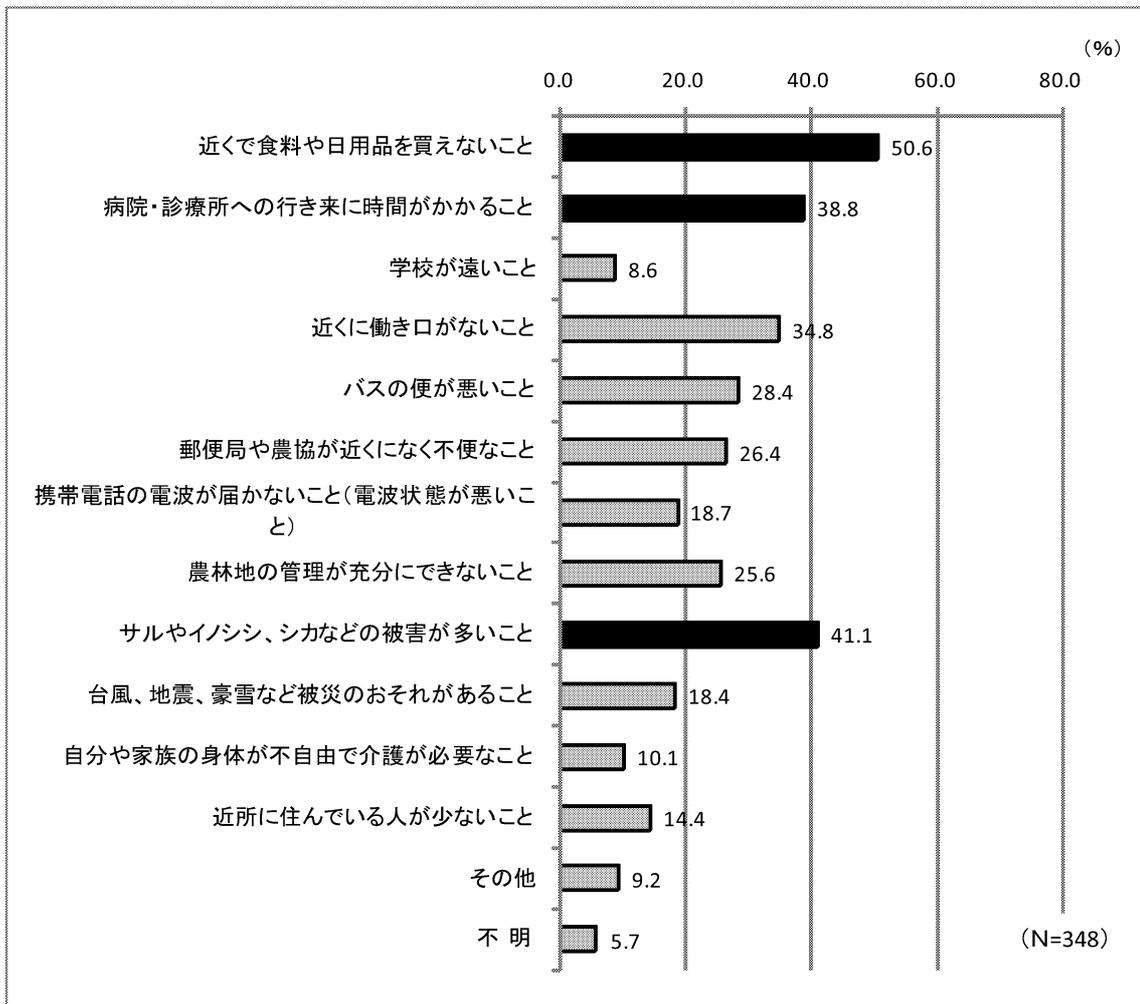
(2) 美麻地区

①現状の暮らしの中で困っていること

住民意識調査票において、次図表中にある選択肢を提示し、現状の暮らしの中で困っていることについて最大5つまで回答を求めた。

回答は「近くで食料や日用品を買えないこと」(50.6%)が最も多く、「サルやイノシシ、シカなどの被害が多いこと」(41.1%)、「病院。診療所への行き来にかかること」(38.8%)が続いている。

図表 7 美麻地区 現状の暮らしの中で困っていること

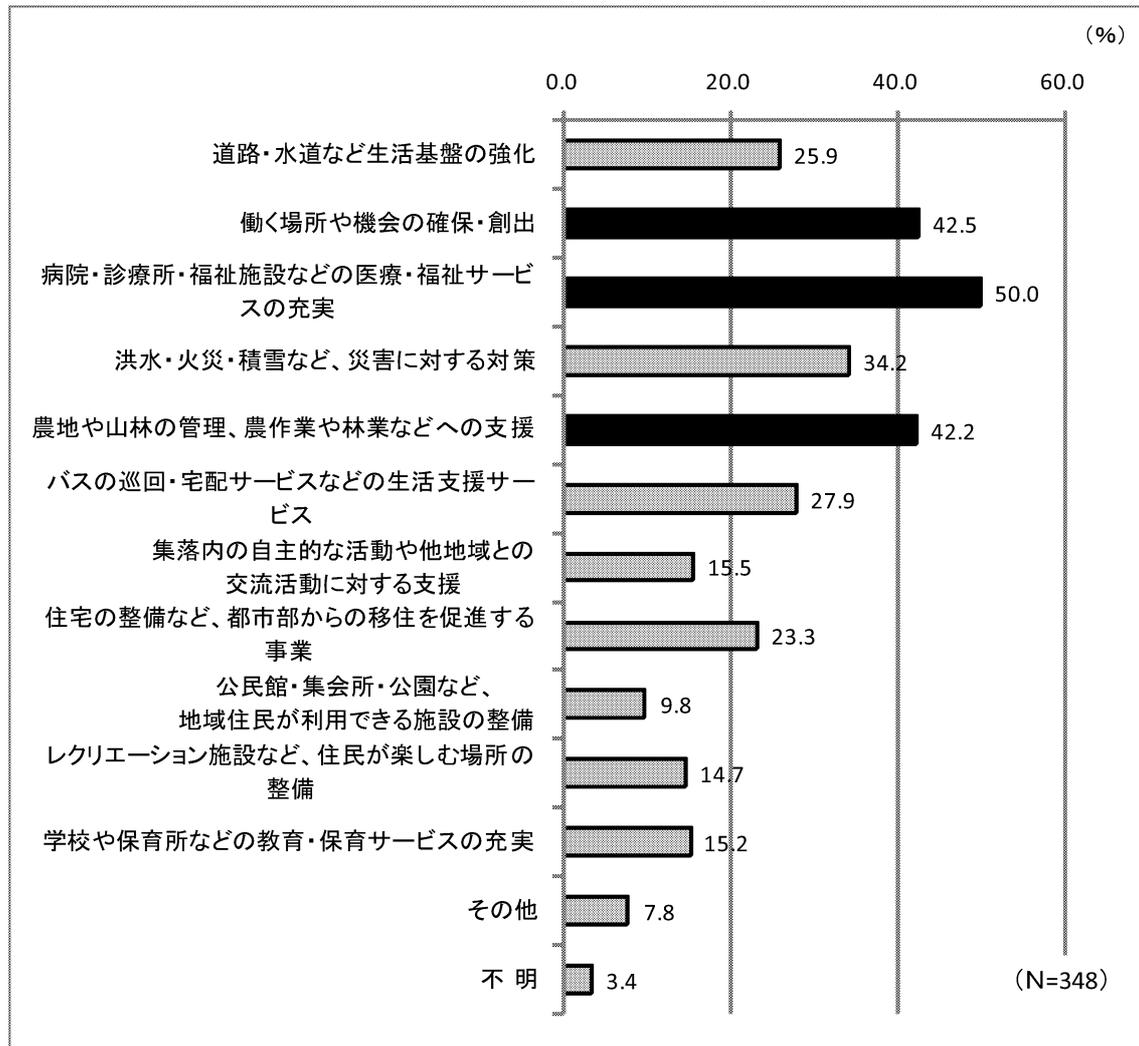


②行政に力を入れて欲しい施策

次図表中にある選択肢を提示し、行政に力を入れて欲しい施策について最大5つまで回答を求めた。

回答は「病院・診療所・福祉施設などの医療・福祉サービスの充実」(50.0%)が最も多く、「働く場所や機会の確保・創出」(42.5%)、「農地や森林の管理、農作業や林業などへの支援」(42.2%)が続いている。

図表 8 美麻地区 行政に力を入れて欲しい施策

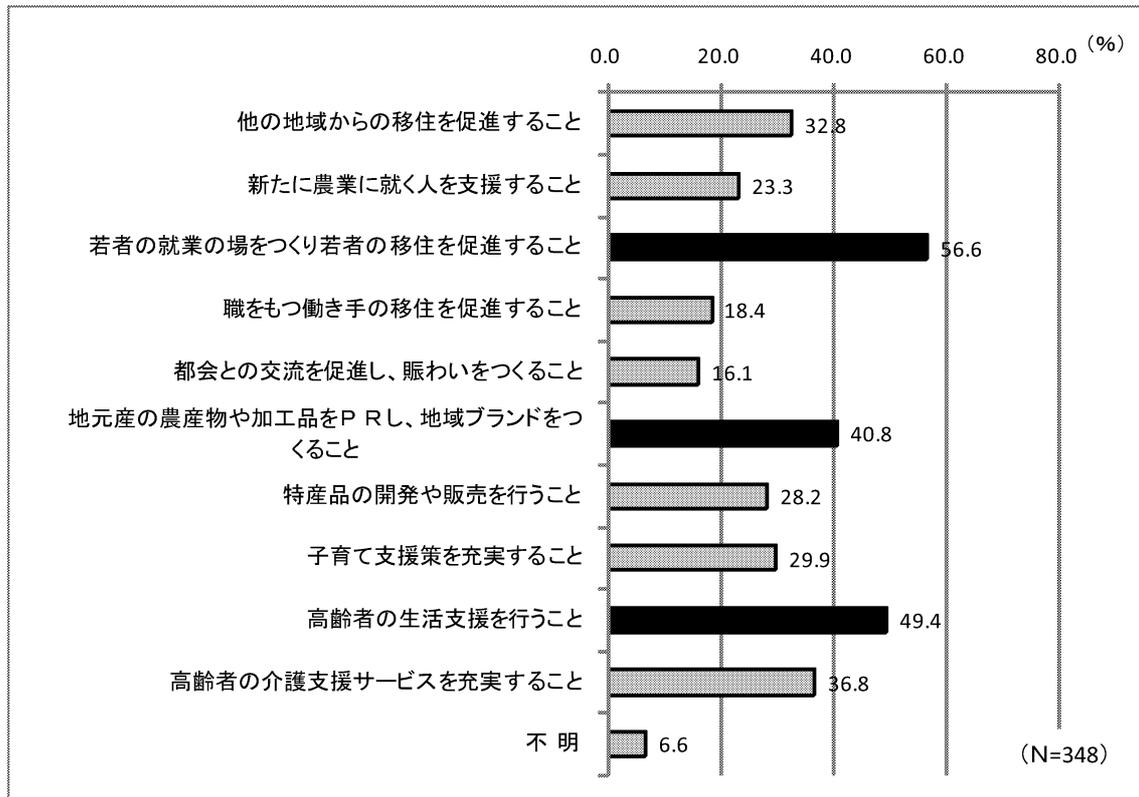


③地域づくりにとって重要だと思うこと

次図表中にある選択肢を提示し、地域づくりにとって重要だと思うことについて最大5つまで回答を求めた。

回答は「若者の就業の場をつくり若者の移住を促進すること」(56.6%)が最も多く、「高齢者の生活支援を行うこと」(49.4%)、「地元産の農産物や加工品をPRし、地域ブランドをつくること」(40.8%)が続いている。

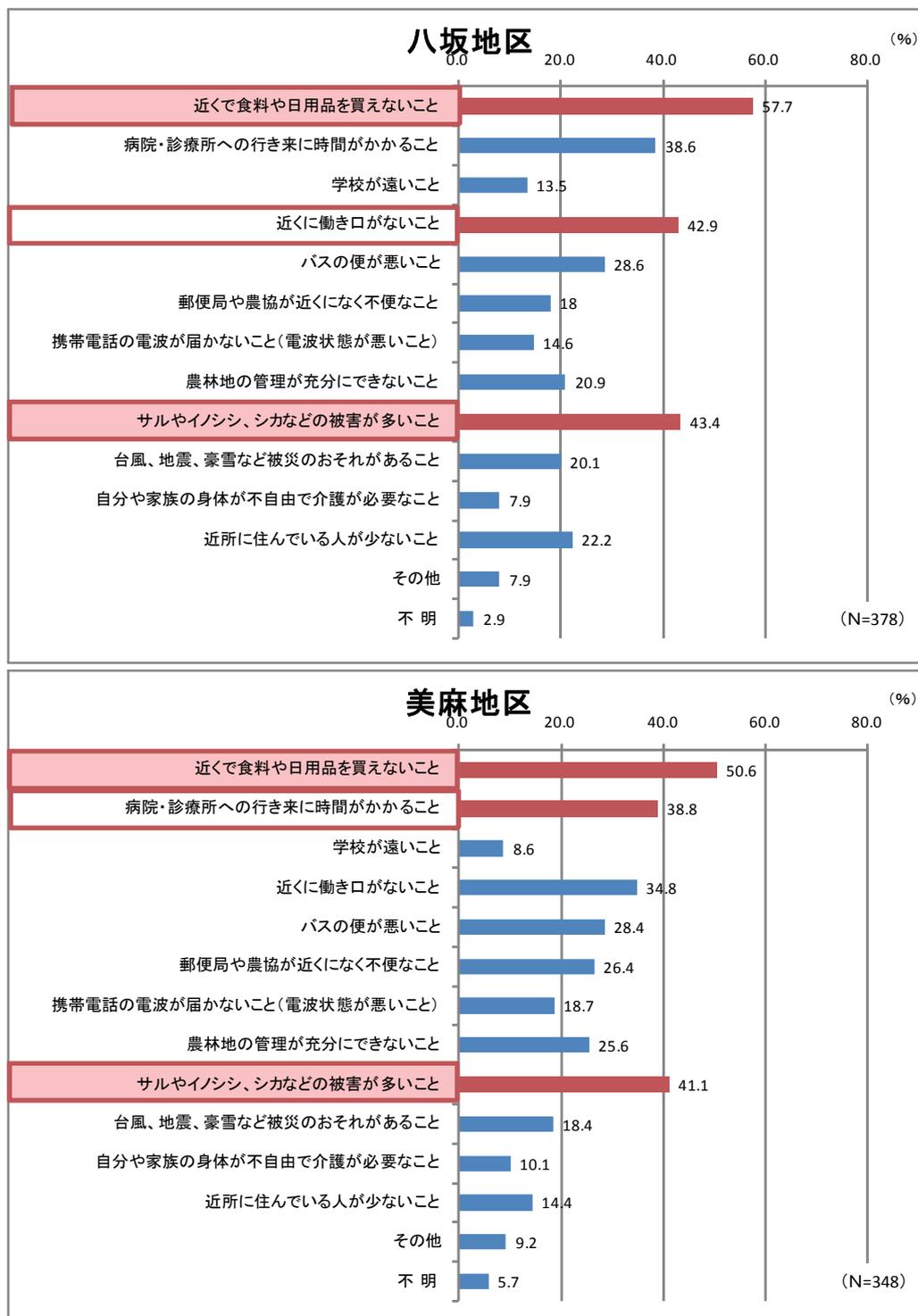
図表 9 美麻地区 地域づくりにとって重要だと思うこと



(3) 総整理

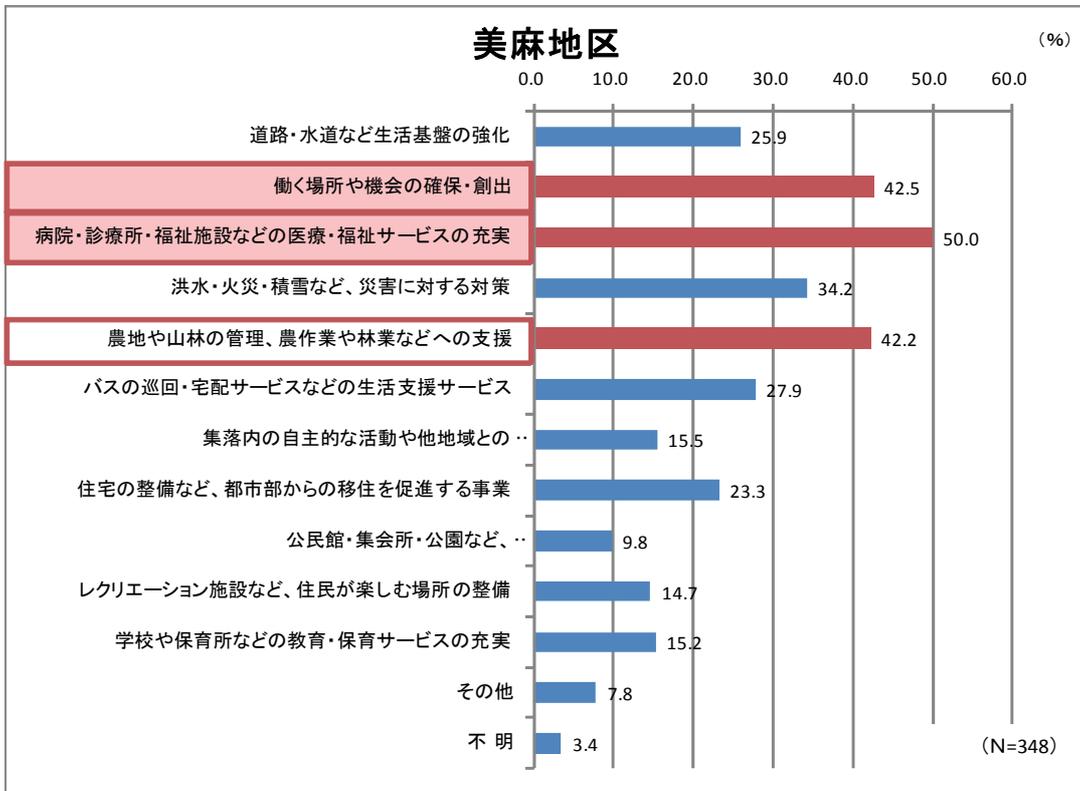
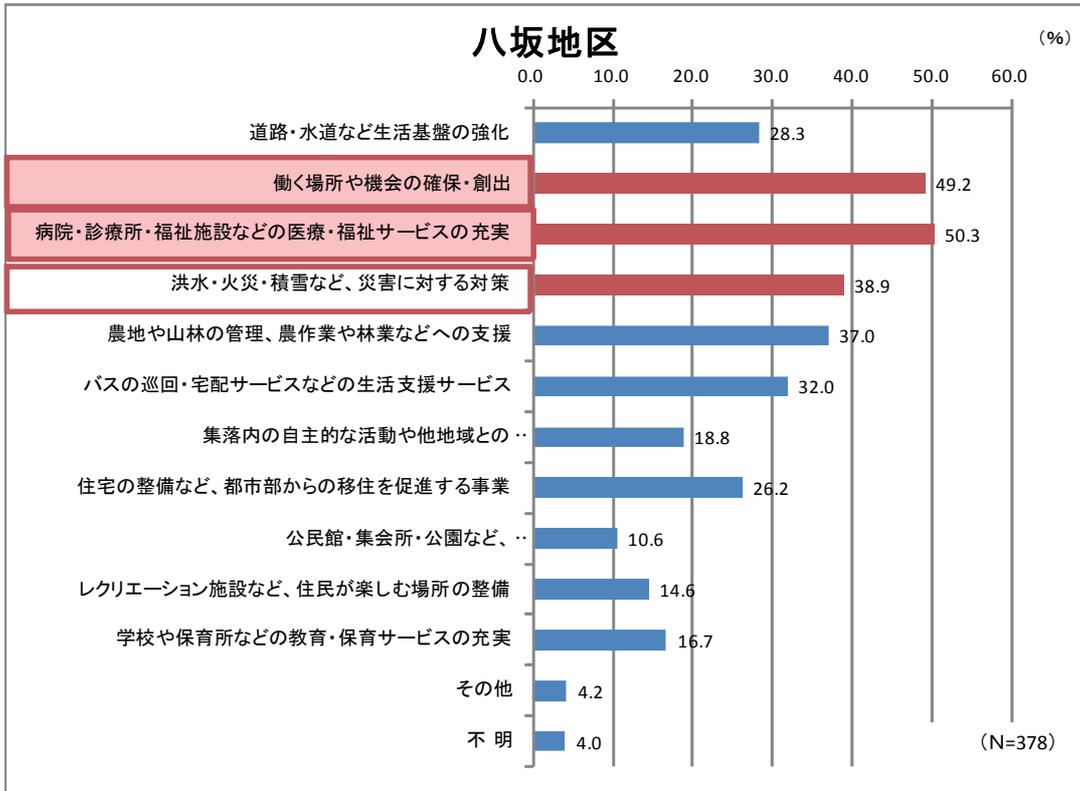
集落の現状と課題について、各項目の回答結果一覧は次の通りである。

図表 10 現状の暮らしの中で困っていること



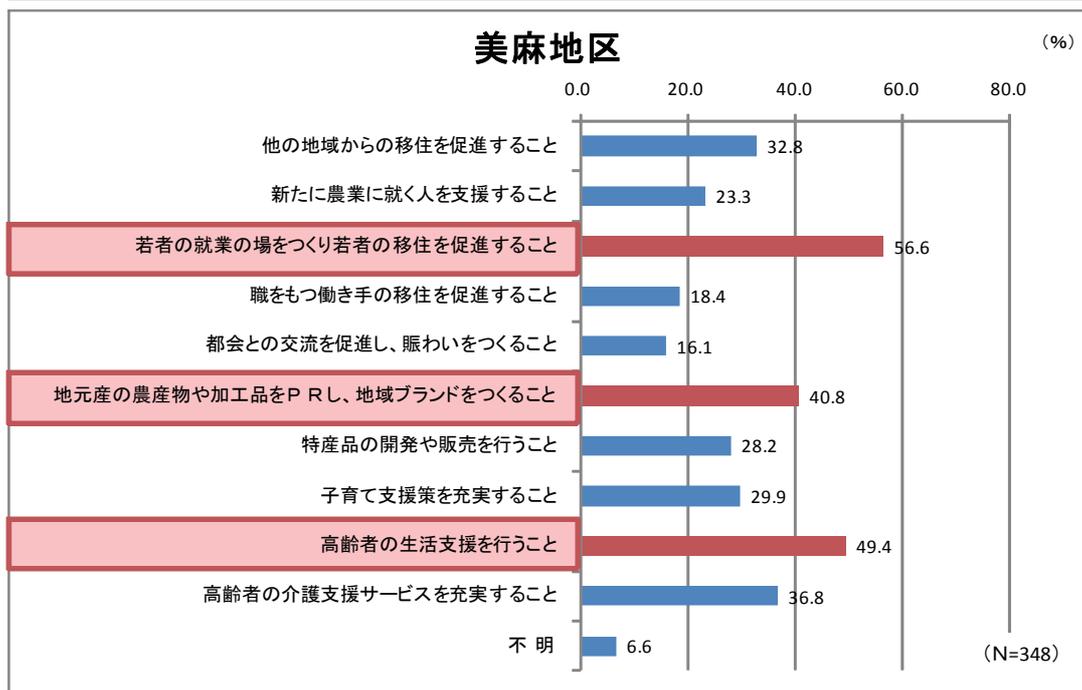
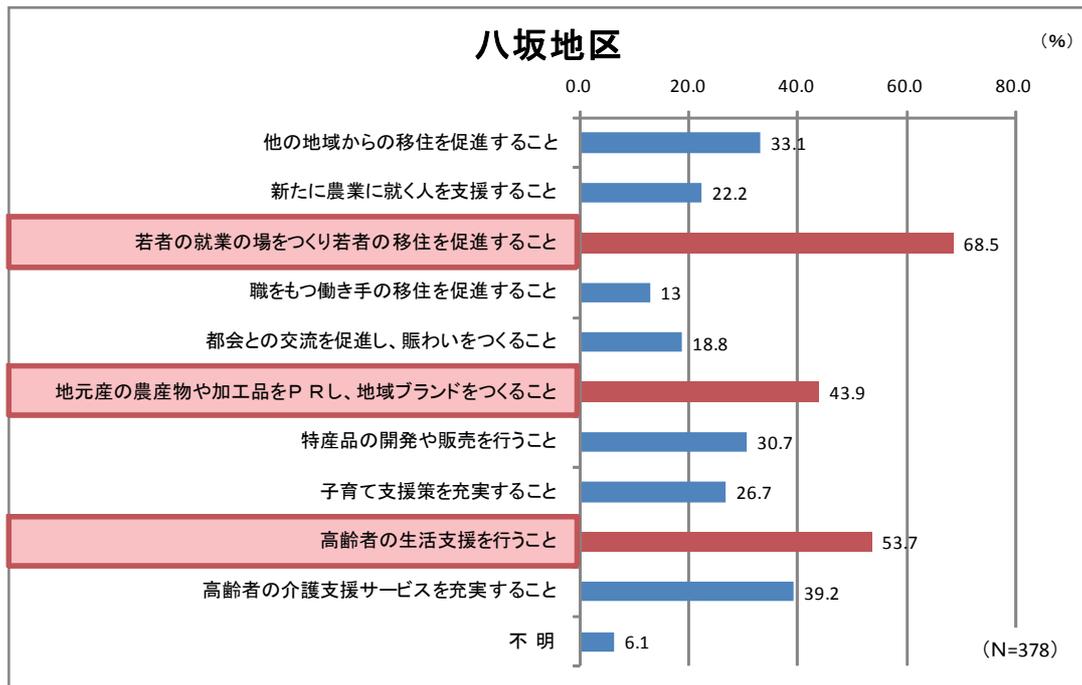
八坂地区、美麻地区共に「近くで食料や日用品を買えないこと」「サルやイノシシ、シカなどの被害が多いこと」が上位3項目に含まれている。

図表 11 行政に力を入れてほしい施策



八坂地区、美麻地区共に「働く場所や機会の確保・創出」「病院・診療所・福祉施設などの医療・福祉サービスの充実」が上位3項目に含まれている。

図表 12 地域づくりにとって重要だと思うこと



図表 10~12 の見方

- ・ それぞれの図表で上位3つの項目について、グラフを赤で表示し、項目に赤枠を付している
- ・ さらに、八坂地区、美麻地区とも上位3つに入っている項目については、赤枠に赤の網掛けを付している→

地域づくりにとって重要だと思う項目について、八坂地区、美麻地区で「若者の就業の場をつくり若者の移住を促進すること」「地元の農産物や加工品をPRし、地域ブランドをつくること」「高齢者の生活支援を行うこと」の上位3項目が共通している。

3 事業評価の分析方法

(1) 評価軸の設定

①事業評価軸の設定

住民意識調査では、八坂地区、美麻地区で実施されている主なソフト事業を10事業選定し、それぞれについて次の6項目の評価を得た。第4節、第5節ではこの6項目を事業評価軸として設定し、各事業について評価を行う（カッコ内は調査票に記載した設問文）。

- ・ 認知度（この事業を知っていますか）
- ・ 参加経験度（この事業に参加したり関わったりしたことがありますか）
- ・ 地域活性化への貢献度（この事業で明るくなったり元気になったと思いますか）
- ・ 運営参加希望度（この事業の運営に参加・応援したいと思いますか）
- ・ 行政支援必要度（この事業に行政は支援すべきだと思いますか）
- ・ 他地域との連携可能度（地区外とも連携して行うべきだと思いますか）

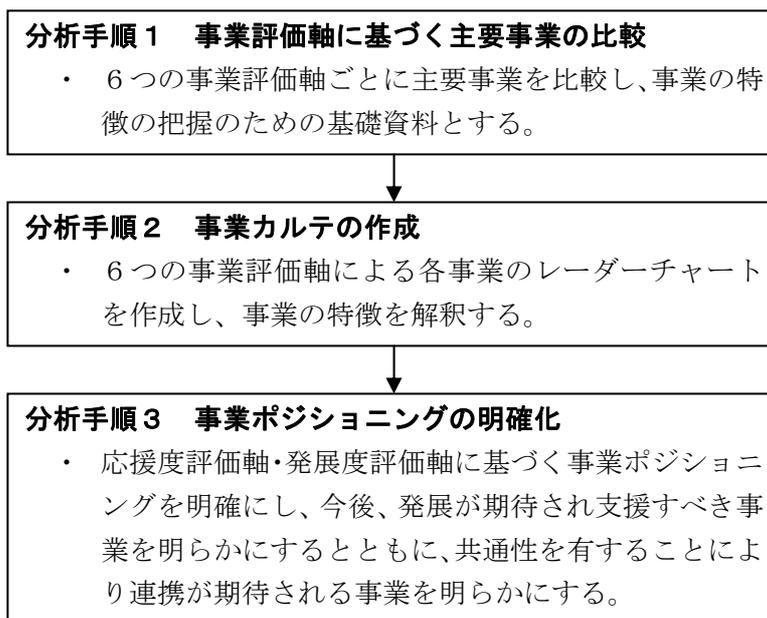
②応援度評価軸・発展度評価軸の設定

また、上記6項目の事業評価軸から新たに総合評価軸として「応援度」「発展度」の2つの評価軸を設定する。第6節ではこの総合評価軸をもとに各事業について評価する。

- ・ 応援度（この事業を応援したい、あるいは応援すべきと考える度合い）
- ・ 発展度（この事業が今後発展すると期待される度合い）

(2) 分析手順

第4節、第5節、第6節では次の分析手順に従い、八坂地区、美麻地区で実施されている主なソフト事業についての評価を整理し分析を行う。



4 主要事業の比較

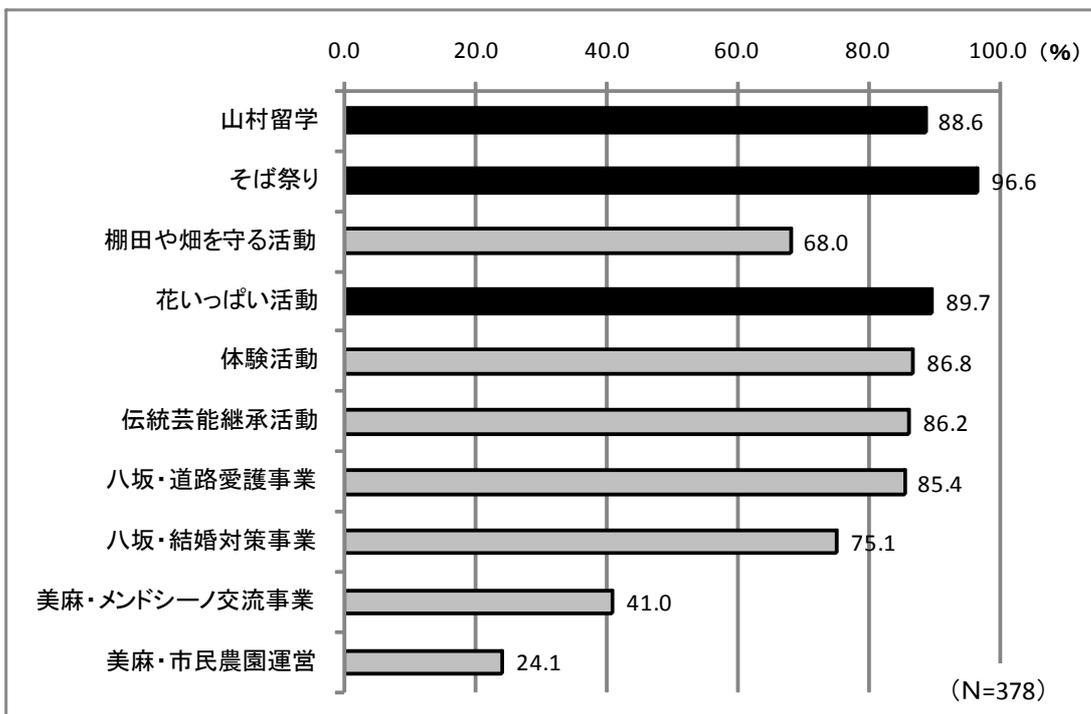
(1) 八坂地区

① 認知度

10 事業のうち知っているものを回答してもらったところ、「そば祭り」(96.6%)の認知度が最も高く、「花いっぱい活動」(89.7%)、「山村留学」(88.6%)が続いている。

また、八坂地区事業(メンドシーノ交流事業、市民農園運営を除く8事業)の認知度の平均値は84.6%であり、全体的に高い水準にある。

図表 13 八坂地区 認知度

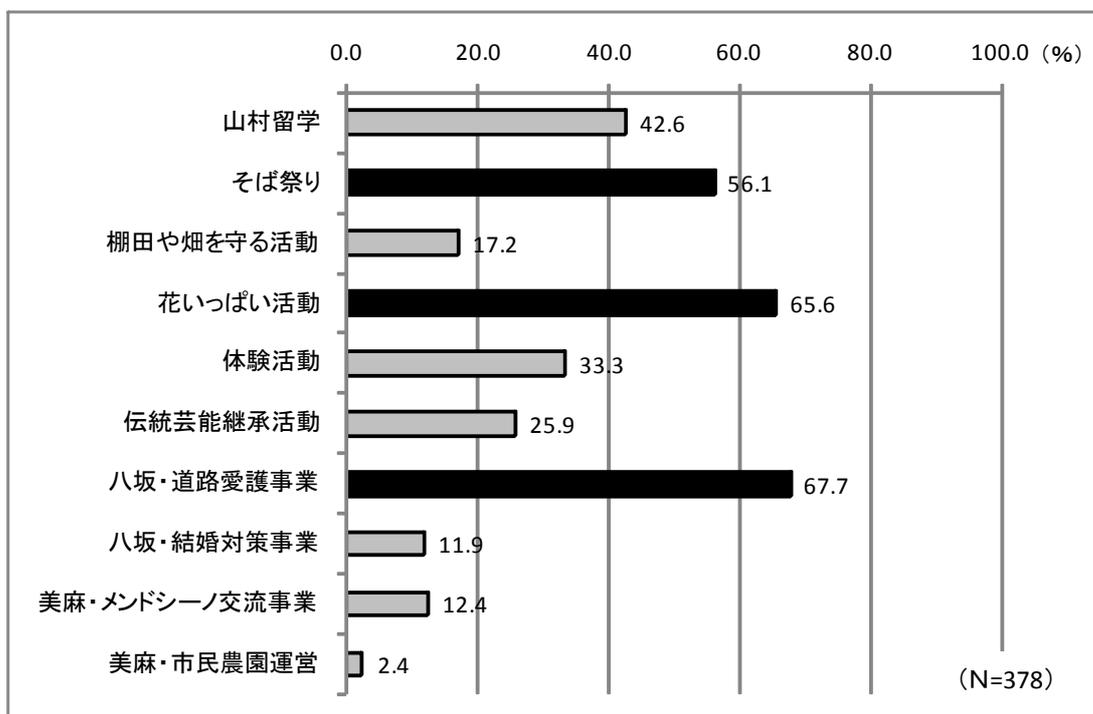


②参加経験度

10 事業のうち、参加したことがあるものを回答してもらったところ、八坂地区の独自事業である「道路愛護事業」(67.7%)のへの参加経験度が最も高く、「花いっぱい活動」(65.6%)、「そば祭り」(56.1%)が続いている。

また、八坂地区事業（メンドシーノ交流事業、市民農園運営を除く 8 事業）の参加経験度の平均は 40.0%であり、認知度の平均との差は約 40 ポイント程度となっているが、八坂地区事業のうち、「花いっぱい活動」「道路愛護事業」の参加経験度と認知度との差は約 20 ポイント程度と小さくなっており、他事業と比較して事業の認知が参加に結びついている傾向が強いと言える。

図表 14 八坂地区 参加経験度

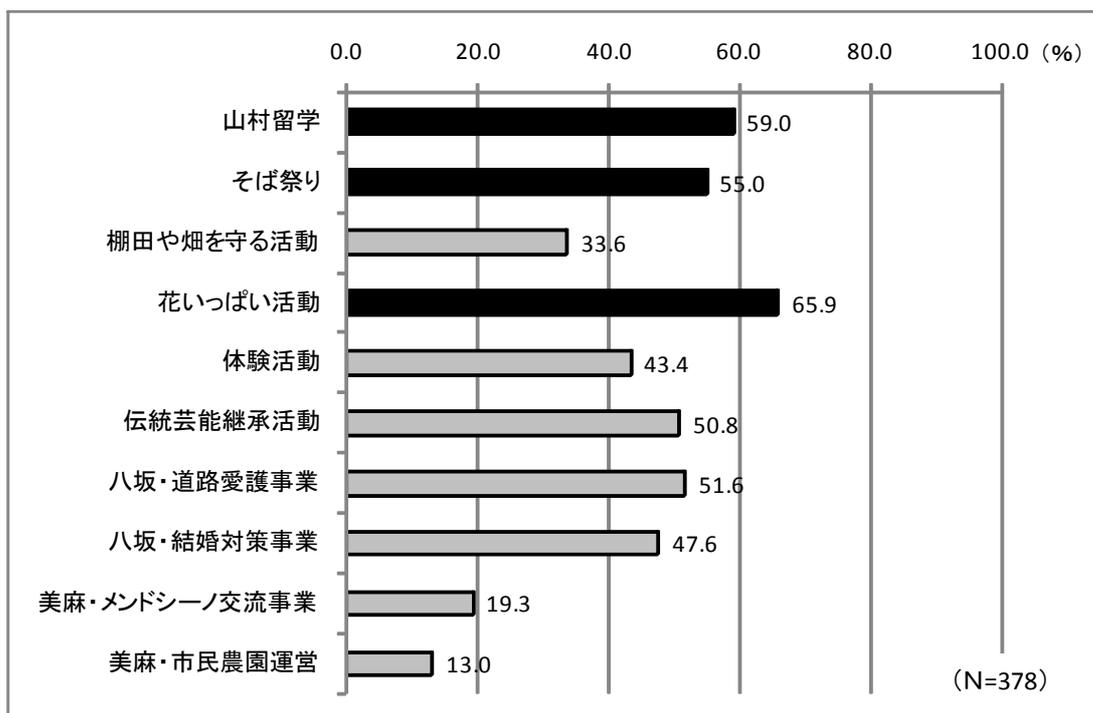


③地域活性化度

10 事業のうち、事業を実施することによって地域が明るくなったり、元気になったりしたと感じているものを回答してもらったところ、「花いっぱい活動」(65.9%)による地域活性化度が最も高く評価されており、「山村留学」(59.0%)、「そば祭り」(55.0%)が続いている。

また、八坂地区事業(メンドシーノ交流事業、市民農園運営を除く8事業)の地域活性化への貢献度の平均は50.9%であり、八坂地区事業に対しては、地区住民の約半数が地域活性化に貢献していると回答している。

図表 15 八坂地区 地域活性化度

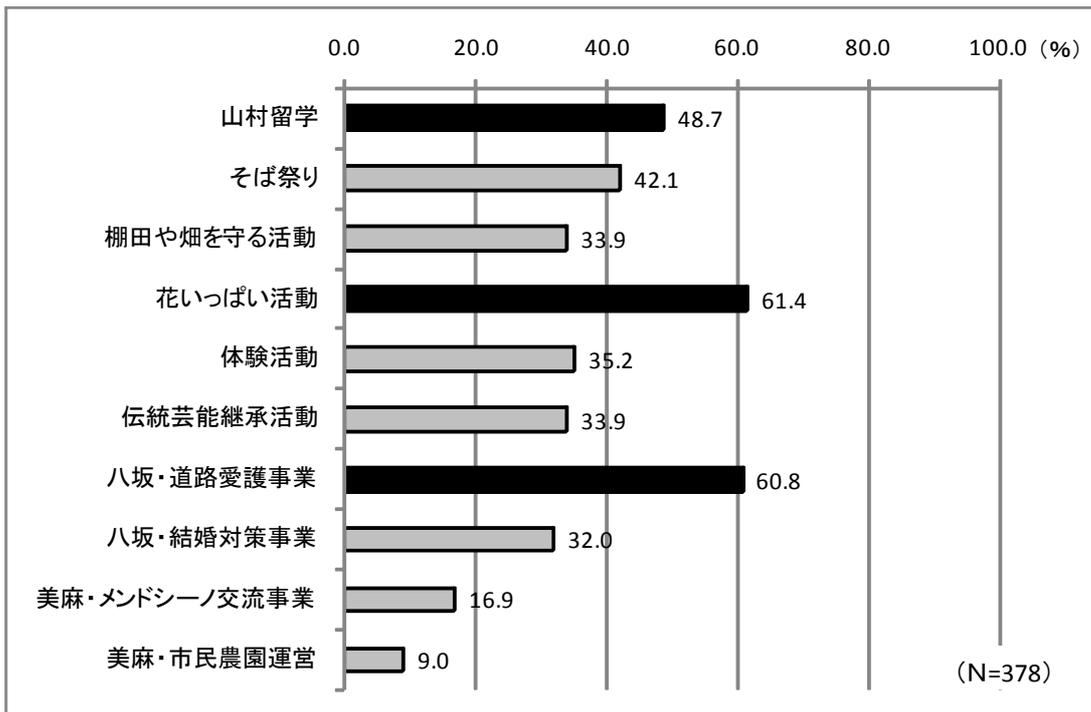


④運営参加希望度

10 事業のうち、運営に参加したり、応援したいと考えているものを回答してもらったところ、「花いっぱい活動」(61.4%)の運営参加希望度が最も高く、八坂地区の独自事業である「道路愛護事業」(60.8%)、「山村留学」(48.7%)が続いている。

また、八坂地区事業(メンドシーノ交流事業、市民農園運営を除く8事業)の運営参加希望度の平均は43.5%であり、約半数の住民が運営に参加したいと考えていることが見てとれる。

図表 16 八坂地区 運営参加希望度

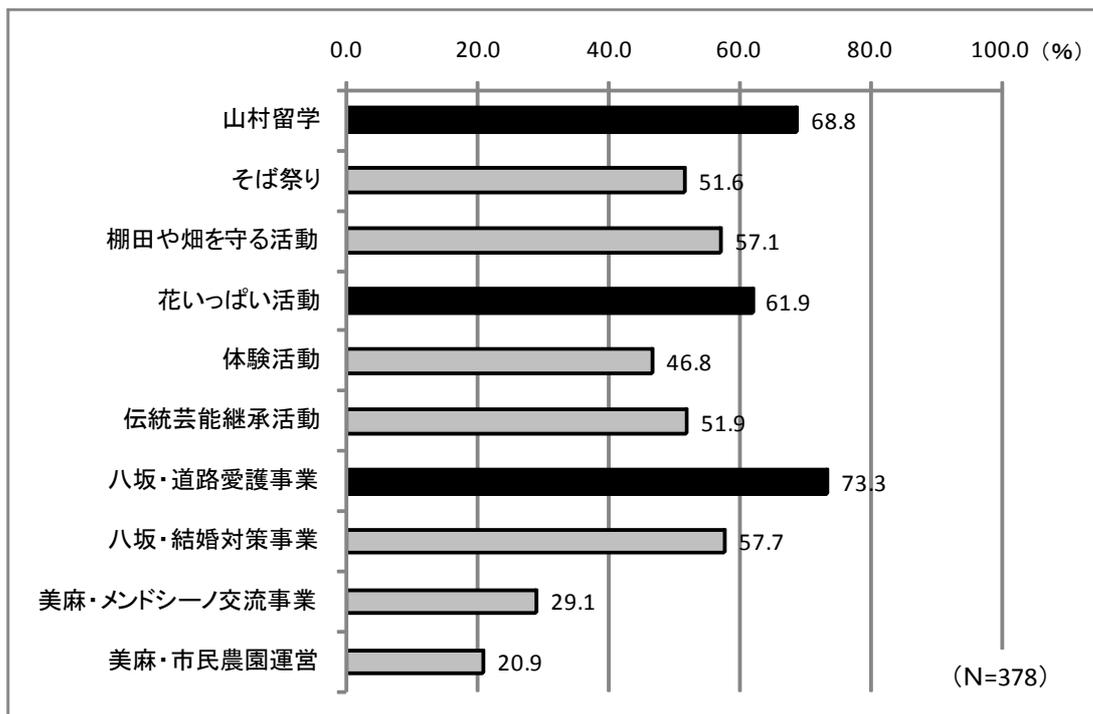


⑤行政支援必要度

10 事業のうち、行政による支援が必要だと感じるものを回答してもらったところ、八坂地区の独自事業である「道路愛護事業」(73.3%)の行政支援必要度が最も高く、「山村留学」(68.8%)、「花いっぱい活動」(61.9%)が続いている。

また、八坂地区事業(メンドシーノ交流事業、市民農園運営を除く8事業)の行政支援必要性の平均は58.6%であり、概ねどの事業についても約半数以上の住民が行政支援が必要であると考えている。

図表 17 八坂地区 行政支援必要度

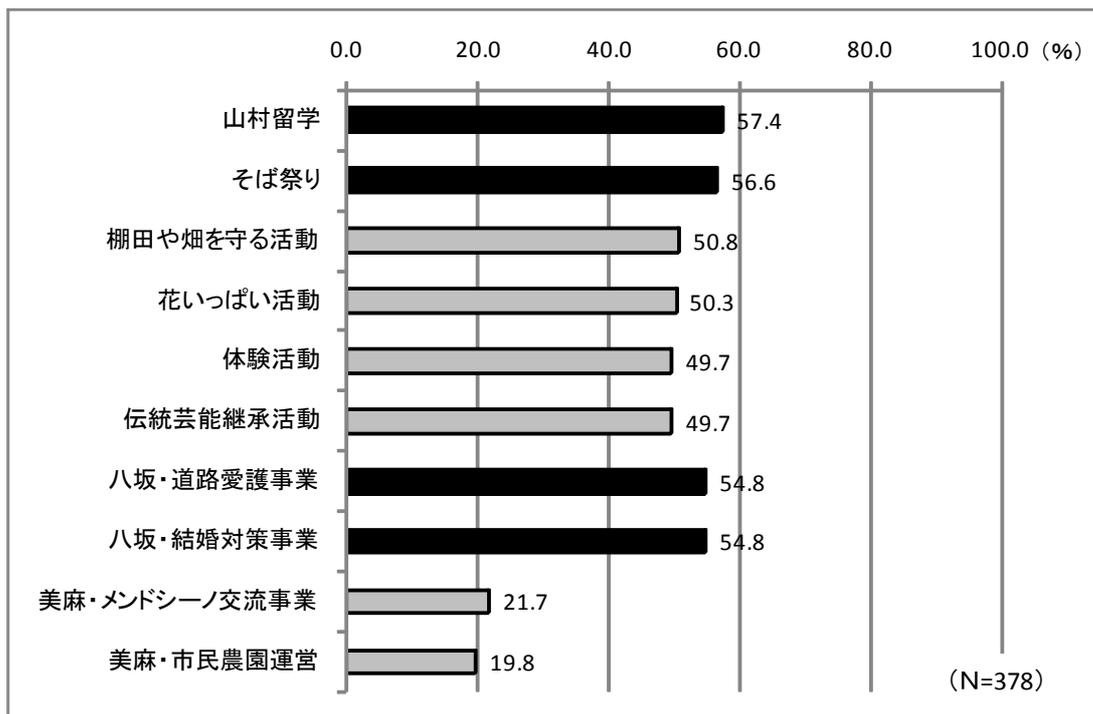


⑥他地域との連携可能性

10 事業のうち、自分が住んでいる地区外とも連携して行うべきだと感じる事業について回答してもらったところ、「山村留学」(57.4%)の回答が最も多く、「そば祭り」(56.6%)、「道路愛護事業」「結婚対策事業」(共に 54.8%)が続いている。

また、八坂地区事業(メンドシーノ交流事業、市民農園運営を除く 8 事業)の他地域との連携可能性の平均は 53.0%であり、概ね約半数の住民が、八坂地区の事業全体について、他地域との連携により事業の発展を期待していると考えられる。

図表 18 八坂地区 他地域との連携可能性



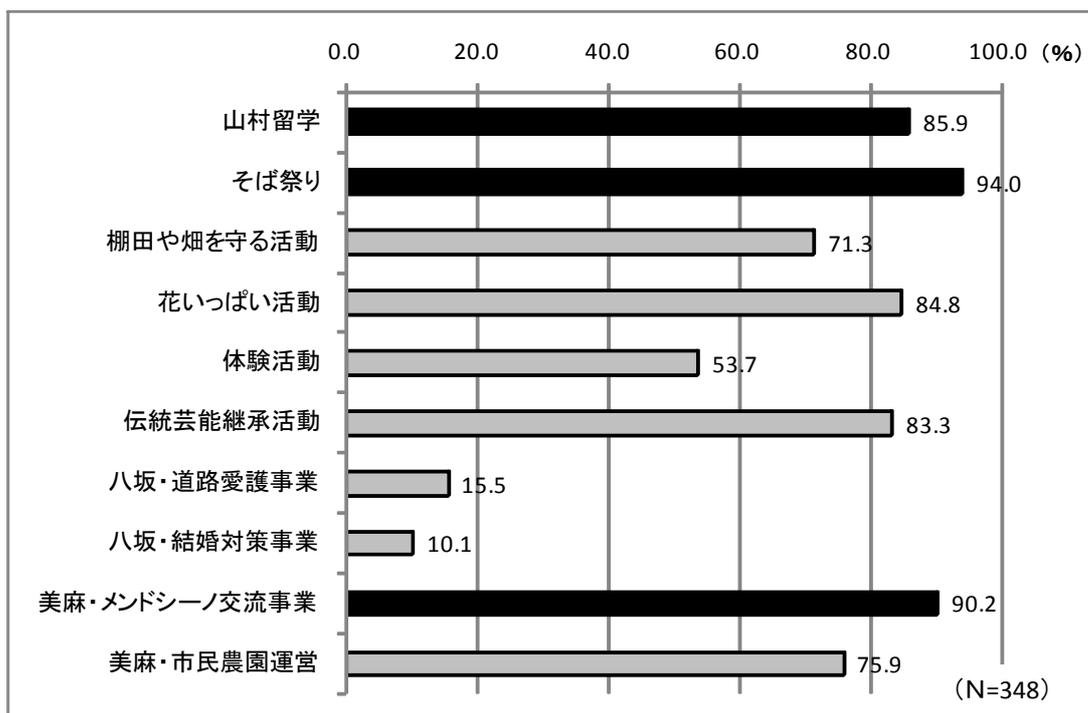
(2) 美麻地区

① 認知度

10 事業のうち知っているものを回答してもらったところ、「そば祭り」(94.0%) の認知度が最も高く、美麻地区の独自事業である「メンドシーノ交流事業」(90.2%)、「山村留学」(85.9%) が続いている。

また、美麻地区事業（道路愛護事業・結婚対策事業を除く 8 事業）の認知度の平均値は 79.9% であり、高い水準にある。

図表 19 美麻地区 認知度

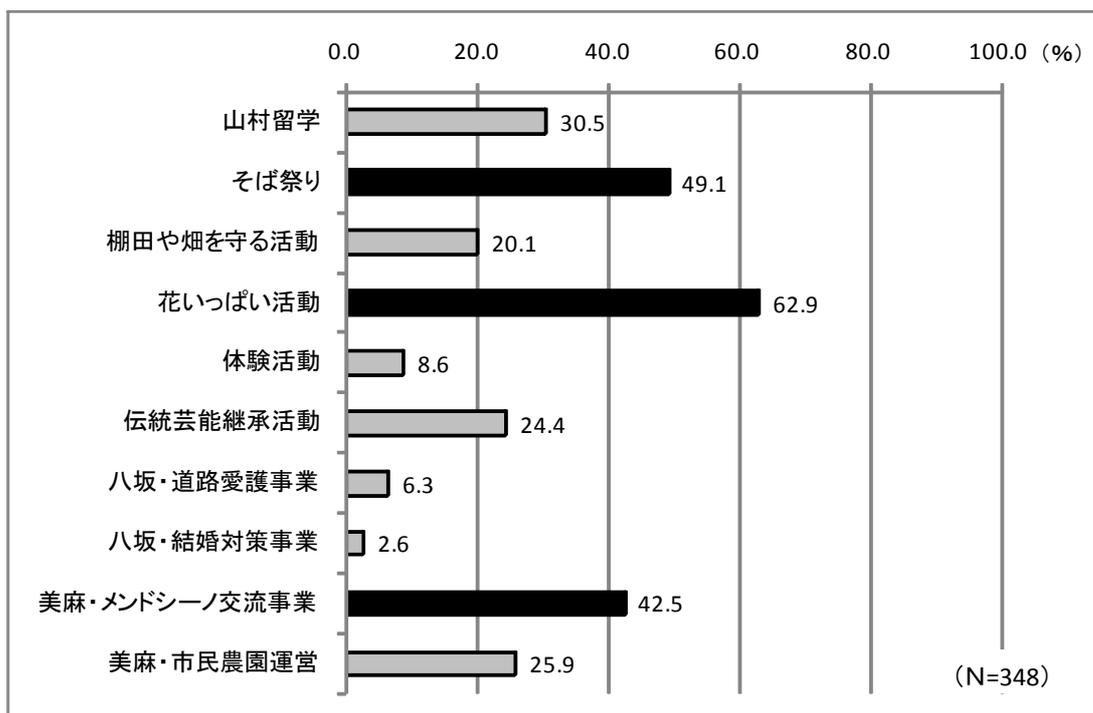


②参加経験度

10 事業のうち、参加したことがあるものを回答してもらったところ、「花いっぱい活動」(62.9%) のへの参加経験度が最も高く、「そば祭り」(65.6%)、「メンドシーノ交流事業」(56.1%) が続いている。

また、美麻地区事業（道路愛護事業・結婚対策事業を除く 8 事業）の参加経験度の平均は 33.0% で、認知度の平均との差は約 45 ポイント程度となっているが、美麻地区事業のうち、「花いっぱい活動」の参加経験度と認知度との差は約 20 ポイント程度と小さくなっており、他事業と比較して事業の認知が参加に結びついている傾向が強いといえる。

図表 20 美麻地区 参加経験度

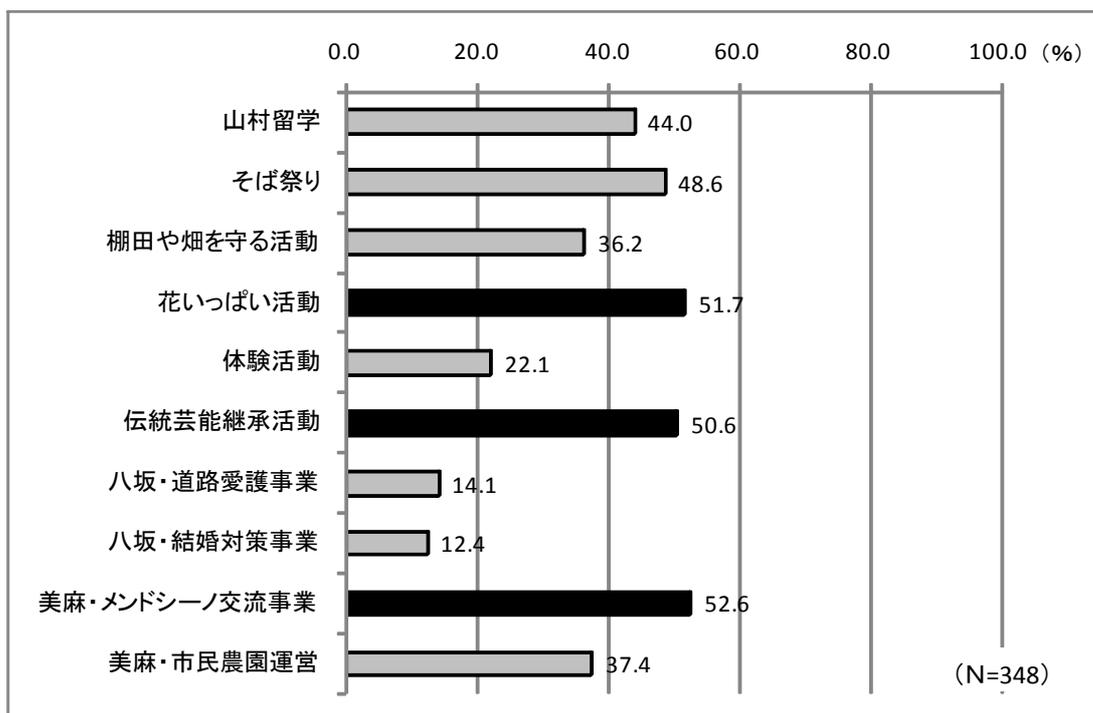


③地域活性化度

10 事業のうち、事業を実施することによって地域が明るくなったり、元気になったりしたと感じているものを回答してもらったところ、美麻地区の独自事業である「メンドシーノ交流事業」(52.6%)による地域活性化度が最も高く評価されており、「花いっぱい活動」(51.7%)、「伝統芸能承継活動」(50.6%)が続いている

また、美麻地区事業(道路愛護事業・結婚対策事業を除く8事業)の地域活性化度の平均は42.9%であり、住民の約半数が美麻地区事業が地域活性化に貢献していると考えていることがわかる。

図表 21 美麻地区 地域活性化度

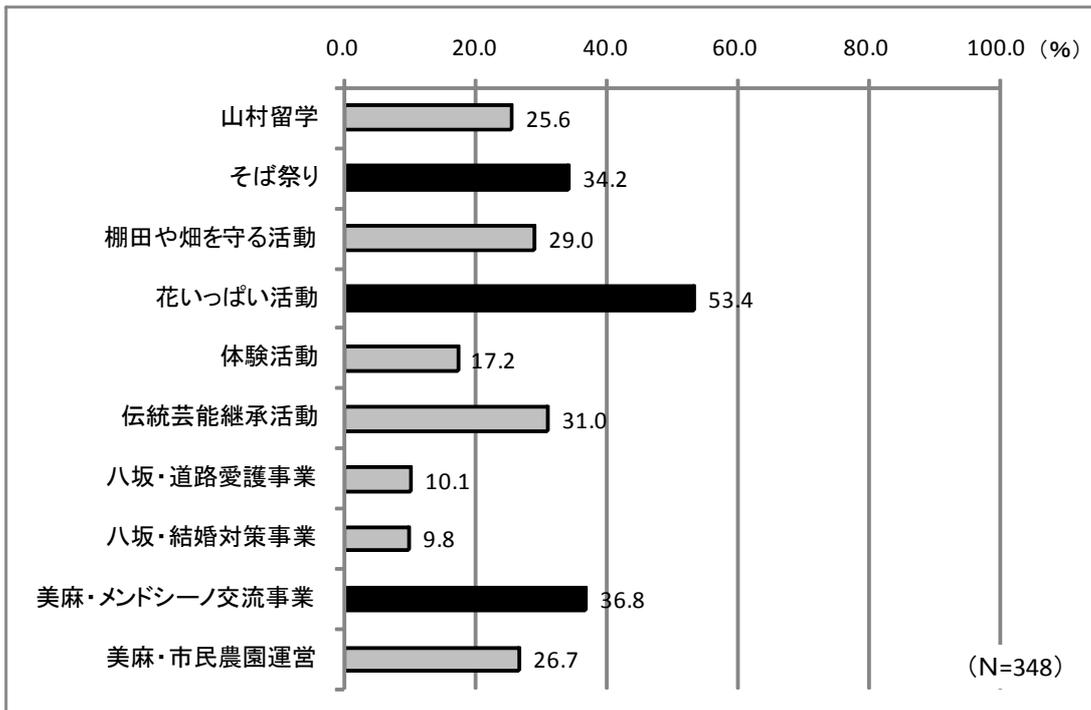


④運営参加希望度

10 事業のうち、運営に参加したり、応援したいと考えているものを回答してもらったところ、「花いっぱい活動」(53.4%)の運営参加希望度が最も高く、美麻地区の独自事業である「メンドシーノ交流事業」(36.8%)、「そば祭り」(34.2%)が続いている。

また、美麻地区事業(道路愛護事業・結婚対策事業を除く8事業)の運営参加希望度の平均は31.8%であり、住民の約3割が運営に参加したいと考えていることがわかる。

図表 22 美麻地区 運営参加希望度

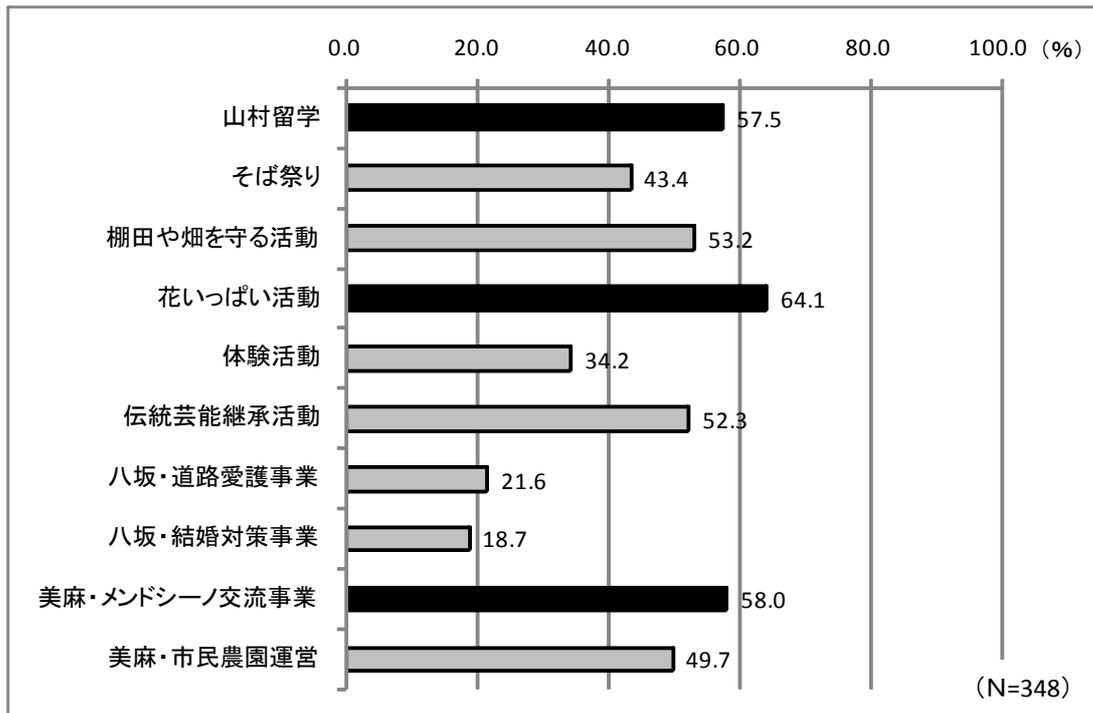


⑤行政支援必要度

10事業のうち、行政による支援が必要だと感じるものを回答してもらったところ、「花いっぱい事業」(73.3%)の行政支援必要度が最も高く、「美麻地区の独自事業であるメンドシーノ交流事業」(58.0%)、「山村留学」(61.9%)が続いている。

また、美麻地区事業(道路愛護事業・結婚対策事業を除く8事業)の行政支援必要度の平均は51.5%であり、住民の約半数が行政の支援が必要であるとしている。

図表 23 美麻地区 行政支援必要度

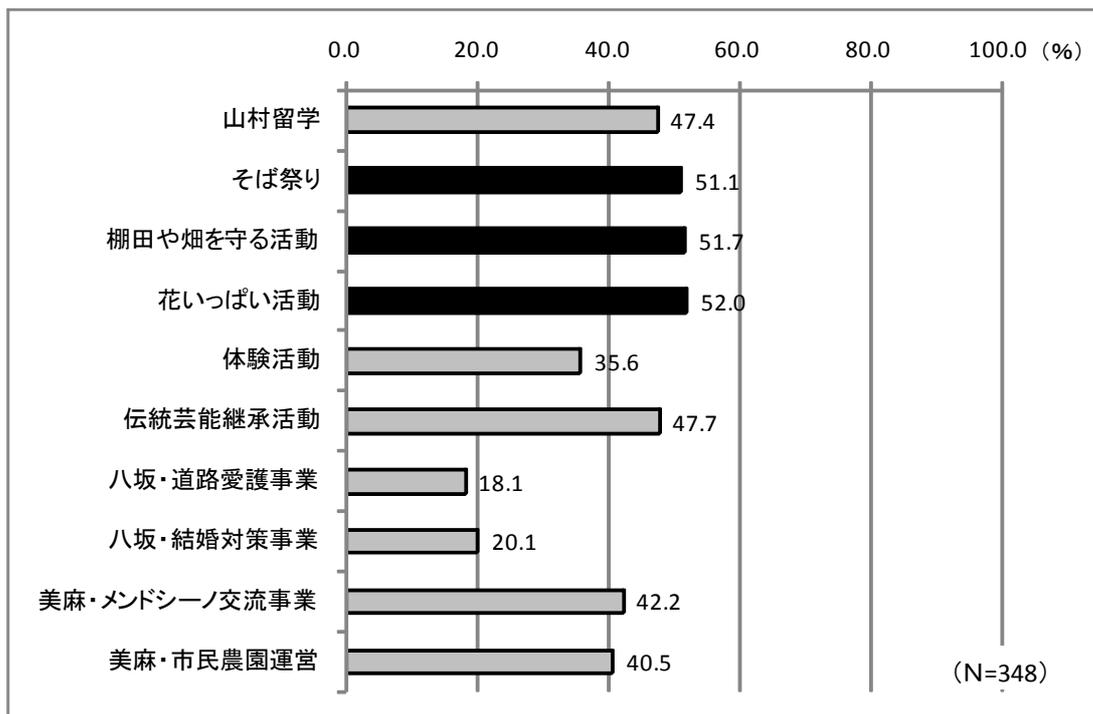


⑥他地域との連携可能性

10 事業のうち、自分が住んでいる地区外とも連携して行うべきだと感じる事業について回答してもらったところ、「花いっぱい活動」(52.0%)の回答が最も多く、「棚田や畑を守る活動」(51.7%)、「そば祭り」(51.1%)が続いている。

また、美麻地区事業(道路愛護事業・結婚対策事業を除く8事業)の他地域との連携可能性の平均は46.0%であり、いずれの事業に対しても、約半数の住民が他の地域との連携により、事業の発展を期待していると考えられる。

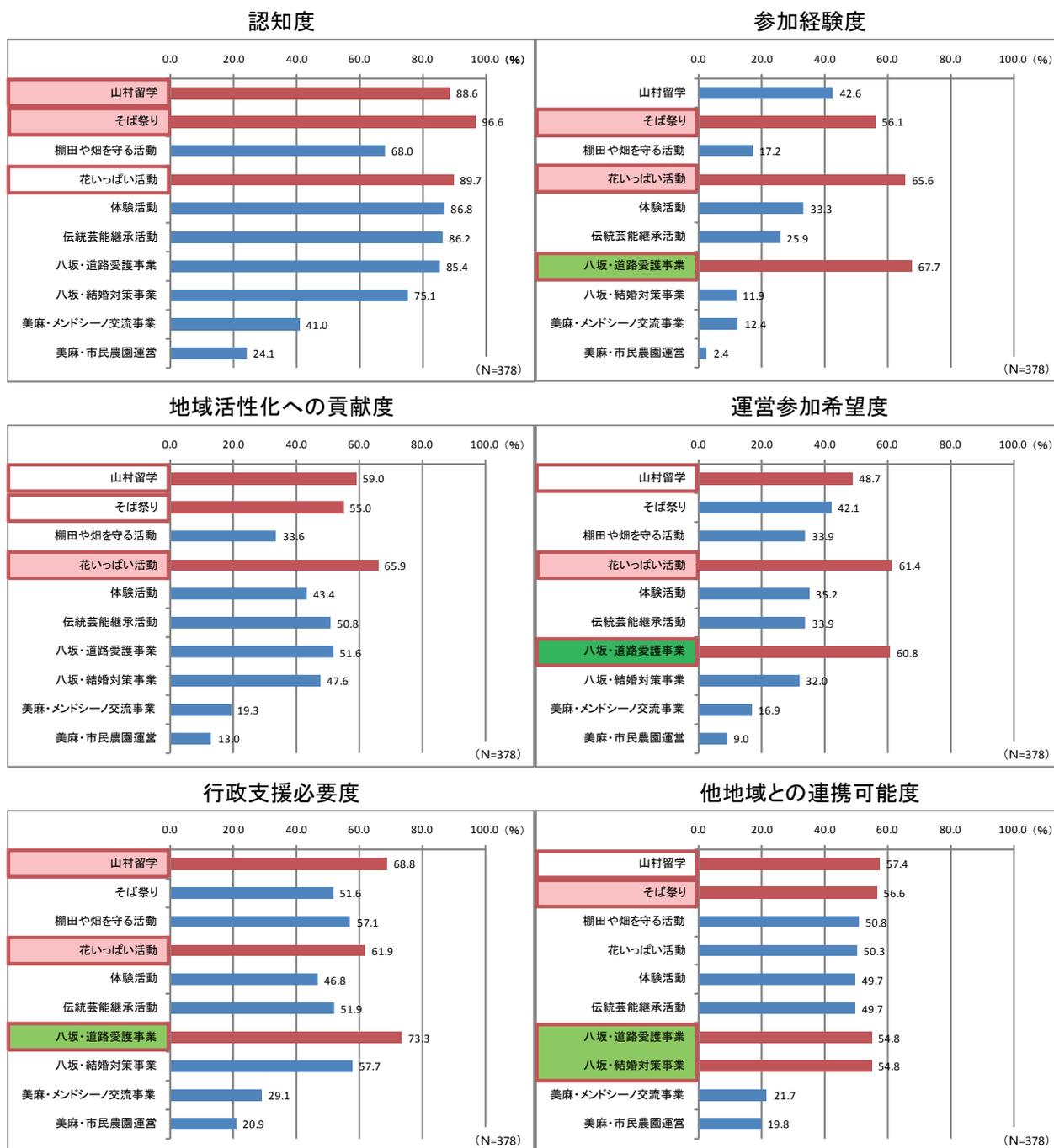
図表 24 美麻地区 他地域との連携可能性



(3) 総整理

主要事業について、八坂地区、美麻地区それぞれの回答結果一覧は次の通りである。

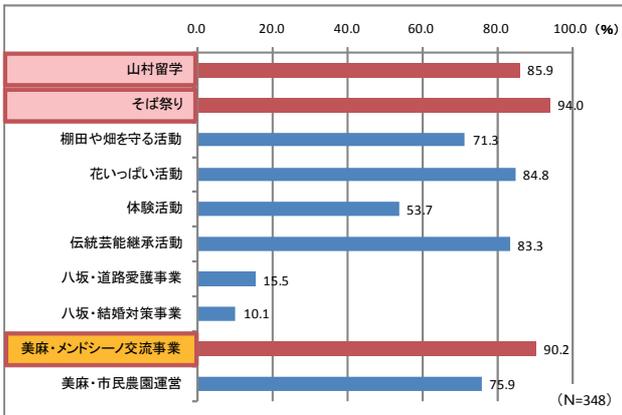
図表 25 八坂地区 一覧



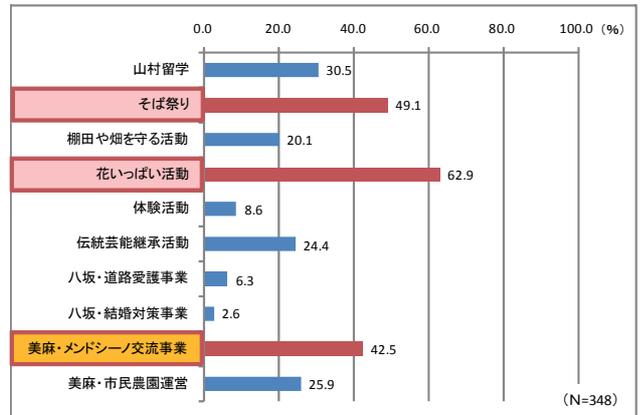
- ・ それぞれの図表で上位3つの項目について、グラフを赤で表示し、項目に赤枠を付している
- ・ さらに、八坂地区、美麻地区ともに上位3つに入っている項目については、赤枠に赤の網掛けを付している→
- ・ 加えて、(美麻地区では行われていない) 八坂地区の独自事業については赤枠に緑の網掛けを付与している→

図表 26 美麻地区 一覧

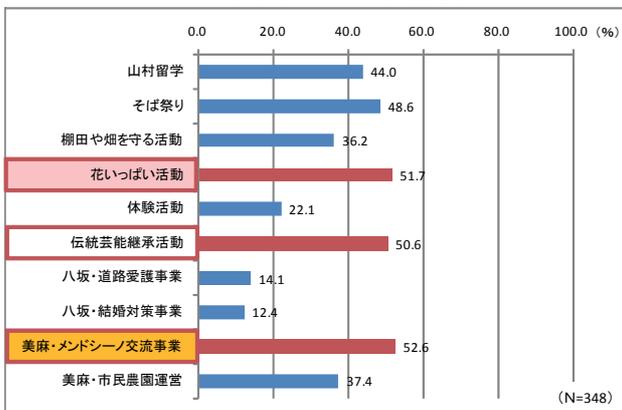
認知度



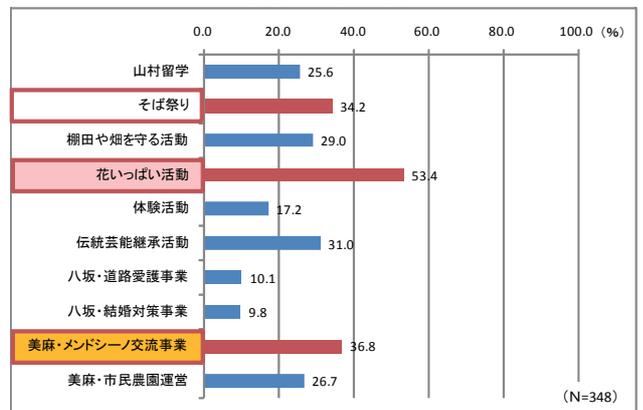
参加経験度



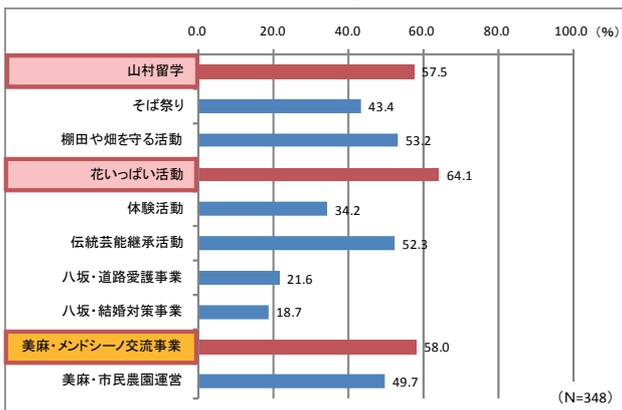
地域活性化への貢献度



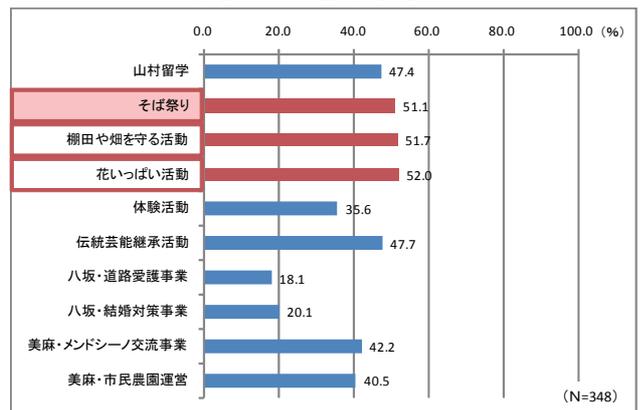
運営参加希望度



行政支援必要度



他地域との連携可能度



- ・ それぞれの図表で上位3つの項目について、グラフを赤で表示し、項目に赤枠を付している
- ・ さらに、八坂地区、美麻地区ともに上位3つに入っている項目については、赤枠に赤の網掛けを付している→
- ・ 加えて、(八坂地区では行われていない) 美麻地区の独自事業については赤枠にオレンジの網掛けを付与している→

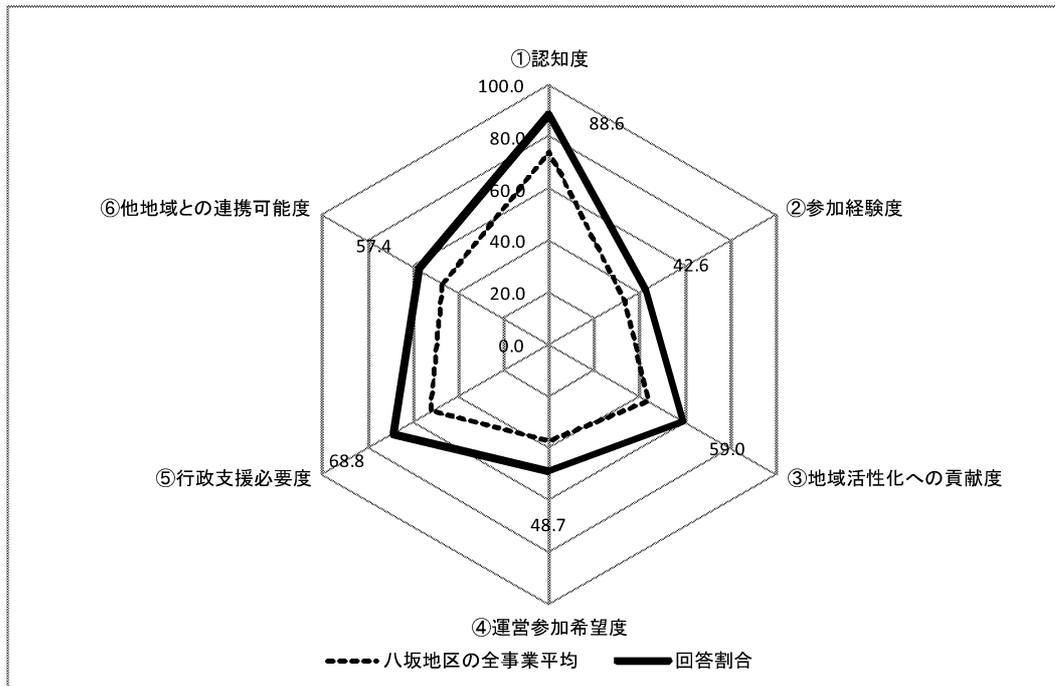
5 主要事業の事業カルテ

前節でまとめた 10 事業について、八坂地区、美麻地区ごとに 6 つの評価項目を整理する。

(1) 山村留学

山村留学は「(財)育てる会」が主催し、児童生徒が年間留学する長期留学と夏休み等の長期休暇に来訪する短期留学制度がある。長期留学では年 30 名程度、短期留学年間 650 名程度の実績がある。

図表 27 八坂地区 事業カルテ



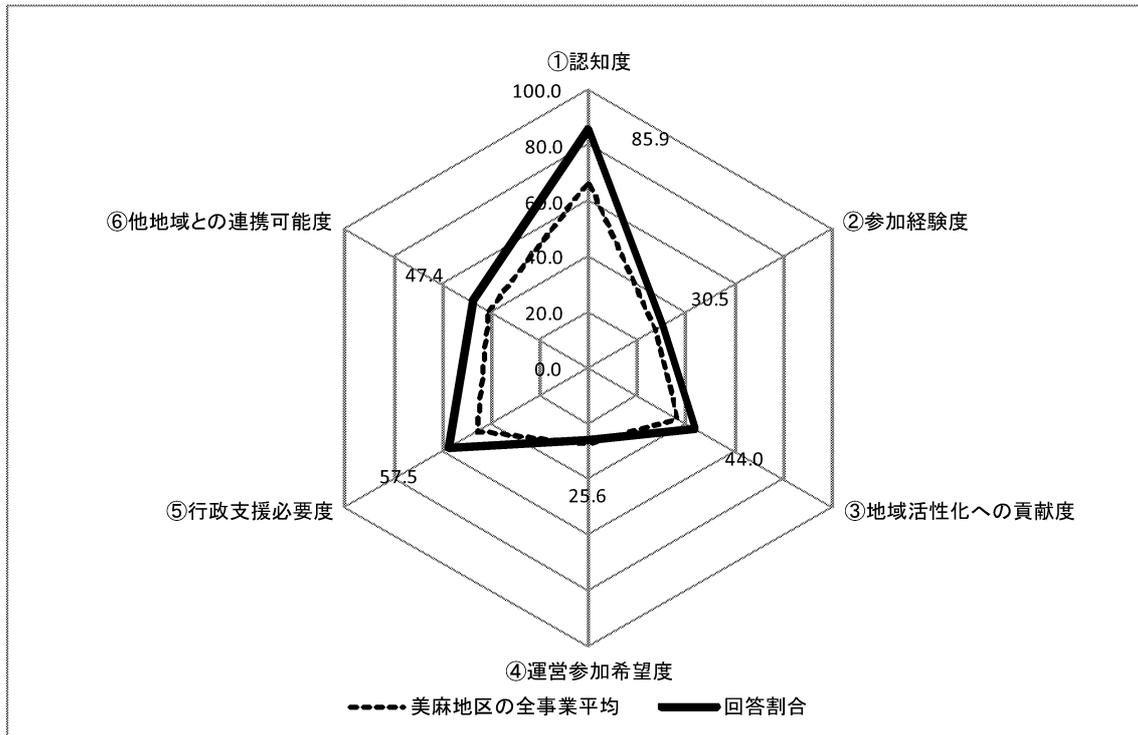
	山村留学	全事業平均	ポイント差
①認知度	88.6	74.2	14.5
②参加経験度	42.6	33.5	9.1
③地域活性化への貢献度	59.0	43.9	15.1
④運営参加希望度	48.7	37.4	11.3
⑤行政支援必要度	68.8	51.9	16.9
⑥他地域との連携可能性	57.4	46.6	10.8

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

事業カルテより、八坂地区における山村留学の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 八坂地区では全項目について全事業の平均を上回っており、特に⑤行政支援必要度、③地域活性化への貢献度は平均を 15 ポイント以上上回っている。
- ・ 山村留学は他事業と比較して地域活性化への貢献度が高く、八坂地区の重要な事業として行政支援が必要であると評価されている。

図表 28 美麻地区 事業カルテ



	山村留学	全事業平均	ポイント差
①認知度	85.9	66.5	19.5
②参加経験度	30.5	27.3	3.2
③地域活性化への貢献度	44.0	37.0	7.0
④運営参加希望度	25.6	27.4	▲ 1.8
⑤行政支援必要度	57.5	45.3	12.2
⑥他地域との連携可能度	47.4	40.7	6.8

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

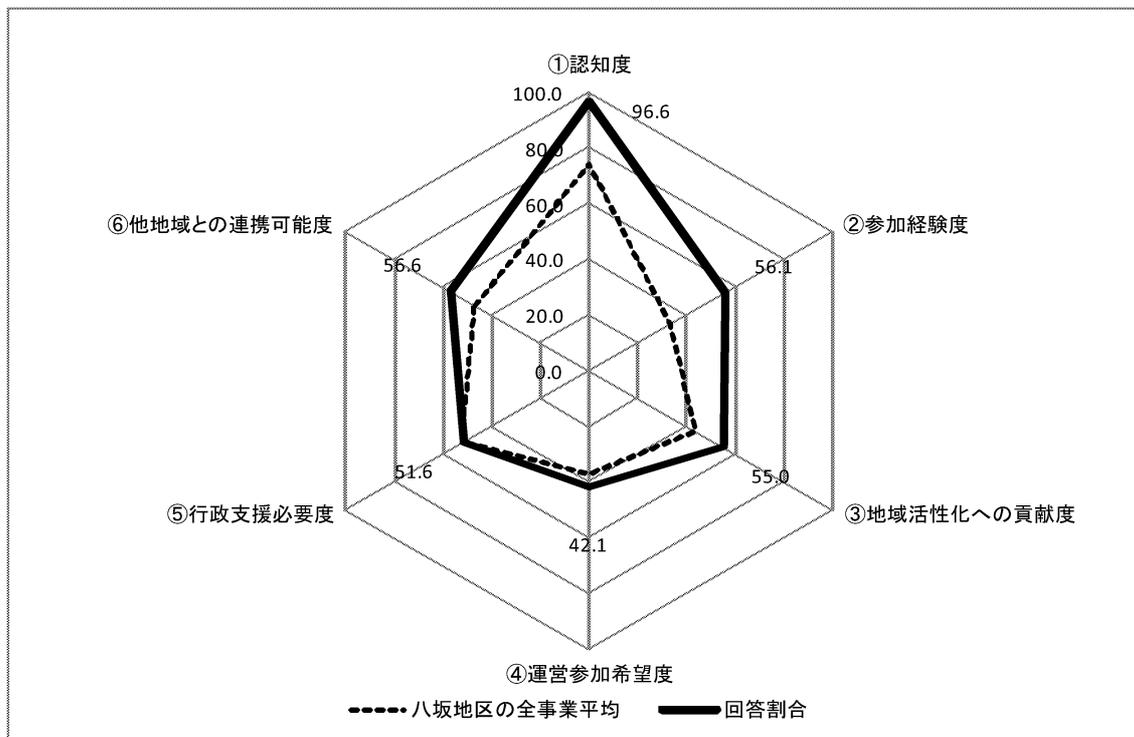
事業カルテより、美麻地区における山村留学の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 美麻地区では④運営参加希望度を除く 5 項目について全事業の平均を上回っており、特に①認知度は平均を約 20 ポイント程度上回っている。
- ・ 山村留学は認知度は高いものの、主に八坂地区を中心として実施されているため運営参加への希望が少なくなっていると考えられる。

(2) そば祭り

10月下旬から11月初旬にかけて、八坂地区では「明日香荘」と「ふるさと体験館」で、美麻地区では新行において、そば祭りを実施している。

図表 29 八坂地区 事業カルテ



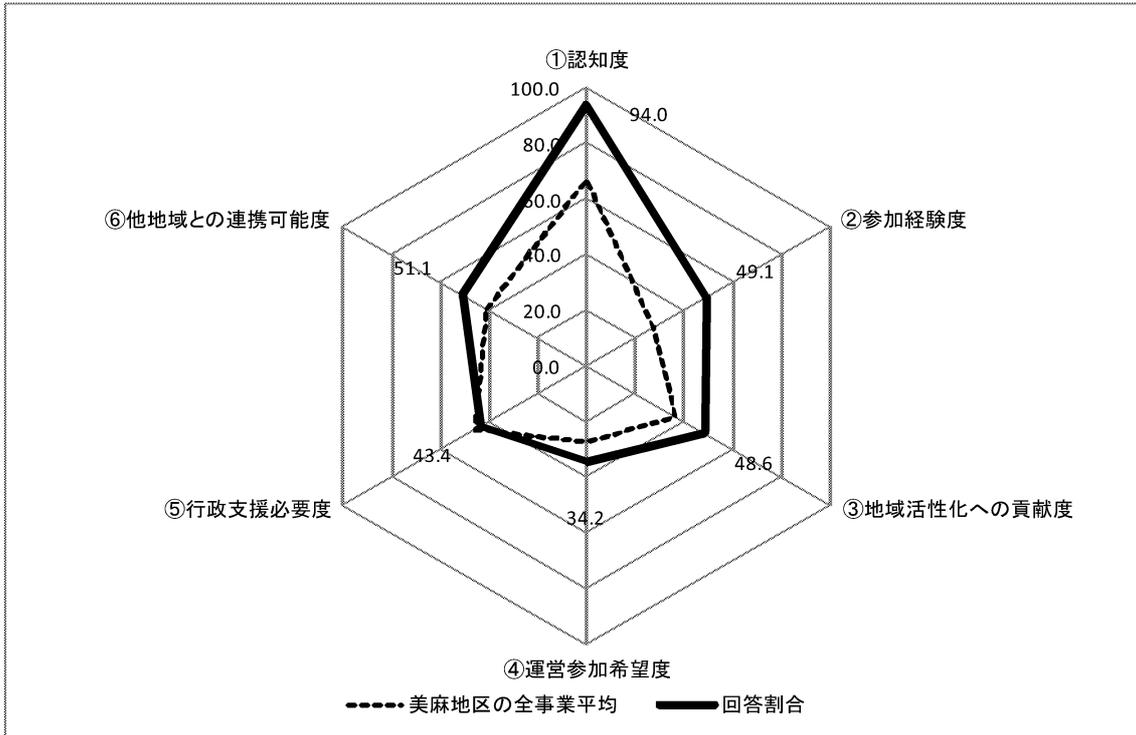
	そば祭り	全事業平均	ポイント差
①認知度	96.6	74.2	22.4
②参加経験度	56.1	33.5	22.6
③地域活性化への貢献度	55.0	43.9	11.1
④運営参加希望度	42.1	37.4	4.7
⑤行政支援必要度	51.6	51.9	▲ 0.3
⑥他地域との連携可能度	56.6	46.6	10.1

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

事業カルテより、八坂地区におけるそば祭りの特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 八坂地区では⑤行政支援必要度を除く5項目について全事業の平均を上回っており、特に①認知度、②参加経験度は平均を20ポイント以上上回っている。
- ・ そば祭りは地区外からも集客のある有名なイベントであるため、認知度や参加経験度が高くなっていると考えられる。

図表 30 美麻地区 事業カルテ



	そば祭り	全事業平均	ポイント差
①認知度	94.0	66.5	27.5
②参加経験度	49.1	27.3	21.8
③地域活性化への貢献度	48.6	37.0	11.6
④運営参加希望度	34.2	27.4	6.8
⑤行政支援必要度	43.4	45.3	▲ 1.9
⑥他地域との連携可能度	51.1	40.7	10.5

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

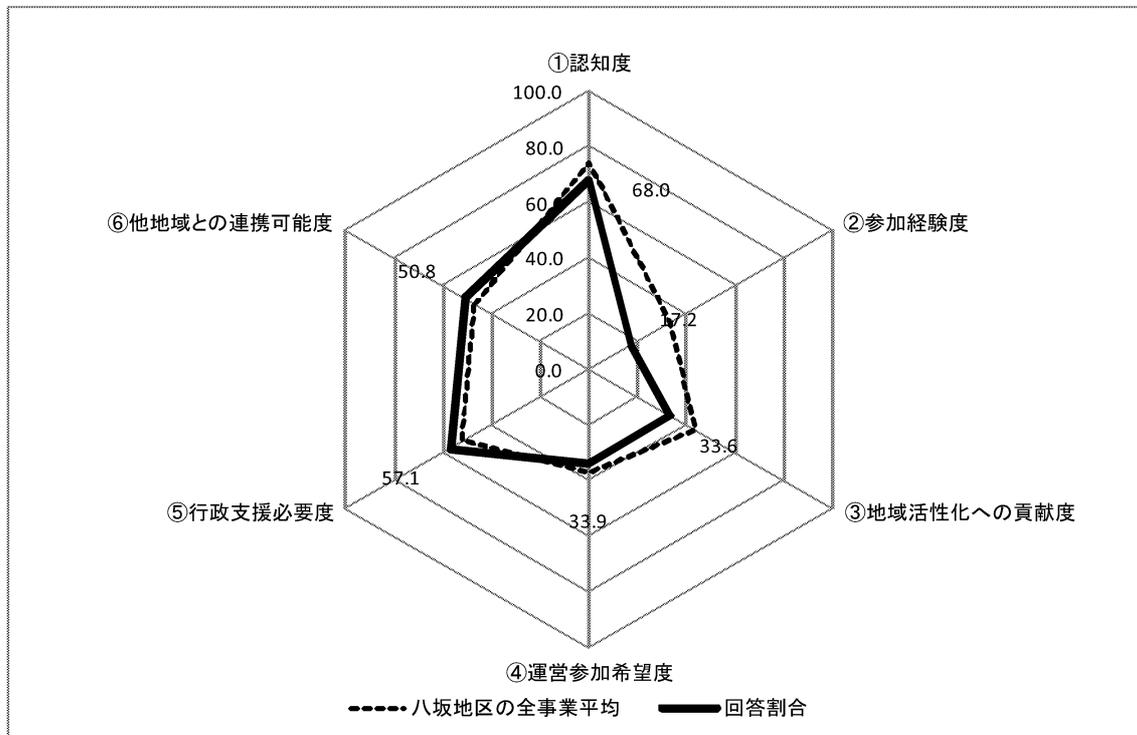
事業カルテより、美麻地区におけるそば祭りの特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 美麻地区では⑤行政支援必要度を除く5項目について全事業の平均を上回っており、特に①認知度、②参加経験度は平均を20ポイント以上上回っている。
- ・ 八坂地区のそば祭りと同様に、そば祭りは地区外からも集客のある有名なイベントであるため、認知度や参加経験度が高くなっていると考えられるが、既に「新行そば」「美麻そば」のように地域名を冠とした地域ブランドを構築しつつあり、何らかの形で、美麻・八坂の連携による一層のブランド化が望まれる。

(3) 棚田や畑を守る活動

田舎らしい景観と環境を取り戻そうと、長年荒廃していた棚田や畑を復活させ、そばや菜の花を栽培する活動が八坂・美麻両地区で行われている。

図表 31 八坂地区 事業カルテ



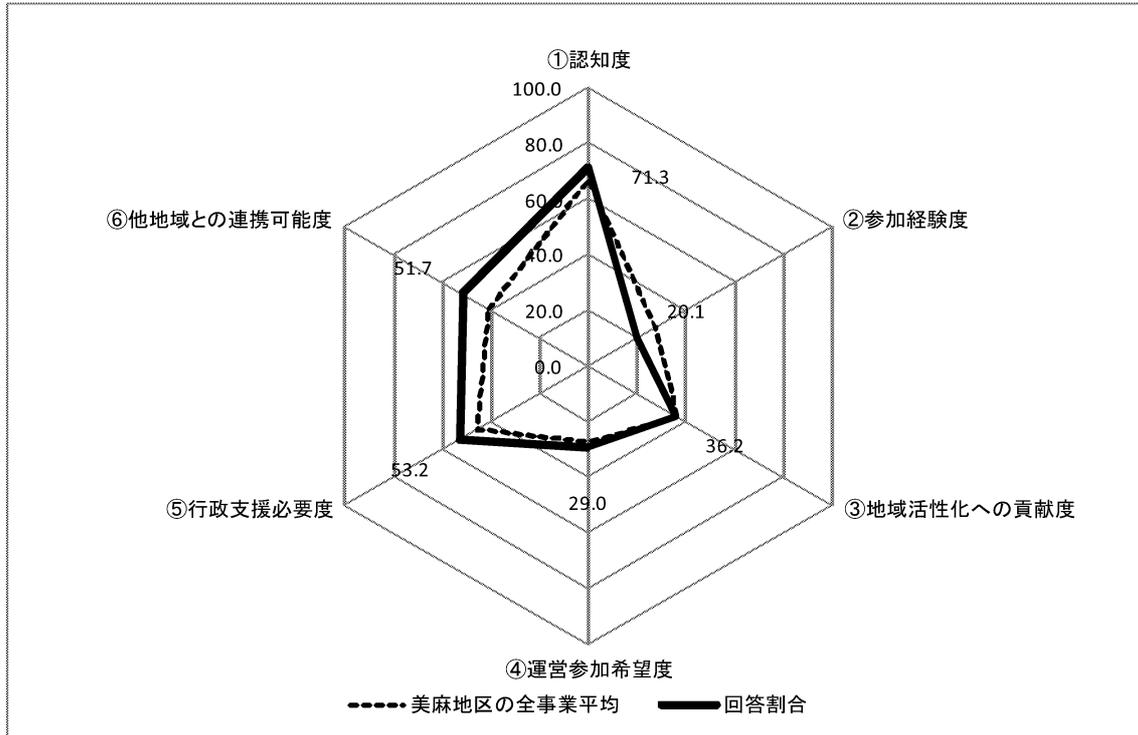
	棚田や畑を守る活動	全事業平均	ポイント差
①認知度	68.0	74.2	▲ 6.2
②参加経験度	17.2	33.5	▲ 16.3
③地域活性化への貢献度	33.6	43.9	▲ 10.3
④運営参加希望度	33.9	37.4	▲ 3.5
⑤行政支援必要度	57.1	51.9	5.2
⑥他地域との連携可能度	50.8	46.6	4.2

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

事業カルテより、八坂地区における棚田や畑を守る活動の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 八坂地区では⑤行政支援必要度、⑥他地域との連携可能度を除く4項目について全事業の平均を下回っており、特に②参加経験度、③地域活性化への貢献度が平均よりも10ポイント以上低くなっている。
- ・ 棚田や畑を守る活動は認知度が低いため、参加経験度や地域活性化への貢献度が低く評価されているが、田舎暮らしの重要な魅力として、棚田や畑の保全活動の楽しさを地域住民が理解し合い情報発信していくことが必要であると考えられる

図表 32 美麻地区 事業カルテ



	棚田や畑を守る活動	全事業平均	ポイント差
①認知度	71.3	66.5	4.8
②参加経験度	20.1	27.3	▲ 7.2
③地域活性化への貢献度	36.2	37.0	▲ 0.7
④運営参加希望度	29.0	27.4	1.6
⑤行政支援必要度	53.2	45.3	7.9
⑥他地域との連携可能度	51.7	40.7	11.1

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

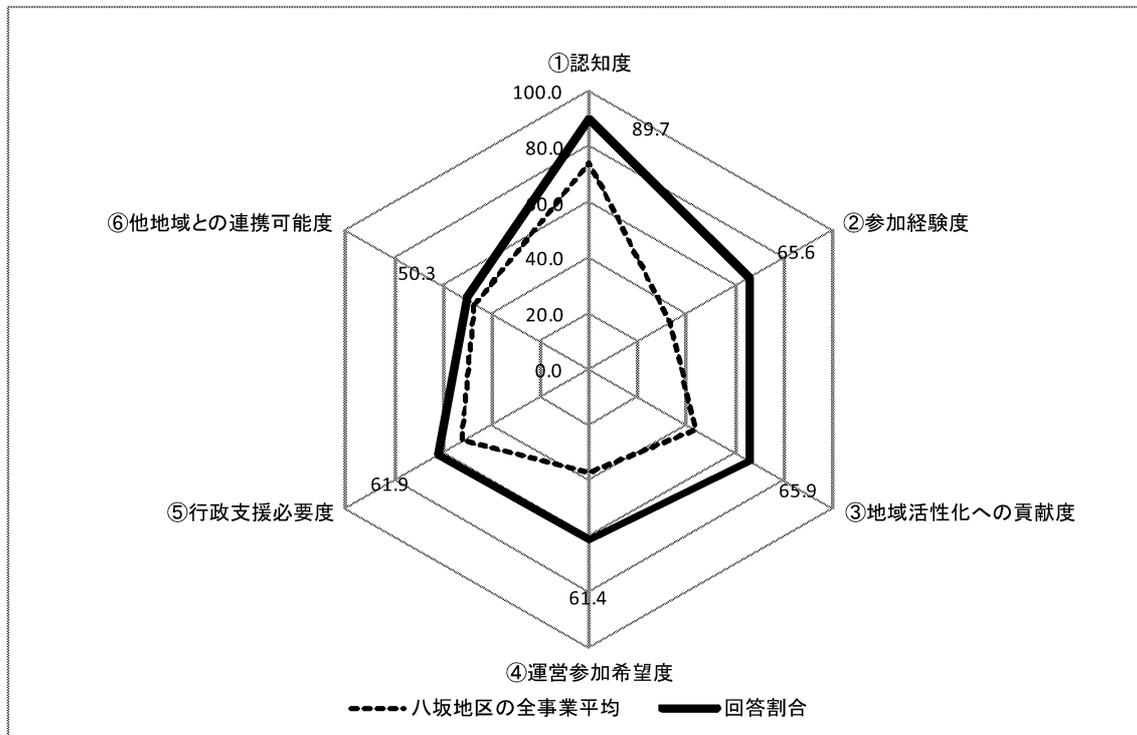
事業カルテより、美麻地区における棚田や畑を守る活動の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 美麻地区では②参加経験度、③地域活性化への貢献度を除く4項目について全事業の平均を上回っており、特に⑥他地域との連携可能度は平均を10ポイント以上上回っている。
- ・ 一方で、②参加経験度については、平均を7ポイント程度下回っている。
- ・ 棚田や畑を守る活動の認知度は平均水準であるが、肉体労働を伴う作業が多いため、参加経験度が低く、人手を集める必要があるため、他地域との連携可能性が高い事業として評価されていると考えられる。

(4) 花いっぱい活動

小学校やPTA、老人クラブ、自治会等が、道路や公共施設に花を植栽し、美しい地域づくりを進める活動が八坂・美麻両地区で行われている。

図表 33 八坂地区 事業カルテ



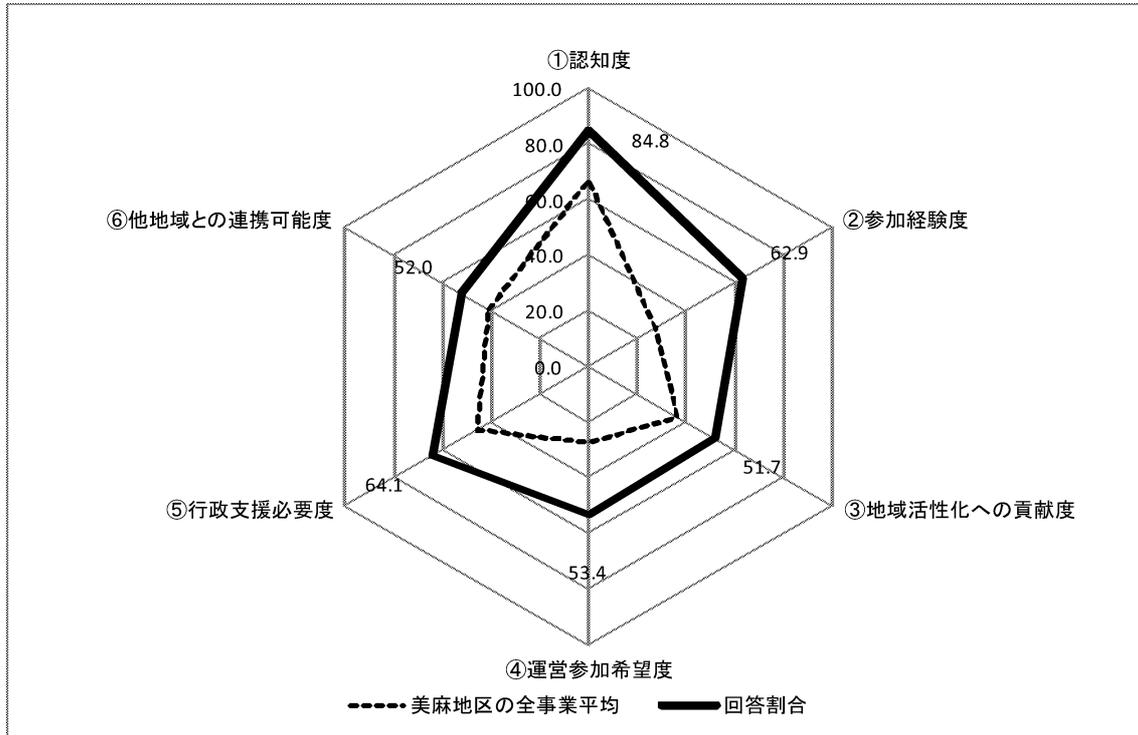
	花いっぱい活動	全事業平均	ポイント差
①認知度	89.7	74.2	15.5
②参加経験度	65.6	33.5	32.1
③地域活性化への貢献度	65.9	43.9	22.0
④運営参加希望度	61.4	37.4	24.0
⑤行政支援必要度	61.9	51.9	10.0
⑥他地域との連携可能度	50.3	46.6	3.7

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

事業カルテより、八坂地区における花いっぱい活動の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 八坂地区では全項目について全事業の平均を上回っており、特に②参加経験度は平均を30ポイント以上と大きく上回っており、③地域活性化への貢献度、④運営参加希望度も20ポイント以上上回るなどと高く評価されている。
- ・ 花いっぱい活動は、作業負担が少なく気軽に参加できる事業であるため参加経験が高く、また、成果が目に見えやすく実感しやすいことから地域活性化への貢献度や運営参加希望度についても高く評価されていると考えられる。

図表 34 美麻地区 事業カルテ



	花いっぱい活動	全事業平均	ポイント差
①認知度	84.8	66.5	18.3
②参加経験度	62.9	27.3	35.6
③地域活性化への貢献度	51.7	37.0	14.8
④運営参加希望度	53.4	27.4	26.1
⑤行政支援必要度	64.1	45.3	18.8
⑥他地域との連携可能度	52.0	40.7	11.4

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

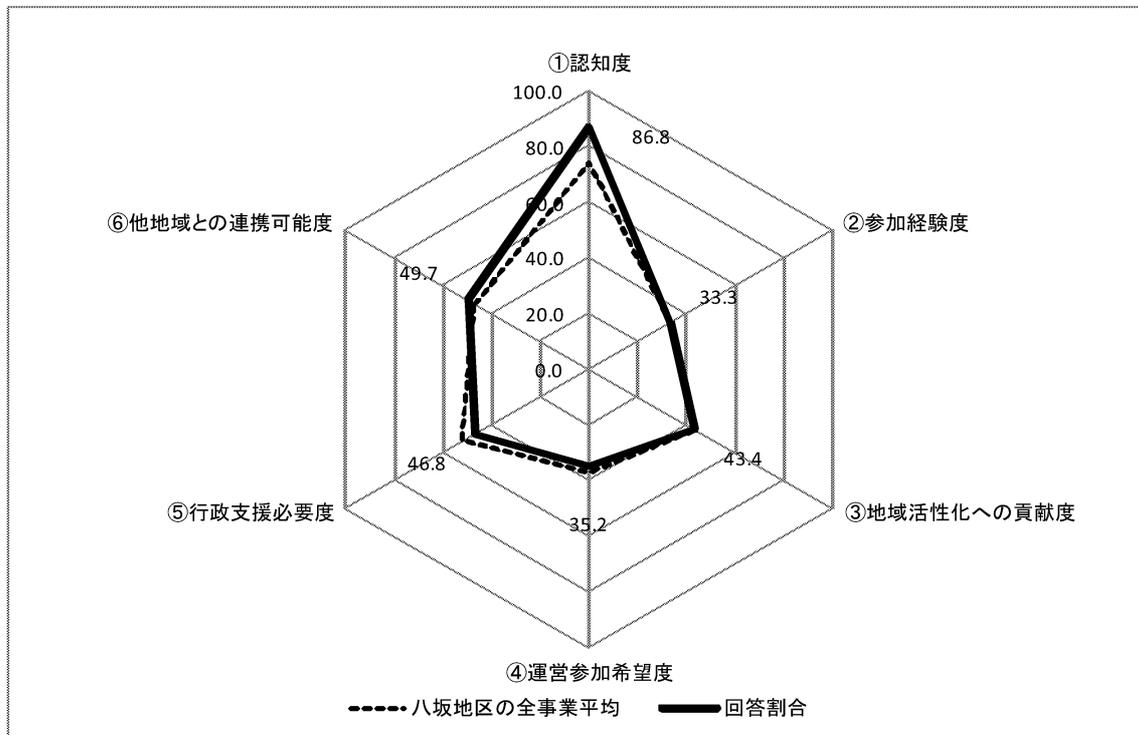
事業カルテより、美麻地区における花いっぱい活動の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 美麻地区では全項目について全事業の平均を上回っており、特に②参加経験度は平均を35ポイント以上と大きく上回っており、④運営参加希望度も平均を25ポイント以上上回るなど高く評価されている。
- ・ 花いっぱい活動は、作業負担が少なく気軽に参加できる事業であるため参加経験が高く、また、楽しく活動できることから運営参加希望度についても高く評価されていると考えられる。
- ・ 八坂地区も美麻地区も同じような評価であり、事業の性格からも連携もしやすいと考えられるので、「花」を活用した地域イメージの構築に向けた連携が望まれる。

(5) 体験活動

八坂地区では、そば打ちやおやき作り・犀川ラフティング・ふるさと体験（農林体験）、美麻地区では学生の夏季合宿などが行われている。

図表 35 八坂地区 事業カルテ



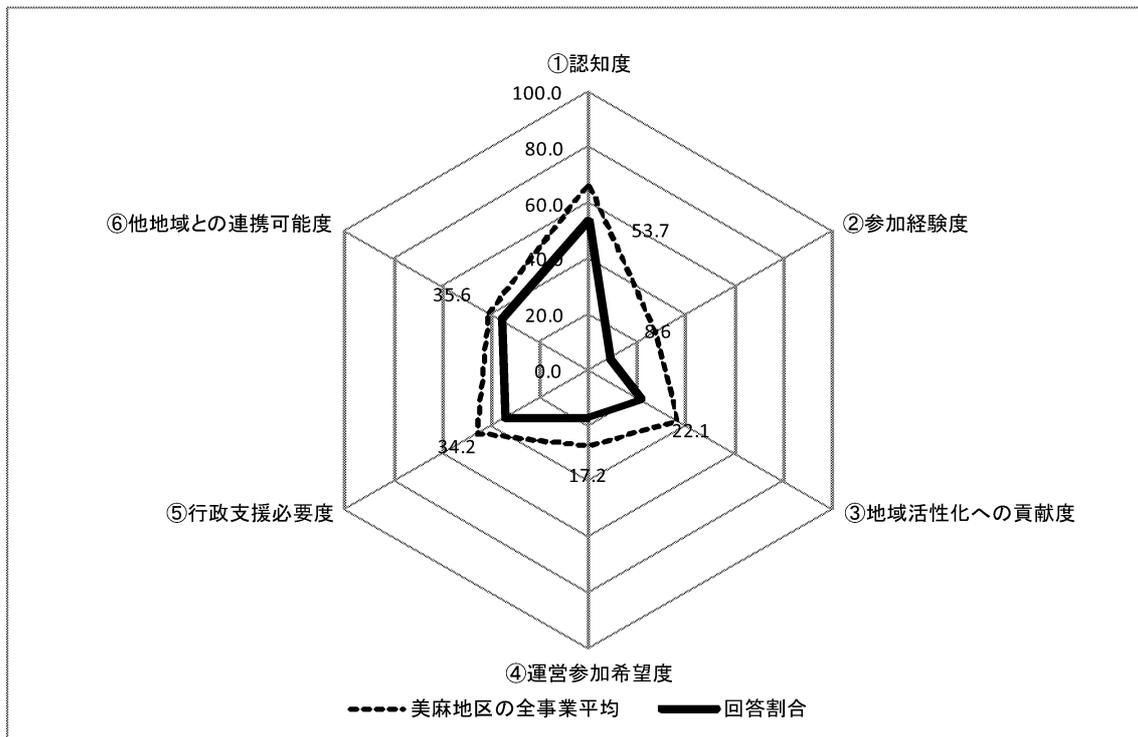
	体験活動	全事業平均	ポイント差
①認知度	86.8	74.2	12.6
②参加経験度	33.3	33.5	▲ 0.2
③地域活性化への貢献度	43.4	43.9	▲ 0.5
④運営参加希望度	35.2	37.4	▲ 2.2
⑤行政支援必要度	46.8	51.9	▲ 5.1
⑥他地域との連携可能度	49.7	46.6	3.2

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

事業カルテより、八坂地区における体験活動の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 八坂地区では①認知度、⑥他地域との連携可能度を除く項目について全事業の平均を下回っているが、概ね平均的な評価であることがわかる。
- ・ ①認知度は平均を 10 ポイント以上上回っており認知度は高いものの、まだ取り組みが限定的であり、実態が広く市民に伝わっていないためその他の項目のポイントが低くなっていると考えられる。
- ・ ラフティング等に対する宿泊機能の整備や食事の提供の充実を図り、さらに他地域との連携等の戦略的な事業展開により、利益を生み出す経済活動が伴うようになれば、市民の評価も大きく変わることが期待される。

図表 36 美麻地区 事業カルテ



	体験活動	全事業平均	ポイント差
①認知度	53.7	66.5	▲ 12.7
②参加経験度	8.6	27.3	▲ 18.7
③地域活性化への貢献度	22.1	37.0	▲ 14.8
④運営参加希望度	17.2	27.4	▲ 10.1
⑤行政支援必要度	34.2	45.3	▲ 11.1
⑥他地域との連携可能度	35.6	40.7	▲ 5.0

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

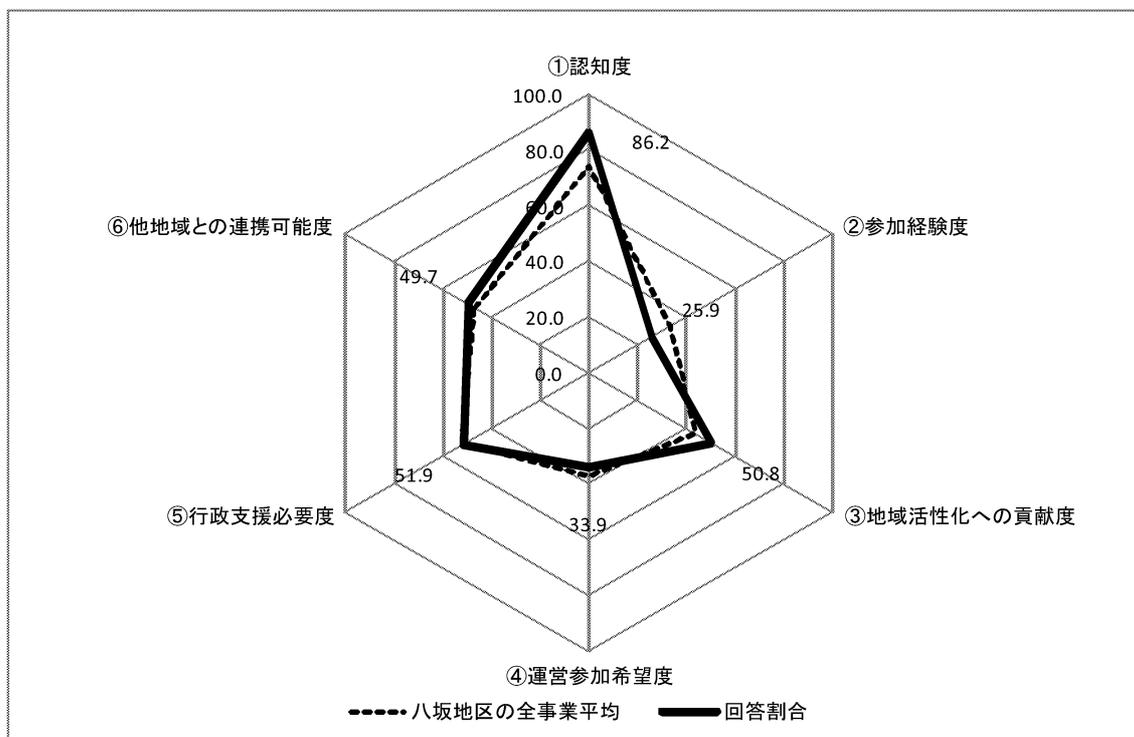
事業カルテより、美麻地区における体験活動の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 美麻地区では全項目について全事業の平均を下回っている。
- ・ 体験活動の認知度が低く、参加経験も乏しいため、その他の項目についても低く評価されていると考えられる。
- ・ 地元住民の楽しみなのか、交流事業の仕組みなのか、原点に戻って体験活動の趣旨を再検討し、情報発信から参加への呼びかけを行う必要があると考えられる。

(6) 伝統芸能承継活動

各地区でお囃子を保存する活動や、八坂青龍太鼓、八坂音頭保存会、源流美麻太鼓など、地域の伝統芸能を継承する活動がある。

図表 37 八坂地区 事業カルテ



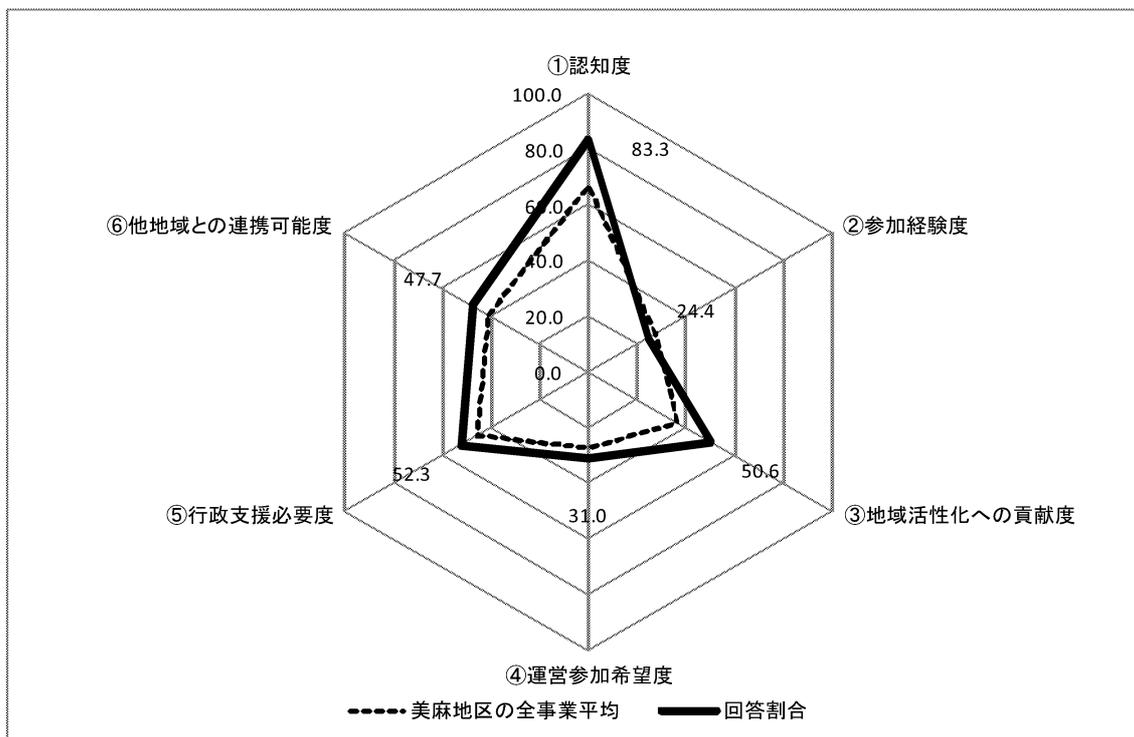
	伝統芸能承継活動	全事業平均	ポイント差
①認知度	86.2	74.2	12.1
②参加経験度	25.9	33.5	▲ 7.6
③地域活性化への貢献度	50.8	43.9	6.9
④運営参加希望度	33.9	37.4	▲ 3.5
⑤行政支援必要度	51.9	51.9	▲ 0.1
⑥他地域との連携可能度	49.7	46.6	3.2

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

事業カルテより、八坂地区における伝統芸能承継活動の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 八坂地区では全体的に概ね平均的な評価がなされており、①認知度は平均より 10 ポイント以上高く評価されている。
- ・ 伝統芸能継承活動は地域のお祭り等で目にする機会が多いため、認知度や地域活性化への貢献度が高く評価されていると考えられる。
- ・ 地域固有の文化を守っていくためにも、人材及び資金の確保は重要と考えられる。

図表 38 美麻地区 事業カルテ



	伝統芸能 承継活動	全事業平均	ポイント差
①認知度	83.3	66.5	16.9
②参加経験度	24.4	27.3	▲ 2.9
③地域活性化への貢献度	50.6	37.0	13.6
④運営参加希望度	31.0	27.4	3.6
⑤行政支援必要度	52.3	45.3	7.0
⑥他地域との連携可能度	47.7	40.7	7.0

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

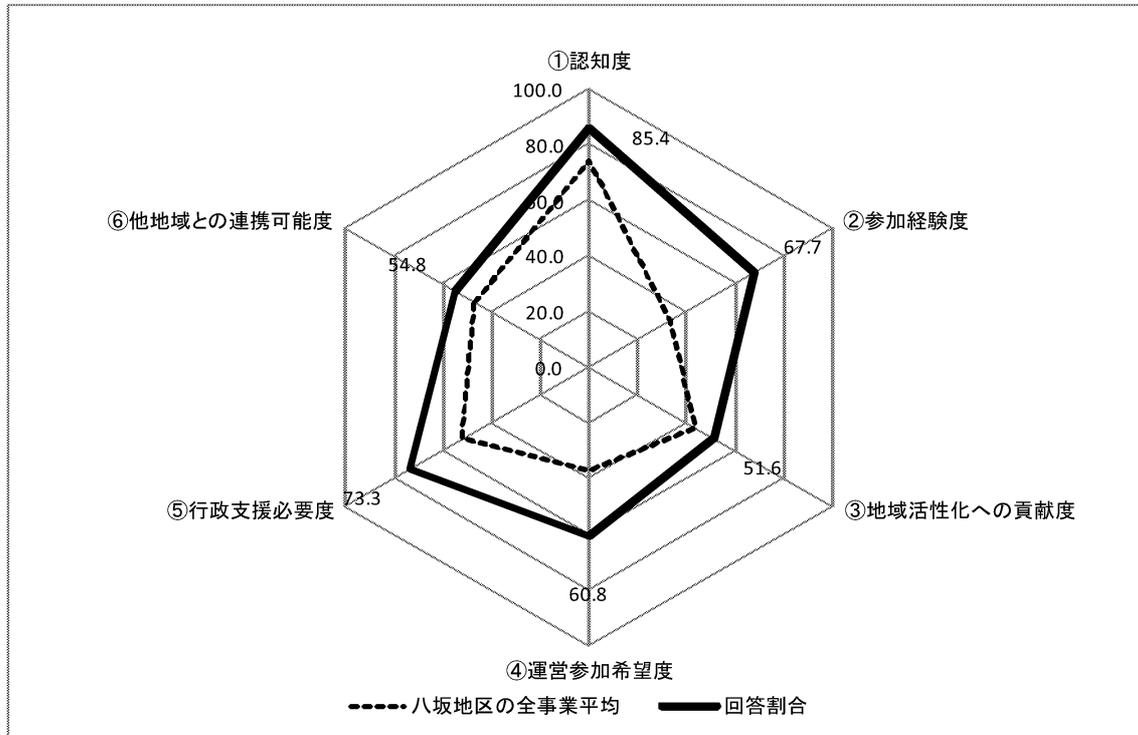
事業カルテより、美麻地区における伝統芸能承継活動の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 美麻地区では②参加経験度の項目を除く 5 項目について全事業の平均を上回っており、特に①認知度、③地域活性化への貢献度は平均を 10 ポイント以上上回っている。
- ・ 伝統芸能継承活動は地域のお祭り等で目にする機会が多いため、認知度や地域活性化への貢献度が高く評価されていると考えられる。
- ・ 参加経験はまだ乏しいものの、その他の項目についても高く評価されていることから、今後の発展が期待されている事業であり、人材の育成や資金的支援を検討していく必要があると考えられる。

(7) 道路愛護事業（八坂区独自事業）

住民自らが地域の道水路や公共施設等の美化を図ろうと清掃や草刈、支障木の除去などの公共作業を年4回実施しているもので、昭和43年から継続されている。

図表 39 八坂地区 事業カルテ



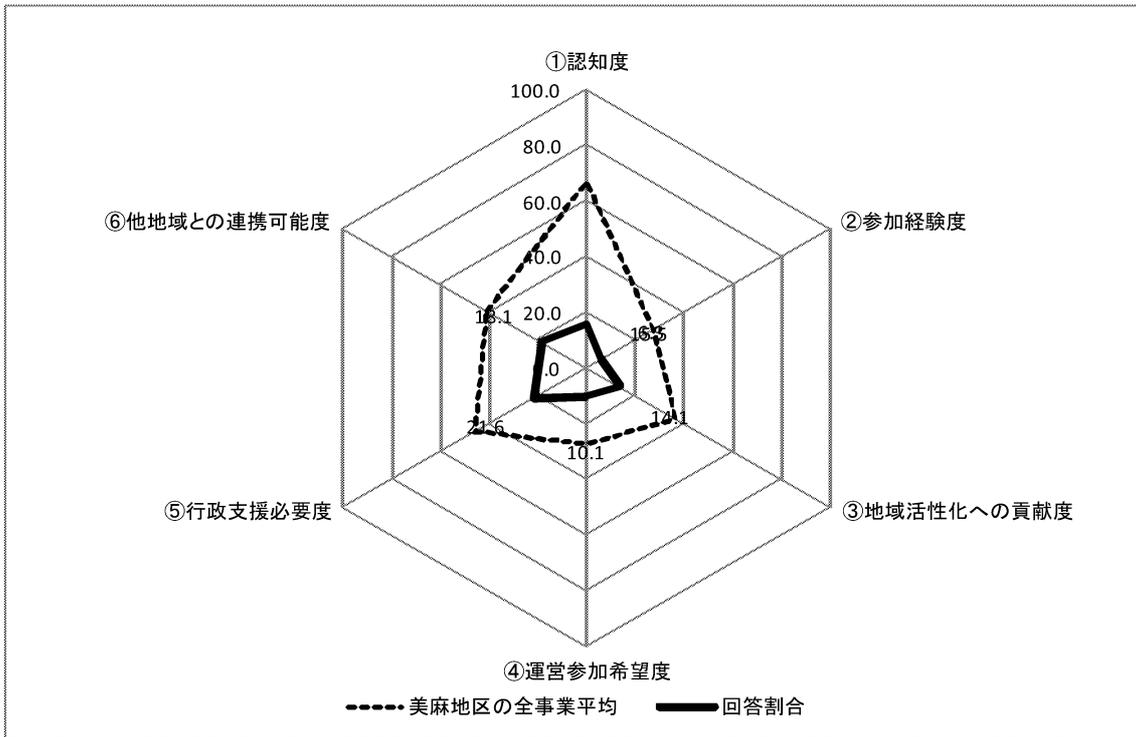
	道路愛護事業	全事業平均	ポイント差
①認知度	85.4	74.2	11.3
②参加経験度	67.7	33.5	34.2
③地域活性化への貢献度	51.6	43.9	7.7
④運営参加希望度	60.8	37.4	23.5
⑤行政支援必要度	73.3	51.9	21.4
⑥他地域との連携可能性	54.8	46.6	8.2

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

事業カルテより、八坂地区における道路愛護事業の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 八坂地区では全項目について全事業の平均を上回っており、特に②参加経験度は30ポイント以上、④運営参加希望度、⑤行政支援必要度は20ポイント以上平均を上回っている。
- ・ 生活に密着した取り組みあることに加え、事業開始から40年以上続いている歴史ある事業であるため参加経験が高く、その参加経験が運営参加希望度や行政支援必要度の高評価につながっているものと考えられる。
- ・ 八坂地区における代表的な協働事業と評価できる。

図表 40 美麻地区 事業カルテ



	道路愛護事業	全事業平均	ポイント差
①認知度	15.5	66.5	▲ 50.9
②参加経験度	6.3	27.3	▲ 21.0
③地域活性化への貢献度	14.1	37.0	▲ 22.9
④運営参加希望度	10.1	27.4	▲ 17.3
⑤行政支援必要度	21.6	45.3	▲ 23.7
⑥他地域との連携可能性	18.1	40.7	▲ 22.6

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

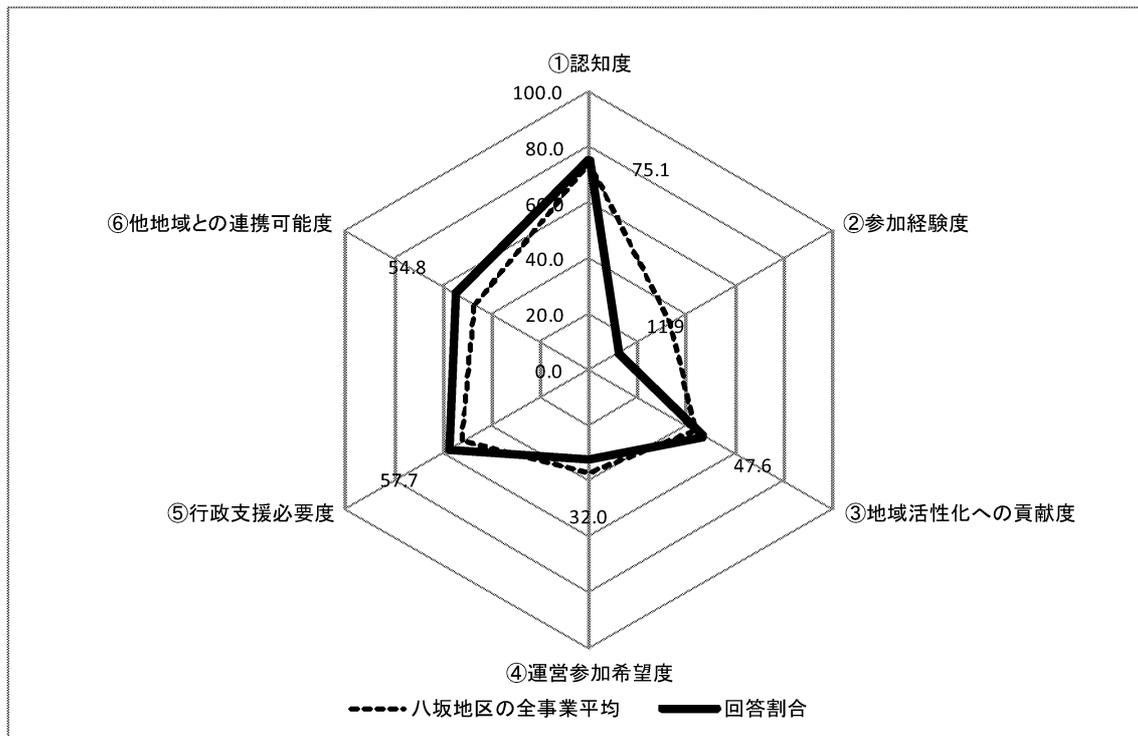
事業カルテより、美麻地区における道路愛護事業の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 八坂地区の独自事業であるため①認知度が 50 ポイント以上平均を下回っており、認知度の低さからその他の項目についても平均を下回っている。
- ・ 八坂地区における道路愛護事業の浸透度を考えると、美麻地区においても同様の事業が可能ではないかと期待される。

(8) 結婚対策事業（八坂地区独自事業）

八坂地区では独自事業として女性との出会いの機会をつくり結婚に結び付けようと「八坂 You・Me くらぶ」を結成し、名古屋近郊の女性に、ツアーへの参加を呼びかけ年 1～2 回の交流会を実施し、これまでに 23 組が成婚している。

図表 41 八坂地区 事業カルテ



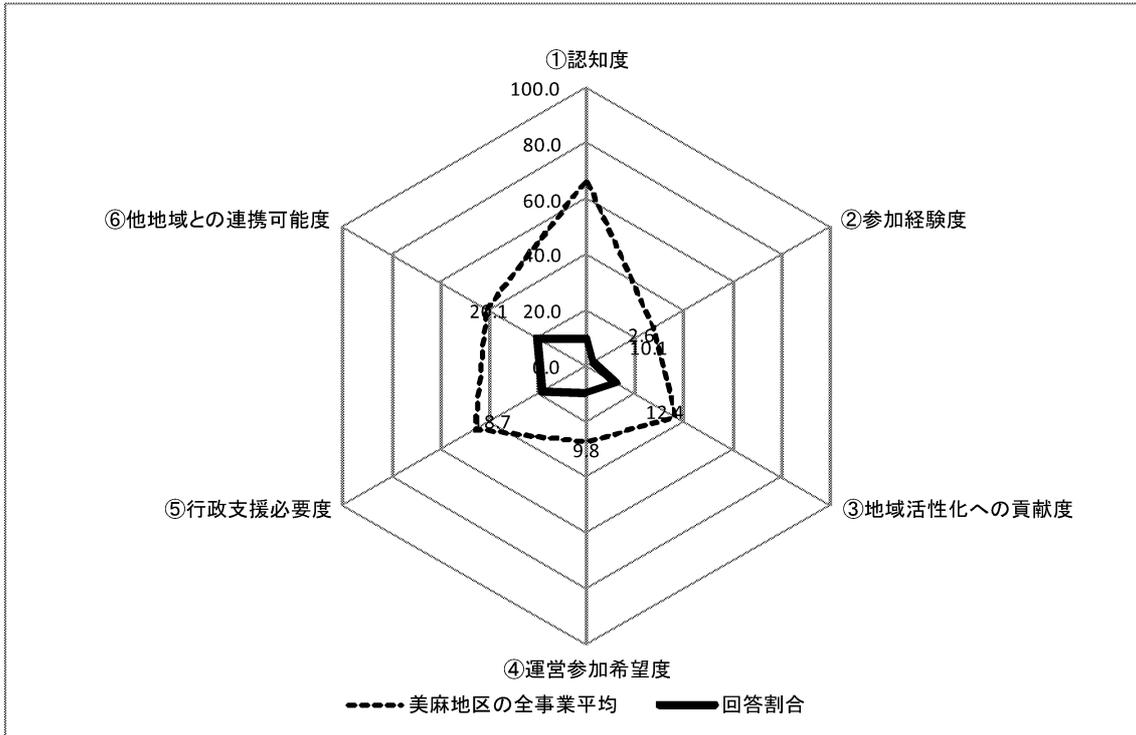
	結婚対策事業	全事業平均	ポイント差
①認知度	75.1	74.2	1.0
②参加経験度	11.9	33.5	▲ 21.6
③地域活性化への貢献度	47.6	43.9	3.7
④運営参加希望度	32.0	37.4	▲ 5.4
⑤行政支援必要度	57.7	51.9	5.8
⑥他地域との連携可能性	54.8	46.6	8.2

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

事業カルテより、八坂地区における結婚対策事業の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 八坂地区では②参加経験度、④運営参加希望度を除く 4 項目について全事業の平均を上回っている。
- ・ 対象者が限られる事業のため、参加経験度が低く、認知度についても低くなっている。
- ・ 認知度、参加経験度が乏しい一方で行政支援必要度や地域活性化への貢献度は平均以上と評価されており、今後の地域の活力創出のため重要な事業であると評価されていると考えられる。

図表 42 美麻地区 事業カルテ



	結婚対策事業	全事業平均	ポイント差
①認知度	10.1	66.5	▲ 56.4
②参加経験度	2.6	27.3	▲ 24.7
③地域活性化への貢献度	12.4	37.0	▲ 24.6
④運営参加希望度	9.8	27.4	▲ 17.6
⑤行政支援必要度	18.7	45.3	▲ 26.6
⑥他地域との連携可能度	20.1	40.7	▲ 20.5

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

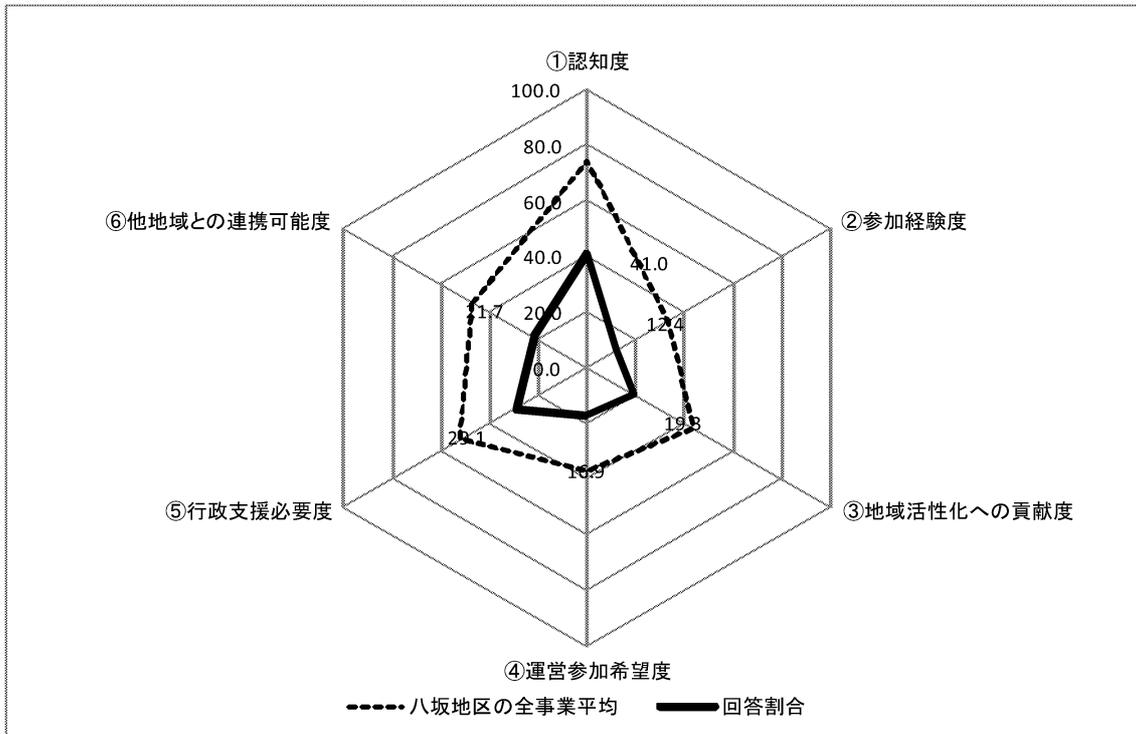
事業カルテより、美麻地区における結婚対策事業の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 八坂地区の独自事業であるため①認知度が 50 ポイント以上平均を下回っており、認知度の低さからその他の項目についても平均を下回っている。
- ・ 若者誘致の一つの施策として、八坂地区・美麻地区が一体となって取組み、事業の継続性を図っていくことも重要と考えられる。

(9) メンドシーノ交流活動（美麻地区独自活動）

美麻地区では昭和 55 年に旧美麻村と米国カリフォルニア州メンドシーノと国際姉妹村を締結して今年で 30 年目である。平成 4 年から隔年の相互派遣交流を行っており、今年、10 回目の訪問団を派遣している。

図表 43 八坂地区 事業カルテ



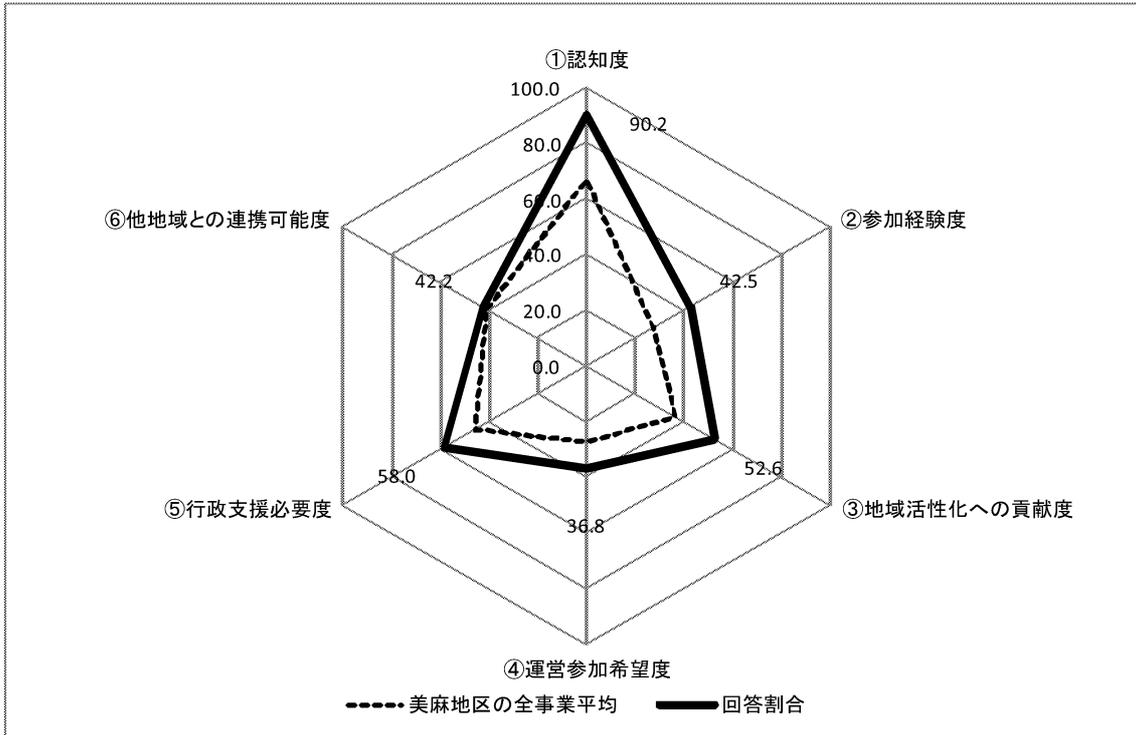
	メンドシーノ 交流事業	全事業平均	ポイント差
①認知度	41.0	74.2	▲ 33.1
②参加経験度	12.4	33.5	▲ 21.1
③地域活性化への貢献度	19.3	43.9	▲ 24.6
④運営参加希望度	16.9	37.4	▲ 20.4
⑤行政支援必要度	29.1	51.9	▲ 22.8
⑥他地域との連携可能度	21.7	46.6	▲ 24.9

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

事業カルテより、八坂地区におけるメンドシーノ交流事業の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 美麻地区の独自事業であるため①認知度が 30 ポイント以上平均を下回っており、認知度の低さからその他の項目についても平均を下回っている。
- ・ メンドシーノ交流事業は、小学生の海外交流だけでなく、大町地区の施設を活用した芸術活動の交流も検討されているので、今後の八坂地区の参加が期待される。

図表 44 美麻地区 事業カルテ



	メンドシーノ 交流事業	全事業平均	ポイント差
①認知度	90.2	66.5	23.8
②参加経験度	42.5	27.3	15.2
③地域活性化への貢献度	52.6	37.0	15.6
④運営参加希望度	36.8	27.4	9.4
⑤行政支援必要度	58.0	45.3	12.8
⑥他地域との連携可能度	42.2	40.7	1.6

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

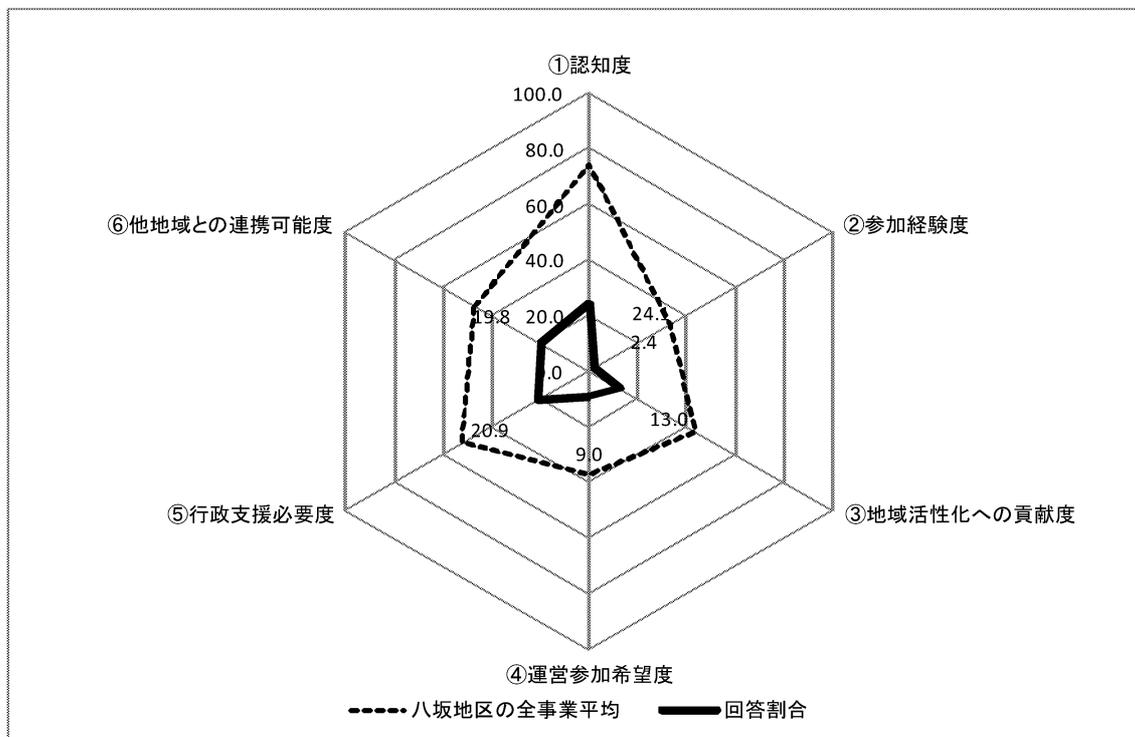
事業カルテより、美麻地区におけるメンドシーノ交流事業の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 美麻地区では全項目について全事業の平均を上回っており、特に①認知度は 20 ポイント以上、②参加経験度、③地域活性化への貢献度は 15 ポイント以上平均を上回っている。
- ・ 美麻地区独自の取り組みとして歴史のある事業であるため認知度、参加経験度が高く、また訪問団の受入には子どもに限らず住民全体が参加するため、地域活性化への貢献度が高く評価されていると考えられる。
- ・ 他地域との連携可能性の評価が低い、大町・八坂地区等とイベントを通じて国際交流が広がりつつあることが広く認識されれば、この評価も変わっていくものと思われる。

(10) 市民農園運営（美麻地区独自事業）

美麻地区にはおおしお市民農園とふたえ市民農園があり、おおしお市民農園はシルバー人材センターに、ふたえ市民農園は美麻地域づくり会議に管理を委託している。

図表 45 八坂地区 事業カルテ



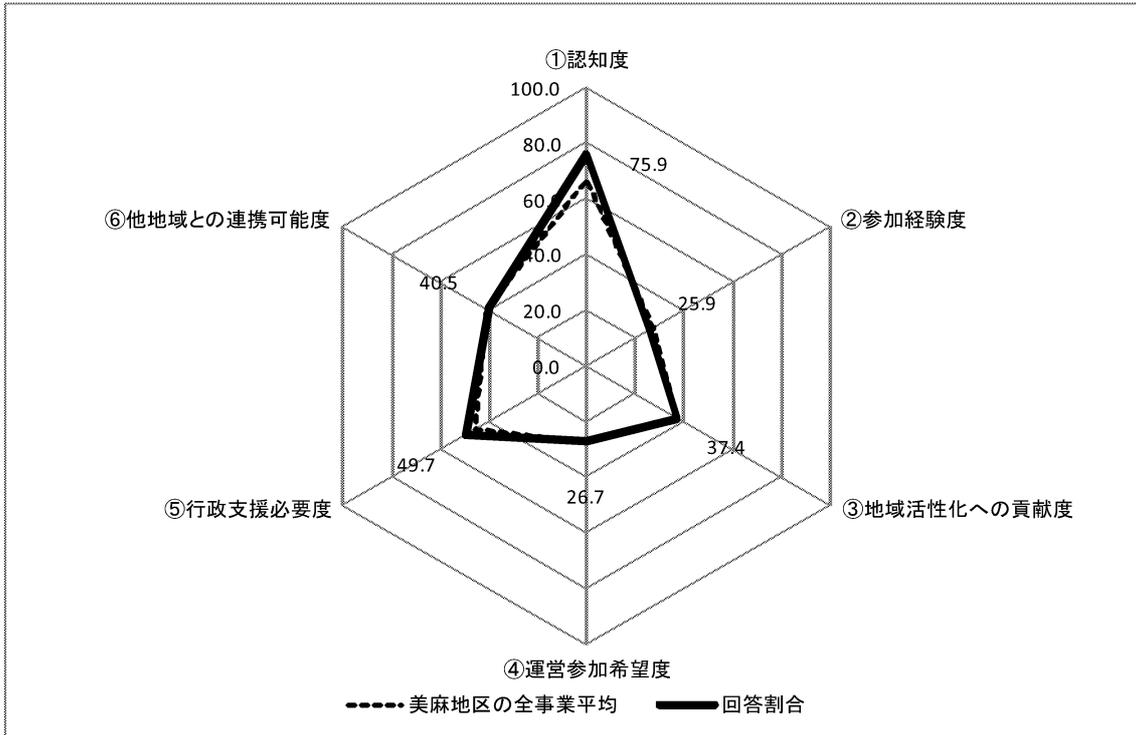
	市民農園 運営	全事業平均	ポイント差
①認知度	24.1	74.2	▲ 50.1
②参加経験度	2.4	33.5	▲ 31.1
③地域活性化への貢献度	13.0	43.9	▲ 31.0
④運営参加希望度	9.0	37.4	▲ 28.4
⑤行政支援必要度	20.9	51.9	▲ 31.0
⑥他地域との連携可能性	19.8	46.6	▲ 26.7

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

事業カルテより、八坂地区における市民農園運営の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 美麻地区の独自事業であるため①認知度が 50 ポイント以上平均を下回っており、認知度の低さからその他の項目についても平均を下回っている。
- ・ 八坂地区には市民農園はないが、空き家バンク制度の導入検討において、市民農園事業の可能性についても検討の余地があると考えられる。

図表 46 美麻地区 事業カルテ



	市民農園 運営	全事業平均	ポイント差
①認知度	75.9	66.5	9.4
②参加経験度	25.9	27.3	▲ 1.4
③地域活性化への貢献度	37.4	37.0	0.4
④運営参加希望度	26.7	27.4	▲ 0.7
⑤行政支援必要度	49.7	45.3	4.5
⑥他地域との連携可能度	40.5	40.7	▲ 0.1

※最もポイント差が大きい評価軸に網がけしている。

事業カルテより、美麻地区における市民農園運営の特徴をまとめると次のことがわかる。

- ・ 美麻地区では全項目について、概ね平均的な評価がなされていることがわかる。
- ・ 市民農園は地区外の居住者を対象とした事業であるため、ある程度認知度がある一方でその他の項目についての評価は高くないが、今後市民農園を拠点とした交流活動等を展開していくことで、大きく評価が変わることが期待される。
- ・ 地域活性化への貢献度はほぼ平均並であり、この市民農園事業に期待する地域貢献を明らかにすることにより、今後の行政支援を検討していく必要があると考えられる。

(11) 総整理

10 事業について、八坂地区、美麻地区ごとに6つの評価項目のポイント一覧は次の通りである（最大値・最小値に網がけをした）。

図表 47 八坂地区 一覧

事業名	認知度	参加経験度	地域活性化への貢献度	運営参加希望度	行政支援必要度	他地域との連携可能度
山村留学	88.6	42.6	59.0	48.7	68.8	57.4
そば祭り	96.6	56.1	55.0	42.1	51.6	56.6
棚田	68.0	17.2	33.6	33.9	57.1	50.8
花いっぱい	89.7	65.6	65.9	61.4	61.9	50.3
体験活動	86.8	33.3	43.4	35.2	46.8	49.7
伝統芸能	86.2	25.9	50.8	33.9	51.9	49.7
道路愛護	85.4	67.7	51.6	60.8	73.3	54.8
結婚対策	75.1	11.9	47.6	32.0	57.7	54.8
メンドシーノ	41.0	12.4	19.3	16.9	29.1	21.7
市民農園	24.1	2.4	13.0	9.0	20.9	19.8

図表 48 美麻地区 一覧

事業名	認知度	参加経験度	地域活性化への貢献度	運営参加希望度	行政支援必要度	他地域との連携可能度
山村留学	85.9	30.5	44.0	25.6	57.5	47.4
そば祭り	94.0	49.1	48.6	34.2	43.4	51.1
棚田	71.3	20.1	36.2	29.0	53.2	51.7
花いっぱい	84.8	62.9	51.7	53.4	64.1	52.0
体験活動	53.7	8.6	22.1	17.2	34.2	35.6
伝統芸能	83.3	24.4	50.6	31.0	52.3	47.7
道路愛護	15.5	6.3	14.1	10.1	21.6	18.1
結婚対策	10.1	2.6	12.4	9.8	18.7	20.1
メンドシーノ	90.2	42.5	52.6	36.8	58.0	42.2
市民農園	75.9	25.9	37.4	26.7	49.7	40.5

6 事業評価

(1) 評価軸の設定

第3節、第4節では八坂地区、美麻地区で実施されている10事業について、①認知度をはじめとする6つの指標で整理した。本節では、これらの指標を組み合わせ、「応援度」「発展度」という新しい2つの指標を作成し、10事業に対する地域住民の評価を比較する。

①応援度

運営参加希望度と行政支援必要度を組み合わせ、「応援度」という指標を設定する。応援度は次の計算式で算出する。

応援度

$$= (\text{運営参加希望} + \text{行政支援必要性}) \text{ 回答数} \div \text{各地区の回答総数} \times 100$$

八坂地区の山村留学を例にとると、応援度は次のように導かれる。

応援度

$$= \{184 (\text{運営参加希望}) + 260 (\text{行政支援必要性})\} \div 378 \times 100 = 117.5$$

これは、住民自ら、あるいは行政による事業支援が望ましいと考えている住民の割合を表すものであり、地域住民がどの程度当該事業を応援したいと考えているか、読み取ることができる指標である。

②発展度

地域活性化への貢献度と他地域との連携可能性を組み合わせ、「発展度」という指標を設定する。発展度は次の計算式で算出する。

発展度

$$= (\text{地域活性化への貢献度} + \text{他地域との連携可能性}) \text{ 回答数} \div \text{各地域の回答総数} \times 100$$

八坂地区の山村留学を例にとると、発展度は次のように導かれる。

発展度

$$= \{223 (\text{地域活性化への貢献度}) + 217 (\text{他地域との連携可能性})\} \div 378 \times 100 = 116.4$$

これは、当該事業が地域内の活性化につながっており、他地域へも展開していくことが望ましいと考えている住民の割合を表すものであり、地域住民がどの程度当該事業に対して今後の発展を期待しているか、読み取ることができる指標である。

(2) 応援度・発展度による事業評価

①10 事業の応援度・発展度

前項で定義した応援度・発展度を八坂地区、美麻地区別に算出したものが次の図表である（最大値・最小値に網がけをした）。

図表 49 発展度・応援度による事業評価一覧表(得点評価)

事業名	八坂地区		美麻地区	
	応援度	発展度	応援度	発展度
山村留学	117.5	116.4	83.0	91.4
そば祭り	93.7	111.6	77.6	99.7
棚田	91.0	84.4	82.2	87.9
花いっぱい	123.3	116.1	117.5	103.7
体験活動	82.0	93.1	51.4	57.8
伝統芸能	85.7	100.5	83.3	98.3
道路愛護	134.1	106.3	31.6	32.2
結婚対策	89.7	102.4	28.4	32.5
メンドシーノ	46.0	41.0	94.8	94.8
市民農園	29.9	32.8	76.4	77.9

八坂地区の中で応援度の最大値は「道路愛護」の134.1ポイント、最小値は「市民農園」の29.9ポイントであり、発展度の最大値は「山村留学」の116.4ポイント、最小値は「市民農園」の32.8ポイントである。

美麻地区の中で「花いっぱい活動」の117.5ポイント、最小値は「結婚対策」の28.4ポイントであり、発展度の最大値は「花いっぱい事業」の103.7ポイント、最小値は「道路愛護」の32.2ポイントである。

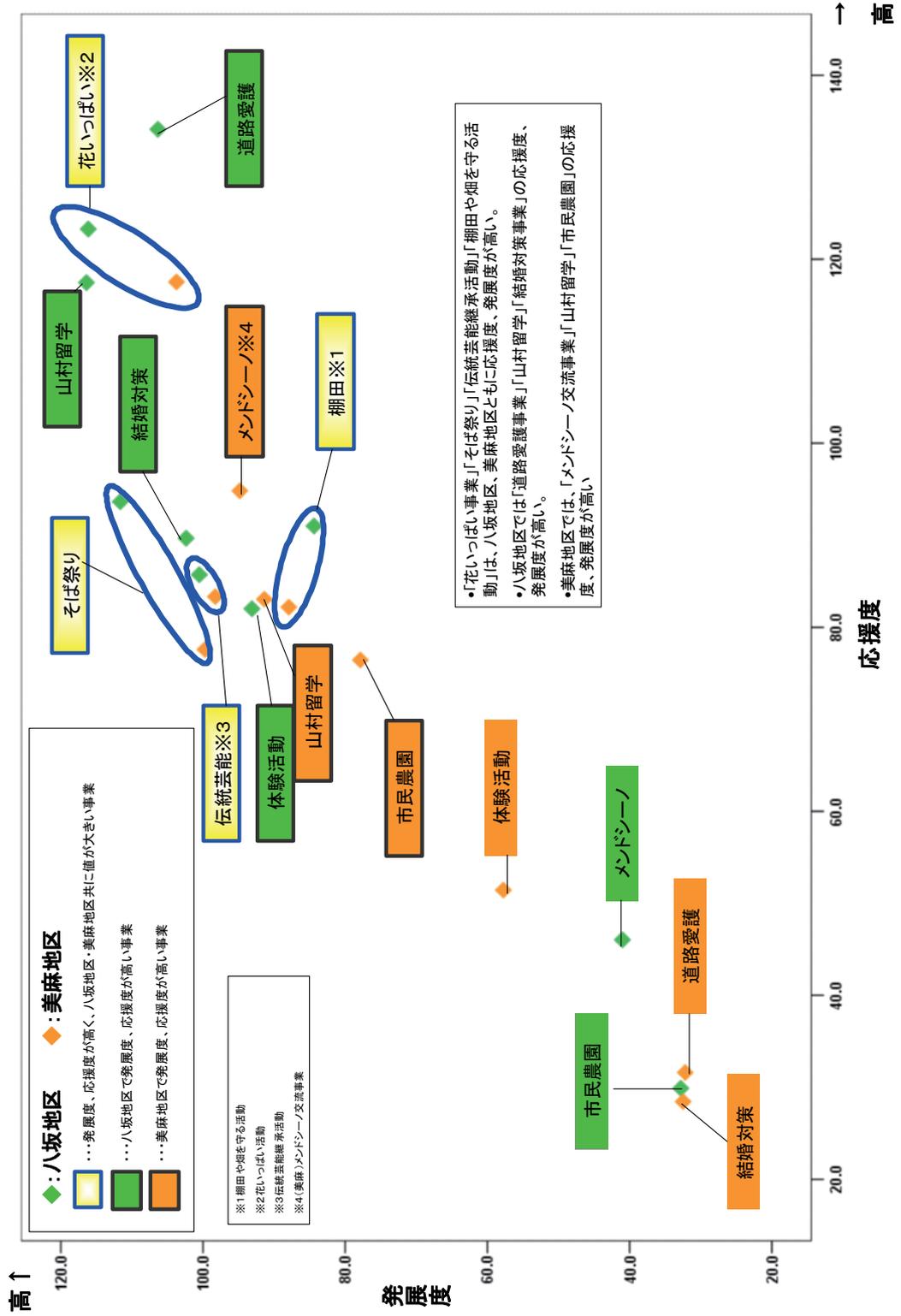
また、より各事業のポジションを明確化するため、応援度、発展度のそれぞれについて最大値から最小値までの間を10段階に均等に分けて1～10のランクを設定し、各事業の応援度、発展度をランク分けした。その結果が次の図表である。

図表 50 発展度・応援度による事業評価一覧表(ランク評価)

事業名	八坂地区		美麻地区	
	応援度ランク	発展度ランク	応援度ランク	発展度ランク
山村留学	9	10	6	8
そば祭り	7	10	5	9
棚田	6	7	6	7
花いっぱい	9	10	9	9
体験活動	6	8	3	4
伝統芸能	6	9	6	8
道路愛護	10	9	1	1
結婚対策	6	9	1	1
メンドシーノ	2	2	7	8
市民農園	1	1	5	6

②事業評価図

事業ポジショニング(得点評価)



7 自由意見の整理

住民意識調査において、①困っていること、②行政に力を入れて欲しい施策、③地域づくりに関する意見、④八坂地区の地域づくり事業に関する意見、⑤美麻地区の地域づくり事業に関する意見、⑥過疎対策事業に関する意見の5項目について回答を得た。以下に一覧（一部抜粋）を掲載する。

(1) 八坂地区

①困っていること

困っていることとして、少子高齢化や交通の便が悪いといった意見が寄せられている。

- ・通学路に歩道がない
- ・高齢者が大半で数年先の見当がつかない
- ・嫁不足、少子高齢地域
- ・人間関係が面白くない
- ・山林の整備
- ・合併後、水道代が高い
- ・道路への除草剤の大量散布
- ・違法建築
- ・下水道工事
- ・プラスチックの焼却
- ・他人の土地境界の標識変更
- ・同世代が少ない
- ・バスの午後の便がない
- ・交通の便が悪い
- ・若い人たちが（他の地域に）家を建て出て行ってしまう
- ・市の職員が多いように思う
- ・車がないと不便
- ・住民の高齢化
- ・子供がいなくなること
- ・若者が少ない
- ・将来的な人口減少
- ・人口減による小中・保育園の存続
- ・家がせまい
- ・収入が少ない
- ・道の便が悪いこと
- ・市街地への道路が狭い
- ・乳児・幼児が安心して遊べる所（が少ない）

②行政に力を入れて欲しい施策

行政に力を入れて欲しい施策としては、若者の定住対策、子育て環境に対する要望などが寄せられている。

- ・人口減少対策
- ・公務員の倫理教育と違法行為者の処罰
- ・公務員の人事・採用の透明化（情実人事の廃止と対象者の解雇）
- ・公務員への支払給与の半減（30億円／年）など
- ・議員数の30%減
- ・現在の税構成（6層）の単純化、せいぜい3層まで
- ・財政のムダの排除
- ・減税
- ・若者の定住対策
- ・定住者への支援
- ・今後とも診療所を維持してほしい
- ・（長野市のような）ハッピーサービスがあればよい
- ・合併による（子どもの）部活の送迎のための負担など
- ・余計な建物を造るな
- ・八坂保育園がなくなるのではないかと不安、保育園を残してほしい
- ・県道相川下改良の早期完成
- ・除雪、消雪剤をていねいにしてほしい
- ・サル、シカ、イノシシ等による災害の防止
- ・子どもや若者が将来八坂に住もうと思える魅力づくり
- ・水洗工事に対する補助
- ・下水道料金の引下げ

③地域づくりに関する意見

地域づくりに関して、「移動の利便性向上」「保育園・学校の維持」といった生活インフラの確保や、「若者の移住・定住」「空き家の活用」「八坂の魅力の発信」といった今後の賑わいづくりに向けた意見が寄せられている。

■学校閉鎖の防止策

- ・八坂に住んでもらう人をふやして、学校閉鎖がないようにお願いします

■若者の移住策

- ・定住促進事業により、若者（生産人口）の移住を重点に取りくむこと
- ・若い人が家に帰って来られるだけの就業の場づくり、住宅の確保が出来るような地域づくり

■日曜祝日のバスなど、バス運行の強化

- ・バスの運行について日曜日又は祝日にも利用できるようにしてほしい
- ・バスは早朝3便ありますが、午後は1便もなく不便を感じます。出来たら午後2時～3時頃に1回でも通してもらえたと皆ともども話合っています

■獣による被害の防止策

- ・住宅地近くの木を切り、森林との境をつける事で獣の被害を少なくする

■訪問者への八坂のアピール

- ・山村留学や体験活動に来る人も多いので八坂の魅力を伝えたい

■土産物の開発

- ・八坂ならではのお土産の開発や八坂の自然を楽しめるオートキャンプ場など都会にはないものをアピールできればいい

■子供の居場所（遊び場所）づくり

- ・子どもたちの遊ぶ場所が限られているため、子どもの居場所づくりが重要である

■八坂の魅力の発信

- ・八坂の良さを知ってもらったり、地域の活性化を図るために外部地域との交流を深めるのも大切と思う

■人材育成（教育）の場としての活用

- ・農業、林業の振興は勿論のことですが人材（人間）育成の場にしたらどうでしょうか。子供の頃に自然の中で育つ事は大事なことだと思っています。

■世代の役割に応じたまちづくり

- ・老人に何が出来るか、中年に何が出来るか、若者に何が出来るか、年代毎の想いを持ち寄り、良い物を少しずつでも進めること。県内・県外との交流することも大事と思う

■山村留学を活用したまちづくり

- ・山村留学を多いに活用し、八坂に移住を求めてくる人達への支援等を考えてもらいたい。荒廃農地の利用等の支援をし、八坂への移住をピーアールする事が必要である

■住民税半額政策

- ・住民税を半額にして人を呼ぶ。そのためには公務員、議員などへの給与をまず1/2にする

■減農薬無農薬栽培の推進

- ・新農薬（ネオニコチノイド系）の使用禁止と従来農薬の使用量半減をうたえる農家づく

り、農薬の空中散布の禁止、減農薬無農薬栽培者への配慮

■安全野菜のブランド化

- ・ 地元の安全野菜を基本とした料理提供、安全野菜のブランド化と消費者・生産者の直結、農業用水の安全化（魚、メダカ、ホタルが住めるレベル）

■生活できる農林業の検討

- ・ 農林業である程度の生活が出来る様な農林業のあり方

■公民館行事などの負担軽減

- ・ 地域も大事ですが、日々の生活に必死です。地域の事は全て、役員がやる様になるので、公民館行事が負担に思うことがある
- ・ 地区や集落、学校等毎週の様に行事や活動があり、せっかくの休みが自分や家族のために過せない。まとめられるものはまとめてもらえたら助かる

■高校生の通学手段の確保

- ・ 高校生が、親の送迎がなくても部活などの高校生活が送れるための足の確保
- ・ 夕方の忙しい時間に（子どもを）駅まで迎えに行く際、ガラガラのふれあいバスとすれ違えます。大町から電車通学している高校生にも配慮した時刻表の見直しを切望します

■保育所・小中学校・診療所の維持

- ・ 保育所、小・中学校、診療所など公的施設が廃止されないこと
- ・ 子供が少なくても小学校、保育所、中学校の存続をお願いします。人数が減ったからと一つにまとめるのではなく、地域で育ち学べるよう少人数でも続けて下さい

■子供たちが夢の持てる職場づくり

- ・ ここで育った子供たちに、夢のもてる職場がある事が一番大切

■現住民の満足度向上策の実施

- ・ 他の地域からの移住促進より、今、八坂に住んでいる住民をもっと大切にする事が大切。今住んでいる住民が、住みよくなれば、他地域からの移住も増えると思う。

■空き家対策の早期実施

- ・ 空き家は景観や防犯上、良くないので早急に対策を考えてほしい。例えば、子供を持つ或いは、将来子供を持つ予定の若い人に空き家や宅地を優先的に割り当てる
- ・ 行政が間に入って、家主に積極的に働きかけてほしい。県と国の協力を得、集落の機能を保ち、自然の中で、暮らしたい、子育てしたい人たちを応援してほしい。

■空き家を活用した移住促進事業

- ・ 空き家を活用した、都市からの移住希望者が暮らしを体験するための施設及びソフト事業の整備
- ・ この地域は子育てするには好条件だと思いますが、移住については既存の市営住宅は老朽化したり、子育てをするには狭かったりすると思います

■その他

- ・ 野菜作り等、自分が今迄経験してきた事を、次世代に伝えられればいいなと思います。
- ・ 人は独りでは生きてはいかれない。集会、お茶会、だべり会、老後が楽しみになるような行事が今もいろいろあるようだが、続けていってほしい
- ・ 地域づくりで大切なのは、個人の意識とコミュニケーションではないかと思います。みんなが何気なく声をかけあったりしている事で、その日、1日の元気につながっている

- ・ 八坂はなにもない、ふつうの生活を送ることができるいい所だと思います。あるがまま、ないがまま、自然と共存していくすなおなところが好きです
- ・ 定住促進より、地域から出て行こうと思わせない対策に目を向けるほうが必要。若い人たちに、「何故出て行こうと思うのか？」と問いかけてみたらどうでしょう
- ・ 外からの意見も柔軟に聞く耳を持って、他の県や市・町等で行っていることの後追いでなく、この地区にしかないものを見つけ、育て、将来を見越して行動する必要がある
- ・ 今までこの地域をつかって頑張ってきた年寄りたちが、この地域に残ったままで、穏やかな気持ちでたびだつて行けるよう厚い見守りをしてやって欲しい

④八坂地区の地域づくり事業に関する意見

八坂地区の地域づくり事業について、山村留学や花いっぱい活動、体験活動、伝統芸能継承事業、結婚対策事業、道路愛護事業に対する意見が多く寄せられている。

■山村留学

- ・ 山村留学はがんばって続けて欲しいです。学校に山村留学生在が居て楽しいです
- ・ 山村留学の制度自体は良いと思うが、八坂に住んでいる子供の負担も考えてほしい
- ・ 山村留学OBの中には八坂地区への移住を望んでいる人も皆無ではないと思います。地域づくり事業としてもOBに参加してもらえる事業を行ってみてはどうでしょうか

■花いっぱい活動

- ・ 八坂も花が増えてとても美しくなったと思います
- ・ 事業は景観を良くしていることで、大変効果が上がっていると思うが、景観の美しさは全国どこでも取り組んでいるので、更に特色のある景観作りをしてはどうか
- ・ お年寄りと子供のふれあいの場としてとても素晴らしいと思いますが、送迎するなり、時間をふれあいバスに合わせるなり工夫すればもっと大勢の方が参加できる

■体験活動

- ・ 体験活動は、地域のみでなく、信州大学など学校や他の地域の人々に情報提供し、広い範囲から来てもらうようにすると八坂のことも知ってもらえると思う
- ・ おやきや体験館のそば打ちの後継者を育成した方が良いと思います。子供達が小さいうちからおやき・そば・米・野菜のおいしさを教えていく事は大切だと思います

■伝統芸能継承事業

- ・ 伝統芸能継承や体験活動、名集落のお祭りなど、八坂に昔からある事が次世代へ継承されているので、とても良い事だと思います

■結婚対策事業

- ・ 子もちの離婚者との出会いに重点をおく
- ・ 結婚対策事業をもっとふやしてほしい
- ・ 結婚対策で他の地域との交流はできなかったのか。名古屋地区だけなのは残念

■道路愛護事業

- ・ 道路愛護事業は、八坂のみんなの自分たちが住む地区をきれいにしようと思う気持ちはすばらしいのでしっかりつづけていってほしいと思う
- ・ 道路事業は義務と思ってきた。高齢化や戸数がさらに減少すれば負担が大きい
- ・ 草刈機、スコップを使用するので、高齢のため今後参加出来るか不安です。他の方に負

担がかる様になるので困っています。行政の支援を頂きたい

■その他

- ・ 新町行きのバスを大町行きと同じように直通にはできませんか。朝も早い時間帯で思うように利用できないのです。途中の30分待ちは大変です
- ・ 低所得化、未婚化が進んでしまい、先の見通しが立たないため、不安で慎重になってしまっている。ここなら心配ないという、生活、モデルができれば良いが
- ・ 若者の、住みよい土地にしてほしい
- ・ 若い人、年老の人達の集いばかりでなく、中間の年の人達の集いも何か考えてほしい
- ・ 貧しくても心豊かに暮らすことを考えては。それは民度を上げること
- ・ 子供達にもっと事業に参加してもらえるように八坂の魅力を知らせるための企画を考える
- ・ 相川道路の少しでも早い完成を願っている
- ・ 人創りをしっかり検討する必要があるのではないか
- ・ 組織はできたが血が通う運営が必要。今のままでは不要
- ・ 自然いっぱいでもきれいな地区だから花いっぱいにならなくても道路や山の手入れをすればいいと思う。そちらにお金をかけてもらいたい
- ・ 事業をすすめていただき住み易くなってありがたい。保育所など特色ある保育をして他地区から通える魅力のあるものにする
- ・ この地にくれば充実した子育てができる、豊かな暮らしができると思われるような事業。結婚対策、山村留学など、今一度、そのあり方を考えてみてはと思う
- ・ ひとり暮らしの老人が増えている。地域とのつながりがなくなってしまうので、負担のないように何らかの活動・行事に参加できるよう配慮していただきたい
- ・ つけ焼刃のような思いつきを、焦って色々やるより、少し静かに事の成り行きを見ていてもいいのじゃないか
- ・ どれも大事な活動だと思いますが、人が少なくなって活発な活動が難しくなっている気がします。みんな仕事があつたり、役がいろいろあつて忙しすぎます
- ・ 知らなかった事業に対しては“わからない”という意見しか答えられません。まず、どんな活動が行なわれているか、地区の皆さんが知る必要があると思います

⑤美麻地区の地域づくり事業に関する意見

美麻地区の地域づくり事業については、メンドシーノ交流事業に対する意見が寄せられている。

■メンドシーノ交流事業

- ・ メンドシーノ交流事業は美麻だけではなく、是非、他の地区にも広げてほしい
- ・ メンドシーノ交流事業はうらやましいと思います
- ・ メンドシーノ交流事業の成果を公表して欲しい

⑥過疎対策事業に関する意見

過疎対策事業に対しては、道路整備や防災対策等の生活インフラに関わる意見とともに、観光施設の利活用に関する意見が多く寄せられている。

- ・ 昔、八坂村の頃より I ターン等で来ている人達に、今住んでいる所を払いさげて永住してもらえるようにしたらどうか
- ・ (観光施設には) 八坂でしか味わえない、また来たくなるような料理でおもてなしをしてほしい
- ・ 歩道を整備し直してほしい。大平地区から学校にかけて道が狭く、子どもたちも危険
- ・ 観光施設に対しての経営意識が少ない。職員はじめ関係者の危機感が少ない
- ・ 事業費を使ったから仕事をしたと思わないで欲しい。ケーブルテレビは要りません。パソコン等は所有していません。有線放送は必要
- ・ 今後の老人対策の方が問題であると思う
- ・ 費用(人件費を含めて)と効果をみると大半は不要であると思う
- ・ 観光施設などに公務員を入れるのではなく、民間にまかせた方がよい
- ・ バスの待合所は作るだけじゃなく、その後の清掃等にも気を配った方がいいと思う
- ・ 防災無線が整備されて非常にありがたいが、集落内で放送が聞こえない所が多いので、放送設備の設置場所を替えたほうが良いと思う
- ・ 観光施設を利用して一日体験や農業体験等活用して、八坂に住みたくなる企画を考える
- ・ 市道整備については必要でないところをやっていると思われる場合がある
- ・ 八坂の道路整備は非常に悪い(特に中央地区)。ますます便利が悪くなる
- ・ 明日香荘等のソバ、おやきに関しては、以前のように地元の主婦の職場としたり、地元の味が出せるようにする等、考える余地があると思う
- ・ コンクリートの建物は山の中、自然にマッチしない。診療所と(地域の人があつまって)調理できる場所を別にすること
- ・ さざなみは、地域の皆さんが集うため必要な場所。観光ではない、違う発想が必要
- ・ 今住んでいる住民が、住みやすくなれば、外から人が自然に入ってくると思う。もっと、今住んでいる住民を大切に、外に出ていかないようにすることが大切
- ・ あすかの杜の皆さんには一生懸命がんばっていらっしやいます。経営の方も大変と思います。今後の方向が心配されますが、創った以上は守らなければいけないと思います
- ・ ケーブルテレビの導入は早すぎたと思う。料金が高すぎるし、あまり見ない
- ・ 空き家の整備を進めてほしい。八坂地域をすたれさせないためにも、ぜひとも保育園、学校は少人数になっても存続させてほしい
- ・ 施設や機材などの充実も必要ですが、バス・ケーブルTV・明日香荘・診療所などは、ソフト面も今以上に充実させて欲しい
- ・ 50万円以上の事業をする時は、住民投票で可否の意志を住民に問うべき
- ・ あるがままの魅力を真正面から示ることが重要である
- ・ 明日香荘等の観光施設は、地元の人を大切にすることによって活性化すると思います

(2) 美麻地区

①困っていること

困っていることとして、地域の活気がないことや交通の便が悪いといった意見が寄せられている。

- ・梅雨の時期のカビのひどさ
- ・車の騒音、スピード違反
- ・ラジコン・ヘリコプター等による農薬撒布が危険
- ・ゴミの不法投棄が増えている
- ・神社の境内で、ゴミの野焼きをしている
- ・色々な（地域で果たすべき）役が多すぎる
- ・子どもの遊ぶ場所が遠い
- ・除雪をすると足腰が痛くなる
- ・年金暮らしで生活が苦しい
- ・オリンピック道路のトラックの音
- ・イノシシの被災が有って物を作ることができない
- ・騒音（トラック、車）が大きい
- ・地域に活気がない
- ・ネズミ、モグラの被害が多い
- ・NHK第1放送の受信状態が悪い
- ・近くにガソリンスタンドがない
- ・ラジオの受信が良くない
- ・郵便局や農協から3時間ぐらい待たないと車（公共交通）がない
- ・足腰が悪いので、診療所へ行く朝、集落まで来てもらいたい
- ・周りが暗い、街灯が少ない

②行政に力を入れて欲しい施策

行政に力を入れて欲しい施策としては、若者の定住対策、生活環境に対する要望などが寄せられている。

- ・米づくり、無農薬田んぼ教室をやってほしい
- ・零細・小規模牧場の支援
- ・河川敷など、犬を放して散歩できるスペースの設置
- ・少人数の自治会の統合
- ・定住者を増すこと
- ・大野田城址の整備と情報公示
- ・芸術文化に対する理解促進。生きていくのに一番大切なこと事であり、人と人とのコミュニケーションを促進し地域が活気づくから
- ・自治会への助成
- ・下水道設備
- ・近所の住民の高齢化が進展して心配
- ・ネズミ、モグラの駆除
- ・高齢者対策、特に1人住いの家庭等
- ・福祉・医療、食料マーケット、飲食、レジャー施設、公園など複合施設の設置
- ・美麻小・中学校が30年以前に合併し南北が1本化して村はずれの集落はおいて行かれそう。村のすみずみまで目を配ってほしい
- ・大人の教育、常識を守る
- ・消防団活動に対する理解を広める事業
- ・補助金の支払いがおそい

③地域づくりに関する意見

地域づくりに関して、「移動の利便性向上」「保育園・学校の維持」といった生活インフラの確保や、「若者の移住・定住」「空き家の活用」「美麻の魅力の発信」といった今後の賑わいづくりに向けた意見が寄せられている。

■住民自治・協働のしくみの再考

- ・自治会、地区、PTA、神社など各種団体の役員が苦痛で、転出するケースがあることが言われて久しい。今、もう一度、住民自治のしくみを考えなければならない時期
- ・協働という名目で、昔以上に忙しくなっているような気がする。もっとゆとりが有る生活をしたい。自治会の役を少なくするべき

■美麻市

- ・新しく「美麻市」というものを作り、はじめに大きくPRしたのに全く活かされていない。せつくなのでもっと楽しく活気あるイベントにした方が絶対よいと思う

■移住者不要、移住希望者の審査の必要性

- ・これ以上、移住者は必要ありません。結局一代かぎり地域を離れる人が多く、10～20年位しか居住しないのが実情です。また、車の騒音が多くきかれるようになった
- ・一定の定住資格や審査が必要ではないか。単に人口が増加するだけで、都会から来た人の中には、地域と一切交流しない人が多い。この様なことのない様にする方が必要

■豊かな生態系を活かした活動

- ・野鳥の種類が豊富、住宅地付近できのこが見つかる等、生態系の豊かさは日本で唯一の土地柄であるので、トレッキングルートの開発や、登山道の保全が有効

■地域のコミュニケーションの活性化に資する活動

- ・町を一周する散歩道を設け、自動車を外し、ゴミ箱やリサイクル施設、お年寄りの為のベンチや水飲み場の整備、将来的に電動エコバイクの貸し出しなどを提供
- ・高齢者のためのみならず、若者から中高年までが楽しめるような、スポットがあればいいと思います

■地区文化祭の発展

- ・定期的に、「美遊」や「ふれあいセンター」を利用して、音楽家を招いてのコンサートや料理教室を開いたり、芸術活動等にも力を注ぐべきです

■自家用栽培野菜や山野草の直売

- ・自家用として栽培している野菜のうち、余分なものを直売所に（安価に）出して頂く。
- ・草ぼうぼうの畑やたんぼを利用してどこにも行われていないような山野草の栽培、山菜や薬草などを作ったらどうでしょうか。又それが売れるようなルートを作ることが大切

■生活できる農業の検討

- ・農家が高齢化して農業者が減り、農地が荒廃して行く。もっと若い人達に農業でも高収入がえられる様にして行くべきだと思う

■子供の維持、子育て支援

- ・美麻は小中が一緒でいいと思うし、保育園から中学までが一つなのでなくしたくない。
- ・豊かな自然の中で子育てができる事をPRし、もっと子育て世代を増せば人口も増えると思う。親の働く場所、住む場所の確保等、トータルな方策が必要

■高齢者支援事業

- ・ 高齢者が安心して生活を送ることのできるサービスがほしい。介護を必要とする人が利用できるサービスの工夫、地域の人と関わりをもてる場がたくさんほしい
- ・ 老人施設の建設ニーズがあるはず。施設が出来れば若い人の雇用が増える。食事は地産地消とし、医療・福祉・買い物・食事・レジャーなどの複合施設を建設する

■バス停留所の設置、交通の便の改善

- ・ バス停留所がほしい。降りたい所にバス停留所がないからいつも通りすぎてしまう。何より交通の便が悪いことが課題である。長野～大町間の整備が必要
- ・ 買い物をする所がなく、(食品など) 白馬や大町市内まで車で行かなくてははいけないのが本当に大変。今はまだ若いので車も運転できるがこの先が不安

■空き家情報のネット発信

- ・ どのような物件(土地や空き家)があるのか、インターネットなどを通してアピールしていくのはどうか

■自然を活かした観光施策

- ・ 自然を活かして、美麻トレイル(“自然の中を歩く”という1本の道)を作ってみてはどうか。民宿、交通、土産等々のネットワークを作り、総合的な運営が出来れば良い
- ・ 美しい自然を活かし、トレッキングや自然散策が出来る様に整え、施設や店をつくり、活性化する。こんなに自然にほたるが見れる美しい場所は他にはありません

■田舎ツーリズム、農業体験ツアー

- ・ 都会の人達に美麻の天然自然素材(こんにゃくやとうふ、そば打ち)を使った体験をできる様な活動が出来ないでしょうか。行政がかかわって行くことが必要と感じます
- ・ 安価な宿泊費(民宿程度+多少の管理費)等により、美麻の(里山の)良さを満喫してもらい農業体験ツアーを提供し、リピーターを増やす

■旧大町スキー場の有効活用

- ・ 旧大町スキー場の利用方法を再度検討して下さい。できれば子供、学生達が野外活動できる場として下さい

■新行地区の活性化策

- ・ 新行グラウンドに設置されているラグビー用のポールは安全か、倒れる危険はないか。このグラウンドから立山の景色が非常に良いので目障り(錆びて、見苦しい)

■都会への農産物の販売

- ・ 農産物を都会に持って行って美麻をアピールできる様にしたらよい。積極的な販売先の開拓と定期的に来る製品(ヤサイ、加工品等)の確保に重点をおかなくてはならない。

■自転車ロードレースの活性化

- ・ 自転車ロードレースは良い機会なので、沢山の人に出掛けて貰えるような楽しい企画があってもいい。参加選手も頑張れるような応援の方法も何か考えたいと思います

■里山の誇り

- ・ 美しい景観を保つようにする(新たに何かを作るのではなく)

■その他

- ・ 農林地の管理をしないのに、地権者は権利ばかりを主張しているように見える
- ・ 美麻で自営している会社の税を安くする等して誘致し会社を増やしてゆくといい

- ・ 遊休市有地等の有効利用を考え、年間を通して若者の就労を高める様な方策をたてる
- ・ 地域づくり委員会は役員だけで進めるのではなく、考え方を住民に知らせて決定し、実行するようにしなければいけない
- ・ 美麻地区活性化の為に発足したはずの地域づくり会議、委員会、両組織の連携の無さを強く感じます
- ・ 女性に対しての意識が非常に低い。女性の意見をもう少し取り入れて下さい
- ・ 過疎対策に妙案ない。社会、国のシステムを変えていくことが必要
- ・ 中国人が日本の水源のある山林、温泉を買いあさっているとの情報があります。条例の網をくぐって、外国人に所有されるような事態にならないよう、注意してほしいです
- ・ 税金の使いみち（事業の選択）に住民のチェック機能が働くことが大事

④美麻地区の地域づくり事業に関する意見

美麻地区の地域づくり事業について、特に市民農園運営、メンドシーノ交流事業、山村留学や花いっぱい活動、体験活動、そば祭りに対する意見が多く寄せられている。

■市民農園運営

- ・ 市民農園の運営事業は、美麻の地域づくりには欠かせられない事業だと思います
- ・ 市民農園の利用者は、美麻地域の為にはなっていない。美麻の住民として住民票を移し税金を払うべき。暇を持てあましている様な人達に税金を使うべきでない
- ・ 市民農園運営は利益を出す方法を考えるべきだと思います。税金を投入するばかりでは、お荷物行政です。規則を遵守出来ない人達を受入れているのでは運営とは云えない
- ・ 市民でもないのに、市民農園と言うのはどうしてですか
- ・ 市民農園ばかりではもったいない。都市部からは、もっと農業がやりたくて、空き家や農地をさがしている人が多いはず。もっと貸す、借りる等ができればいいのでは
- ・ 農家との交流を深めながら田舎暮らし体験をする奥深い事業である。その地に住む高齢者の生きがい対策にもつながる。定住人口を作るにはこの事業を長期続けることが大事
- ・ どの程度の人達が利用し、利用年数が守られているのか。状況によっては見直しが必要
- ・ 5年で交代していたら地域との交流もうまくいかず、根付くことが出来なくなります。5年という期間を定めるのであれば次の住みかなり住宅を提案するくらいの姿勢が必要
- ・ 管理状態等の情報がない。外部に対するサービスと地域に対するサービスを分けて、その必要性も含めて考えて実行すべきと思う
- ・ 農業愛好家を受け入れるだけでは無く、美麻地区、及び大町市の魅力を地域住民と共に体験・発信する農園にしてもらいたい
- ・ 多くの人に利用してもらうことが目的でつくられたと思うが、個人、団体等の別荘がわりに10年も使っている。内部での問題も出ている。規約を守らない人も多くいる
- ・ 管理は、(受託者が)それに打ちこんで生計を立てる人達が良いのでは

■メンドシーノ交流事業

- ・ メンドシーノ交流事業は、行政でお金を出すのではなく、参加する人が自己負担で行くべき。行った子供が何を美麻の子供に残したかなど、広報で報告して下さい
- ・ メンドシーノ交流事業に行くのが小5、小6では早すぎる。中学生位が良いと思う
- ・ メンドシーノ交流事業はすばらしい事と思う。市民農園に来て、美麻をすきになってもらいたい。空屋も多いので、出来ればそこに住んでもらって美麻の人になってほしい

■花いっぱい活動

- ・ サルビア・マリーゴールドなどが定番のようですが、オキナ草(できれば日本古来の)、ノコンギク、ワレモコウなど里山の風景に自然に馴染む野草も取り入れてみては

■山村留学

- ・ 山村留学はクラスの雰囲気が悪くなる。収益至上にならないように

■そば祭り

- ・ 美麻は、そばというイメージがあるが、食べられる店が少ない

■その他

- ・ 美しい自然が汚されてきたように思う。自分の山のみの整備では、以前の様な美しさが保てない。大町市も景観条例をだしてほしい

- ・ 各活動に対しての広報が不足している。マレット、ゲートボール、バレーボール、ソフト等も無くなっている。身近に気軽に交流できる場が必要だと考えます
- ・ 美麻地区だけで行おうとせず、他の地域と協力して行うことが大切で、地域づくりにつながっていくと思う
- ・ 地域づくり事業を進めていく上で大事なものは、楽しいひとときを持つ事だと思います。そのことが1人1人の気持ちをふり向かせる事につながります
- ・ 山の恵みをもっと活用できないか。私有地であることは知っていますが、秋のキノコ、栗、山菜等の楽しみを多くの方に知ってもらえる機会かと思えます
- ・ 地域づくり会議がねばり強く、積極的に活動していて、その成果に期待している。成果は一気に上るものではないので、参加する熱意を大切に、暖い目で見守ることが大切
- ・ 地域づくり会議の活動は一部の人達のもので地域全体の役に立っていないと思います
- ・ いろいろな事業をやっているようだが目に見えて効果及び成果があがっているようには思わない。もう少しだれでも気軽に参加できるようにしてもらいたい
- ・ 古くから住んでいる人達と新しく入って来た人達、支援している人達とががっちり手を組み、理解し合うことが一番大事。新規居住者が定住できる仕組みを求めたい
- ・ 近くに働く場所（企業）が無いことで、色々な事業にも参加する事ができない
- ・ 自転車レース等は非常に良い事業で知名度も上がります。継続して下さい
- ・ 新行グランド付近は写真を撮る人、絵を書く人が来ます。この人達を何かのPRに利用したら良い
- ・ 育成会組織を整えてほしい。子どもがいない家庭からもPTA会費を集めるのは疑問
- ・ 沢山の事業計画もすごいと思いますが参加する人々が少なくて大変だと思います。少し事業を減らしても良いかと思えます
- ・ どの事業も大切ですが、まずは、利益が無ければ継続は無理だと思います。また、経済的に地域に効果のある事を増やすべき
- ・ 移住者は、なかなか地域の人達との事業には入っていけない。特に女性への意識は良くない。どんな意見も公平に聞く耳をもってもらいたい

⑤八坂地区の地域づくり事業に関する意見

八坂地区の地域づくり事業について、結婚対策事業などに対する意見が寄せられている。

■結婚対策事業

- ・ 成婚した23組は八坂に残っているのか

■その他

- ・ 地区外からあえて八坂を訪ねることはほとんど無いので、年に一回でも、八坂をまるごと紹介するようなお祭りがあると良いと思います
- ・ 美麻から見ても、行きにくい、山の中というイメージがあるから幹線道路が必要

(3) 美麻地区（市民農園利用者）

①困っていること

困っていることとして、ゴミ処理やエアコンといった生活面に対する意見が寄せられている。

- ・農園暮らし（で生活が不便）
- ・ゴミ処理
- ・エアコンを付けられないのが大変（ふたえ市民農園 23 号）
- ・景気が悪いため、仕事が少ない

②行政に力を入れて欲しい施策

行政に力を入れて欲しい施策としては、イベントの開催や生活環境に対する要望などが寄せられている。

- ・自転車競争（ロードレース）等、若い人が美麻、八坂を知る機会となるイベントの開催
- ・行政に携わる皆さんの能力アップ
- ・資源ゴミの収集場所と回数をもっと増やして欲しい
- ・大都市圏に対する美麻のピーアールと交流

③地域づくりに関する意見

地域づくりに関して、市民農園や地域の資源を活かした交流事業など今後の賑わいづくりに向けた意見が寄せられている。

■ 新行地区の活性化策

- ・ 電線・電柱をとり外し、写真スポット等としてアルプスの眺めのビューポイントを売り込みPRする。また、テニスコートの活用により高校・大学のサークルへPRする

■ 若者の就労の場の確保

- ・ 若い人が年間を通して、働き、生活が安定出来る場を作る事が重要と思われれます。その場合、大町駅周辺を元気で活気に満ちた所にすべきと思います

■ 市民農園利用者との連携

- ・ 地区の2つの農園には100世帯余りの人が滞在しています。多くの方が美麻の土地・人が大好きな人達です。この人達を美麻地区の活性化に活用できないでしょうか
- ・ 市民農園利用者を活用する等して、首都圏・近畿圏・中部圏に足場を築き販路の確保と農業希望者の発掘を考えたら良い。観光や移住促進等の広報活動にも活用できる

■ 里山の誇り

- ・ 存在するということだけで十分な自然（里山）があることを、住んでいる住民がもっと自信をもって、明るくなれば良いと思います

■ 山村留学

- ・ 都会の小学生の山村留学（2週間～1ヶ月程度か）

■ 人材育成

- ・ 地域づくりの担い手、後継者の育成や獲得

④美麻地区の地域づくり事業に関する意見

美麻地区の地域づくり事業について、特に市民農園運営に対する意見が多く寄せられている。

■市民農園運営

- ・ 陶芸、絵画、そば会、花を育てる会など活発に活動しています。長い時間をかけて近隣の皆さんとも築き上げてきた人間関係です。少しでも長く居られるようご配慮願います
- ・ 市民農園の利用者に有料でサービスを提供する仕組みがあったら良い。耕作、収穫、雑草とり等、地域の労働を産み出す一方、入居者にとってもより利用しやすくなると思う
- ・ 近隣の市民農園（松本市、立科町等）との情報交換があっても良い。年に1回程度のゆるい情報交換で十分

■その他

- ・ 大町市行政の強力な広報活動と応援がないと小さなコミュニティの中だけの活動で終わるような危惧がある。他の都市からの応援を得られる施策を計り行動する事が必要
- ・ 地域の方々の地域を愛する気持ちを全面にだすような、何かしらのものが必要
- ・ 荒廃した農地を利用して、クラインガルテンを増設し、都市からの移住を促進したら

<小中学生向け地域づくりアンケート>

1 実施状況

(1) 実施概要

ソフト事業について検討するにあたり、八坂地区、美麻地区の将来を担う子ども達の意見を取り入れるため、大町市立八坂小学校及び八坂中学校に通う 77 人と、大町市立美麻小学校及び美麻中学校に通う 75 人に対して「小中学生向け地域づくりアンケート」を実施した。

(2) 回収状況

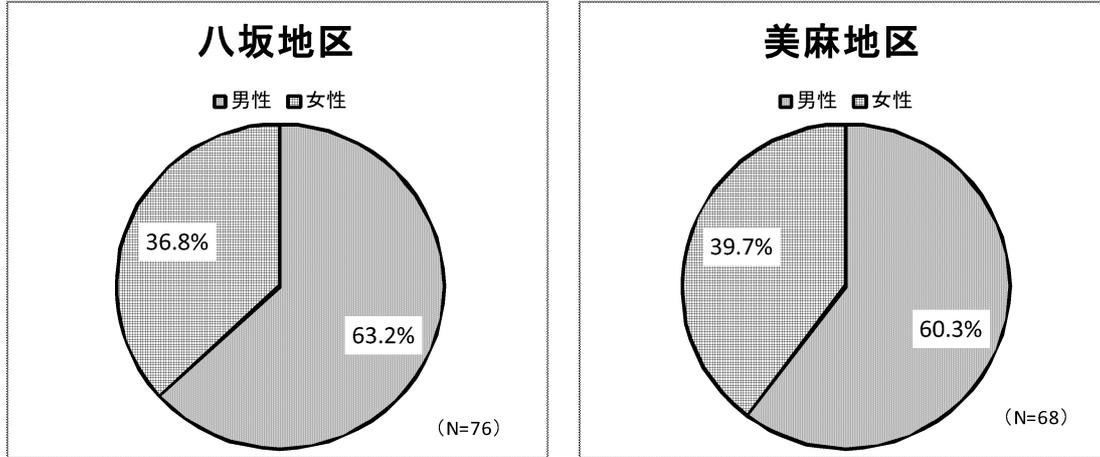
小中学生向け意識調査の対象者と回収状況をまとめたものが次図表である。全体の約 9 割から回答があった。

図表 51 回収状況

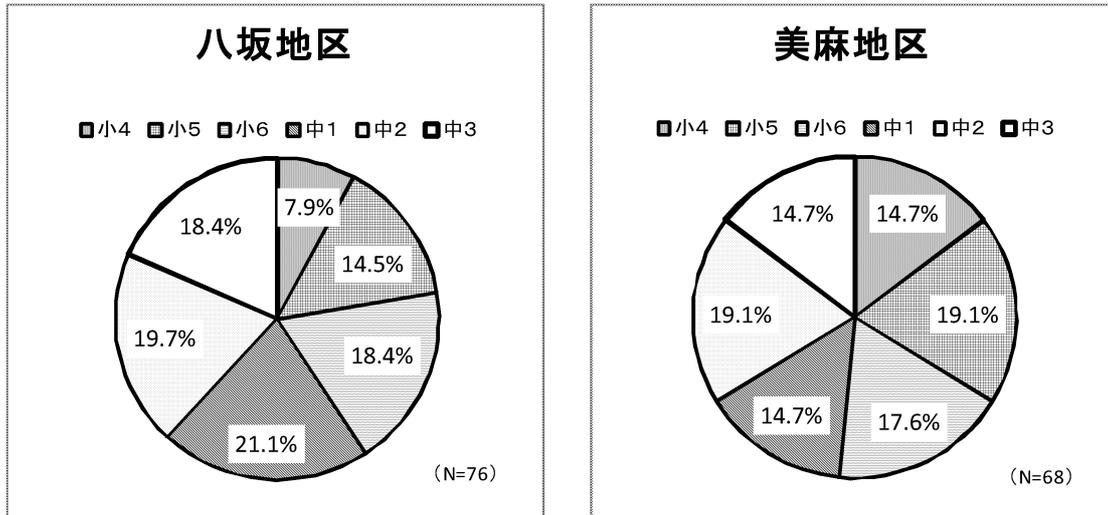
学年	八坂地区			美麻地区		
	対象者 (人)	回答者 (人)	回答率 (%)	対象者 (人)	回答者 (人)	回答率 (%)
小学4年生	6	6	100.0	10	10	100.0
小学5年生	11	11	100.0	13	13	100.0
小学6年生	14	14	100.0	14	12	85.7
中学1年生	17	16	94.1	11	10	90.9
中学2年生	15	15	100.0	15	13	86.7
中学3年生	14	14	100.0	12	10	83.3
合計	77	76	98.7	75	68	90.7

また、回答者の属性は次の通りである。

図表 52 性別



図表 53 学年



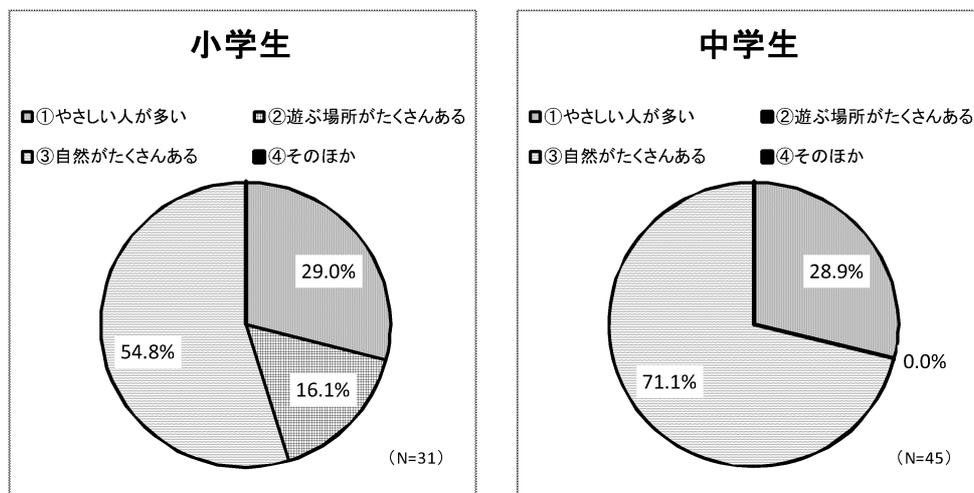
2 地域の良いところ

次図表中にある選択肢を提示し、地域の良いところについて1つ回答を求めた。

(1) 八坂地区

八坂地区の良いところとして、小学生、中学生共に「自然がたくさんある」が最も多くなっており、回答率は小学生 54.8%、中学生 71.1%であった。小学生、中学生で異なる回答傾向として、小学生では「遊ぶ場所がたくさんある」が 16.1%あったが、中学生では回答がなかった。

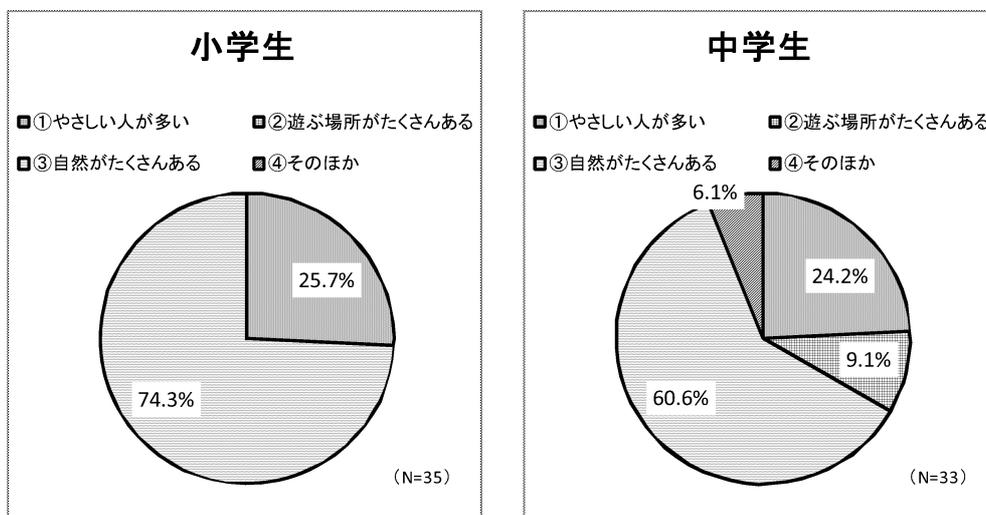
図表 54 八坂地区の良いところ



(2) 美麻地区

美麻地区の良いところとして、小学生、中学生共に「自然がたくさんある」が最も多くなっており、回答率は小学生 74.3%、中学生 60.6%であった。小学生、中学生で異なる回答傾向として、中学生では「遊ぶ場所がたくさんある」が 9.1%あったが、小学生では回答がなかった。

図表 55 美麻地区の良いところ



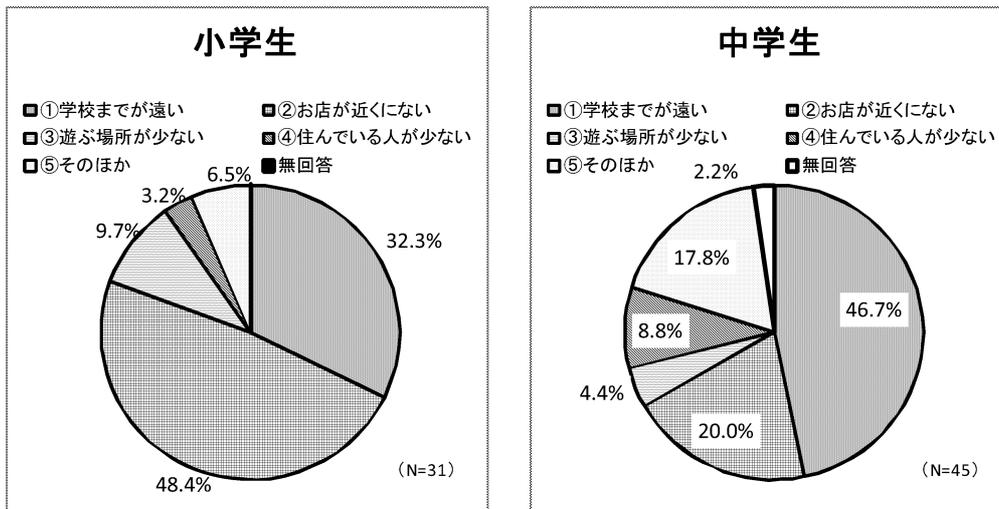
3 地域で気になること

次図表中にある選択肢を提示し、地域で気になることについて1つ回答を求めた。

(1) 八坂地区

八坂地区で気になることとして、小学生では「お店が近くにない」が48.4%と最も多く、次いで「学校までが遠い」が32.3%となっているのに対し、中学生では「学校までが遠い」が46.7%と最も多く、次いで「お店が近くにない」が20.0%となっている。

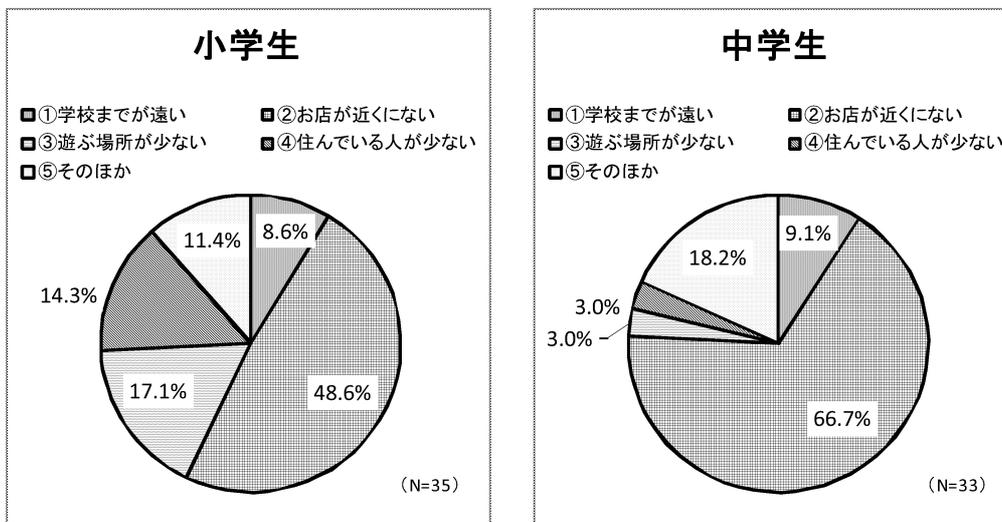
図表 56 八坂地区で気になること



(2) 美麻地区

美麻地区の気になるところとして、小学生、中学生共に「お店が近くにない」が最も多く、回答率はそれぞれ48.6%、66.7%であった。

図表 57 美麻地区で気になるところ



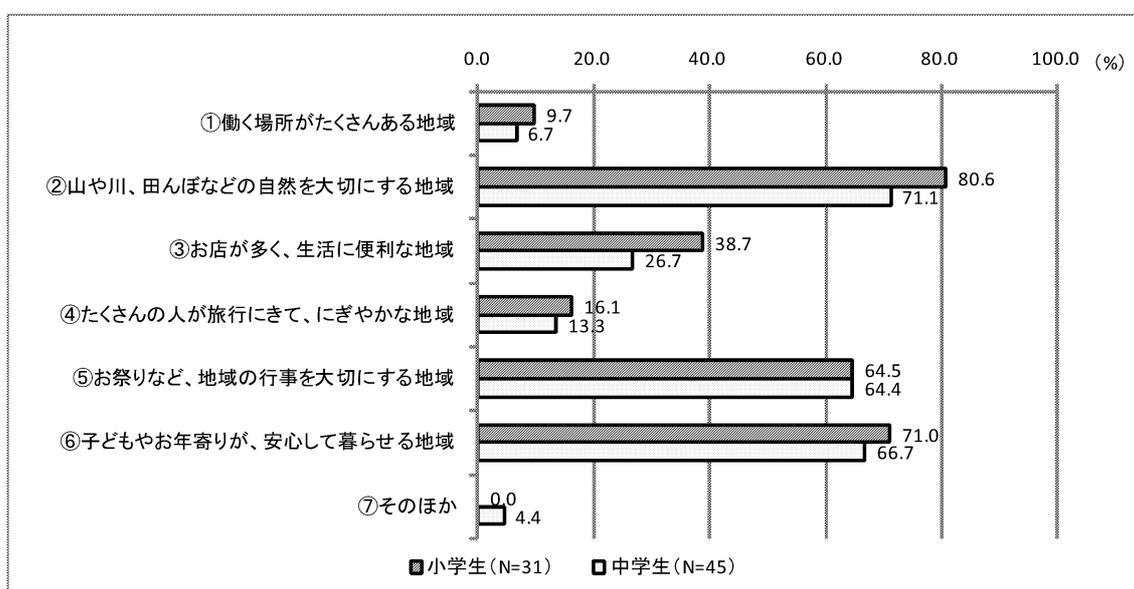
4 期待する地域の将来像

調査票において、次図表中にある選択肢を提示し、大人になったとき、地域がどのようなようになっていたら良いと思うかについて最大3つまで回答を求めた。

(1) 八坂地区

期待する八坂地区の将来像として、小学生、中学生共に「山や川、田んぼなどの自然を大切にする地域」が最も多く、「子どもやお年寄りが安心して暮らせる地域」「お祭りなど、地域の行事を大切にする地域」が続いている。また、小学生と中学生の回答傾向に大きな差は見られない。

図表 58 期待する八坂地区の将来像

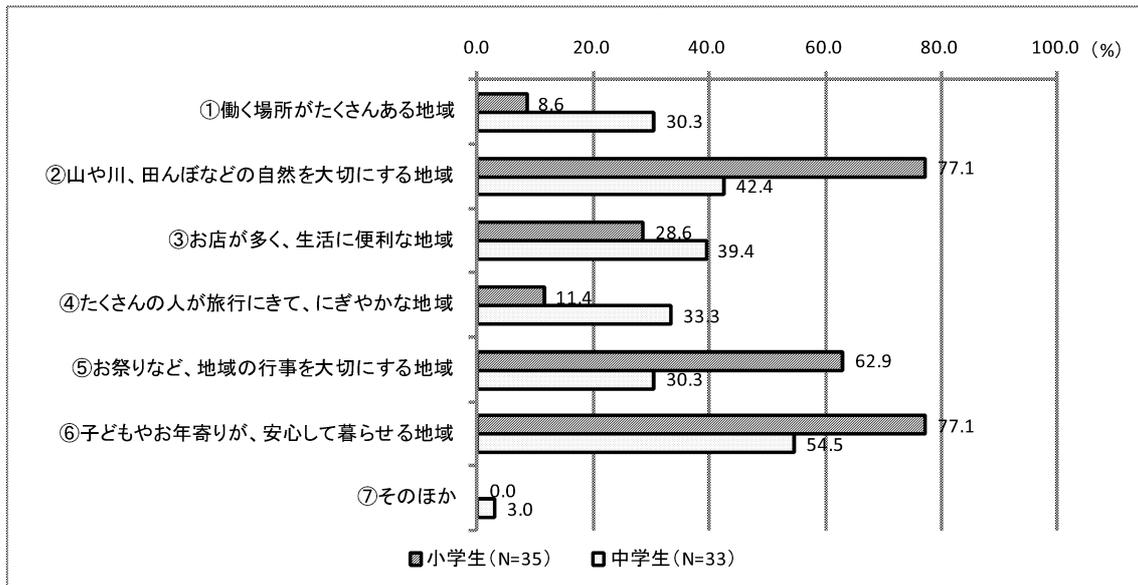


(2) 美麻地区

期待する美麻地区の将来像として、小学生は「山や川、田んぼなどの自然を大切にする地域」「子どもやお年寄りが安心して暮らせる地域」が77.1%と最も多くなっており、中学生では「子どもやお年寄りが安心して暮らせる地域」が54.5%と最も多く、「山や川、田んぼなどの自然を大切にする地域」が42.4%で続いている。

小学生と中学生の回答を比較すると、「働く場所がたくさんある地域」「たくさんの人が旅行にきて、賑やかな地域」「お店が多く、生活に便利な地域」は中学生の回答割合が高く、その他の項目については小学生の回答割合が高い。

図表 59 期待する美麻地区の将来像



5 住んでみたい街

自分が住んでみたい街や、好きな街について、その理由と共に回答を得た。

(1) 八坂地区

住んでみたい街について、小学生の回答を理由別に整理したものが次図表である。理由を分類すると、概ね「自然」「都会的（商業施設等）」「海」「個別事情」の4項目に分けることができる。「都会的（商業施設等）」という理由により街を選択した回答が多くなっており、具体的な地名として「大町」「穂高」「松本」「長野」といった県内市町村が多くあげられている。

また、住みたい街として「八坂」を選択した回答では理由として「自然」があげられ、「大町」を選択した回答では「都会的（商業施設等）」が理由としてあげられている。

図表 60 八坂地区 住んでみたい街(小学生)

<p>■自然</p> <ul style="list-style-type: none">・八坂：自然がたくさんあるから・八坂：地域の人が優しい、夏でも朝や夜が涼しいから・八坂：夏でも涼しいから・八坂：皆優しくて自然がいっぱいある・ハワイ：きれいだから <p>■都会的（商業施設等）</p> <ul style="list-style-type: none">・大町：近くにお店があって車とかいらなから・穂高：色々なお店や人がいるから・穂高：リラックスできる場所が多いし、色々楽しむ所が多い・松本市：色々なお店があるから・松本市：たくさんお店があるから・長野市、東京都：楽しそう・長野市：色々なお店があるから・長野市：店が多い・沖縄県：色々ありそうだから・京都府：いろんなお寺や、昔っぽくてにぎやかだから・札幌市：近くに海や色々な店や駅、港があるから・東京都：近代的だから・ハワイ：楽しそうだから <p>■海</p> <ul style="list-style-type: none">・沖縄県：いつでも海に入れるから・沖縄県：海がきれいだから・神戸：山と海に囲まれている・ハワイ：海が近いから、暮らしやすそう <p>■個別事情</p>

- ・神戸：いところがあるから、お店が色々あるから
- ・岡山県：おばあちゃんの子のおじちゃんがいるから
- ・武蔵野市（東京都）：友達がいるから
- ・大町市常盤：私の大切な友達や、懐かしい家に行きたいから

住んでみたい街について、中学生の回答を理由別に整理したものが次図表である。理由を分類すると、小学生と同様の項目である「自然」「都会的（商業施設等）」「海」「個別事情」の4項目に「便利」を加えた5項目に分けることができる。「都会的（商業施設等）」という理由により街を選択した回答が多く、具体的な地名として「豊科」「松本」「長野」といった県内市町村が多くあげられている。

また、住みたい街として「八坂」を選択した回答では理由として「友人がいる」「学校が楽しい」があげられ、「大町」を選択した回答では「便利」が理由としてあげられている。

図表 61 八坂地区 住んでみたい街(中学生)

- 自然
 - ・大町市：自然がたくさんあるから
 - ・池田町：北アルプスがきれいに見えるところがありそうだから
 - ・池田町：すごく景色がきれいだから
 - ・軽井沢：自然があって旅行者もあり、別荘もあるから
 - ・北海道：自然が豊かでスキーなどウィンタースポーツがたくさんできるから
 - ・北海道：湖があるから
- 都会的（商業施設）
 - ・豊科：いろいろなお店があるから
 - ・豊科：サティとか大きなお店がたくさんあるから
 - ・松本市、長野市：程よく緑もあり交通の便もよく、お店が多くあるため
 - ・松本市：色々なお店があり、行けるから
 - ・松本市：色々なお店があるから
 - ・松本市：大きいお店がたくさんあるから
 - ・松本市：大きくて新しい映画館があり、今時のかわいいお店や書店など楽しくておもしろい店がたくさんあるから
 - ・松本市：たくさんお店があって生活が便利
 - ・長野市：色々な店があるから
 - ・長野市：お店が近くにあって駅もホールがあるから
 - ・大阪府：賑やかそう、交通なども便利だと思うし住んでみたい
 - ・東京都：色々な店がたくさんあるから、遊ぶところが多い
 - ・東京都：自分が都会好きだから
 - ・特になし、近くに家電製品店とかがあればどこでもいい
- 便利
 - ・大町：バスで行ける距離だし、結構便利だから
 - ・大町市：全体的にいい所

■海

- ・沖縄県：海が透き通っていてきれいだし一回泳いでみたい
- ・ハワイ：海が近く、暖かいから

■個別事情

- ・八坂（明野）：人がたくさんいて友達がいっぱいいるから
- ・八坂：親切な人も多いし、とても学校（八坂小）も楽しいから
- ・名古屋市：進学したいから
- ・福岡県：ヤフードームがあるから

（2）美麻地区

住んでみたい街について、小学生の回答を理由別に整理したものが次図表である。理由を分類すると、概ね「自然」「都会的（商業施設等）」「海」「食」「歴史」「個別事情」の6項目に分けることができる。「都会的（商業施設等）」という理由により街を選択した回答が多くなっており、具体的な地名として「東京都」「大阪」といった大都市が多くあげられている。

また、住みたい街として「美麻」を選択した回答が少ない一方で、交流事項で訪問経験のある「メンドシーノ」が選択されていることが特徴である。

図表 62 美麻地区 住んでみたい街(小学生)

■自然

- ・沖縄県：色々な動物がいるから
- ・北海道：どのくらい寒いのか知りたいから
- ・北海道：雪がいっぱい降るから
- ・町田市（東京都）：自然がいっぱいあるし、住みやすい
- ・美麻：近くに大町もあり、林があり涼しい

■都会的（商業施設等）

- ・大阪：目を引くものがあるから
- ・東京都：遊ぶ所がたくさんあるから
- ・東京都：遊ぶ所がたくさんあるから
- ・東京都：お店がたくさんで賑やかだから
- ・東京都：かわいいお店があるから
- ・東京都：楽しい所がいっぱいあるから
- ・東京都：働けそうな場所があるから
- ・長野市：お店がたくさんあるから
- ・長野市：お店がたくさんあるし、自然もあるから
- ・長野市：たくさんお店があるから
- ・長野市：皆と遊べるし、自然がたくさんあるから
- ・名古屋市：喫茶店が多いから
- ・練馬区：行きたい所がたくさんあるから

・メンドシーノ市：夜 10 時になって騒いでも誰も文句を言わない

■海

- ・石川県：魚がたくさん取れて新鮮だから
- ・沖縄県：海がきれいだから

■食

- ・岩手県：長野県では食べられない物があるから
- ・金沢市：魚が安くて美味しいし釣りができるから
- ・鳥取県：魚がおいしいから

■歴史

- ・京都府：古い町並みが残っているから
- ・佐倉市（千葉県）：歴史博物館があるから

■個別事情

- ・大館市（秋田県）：おばあちゃんがいるし、自然も多いから
- ・沖縄県：ちんすこうが大好きだから
- ・兵庫県：ふるさとで思い出があるから
- ・美麻：自分の生まれた場所だから
- ・横浜市：自分のふるさとでもあり、中華街が立ち並ぶから
- ・メンドシーノ市：行ったことがあり、やさしい人が多いから

住んでみたい街について、中学生の回答を理由別に整理したものが次図表である。理由を分類すると、小学生と同様の項目である「自然」「都会的（商業施設等）」「海」「食」「個別事情」の5項目に分けることができる。「都会的（商業施設等）」という理由により街を選択した回答が多く、具体的な地名として「長野」「松本」といった県内市町村が多くあげられている。

また、住みたい街として「美麻」を選択した回答では理由として「自然」が理由としてあげられており、「大町」を選択した回答は見られなかった。

図表 63 美麻地区 住んでみたい街(中学生)

■自然

- ・軽井沢町：碓氷峠が近いから
- ・千葉県：海も店も多いため
- ・美麻：自然があふれているから
- ・美麻：自然が多いから、いい人が大勢いるから、空気がいいから

■都会的（商業施設）

- ・東京：色々なお店があって、生活に便利で賑やかな町が
- ・東京：芸人や有名な人がいて会えるかもしれないから。
- ・豊橋市（愛知県）：親戚がいて前に遊びに行った時すごく楽しかったから。
- ・長野市：お店がたくさんあって買い物がたくさんできるし、ガソリンとかのお金もかからなそう
- ・長野市：たくさんお店があるから

- ・長野市：たくさんのお店もあり、結構人がいてちょうどいい所だから
- ・長野市：たくさんのお店や交通機関が便利そうだから
- ・長野市：近くに店があるから、便利だから
- ・ニューヨーク：おしゃれだから
- ・松本市：色々なお店があるから
- ・松本市：駅や大きな店もあり楽しいから
- ・松本市：大きなお店があるから
- ・松本市：なんでもあるから

■海

- ・石垣島：きれいな海があるから
- ・北海道：海産物が美味しいから

■食

- ・香川県：うどん

■個別事情

- ・横浜市・蓮田市（埼玉県）：自分の祖父母がいて楽しい所だから、雰囲気が好きだから。
住みやすいと思う
- ・美麻：いい場所だから

6 地域のために協力すること

自分の住んでいる地域を良くする活動に協力する場合、どのようなことをしたいかについて回答を得た。

(1) 八坂地区

協力したい内容について小学生の回答をまとめたものが次図表である。内容別に分類すると、「自然環境への配慮」「施設の建設」「挨拶・マナー」「寄付」の4項目に概ね分類でき、中でも「自然環境への配慮」とした回答が多い。

図表 64 八坂地区 地域を良くするために協力したいこと(小学生)

<p>■自然環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none">・エコ・エコ（物を大切に、ゴミをあまり出さない）・環境整備など・ゴミ拾い（※5名が回答）・ゴミ拾いや花植え・ゴミをこまめに取ったり木を植えたりする・ゴミをそこらへんに捨てない・ゴミをとったりして自然を守りたい・自然などを守るために木などを植える・自然の保護、地域をより住みやすくする活動・なるべく自然を増やす <p>■施設の建設</p> <ul style="list-style-type: none">・色々な施設の建設・新施設の建設・地域に一つお店を建てたい・店を建てる <p>■挨拶・マナー</p> <ul style="list-style-type: none">・挨拶をたくさんして話す・みんなで仲良くする、挨拶をする <p>■寄付</p> <ul style="list-style-type: none">・お金の寄附・寄附

協力したい内容について中学生の回答をまとめたものが次図表である。内容別に分類すると、小学生と同様の「自然環境への配慮」「挨拶・マナー」の2項目に「行事への参加」を加えた3項目に概ね分類できる。小学生の回答にあった「施設の建設」は中学生の回答には見られなかった。全体的に「自然環境への配慮」と「行事への参加」に関する回答が多い。

図表 65 八坂地区 地域を良くするために協力したいこと(中学生)

- | |
|--|
| <p>■自然環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none">・お祭りの行事で協力したりとか、自然を守るためにゴミ拾いなど・環境整備・環境保全に勤める・木を植林する、ゴミ拾い・ゴミ拾い・資源の回収など・自然が多いのはいいことだけど、その辺もきれいに整備しないといけないので、草むしりとかゴミ拾い・自然を大切にすることからエコ活動・自然を守る・たくさんの人に八坂の自然や文化をアピールする・地域清掃など自然に関することに協力したい・地域の清掃をしてきれいにする・道路愛護・道にゴミが落ちていたら拾う・もっと自然を増やし、道路を平らにする。 <p>■行事への参加</p> <ul style="list-style-type: none">・多くの人と交流を持つこと・住んでいる地域があまり若い人がいなくて、お年寄りの方が多いので、行事など積極的に出て役に立てるように頑張る・清掃活動、地域の行事に出る・積極的に行事に参加する・地域の方との交流を大切にする・地域の活動や行事の参加していくこと、一人ひとりが、この地域に感謝して過ごしていくこと・地域の行事な・募金する、地域の活動の参加する・祭りへの参加・地域の行事などに積極的に出る・八坂地区でのお祭りなど地域の行事に参加する。 <p>■挨拶・マナー</p> <ul style="list-style-type: none">・挨拶をしっかりする |
|--|

(2) 美麻地区

協力したい内容について小学生の回答をまとめたものが次図表である。内容別に分類すると、「自然環境への配慮」「施設の建設」「お年寄りへの配慮」「PR」の4項目に概ね分類でき、中でも「自然環境への配慮」とした回答が多い。

図表 66 美麻地区 地域を良くするために協力したいこと(小学生)

<p>■自然環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none">・木の植樹・草取り、地区の掃除・公園や遊べる所を作る・公園を作りたい・ゴミ拾い・ゴミを捨てない・ゴミをポイ捨てしないで環境にいい地域にしたい・自然を大切にする (※3名が回答)・自分の地域に落ちているゴミを拾って地域をきれいにする・植物育成など・植物を植える・植物を大切にする・皆の使うものを丁寧に使う・植物をたくさん植える <p>■施設の建設</p> <ul style="list-style-type: none">・コンビニや繁盛するものを設置する・コンビニを作りたい・お店や遊び場所を作る・サッカー場を作る・スポーツする場所を作る・駄菓子屋とか大人が子供時代に戻れるように川や昔の遊び道具とかを作って売る・店を建てる <p>■お年寄りへの配慮</p> <ul style="list-style-type: none">・お年寄りを大事にする・おばあちゃんとかを助ける <p>■PR</p> <ul style="list-style-type: none">・パンフレットを配布して(美麻を)アピールしたり、ゴミ拾い

協力したい内容について中学生の回答をまとめたものが次図表である。内容別に分類すると、小学生と同様の「自然環境への配慮」「施設の建設」「挨拶・マナー」「PR」の4項目に「行事への参加」を加えた5項目に概ね分類できる。特に「自然環境への配慮」と「行事への参加」の回答が多い。

図表 67 美麻地区 地域を良くするために協力したいこと(中学生)

<p>■自然環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none">・川をきれいにすること、川のゴミ拾いなど・ゴミ拾い（※7名が回答）・ゴミ拾い、ゴミの分別・自然を大切にすること（※2名が回答）・地域にゴミがある所があるからゴミ拾いをしたい・蜂の巣をなんとかしたい <p>■施設の建設</p> <ul style="list-style-type: none">・美麻に店を建てるお金を寄附したい・村おこし <p>■行事への参加</p> <ul style="list-style-type: none">・色々な人に呼びかけ、自然を大切にするようにする・お祭りの協力・行事にいっぱい参加したいと思います・草刈り・地域行事になるべく参加し、たいせつにしていきたい・地域の活動、行事に出ること・地域の人がやっている事や行事に参加する・祭りに参加 <p>■挨拶・マナー</p> <ul style="list-style-type: none">・挨拶など・挨拶をしっかりやって気持ち良く生活できるようにしたい <p>■PR</p> <ul style="list-style-type: none">・美麻をアピールする（※2名が回答）・様々な地域の人に美麻の良いところを広める。

7 自由意見の整理

最後に、おとなに対して言いたいことについて自由に回答を得た。

(1) 八坂地区

小学生がおとなに対して言いたいことについてまとめたものが次図表である。ゴミを捨てないでほしいなどの「自然環境への配慮」についての意見が最も多い。その他、地域のお祭りを大切にしてほしいといった行事に対する意見や、感謝の言葉も見られる。

図表 68 八坂地区 おとなに対して言いたいこと(小学生)

<p>■自然環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none">・ゴミはゴミ箱に捨ててください・水路や道にゴミを捨てないでほしい・ポイ捨てしないでほしい・もっと自然を大切にしてください、ゴミをどこかに捨てないで <p>■行事</p> <ul style="list-style-type: none">・これからも八坂の行事でお祭りなどを大切に、自然も大切にしてください <p>■感謝</p> <ul style="list-style-type: none">・いつもありがとう <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none">・東京はスキーができないけど、長野はスキーができる
--

中学生がおとなに対して言いたいことについてまとめたものが次図表である。感謝の言葉が多い一方で、お祭りに参加してほしいといった「行事」に対する要望も見られる。

図表 69 八坂地区 おとなに対して言いたいこと(中学生)

<p>■行事</p> <ul style="list-style-type: none">・お祭りや地区行事に参加してください <p>■感謝</p> <ul style="list-style-type: none">・いつも自分たちの事を気にかけて下さりありがとうございます。学校行事についてもご協力くださり感謝しています。・いつも優しくして下さいありがとうございます・この調子で頑張ってください！・自然を大切にしてくれていて、いいと思う <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none">・宿題を減らしてほしい・八坂が住みにくい・給食の量を増やしてほしい・子どもの意見を途中でさえぎらずに聞いてほしい

(2) 美麻地区

小学生がおとなに対して言いたいことについてまとめたものが次図表である。ゴミを捨てないでほしいなどの「自然環境への配慮」についての意見が最も多い。その他、安全・安心で美麻らしい地域づくりに対する意見や、感謝の言葉も見られる。

図表 70 美麻地区 おとなに対して言いたいこと(小学生)

<p>■自然環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none">・自然を大切にしてください、ゴミをポイ捨てしないで下さい・自然を大切に美麻をアピールしてください・ポイ捨てしないで下さい <p>■安全・安心</p> <ul style="list-style-type: none">・安全に遊べる場所を作ってほしい・お年寄りに親切にして、安全に暮らせるようにする <p>■美麻らしさ</p> <ul style="list-style-type: none">・いつまでもふるさと美麻らしさを壊さないでほしい <p>■マナー</p> <ul style="list-style-type: none">・いちいちどなるな、子どもの方がマナーがいいです <p>■感謝</p> <ul style="list-style-type: none">・ありがとう・いつまでもお元気で・いつもありがとう・元気に…… <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none">・コンビニを作ってほしい・あまり怒らないで下さい、小さい事で・もう少し心を広くしてください

中学生がおとなに対して言いたいことについてまとめたものが次図表である。感謝の言葉が多い一方で、「施設の整備」「自然環境への配慮」に対する要望も見られる。

図表 71 美麻地区 おとなに対して言いたいこと(中学生)

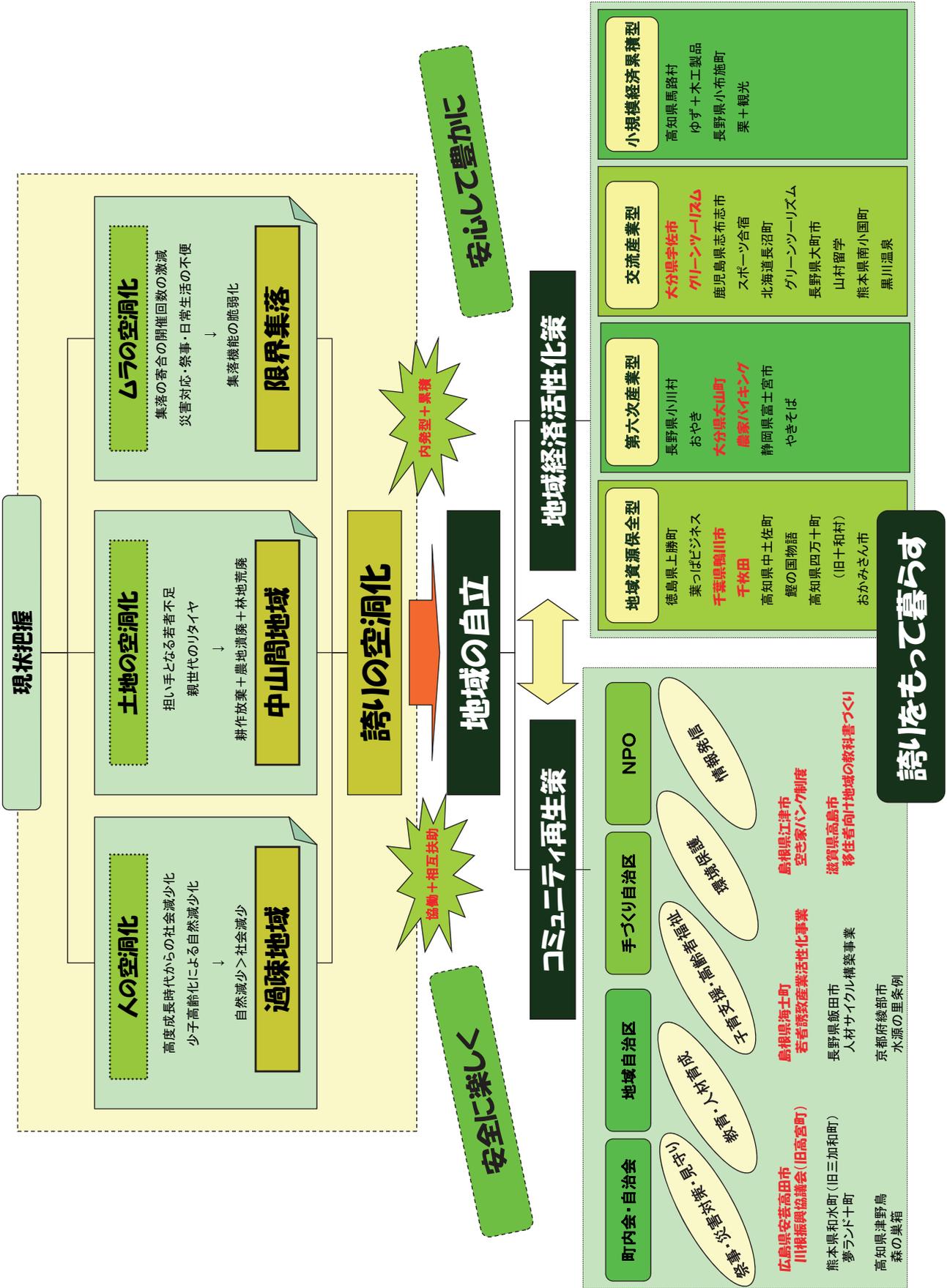
- | |
|--|
| <p>■自然環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none">・ゴミを捨てるな <p>■施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none">・きれいな自然のある場所を少し整備して公園みたいにしたのがいくつもあったらいいなと思う「静の桜公園」みたいな感じで。・WOWOW が見たい・コンビニがあったらいいな <p>■感謝</p> <ul style="list-style-type: none">・いつもありがとうございます・いつも協力して下さいありがとうございます・これからも色々な行事、仕事を頑張ってください・これからも良い地域になるように頑張ってください・頑張してほしい <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none">・少し自由な時間を下さい・タバコを止めろ・なぜ大町市と合併したのか |
|--|

第 4 章 事例調査

第4章 事例調査

過疎地域における地域振興事例の選定にあたっては、明治大学小田切教授の著書「農村再生」を基礎として、振興事例を補足しながら、過疎地域の振興のあり方について次頁のとおり整理を行った。

過疎地域振興策の体系図 — 地域活性化ソフト事業を中心として —



1 島根県海士町

(1) 島根県海士町の地勢



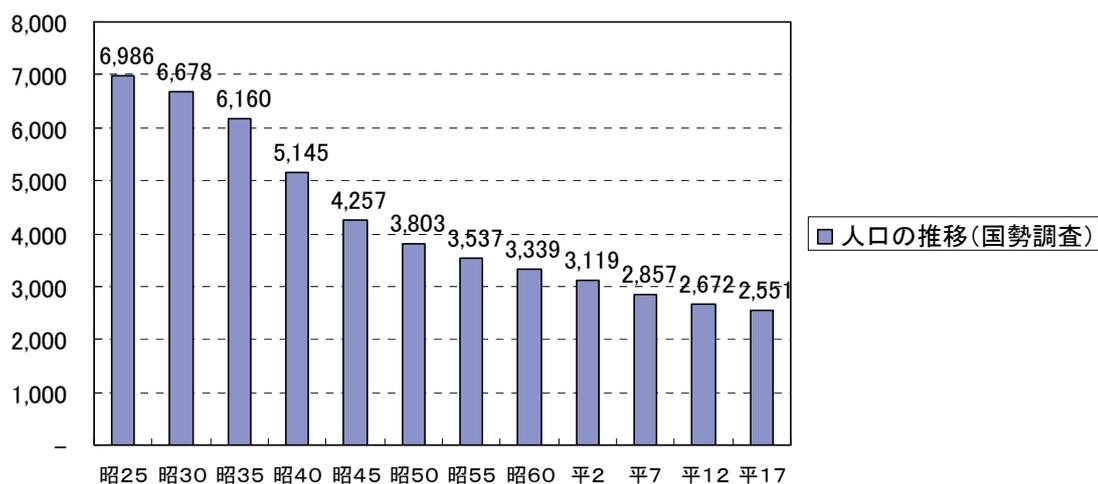
島根県海士町は、島根半島の60kmほど沖合の日本海に浮かぶ隠岐諸島の中の一つである中ノ島全体を町域とした1島1町のまちである。

その歴史は古く、干しアワビなどを都へ献上していたことを示す木簡が平城京跡から発見されるなど、「御食つ國」に位置付けられていた。鎌倉時代には承久の乱に敗れた後鳥羽上皇が配流され、一生を終えた島として知られている。

(2) 人口流出の危機

離島であることの地理的特殊性が貨幣経済の発達と工業化社会の進展に伴って「ハンデ」となり、1950年頃に約7,000人近くいた海士町の人口は、2004年には約2,500人にまで落ち込んだ。加えて海士町の高齢化率は、2005年で37.6%となっており超高齢化社会であると言える。年少人口率は10.4%で年間出生数が10人を下回る年もあり、人口千人当たりの出生数も2003年に2.7人と全国平均の8.8人を大きく下回り、海士町の14集落のうち4集落が高齢化率50%を超えているなど、少子高齢化が大きな課題となっている。

人口の推移 (国勢調査)



(資料：国勢調査)

(3) 行財政の危機

平成に入り、国の経済対策に呼応する形で公共事業に投資した結果、地方債は1999年度には累積で101億円を超え、同年度の中期財政計画では、毎年度約2億円の財源が不足し、基金でそれを補うと2002年度には財政再建団体転落の危機があると予測された。

そこで、1999年度には行財政改革「やるぞ計画」を策定し、人件費や補助金などを削減した結果、財政再建団体転落と起債発行制限の危機は回避した。しかし、厳しい行財政運営はその後も続き、町を変えなければ生き残れないとの危機意識が町民の中で高まっていた。

(4) 自立促進プランの実行

①新町長誕生

町民の思いを受け、町政のかじ取り役を担ったのが、2002年5月の町長選で初当選した、山内道雄氏だった。山内町長が真っ先に取り組んだのは、職員の意識改革だった。民間企業出身の山内町長は年功序列の人事制度を見直し、「適材適所」の徹底を図るとともに、課長・係長への昇進を各課の課長が推薦するという「推薦制」を導入した。結果、能力とやる気のある職員の登用が進んだ。

しかし、三位一体改革に伴う地方交付税及び臨時財政対策債の見直しにより2004年度の地方交付税と臨時財政対策債は1年間の徴税額に相当する1億9,000万円の減額となった。

このような事態の打開に向け、町は2004年3月に「海士町自立促進プラン」を策定した。短期戦略（行財政改革）、中期戦略（人口施策）、長期戦略（産業施策）からなる「自立促進プラン」は、行財政改革によって「守り」を固めると同時に、新たな産業創出を強力に推進する「攻め」の戦略を打ち出した点が特徴だった。

②短期戦略 行財政改革

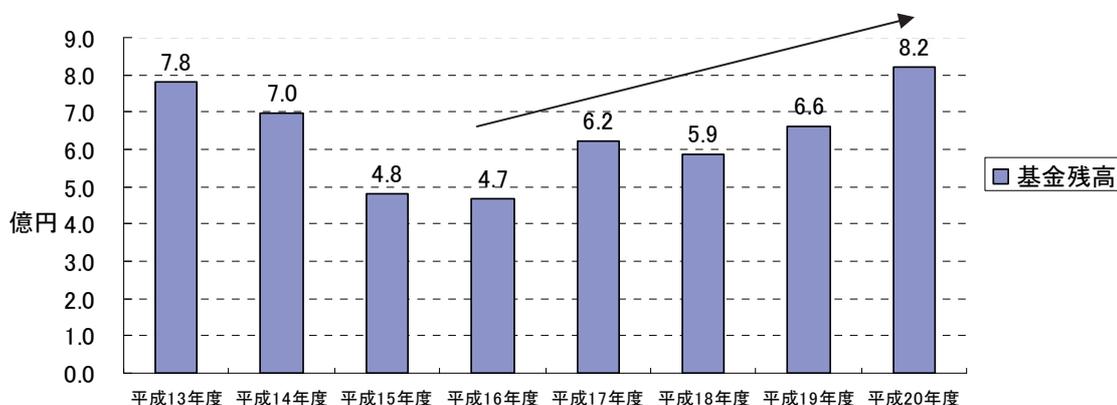
行財政改革では、2004年度、2005年度を対象に単年度削減額1億5,000万円を目標とした。2004年度は収入役を廃止するとともに、町長の給与を30%、自主的に減額を申し入れた助役をはじめ職員や町議会、教育委員などの給与をカットし、人件費1億1,440万円の削減を実現した。2005年度はカット率を上げ、町長50%、助役・教育長・議員・教育委員40%、職員16~30%、区長10%とし、2億1,450万円の削減効果をあげた。結果、ラスパイレス指数（国家公務員を100とした場合の指数）は72.4となり、この当時日本で最も給料の安い自治体となった。以降も給与カットを続行し、2007年度は収支バランスが改善に向かったことからカット率を5%復元した。

給与カット以外の行財政改革

- ・ 職員数の縮減：H10年度末93人→H17年度末73人（▲21.5%）→H19年度末68人（▲7.4%）
- ・ 議員定数の縮減：H11年度▲2人、H19年度▲2人（現定数10人）
- ・ 公共事業費の圧縮
- ・ 経常経費等（補助金、負担金、旅費、需用費、委託料等）の見直し
- ・ 機能的な組織改革（定員削減をしながら産業振興に重点配置）、スリム化とフラット化（連携の強化）
- ・ 課長・係長の推薦制と年功序列の廃止
- ・ 経営会議の設置と定例化（毎週木曜日の17時30分から）など

このような取組みの結果、2007年度、2008年度予算は基金の取り崩し「なし」の対前年比増で編成ができたほか、基金残高も2009年度末現在、約8億3千万円（一般会計）で、財政事情は確実に改善に向かっている。

基金（財調・減債・特定目的の積立金）残高の推移



（資料：島根県市町村財政データベース市町村別決算状況一覧より作成）

また、2004年10月には「海士町すこやか子育て支援に関する条例」を制定し、給与カットで得た財源の一部を未来への投資に活用した。現在もこの支援は継続しており、次のような助成が実施されている。

項目	受給条件	助成内容
結婚祝金	結婚後、海士町に在住し、引き続き定住の意志を持つ者	200,000円（1人100,000円） ※1人1回限り
すこやか祝金（出産祝金）	受給資格 海士町に在住し、引き続き定住の意志を持つ者が出産した時	1人目 100,000円 2人目 200,000円 3人目 500,000円 4人目以上 1,000,000円
妊娠・出産、子どもの通院等に係る交通費等助成	海士町に在住し、引き続き定住の意志を持つ者	妊娠中の定期健診1回当たり島後2,500円、隠岐島外6,000円・宿泊費1泊2,500円など
保育料軽減	保育所に第3子以降が入所したとき	無料
チャイルドシート購入費助成	乳幼児を持つ保護者がチャイルドシートを購入したとき	6歳未満児：購入金額（補助基準額）の1/2補助など
転入児童生徒等奨励金	海士町に転入してきた児童生徒等で、引き続き定住の意志をもつ者	支給額 50,000円/人 （18歳以下の児童等で転入6ヶ月後に支給する。）
乳児医療	就学前の全乳幼児	3歳未満：上限額入院2,000円、入院外1,000円 3歳～就学前：上限額入院2,000円、入院外1,000円（償還払い）など

（資料：海士町ホームページ <http://www.town.ama.shimane.jp/>）

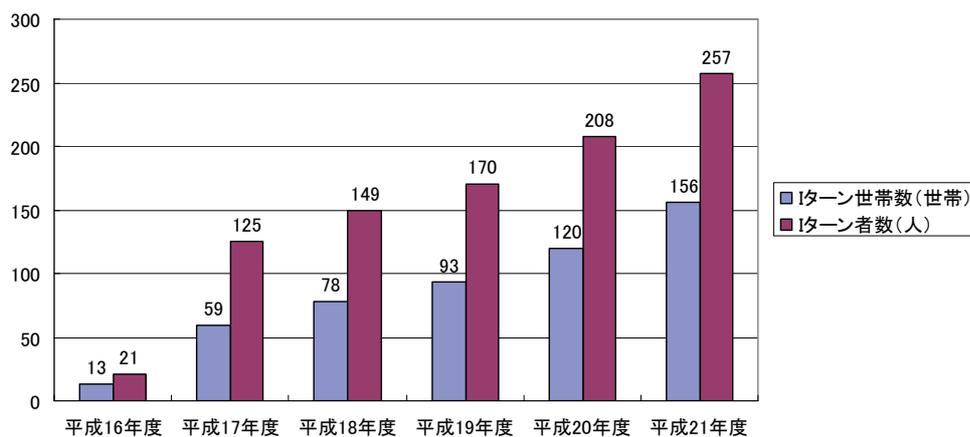
③中期戦略 定住促進

2004年時点では自然減や流出により年間50人が減っており、人口は約2500人となっていたが、1年半後までに100人増を目標として掲げ、定住対策に取り組んだ。

まず、町職員でローテーションを組み、定住等の問い合わせや相談に対応する窓口を 365 日オープンさせた。また、民間不動産業が海士町にはなかったため、I ターン、U ターン者を受け入れるための定住用住宅を、国土交通省のまちづくり交付金や（財）ふるさと島根定住財団の「空き家活用助成事業」を活用して町が整備した。

その他、「島暮らし体験ツアー」などを実施してニーズの掘り起こしや情報発信に努め、島での就業や起業の支援を行った結果、2004 年 4 月から 2010 年 3 月までの間に 156 世帯、人口の 1 割程度の 257 人の I ターン者が町に定住した（U ターン者は 157 人）。

I ターン世帯数・I ターン者数の推移（平成 16 年度以降の累計）



（資料：海士町資料より作成）

④長期戦略 産業振興「島まるごとブランド化戦略」

長期戦略では、①キンニャモニャセンター（観光施設）を核に地産・地“商”と交流人口の拡大を目指す、②全国展開（外貨獲得）を目指した大規模な付加価値商品づくり、の 2 点を軸に「島まるごとブランド化」を図る戦略を打ち出した。「海」「潮風」「塩」の 3 つの地域資源を活用して農林水産業の新たな展開を図ることが狙いであり、その一環として「海士デパートメントストアプラン」という地域再生計画を策定し、2004 年 6 月と 2005 年 7 月に認定を受けた。これにより、次のような第一次産業再生による先駆的な産業おこしに取り組んでいる。

● 海



全国展開が可能な商品の第1弾として「商品開発研修生制度」から生まれた商品が「島じゃ常識! さざえカレー」(左写真)である。1996年から開発を開始し、2000年に発売。年間35,000食を販売するヒット商品となった。

島の食文化を商品化しヒットした島ブランド第1弾商品

(資料:海士町「小さな島の挑戦」)

■商品開発研修制度

1998年度から海士町が募集している商品開発の研修制度。毎年、全国各地から数名のIターン者を、町の臨時職員としての身分で受け入れる。

研修生には、地元でない「よそ者」の発想と視点で、特産品や観光商品或いは地域づくり、地域コミュニティに至るまで、海士にある全ての宝の山(地域資源)にスポットをあて、商品化に挑戦してもらおう。彼らは、「島の助っ人」的存在で、これまでに30名以上を受け入れている。毎月15万円の給与を支給(社会保険付)し、住居は1DKを準備し家賃は1万円。冷暖房、こたつ、冷蔵庫、掃除機、布団を完備している。1年契約だが更新可能である。

「それまで商品価値のあることすら気づかなかったものが、外から見れば驚きとともに新鮮な魅力として映るいい見本となった」と町の担当職員は話す。「さざえカレー」の成功を受けて、町では「やればできるんだ」という自信が付き、その後の様々な新産業創出事業に拍車がかかっている。

また、これまで漁業者は漁協や近場の市場にしか水産物を出荷していなかったため、離島特有の輸送時間の長さによる鮮度落ち等の理由で価格は低く抑えられ、漁業所得は伸び悩んでいた。そこで、2001年には岩ガキのブランド化を図り、「春香」（右写真）の名で販売を開始。UI ターン者と地元漁師が協力して設立した海士いわがき生産組合（株）が養殖に成功し、現在 20 万個を養殖するまでに成長している。



春から初夏限定のいわがきブランドとしてヒット

（資料：海士町「小さな島の挑戦」）



CAS の導入で旬の味覚を次から次へと商品化

（資料：(株)海士ふるさとセンターHP）

加えて、全国に先駆け、農林水産省の新山村振興等農林漁業特別対策事業を活用して、2005 年、CAS（Cells Alive System）凍結センター（左写真）を整備。CAS とは細胞を破壊することなく凍結できる画期的なシステムで、これにより離島であるという距離的なハンデを克服し、旬の魚介類の鮮度を落とさずに市場に運搬できるようになっている。運営は第三セクターの（株）ふるさと海士が行い、新たな雇用の場として定住対策にも貢献している。

● 潮風

島は良質な黒毛和種の産地として知られていたが、子牛の生産にとどまり、すべて本土の肥育業者が購入し、神戸牛や松坂牛となって市場に出ていた。そこで、公共事業の減少に伴い受注が減っていた建設業者が生き残りをかけ、繁殖から肥育まで一貫して取り組むことで隠岐牛（左写真）としてのブランドを確立することにチャレンジしようと考えた。それを聞いた町が「潮風農業特区」を申請して建設業から農業への参入を可能にし、建設会社が設立した「隠岐潮風ファーム」がスタートした。



島生まれ、島育ちの「隠岐牛」

（資料：海士町「小さな島の挑戦」）

潮風でミネラルをたっぷり含んだ牧草で育った隠岐牛の肉質は良く、市場で A5 ランクに格付けされ、松坂牛にも劣らない評価を得ている。これにより現在では地元の子牛市場で雌牛の単価が約 3 割アップし、農家の生産意欲と規模拡大につながっている。また、隠岐牛の担い手になりたいと都会から I ターン者家族（20 代・30 代）が移住するなど、様々な効果を生み出している。

● 塩

商品開発研修生の発案により、昔ながらの塩炊きを島外で実績のある人材の指導を受けて復活させ、「海士乃塩」（右写真）を商品化。

農林水産省の補助事業を導入して伝統製法による製塩施設「海士御塩司所」を整備、2005年4月から本格的な生産を開始し、(株)ふるさと海士が管理・運営に当たっている。商品開発研修生が大学で神道を研究していたこともあって、塩を単なる食品としてではなく、島の歴史文化的背景も表現しながら、塩の製造販売並びに加工商品の商品化に携わっている。

加工品開発では、「海士乃塩」を使用した梅干しや塩辛、干しナマコなどの広がりを見せている。



「塩」から始まる島国らしい製品づくり

(資料:海士町「小さな島の挑戦」)

一方、外部の力に頼るだけでなく、島内の人材育成にも力を入れている。2005年には「人間力推進プロジェクト」を立ち上げ、子どもや若者などを対象にした交流事業や体験事業を展開している。



「出前授業」で海士ファンを拡大 (広告)

(資料:海士町観光協会 AMANA)

また、面白い試みとして、2005年の地域再生計画に基づき、実証実験の支援措置を受けて実施した地域通貨「ハーン」(右写真)の導入がある。これは内需拡大や外貨(円)の獲得を目指したもので、今後の交流人口の拡大や海士ファンの獲得につながるものとして活用が期待されている。



海士町にゆかりの小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)から命名

(資料:(財)地方自治情報センターHP)

「産業創出による若者定住促進」 島根県海士町

事業地域

- 島根県海士町
- 人口2500人（2004年10月1日現在）1950年7000人
- 島根半島の沖合約60kmの日本海に浮かぶ隠岐諸島の一つ
- 平城京跡から干しアワビの献上を示す木簡が発見されている

事業概要

1999年度の地方債累積額が101億円にも及び、財政再建団体転落の危機を脱するため、行政改革による徹底した財政支出削減を実施、それで生み出した財源を活用して、「島まるごとブランド化による若者の定住促進策」を実行、大きな成果を上げている。

2004年～2006年の1ターン実績

78世帯 149人

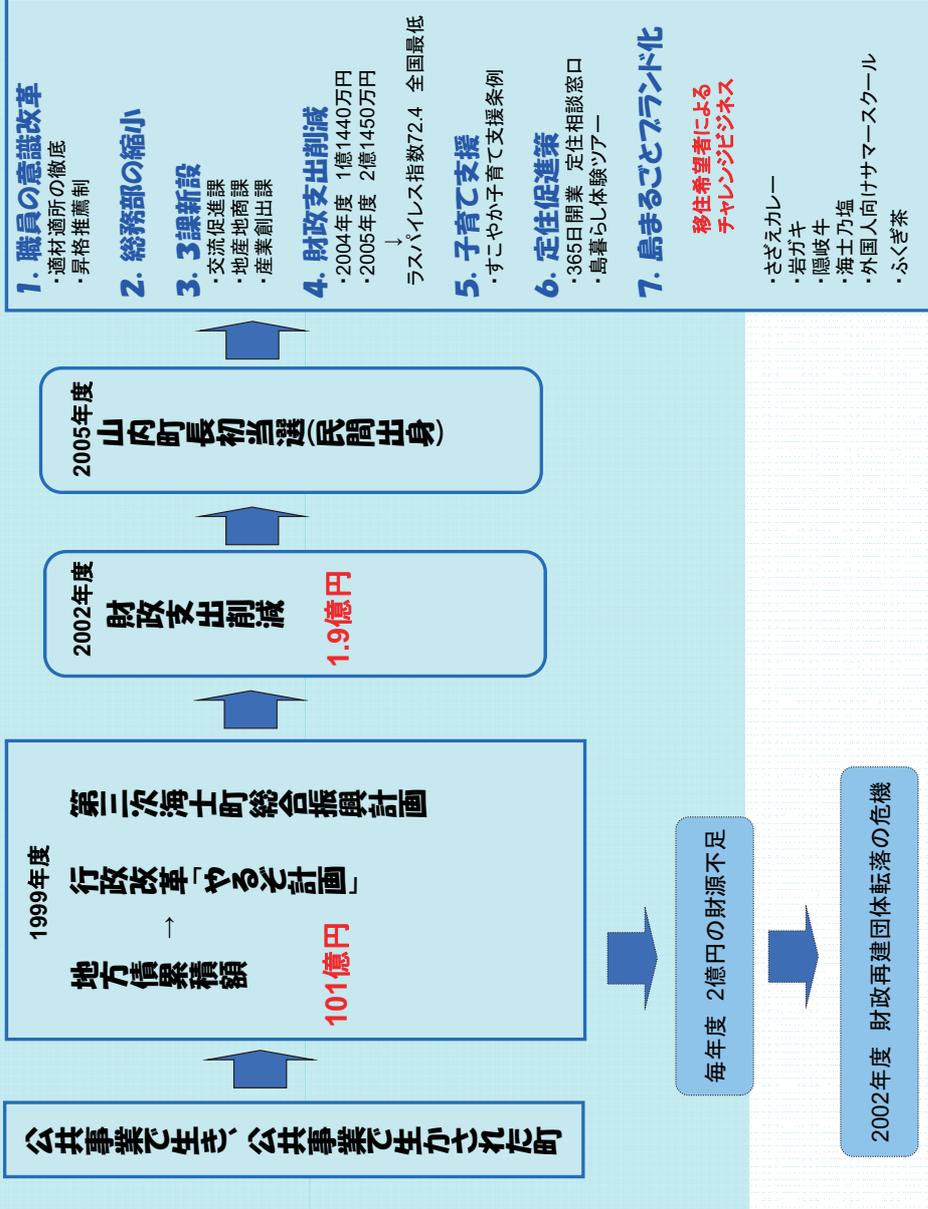
事業内容

- 島暮らしブローガーツアー
- 特産品開発研修制度を活用した雇用創出



YouTubeによる海士町Promotion Video

行政改革から定住促進への流れ



毎年度 2億円の財源不足

2002年度 財政再建団体転落の危機

海士町ビジネスモデルの構築

島暮らしブログツアー

- 平成19年度、全国のブログガー（インターネット上の日記を書く人）を対象に、3日間海士町に滞在するツアーを開催した。
- インターネット上での募集では、北は北海道から南は熊本まで60名を越える応募があり、抽選の結果23名が参加した。

島暮らし体験ツアー一者による、ITを活用した情報発信

鳥根県海士町が、多くの移住者を受け入れた成功の背景には、ITを活用したプロモーション活動の存在もある。その代表例が「島暮らしブログツアー」である。

ツアーの内容は、隠岐の特産物である隠岐牛やさざえを使ったバーベキュー、シーカヤックによる海のレジャー体験、歴史史跡の観光などである。

体験ツアーの様様をブログガーは、自身が運営するブログに写真や動画を交えてインターネット上にリアルタイムに発信する。体験ツアーが終わった後にも海士町への感謝のメッセージなどを更新したブログガーも多い。

ブログガー、ブログを戻した都市住民、海士町の住民のコミュニケーションが広がる。都市住民は海士町の魅力を知り、海士町の住民は自らが暮らす地域の魅力を再認識することに繋がっている。



海士町ブログツアー参加者

特産品開発研修制度を活用した雇用創出

●若年層の島外流出により過疎化と極端な少子高齢化が進行し、条件不利地ゆえに産業競争力に乏しく、基幹産業である第一次産業は、人口問題から労働力者・後継者の隠性的不足に悩んでいた。また、財政難のなかでは、インフラ整備や支援体制は後手に回りがちになり、景気低迷と経営環境の激変によって島内経済の活力は著しく低下していた。

●このような状況の下、海士町では平成10年度から「商品開発研修生制度」により、これまでに30人以上の研修生を受け入れ、さざえカレーなどの特産品を開発している。

特産品開発というチャンスを与える定住促進

島国独特の地域性により外からの移住者、受入れられる地域住民の双方が一緒に生活することに戸惑いもあったがこの10年間で地元で元々の住民も慣れてきた。その成果として平成17年度の1年間に、43世帯96人の外国人を受け入れることが出来た。

現在の海士町は、全国・全世界に「海士ファン」を増やす活動を進めながら、「好きな海士町で仕事が見たい」「海士町でできる仕事を見つけない」と、そのような思いのある海士町が好きな人と一緒に、「雇用の場・少子高齢化・財政危機」といった大きな課題に立ち向かえる体制と仕組みづくりを進めている。



特産品となったさざえカレー

2 高島市

(1) 高島市の地勢



高島市は滋賀県の北西部に位置する、総面積 693 k m²、総人口 53,950 人（平成 17 年 10 月 1 日現在）の市で、冬季の寒さは厳しく、積雪量の多い日本海型気候で、晩秋には「高島しぐれ」と呼ばれる降雨がある。

古来、京都・奈良の都と北陸を結ぶ交通の要衝として栄え、京都につながる若狭街道は古くから塩物の魚の輸送路として知られ、近年「鯖街道」とも呼ばれている。

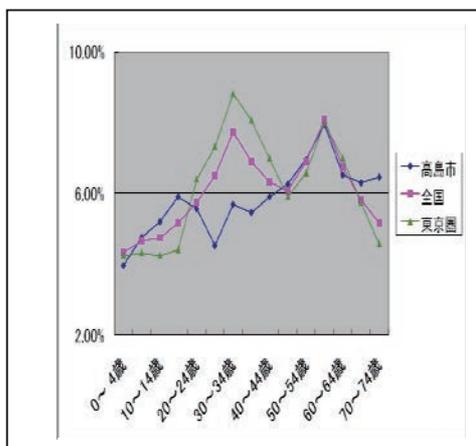
一方で、湖上交通の衰退と共に「陸の孤島」と称されるなど、経済成長期の発展からは取り残され、地域内に十分な雇用の受け皿がないのが現状である。

とはいえ、京都から車で 50 分、大阪からは 80 分の距離にあり、大都市近郊に残された自然豊かで人情味あふれる田園空間は、豊かな暮らしの実現のために多くの可能性を秘めた地域であると考えられる。

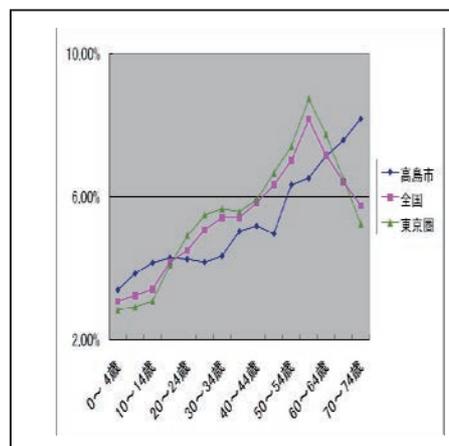
(2) 若者定住促進の背景

国勢調査によると、高島市の人口は平成 12 年に増加傾向のピークを迎え、平成 17 年には 2.8% 減となっている。少子化に加えて年間の転出者が転入者を上回っているため、10 年後の人口は 50,000 人を割り込み、高齢化率も現在は 25.1% であるのに対し、10 年後には 31.5% に達すると予想されている。また、深刻な事態として若年世代の減少がある。平成 17 年における全国・東京圏・高島市の年齢階級別人口構成割合と 2030 年の将来推計を見ると、平成 17 年現在でも高島市は 20～40 代の若年世代の人口が少なく、さらに将来はその傾向がより顕著になっていくことが予想されている。

年齢階級別人口構成割合（2005 年）



年齢階級別人口構成割合の推計
(2030 年・高島市は 2025 年)



(資料:国土交通省「平成21年度 地域における人材の受け入れ体制の整備支援モデル調査 報告書」)

(3) 若者定住促進に向けた取組内容

①「若者定住促進プロジェクト」

こうした背景を受け、平成19年3月に策定した高島市の総合計画では、約2,000軒ある別荘の所有者向けの情報発信などによる「二地域居住」の推進や、「若者定住促進プロジェクト」を重点施策に位置づけ、定住人口の増加と人口構成（年齢階層）のバランス適正化を目指すこととした。平成19年度には市役所内に若者定住促進プロジェクトチームを設置し、市の施策として若者定住を促進するための体系を次の4分野に分けて、その取組の方向性について整理した。以降、条例策定や地域紹介活動など、若者に焦点を合わせた定住促進を図っている。

● 住宅確保支援

平成20年度から住宅確保支援活動に着手、平成21年度には空き家調査を13の集落で行いながら、宅地建物取引業者との連携による空き家流通の仕組みづくりに取り組んでいる。そうした取組みの中で、100軒を超える不住家屋（日常的に居住の実態がないと思われる家屋）のなかから10軒程度の活用可能家屋の掘り起こしにつながっている。

● 就労・起業支援

若者定住相談員の設置による就労希望者と市内事業所とのマッチングの仕組みづくりや起業支援を事業所側の雇用拡大と連携しながら進めていくこととしている。高島市への移住に関する相談は、平成21年度で約50件。そのうち移住につながったのは把握している範囲で平成20年度（若者定住相談員設置前）には3件7人、平成21年度には5件11人になっている。

● 子育て環境向上

保育料をはじめとする子育てに係る負担の軽減を図るとともに、子育て世代を取り巻く就労環境改善のため病時保育の導入などを行っている。

● その他の施策（高島市若者定住促進条例）

平成20年度には高島市議会の議決を経て、5年の時限措置として高島市若者定住促進条例を制定し、市としての取組姿勢を表すとともに、4分野（①住宅確保支援②就労・起業支援③子育て環境向上④その他の施策）に係る支援を行うこととしている。

なお、高島市では過去に移住してきた住民と従前の集落住民の間で地域のルールや取り決めを巡ってトラブルが発生したこともあったことから、移住・定住の受け入れ体制整備の上で、最も重要なのは受け入れる側の地域の意識・気運の醸成であると考えた。集落機能の維持・再生に向けて外部の人材をいかに取り込むかについて知恵を絞るというように視点を転換することが必要であり、移住希望を持った若者等へのアプローチとともに、地域住民が地域の将来について考える機会の提供を同時に行うことの必要性を認識した。

この認識に基づき、高島市では新たに次の2つのプロジェクトを行うこととした。

- ・ 自治組織（区や自治会）における地域ルール等を取りまとめた『地域の教科書づくり』
- ・ 市内外の若者等による定期的な集会『高島ギャザリング』

②事業推進体制

外部からの視点を通して地域に人材の受け入れに対する意識を植え付けることを目的として、特に「地域の教科書づくり」「高島ギャザリング」を中心に進めてもらうためのプロジェクトスタッフ2名を公募した。

プロジェクトスタッフの募集は、高島市が委嘱を予定していた「地域おこし協力隊」となって事業に従事することとし、以下の要領による公募を行った結果、3名の応募があり、面接を経て、男女計2名のプロジェクトスタッフ（地域おこし協力隊）を選出した。

公募要領（一部抜粋）

1 仕事内容

(1) 地域の教科書づくり

高島市内に実際に暮らしながら、いくつかの集落の人たちからその地域の暮らしにかかる情報を聞き取り、「地域の教科書」を編集します。そのためには、地域の共同作業やイベントなどにも参加・協力して、自らの経験や感想などをもとに教科書をまとめます。

(2) 高島ギャザリングの企画・運営

“高島に暮らすこと”について市民や移住希望者などと話し合う機会を設定し、高島の課題と可能性を総合評価する機会を、個別テーマごとに開催します。その企画・運営に携っていただくこととなります。

2 資格（必須内容）

(1) 政令指定都市またはその近辺に在住の満18歳以上41歳未満の方

(2) 心身ともに健康で、この地域活動に意欲と情熱を持って参加できる人

(3) 全期間（平成21年9月～平成22年3月）を通じて、高島市で生活できる人（期間中、住民票を高島市に異動していただきます）

(4) 普通運転免許を持っている方（ペーパードライバーではなく、運転に慣れていること）

3 勤務時間

原則、午前8時～午後5時まで（行事等の都合で左記以外に活動を行う場合は、相応の勤務時間を短縮する）

4 雇用形態

『地域おこし協力隊員』として勤務（非常勤の特別職：雇用契約は結んでいない）

5 報償費

日額（8時間を基本とする）6,800円。月額が目安68,000円～136,000円

（月毎に活動計画を定め、予算の範囲内で活動実績に応じて算定します）

6 待遇

(1) 住居 活動期間中（平成21年9月～平成22年3月）生活する住居は協議会が用意します。自炊して生活できる環境です。

(2) 生活備品 寝具・炊事用具・洗濯機・暖房器具など、基本的な生活備品は用意します。

(3) 光熱水費 基本料金は協議会が負担します。

(4) 現地活動費 事業に伴う移動手段（自動車）、パソコン等事務機器、消耗品等は協議会が用意します。

(5) 保険料 協議会でボランティア保険に加入します。なお、雇用契約ではないので、雇用保険には加入しません。

(6) その他任務遂行に必要な費用

協議会が負担します。

（但し、必要以上の旅費や備品の購入費は対応できない場合があります）

（資料：国土交通省「平成21年度 地域における人材の受け入れ体制の整備支援モデル調査 報告書」）

● 地域の教科書づくり

移住希望者や都市部の若者の中から選出されたプロジェクトスタッフ 2 名がモデル地区（4 箇所）に一時期暮らしながら、その地域（区・自治会）の住民等からの聞き取りにより、風習や地域ルール、移住・定住のための情報などをとりまとめた「地域の教科書」づくりに取り組んだ。高島市のなかでも様々に異なる風習や文化を持った自治組織ごとに教科書をつくることによって、その地域にとけ込みやすい環境を作ることを目指した。

そして、これは、移住希望者などが地縁型コミュニティに参加してトラブルを起こさず、移住者が定着できるようにするための最低限のマナーを会得することを目的とした教科書でもある。その概要は以下のとおりである。

1 方法

当該取組に協力できる地区を募集し、関係者協議の上で 4 地区を選定した。プロジェクトスタッフ（地域おこし協力隊）が地区住民等からの聞き取り（または実際その地区に住みながら）により、「教科書」を編集する。

2 期間

平成 21 年 9 月～平成 22 年 3 月
実質 5 ヶ月の居住体験の中で調査・取り纏めを行う。

3 検証方法

プロジェクトスタッフが、居住体験や教科書づくりで得た知見は、教科書に掲載するだけでなく、都市部で開催されるイベントにおいての地域紹介など、実践の場での PR 活動を通じて、取組の検証を行う。

その具体的な作業手順は、以下のとおりである。

暗黙のルールとして明文化されていない地域の風習などを聞き取るためには、聞き取り調査を行う若者と地域住民との信頼関係が必要である。2 名の若者は、住民共同での農作業、自治組織の会議、年中行事にも参加し、信頼関係を構築した上で、各住民の自宅を訪問し、地域の文化や風習、移住者への希望等について丁寧な聞き取り調査を行った。

1 現地調査（現場体験）

4 地区のうち 2 地区づつを 2 人のプロジェクトスタッフに担当させ、当該地域で実施される共同作業、会議、年中行事に参加し、調査地域との人間関係や信頼関係を築く努力を行った。

2 現地調査（聞き取り調査）

地域の風習や行事、取り決め、体制等について、地区役員や住民に聞き取り調査を行い、「教科書」に盛り込むソースの収集を行った。

3 体験活動等の検証作業

調査地区における現場体験や聞き取り調査を受けて感じたことや経験を活動報告としてまとめ、都市での定住相談や情報発信を行った。

4 教科書の草稿作成

現地体験や聞き取り調査により収集した情報をもとに、地域の教科書の草稿を作成した。

5 教科書案の現地との調整

教科書案の内容確認や盛り込むべき情報の追加収集のため、中間報告会を開催した。また、地区の集まりの中で概要説明を行うなど、取組みの周知を行うとともに、住民自身が地域について考える機会を設けた。

6 教科書確定版の作成

地域との最終確認作業を終えたものを印刷製本し、地区の各世帯に配布したほか、定住相談窓口の資料や地区に備え置き、移住者向けに配布できるようにした。



地域の教科書づくりにおける「自治組織の暗黙のルールの聞き取り調査」の様子

(資料:国土交通省「平成21年度 地域における人材の受け入れ体制の整備支援モデル調査 報告書」)

聞き取り調査の結果は、読むことでその地域での生活がイメージ出来る分かりやすい冊子体のかたちで編集され、今後、定住相談の窓口での配布や移住希望者向けの説明資料としての活用が期待される。

最終的に取りまとめられた地域の教科書は次のような章立てとなっている。

1. 沿革
2. 気象・気候
3. ○○の一年
 - (1) 自治会の活動
 - (2) 風習・ならわし
 - (3) その他の行事等
4. 日常生活の決りごと (ルール)
5. 自治組織の体制や施設
 - (1) 加入・区民
 - (2) 規約
 - (3) 組織・執行体制
 - (4) 会計・財産
 - (5) 施設・活動基盤
 - (6) その他
6. 歴史・文化資源
7. 活性化に向けた思い
8. その他



これ1冊で地域のことが解かる「地域の教科書」

(資料:国土交通省「平成21年度 地域における人材の受け入れ体制の整備支援モデル調査 報告書」)

● 高島ギャザリング

既存の地域住民、移住者及び移住希望者の人的なネットワーク構築のきっかけづくりと、他にはない暮らしの豊かさ等の魅力について考えて貰う情報源を提供することを目指し、「高島ギャザリング」(下写真)を実施した。



「高島ギャザリング」の会場風景(グループ討議や発表会の様子)

(資料:国土交通省「平成21年度 地域における人材の受け入れ体制の整備支援モデル調査 報告書」)

平成21年度には「高島で暮らす」ことについて話し合う集会を5回シリーズで開催した。各会のテーマと運営方針は次のとおりである。

1 方針

運営に当たっては、次の要素を含めたものとなるよう留意した。

- (1) 在住者、移住者及び移住希望者の人的なネットワーク構築のきっかけづくり
- (2) 「高島はつまらないところ」と地域を後にする市内の若者(及びその家族)に対して、高島の暮らしの豊かさを切り口に、他所にはない魅力や意義について考えてもらえる情報の提供
- (3) まちづくりに参加しているという参加者の役割意識の醸成

2 テーマ

全体の構成としては「豊かな暮らしの高島モデルの探求」を目指し、各回のテーマとして、「仕事」「住まい(環境)」「地域とのかかわり」など定住に係る具体的課題を設定した。

- (1) 仕事について①・・・「農的な暮らしのモデルを創れるか」
- (2) 住まいについて・・・「未来可能な住まいのあり方」
- (3) 地域とのかかわりについて・・・「暮らしと“地域との関係”について考える」
- (4) 仕事について②・・・「高島での仕事について考える」
- (5) (まとめ) 未来可能な地“高島”>豊かな暮らしの高島モデル創造フォーラム

3 参加対象者

参加対象者は以下のとおりとした。

- (1) 市内在住者
- (2) 移住希望者
- (3) 移住してきた人

高島ギャザリングは意見を集約して1つの結論に導くものではなく、あくまでも多様な意見を尊重しながら、新たな発想や考え方の切り口等についての視野を広げるとともに、ネットワーク拡大が図れるような場面づくりに努めている。結果としてテーマごとに話題提供者を核とした小さなネットワーク構築のきっかけが見えてきており、今後の取組みの広がりが期待される。

「地域の教科書づくり」

滋賀県高島市

事業地域

- 滋賀県高島市
- 人口53950人（2005年10月1日現在）5年前に比べ2.8%減少
- 滋賀県北西部、東部は琵琶湖、南西部は大津市・京都府に接する
- 冬の寒さは厳しく、積雪量の多い日本海型気候

事業概要

平成19年度、市役所内に「若者定住促進プロジェクトチーム」を設置し、市の施策として若者定住のための4つの分野、①住宅確保支援、②就労・起業支援、③子育て環境支援、④その他受け入れ支援を実施した。以降、条例策定や地域紹介活動など、若者に焦点を合わせた定住促進を図っている。

2008年 移住実績 3件(7人)

2009年 相談50件

移住実績 5件(11人)

不住家屋 100軒リスト

活用可能 10軒 整備

事業内容

- 地域の教科書づくり
- 高島ギャザリング



若者定住促進策実施への流れ



1. 住宅支援確保

- 平成20年度から仕組みづくりに着手
- 平成21年度に空き家調査を実施
- 宅地建物取引業者との連携による流通の仕組みづくりに取り組む
- 100軒超の不住家屋をターゲットベース化
- 10軒の活用可能家屋を発掘

2. 就労・起業支援

- 若者定住相談員を設置し、就労希望者と市内事業者とのマッチングの役割を担う
- 若者定住相談員設置の効果として、2009年の定住実績は、2008年に比べ1.5倍

3. 子育て環境支援

- 保育料等、子育てに係る負担を軽減した
- 就労環境の改善を目的として病児保育を導入した

重要施策1 地域の教科書づくり
重要施策2 高島ギャザリング

地域の教科書づくり

- 移住希望者や都市部の若者が、一定期間、高島市に居住しながら、区や自治会などの自治組織における地域のルール等を、聞き取り調査により「地域の教科書」として纏める活動
- 高島市のなかでも異なる風習や文化を持った自治組織ごとに教科書を作ることにより、その地域にとけ込みやすい環境を作ることを目指している。

高島ギャザリング

- 高島暮らしに必要な情報を得るとともに、受け入れに必要な人的ネットワークやキーパーソンの発掘を目的として開催される、市内外の若者等による定期的な集会
- 在住者、移住者及び移住希望者の人的ネットワーク構築のきっかけづくりと、高島ならではの暮らしの魅力について話し合いを布教信することを目的としている。

地縁型コミュニティ参加へのマナーの会得

都市住民が地方に移住をした際には、その地域独自の風習、自治組織の暗黙のルールなどを知らぬまま地元住民との間にトラブルを起すことが多い。さらに、そのトラブルが原因となり、地域に溶け込まずに、移住者が定着しないこともある。こうした課題解決の方策の一つが平成21年度に滋賀県高島市で取り組まれている「地域の教科書作り」の活動である。

これは地域おこし協力隊として迎え入れた2名の若者が、約半年間に渡って空き家に滞在しながら、地元住民に聞き取り調査を行い、その結果を「地域の教科書」として取りまとめるものである。

暗黙のルールとして明文化されていない地域の風習などを聞き取るためには、聞き取り調査を行う者と地元住民との信頼関係が必要である。2名の若者は、住民共同での農作業、自治組織の会議、年中行事にも参加し信頼関係を構築した上で、各住民の自宅を訪問し地域の文化や風習、移住者への希望等について丁寧な聞き取り調査を行った。

聞き取り調査の結果は、読むことでその地域での生活がイメージ出来る分かりやすい冊子体の形で編集され、今後定住相談の窓口での配布や移住希望者向けへの説明資料としての活用が期待される。



地域の強化づくりにおける「自治組織の暗黙のルールの聞き取り調査」の様子

テーマ型コミュニティの人的ネットワーク構築

テーマ

- I 農的な暮らしのモデルを考える
- II 空き家による住まいのあり方を考える
- III 暮らしと地域との関係について考える
- IV 高島での仕事について考える
- V 豊かな暮らしの高島モデル創造フォーラム



座敷でのつくろいだ雰囲気の高島ギャザリングの様子

3 日田市大山町

(1) 日田市大山町の地勢



熊本県小国町に隣接し、阿蘇外輪山の北側の中山間地域に位置し、人口 3,646 人（2004 年 10 月 1 日現在）、総面積は 45.72 平方キロメートルの町であったが、2005 年 3 月 22 日に日田郡前津江村、中津江村、上津江村、天瀬町とともに日田市へ編入合併し、現在は「日田市大山町」となっている。

大山町農協は、1960 年代に農家の所得向上を目指して「梅栗植えてハワイに行こう」というユニークなキャッチフレーズで農業改革を実施し全国的に有名になった農協であるが、ここで取り上げる「木の花ガルテン」は、この大山町農協が 1990 年から農産物直売所と農家レストランの運営をはじめ、2007 年度には収益 3 億 3101 万円、費用 2 億 5385 万円で差引 7716 億円の事業利益をあげるに至った事業である。

(2) 木の花ガルテン

大山町農協は、農産物直売所「農産品バザール館」と直営レストラン「オーガニック農園」、「梅蔵物産館」、「きのこレストラン」、「桜カフェ」、「山野草園」などを総称して「木の花ガルテン」と呼んでいる。

このうち、農産物直売所とレストラン経営から、「木の花ガルテン」は出発した。

①直売所の展開

少量多品目の農作物の高付加価値販売により、農家所得の向上を図るため、1990 年大山町東大山（当時）の国道 212 号線沿いに農産物直売所とレストランを開店した。開店当初の出荷農家数は 50 農家ほどであったが、以降、次表のとおり、直売所の多店舗展開を行っている。



年月	出店舗名
1992年	大山店に「梅蔵物産展」を増設 ・梅を使った加工品やクラフトの販売 福岡市に直売所長住店を開店
1993年	福岡市に松坂店を開店
1995年	大分市明野店を開店
2000年	大分市わさだタウン店を開店
2001年	大山店に「農産品バザール館」を増改築
2003年	福岡市に西新店・野間大池店を開店 別府市に鶴見園店を開店
2004年	ひた店を開店
2007年	福岡市に原店を開店 大分市に春日浦店を開店

● 直売所での販売商品

直売所で販売している商品は、米、野菜（トマト、きゅうり、なす、レタス、ニラ、エノキ等）、果物および農家や農協の加工工場で作った加工品（梅干し、漬け物、豆腐、ジャム等）など、常時 450 品目を揃えている。これらの商品には、「瞳は未来へ、大山」というキャッチフレーズが付けられ、ブランド化が進められている。

野菜の栽培には、大山町農協の堆肥工場で製造している「リサイクル有機土壌」を使用し、可能な限り有機無農薬栽培を実施している。

また、出品物には、地元のお婆ちゃんが作った団子、お爺さんが採取した山野草、キノコ、山芋もあり、お年寄りの生き甲斐にもなっている。



● POSシステムの導入

1996年にPOSシステムを導入し、商品販売代金は1週間分を精算して出荷者の口座に振り込まれる。「木の花ガルテン」が受け取る手数料は、販売価格の20%である。

②農家レストランの

大山町農協では、直売所の集客数の確保、販売額の増加、雇用機会の拡大等を期待して、1990年7月に直売所と併設したレストランを開業した。レストランでは、直売所から素材を購入し、入荷作物を確認しながら、地元の主婦や高齢者が



臨機応変に献立を決め、昔ながらの「婆ちゃんの料理」をメニューとして出した。

休日には行列ができるほど集客数が増大したため、2001年4月、50テーブル、130席を有するレストラン「オーガニック農園」を新設した。「オーガニック農園」の料理の素材は、直売所価格の80%で直売所から仕入れるほか、



出荷者からも直接仕入れることにより、地元農産物の使用割合は90~95%を占めている。

また、集客数の増大に対応するため、料理は、毎日70~80品目のバイキング方式で提供されている。メニューは「農家もてなしバイキングコース」のみで、大人（中学生）1365円、65歳以上1260円である、

レストランで食べた野菜や加工品の味が気に入った顧客が、直売所でそれを買求めるという好循環も生まれた。

- Web ショップ「豊後大山産直倶楽部」

「木の花ガルテン」では、インターネット販売である「豊後大山産直倶楽部」を開設し、大山梅しそ漬、梅蜜、還元麦芽糖ジャム、羊羹、柚子蜜やそれらのギフトセットを通信販売している。

- 「木の花ガルテン」の年間販売額

初年度の1990年度の年間販売額は68百万円、1995年度は5億52百万円、2002年度には12億円、2007年度には16億61百万円に上っている。

(3) 地産地消の効果

2005年度過疎地域自立活性化優良事例として総務大臣賞の榮譽に輝いた「木の花ガルテン」等、大山町農協の地産地消活動は、「大分大山町農協の地産地消活動（伊東維年）」によれば、次のような効果があり、その成功要因についても論じられている。

①地産地消活動の効果

地産地消活動の効果を整理すると、次のとおりであるが、経済効果、雇用効果から、生き甲斐創出、最終的には、地域ブランド構築にいたる様々な効果があると考えられている。

効果1	農産物の販路拡大、販売価格の上昇、増産によって、1980年代から1990年代にかけて、町の農業出荷額が伸びたこと
効果2	6次産業化によって農産物の高付加価値化が進み、農業所得が90年代に大幅に上昇したこと
効果3	加工工場の建設、物産館・レストラン・カフェの開店に伴い、雇用機会が増え、農家所得の多様化が図られたこと
効果4	農家所得が上昇し、生産意欲の旺盛な農家が生まれたこと
効果5	消費者ニーズの把握と生産現場への活用が行われるようになったこと
効果6	高齢者や女性に活躍の場、生き甲斐をもたらしていること
効果7	都市と地元住民との交流が活発になり、訪問者数の増加や地元産品の認知度の向上に結びついていること
効果8	視察者の増加により、多大なPR効果が生じていること
効果9	地産地消活動が地元経済を支える重要な柱の一つになっていること

出典 「大分大山町農協の地産地消活動（伊東維年）」

②地産地消活動の成功要因

大山町農協は、少量多品目という大山町の特徴を活かした農産物の高付加価値化を図るため、直売所とレストランを同時に開設し、市場を九州域内とする積極的な地産地消活動により、大きな成功を収めてきたが、その成功には次のような要因が考えられている。

成功要因1	<p>多品目栽培・少量生産方式</p> <p>直売所での豊富な品揃え、多様な加工品づくり、レストランにおけるバイキング料理、キノコレストランという特徴あるレストランの開店に結実している。</p>
成功要因2	<p>習慣づけ学習・体験学習</p> <p>地域社会の連帯感と地元への愛着心の醸成という習慣づけ学習が農協の組合員・地元住民の協力を繋いでいる。</p> <p>体験学習を通じて、加工品づくりによる高付加価値化の重要性と数々の加工品づくりのヒント・方法を会得してきた。</p>

成功要因 3	<p>地元の高齢者の活躍</p> <p>高齢者が直売所に出品したり、レストランのシェフとして昔ながらの味、農家もてなし料理を作って貢献している。</p>
成功要因 4	<p>オーガニック（有機無農薬）の推進</p> <p>農産物・食品の消費者には、「オーガニック」製品への嗜好が広がっており、朝取りで新鮮・安全な多品目の農産物が直売所の店頭に並ぶことにより高収益が得られている。</p>
成功要因 5	<p>ブランド化</p> <p>大山町は、大分県の「一村一品運動」の先駆けとしての知名度を利用してブランド化を図るとともに、オーガニックへの先進的な取り組みにより、ブランドを構築してきた。</p>
成功要因 6	<p>加工事業に外商担当を置いたこと</p> <p>外商担当者により、九州一円に加工品の販売先が開拓されるとともに、加工品の受託製造も行われるようになり、収益を高めていった。</p>
成功要因 7	<p>店舗数の増加</p> <p>地元直売所とレストランを開店したのを出発点として、多店舗展開を図り、この相乗効果として、「木の花ガルテン」の売上高を伸ばすことに繋がっている。</p>
成功要因 8	<p>直売所とレストランの併設による相乗効果</p> <p>「買ったものを食べてみる」、「食べたあとで、買って帰る」という直売所とレストランの併設による相乗効果が働いていることである。</p>
成功要因 9	<p>国道 212 号線沿いという恵まれた立地条件</p> <p>「木の花ガルテン」は、国道 212 号線沿いにあり、福岡県など九州北部地域から黒川温泉、阿蘇、九重といった観光地の通過点となっているため、来客の 60～70%が福岡県からである。</p>
成功要因 10	<p>他地域との交流</p> <p>大山町農協では 4 年に 1 回の「全国梅干コンクール」をはじめ、梅ちぎり・李ちぎり・キノコ狩りツアーを催すなど市場関係者や生協の組合員と交流会を行っているが、これが来客数の増加や知名度の向上に繋がっている。</p>
成功要因 11	<p>POS システムの導入</p> <p>直売所の顧客の買上動向やレストランの来客の動向を把握し、農産物の品揃えやレストランのシルバーデー等の工夫に結びついている。</p>
成功要因 12	<p>スローフードの流行</p> <p>レストランの来客の 8 割以上が女性であり、スローフードの流行も一役を買っていると考えられる。</p>
成功要因 13	<p>大山町の支援</p> <p>苗木の購入費の助成、農協の加工工場の建設、それに付帯する冷凍・冷蔵施設、汚水処理施設の建設等に対し、大山町は助成を行っている。</p>

事業地域

- 大分県日田市大山町
- 人口3540人 1022世帯 (2008年3月末現在)
- 大分県の山間にあり、阿蘇外輪山の北側の中山間地域
- 九州北部の都市圏から車で約2時間
- 「五反百姓」と呼ばれるほど狭小の耕地
- 6歳にも及ばない低生産水稲

事業概要

- オーガニック農園
地元完熟野菜を素材にした100種のもてなし料理をバイキング形式で提供するレストラン
- 農産品直売所
多品種の旬な地元農産物や直営農産物加工工場で作り上げた加工品の直売所

2007年 販売額16億円 出荷農家3213人

事業理念

- 特産品がないから、手間暇かけてでも多品種の農産物を栽培する
- 加工による高付加価値化しか収入を得る道はない

事業推移

- 1960年 大山町の1世帯当りの平均収入19万円(県民の3分の2未満)
- 1961年 第1次「新しい梅栗運動」の推進
- 1966年 第2次「新しい梅栗運動」の推進
- 1966年 「桃栗種えてハワイに行こう」
- 1969年 第3次「新しい梅栗運動」の推進
- 1972年 スモモとブドウの栽培促進
- 1973年 無農薬の導入
- 1974年 加工用イチゴ栽培の開始
- 1975年 ジャム加工のスタート
- 1989年 エノキ栽培の導入(1983年売上高10億円突破)
- 1990年 農産物処理加工施設を新築(多品目栽培)
- 1992年 レストラン併設農産物直売所をオープン
- 1992年 梅蔵物産館を増設
- 2001年 農産品ハザール館開設
- 2001年 オーガニック農園開設

取組内容－1. オーガニック農園



農家もてなしバイキング料理
その時期に採れた旬の野菜や山菜を使った料理が毎日70
～80種類並ぶ



50テーブル、130席、メニューは年間150～180に及ぶ
(大人135円 シルバー1260円)



料理をつくるのは、すべて地元農家のお母さんたち
有名シェフを呼んだけりはしない。レシビもなく、味付けはベテラン主婦が加減、分量とカンで行う

取組内容-1 オーガニック農園



大皿に好きなだけとっていた
だくバイキング形式



ゆで卵・きのこ・季節の野菜
サラダ・大根サラダ・梅肉ド
レッシング・和風ドレッシング



いちご・すもも、ブドウ・梨・
柿・あけび・山桃・いちじく



タケノコの煮物・里芋の煮物・
フキの煮物・ゼンマイの煮物



よもぎパン・ハンプパン・芋パ
イ・リンゴパイ・いちごジャム・
梅ジャム・プラムジャム



鶏の唐揚げ・きのこのかき揚
げ・季節の野菜の天ぷら・タ
ラの芽の天ぷら・紫蘇の天ぷ
ら・ハーブの天ぷら



ごま豆腐・刺身こんにやく



きのこのバス・タ・きのこの炒
め物・きのこの佃煮・おでん・
田楽・ふるふるき大根



大豆の五目煮・うずら豆の煮
物・紫花豆の煮物

取組内容-2 農産物直売所



一番美味しい時期に保存処理し、直
営農産物加工工場で商品をつくる



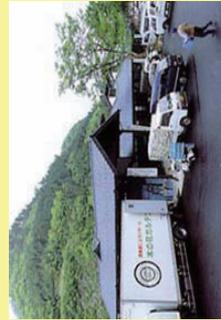
ものづくりの楽しさが集結した店内



農園のみずみずしさをそっくりパッ
ケージした加工品



農家が自分で考えて作ったパッケージ



多品種を少量ずつ販売する直売所



野菜・山菜・加工品があふれる直売所



旬の農産品がところ狭しと並ぶ



早朝から家庭菜園で収穫した農産品
を持ち込む

4 北海道鹿追町

(1) 北海道鹿追町の地勢



北海道鹿追町は十勝平野の北西端に位置する、その南部に広大な平野が広がる畑作地帯である。そして、大雪山国立公園の南端に位置する然別湖を有する。

然別湖は周辺を 1,000m 級の山々に囲まれた山間の湖で、その北岸に注ぐヤンベツ川が主な流入河川となっている。この地域は自然公園法に基づく第一種保護区域に指定されている為、新たな開発行為が認められておらず、国立公園指定時以来、天然の状態が保たれていることから野生生物も数多く生息している。また、サケ科イワナ属

の淡水魚で、この湖に陸封されることで固有種となったオショロコマの亜種（または別亜種）であるミヤベイワナ（北海道の天然記念物に指定）が生息している。

(2) (株) 北海道ネイチャーセンター

株式会社北海道ネイチャーセンターは、平成 10 年、地元資本ホテルが通年の誘客対策のために、この地域の雄大な自然を活かした体験型観光事業を行う子会社として設立した。

その当時は、全国で初めて体験型観光サービスを提供する団体として法人化されたが、現在では、北海道にとどまらず全国を代表する体験型観光事業者にまで成長し、旅行業界に不慣れな体験型観光事業者をリードしながら、地域を上げての体験型観光振興に注力。インバウンド誘致も積極的に行い、提案型営業、業界団体の事務局の引き受け、域内事業者のネットワーク化等を進めている。

①事業の概要

然別湖畔にある施設「しかりべつ湖ネイチャーセンター」を中心に、雄大な自然を活かした自然ガイド事業、体験型教育プログラムなどの自主事業に加え、官公庁からの受託業務（キャンプ場管理、エリア清掃管理、生態調査など）、旅行会社・広告代理店からの企画請負、短期大学のアウトドアビジネスコースの運営（カリキュラム策定、講師派遣など）などの事業を実施している。

②事業の成果

事業開始当初は集客に苦勞したが、体験型修学旅行の受注を転機に体験者の口コミによって東京や大阪など都市圏からの受注が増え、現在では年間 100 校程度を受け入れるまでに成長している。個人ツアー客は 30 代・40 代を中心とした女性が多く、海外客も全体の約 1 割以上を占めている。近年では台湾の有力財閥である統一企業グループと業務提携し、台湾からの集客が増加している。また、雪と氷に覆われる冬季の集客を増やすために取り組みを開始した町内の冬祭り「然別湖コタン」は、平成 22 年度で 30 年目を迎え、町民向

けの小さな祭りから期間中2万5千人以上を集客する一大イベントに成長している。

このような事業成功に刺激を受けた地元農家が体験型観光サービスを展開。これら農家とネットワーク化を図り、地域での総合的な体験メニューの提供を進めている。

③事業の特徴

● 超一級の大自然を活かした豊富な体験メニュー

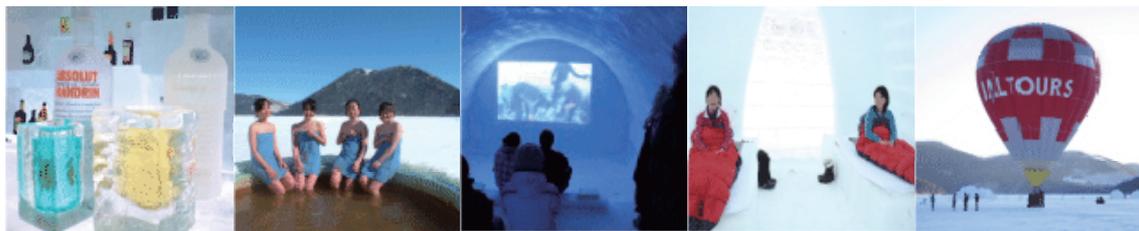
国立公園として指定され、原始のまま残っている自然を活かし、夏季はカナディアンカヌーやフィッシング、冬季は「然別コタン」に設置されたイグルーと呼ばれる氷の家での体験などが楽しめる。

体験メニュー例

【夏季】(原始のまま残っている大自然を活かした様々な体験メニューを提供)

メニュー	開始時間と備考	所要時間	料金(税込み)	予約締切	集合場所	最小催行人数	
1 カナディアンカヌー (3歳未満のお子様・妊婦は不可)	A:6:00(然別湖のホテルにご宿泊の方) B:8:30/10:30/13:30/15:30	1時間半	大人:3,150円 小学生:2,100円	A:前日 B:当日	A:ホテルロビー A以外 ネイチャーセンター	1名	
	17:00(7、8月のみ)	1時間	大人:2,500円 小学生:1,500円	当日			
2 シーカヤック (身長140cm以上 体重120kg以下 の方)	① 2時間コース	9:00/14:00	2時間	1人 4,500円	当日	A:ホテルロビー A以外 ネイチャーセンター	
	② 東雲湖コース	C:8:00 D:13:00(9月15日以降12:30~)	4時間	1人 6,300円	C:前日 D:当日		
	③ ランチ付きコース	10:00	4時間	1人 8,500円	3日前		
3 ナイトウォッチング	20:00(然別湖のホテルにご宿泊の方)	1時間	大人:1,800円 小学生:1,500円	当日 18:00まで	ホテルロビー	1名	
4 ガイドウォーク	① 朝の森	6:00(然別湖のホテルにご宿泊の方)	1時間半	大人:2,500円 小学生:1,500円	前日	ホテルロビー	
	② 森と水辺	9:00/13:00	2時間	大人:2,800円 小学生:1,890円	当日	北岸野営場	
5 リバーウォッチング (身長140cm以上で靴22cm以上の方)	9:00/13:00	2時間	大人:3,150円 小学生:2,800円	当日	北岸野営場	1名	
6 手作り体験	① 立体塗り絵(ストラップ)	9:00~17:00 随時受付	30分~1時間	1人 1,000円	当日	ネイチャーセンター	1名
7 フィッシング 渓流祭り	入門編靴(22cm以上の方) 鹿追自然ランド周辺の川	8:30/14:00 釣れた魚は調理して試食します	3時間半	1人 6,000円	前日	自然ランド レストハウス	2名
8 熱気球フリーフライト (3歳未満のお子様・妊婦は参加不可)	6、7月 5:00 8、9、10月 5:30 道の駅うりまく集合	3時間半	大人:16,000円 高校生以下:10,000円	3日前	天候により判断	2名	
9 アウトドア クッキング	① ダッチオーブンで作る チキンチーズグリル	11:00 パンとスープ付き	2時間	1人 2,500円	3日前	北岸野営場 又は 鹿追自然ランド	
	② ダッチオーブンで作る 野菜たっぷり丸ごと蒸し鳥	11:00 パンとスープ付き(3~4人分)	2時間	1鍋 5,000円	3日前		
10 Air Trip(エア・トリップ) (身長130cm以上、小学校4年生以上の方)	9:00/12:30/15:00 (10月は10:00/14:00)	2時間	1人 4,500円	前日	自然ランド	2名	

【冬季】(冬季イベントを活用することで季節変動の少ない集客対策を実現)



アイスバー

氷上露天風呂

アイスシアター

アイスロッジ

熱気球



クロスカントリースキー

森の散歩

ナイトウォッチング

氷のグラス作り

スノーモービル

(資料:しかりべつ湖ネイチャーセンターHP)

● 先進的戦略性

一貫した提案型営業の一つとして、大阪府の私立高校に2年間かけて直接営業し、国内初となる体験型修学旅行を受け入れた。これは会社設立から6、7年目のことで、この体験型修学旅行に参加した高校生の体験が口コミで関西圏に広がり、旅行代理店へとつながった。また、国内だけではなく海外からの利用者も増やすため、海外にも営業を行っており、近年では台湾の有力財閥である統一企業グループと業務提携し、台湾からの集客が増加している。



体験型修学旅行の草分け

(資料:しかりべつ湖ネイチャーセンターHP)

● クオリティの高い専門ガイドの育成

体験型観光サービスの提供には、訓練された専門ガイドによる丁寧な指導・誘導にもとづく安心なサービス提供が不可欠であるとの考えから、専門ガイドの育成を重視している。道外・海外を含む実地研修を定期的に行う。社員のレベルアップに注力し、高品質のサービス提供につなげている。山や自然の生態系に詳しく、何を聞かれても専門的に、明確に答えることで顧客満足度を高めることができる。



また、アウトドアのガイドは覚えなくてはならないことが多いため、育成には時間がかかることから正社員としてガイドを採用し、オフシーズンなどを勉強の時間に充てて長いスパンで人材を育成した結果、旅行代理店や顧客から他社と比較してガイドの質が非常に高いという評価を得ている。

カヌーのガイドは経歴5年以上、年間100時間以上出動のベテラン

(資料:しかりべつ湖ネイチャーセンターHP)

● 関係団体などとの多面的連携関係の構築

然別湖畔にある2つのホテルと連携し、体験メニューを希望するホテル滞在者の申込みをホテルと会社のどちらでも受付可能な体制を整えている。体験料金はホテルでまとめて支払え、利用者の利便性を高める工夫がなされている。

冬季に開催される「然別湖コタン」では、大手旅行代理店の協賛を得ており（この大手旅行代理店経由で集客の多数は占められており）、安定した集客イベントにつながっている。

また、周囲の小規模な体験型観光事業者に対して自立支援を実施したり、農家など慣れない地元関係者などと人材やノウハウを共有しながら受け入れ基盤を整えたり、同業者ネットワークを形成して団体客受け入れ機会を拡大するなど、地域全体としての取組み拡大に向けた連携を行っている。

- **強いリーダーシップの存在**

同社の代表である坂本昌彦氏は大手リゾートホテルを経て地元資本のホテルの営業部長として入社。同ホテルでは通年の誘客対策が求められていたことから、体験型観光に係るビジネスプランを同ホテルの経営トップに具申し、子会社を設立して事業化した。海外視察などを通じて学んだ季節変動の少ない集客対策としての事業企画力を活かし、環境変化による課題に対応した事業経営を推進する一方で、短大講師や体験型観光の業界団体の先導役を務めるなど、北海道内の体験型観光全体の質の向上に努めている。

- **多様な収益源の確保**

以上のような取組みに対して、少子化の進展や修学旅行の海外シフトなど体験型観光を取り巻く事業環境の変化を背景とした課題もあることから、修学旅行など団体客の誘致や冬季のイベントにより季節変動の少ない集客対策を実現するだけでなく、官公庁や自治体からのキャンプ場管理・環境アセスメント調査などの受託事業、総合学習の企画・受託・講師派遣事業、旅行代理店への体験型観光プログラムの企画提案、大学のアウトドアビジネスコースのカリキュラム作成・講師派遣事業、体験型観光のコンサルティング事業等の「知恵を売るビジネス」など、経営安定化に向けた多様な収益源の確保を見据えながら、新たな事業展開を図っている。



自治体から受託した環境保全活動や清掃活動を実施

(資料:しかりべつ湖ネイチャーセンターHP)

「地域一体となった体験型観光振興」 北海道鹿追町

事業地域

- 北海道鹿追町
- 人口5647人（2011年1月31日現在） 1961年 10778人をピークに減少
- 十勝平野の北西端に位置する畑作地帯
- 大雪山国立公園の南端に位置する然別湖を有する

事業概要

全国で初めて体験型観光サービスを提供する団体として法人化された(株)北海道ネイチャーセンターは、雄大な自然を活かした自然ガイド事業、体験型教育プログラムなどの自主事業に加え、官公庁からの受託業務などの事業を展開し、通年での集客を実現。質の高いサービスを提供する日本を代表する体験型観光事業者へと成長し、成果をあげている。

2004年度利用者数 28115人

売上高9300万円(2005年5月期)

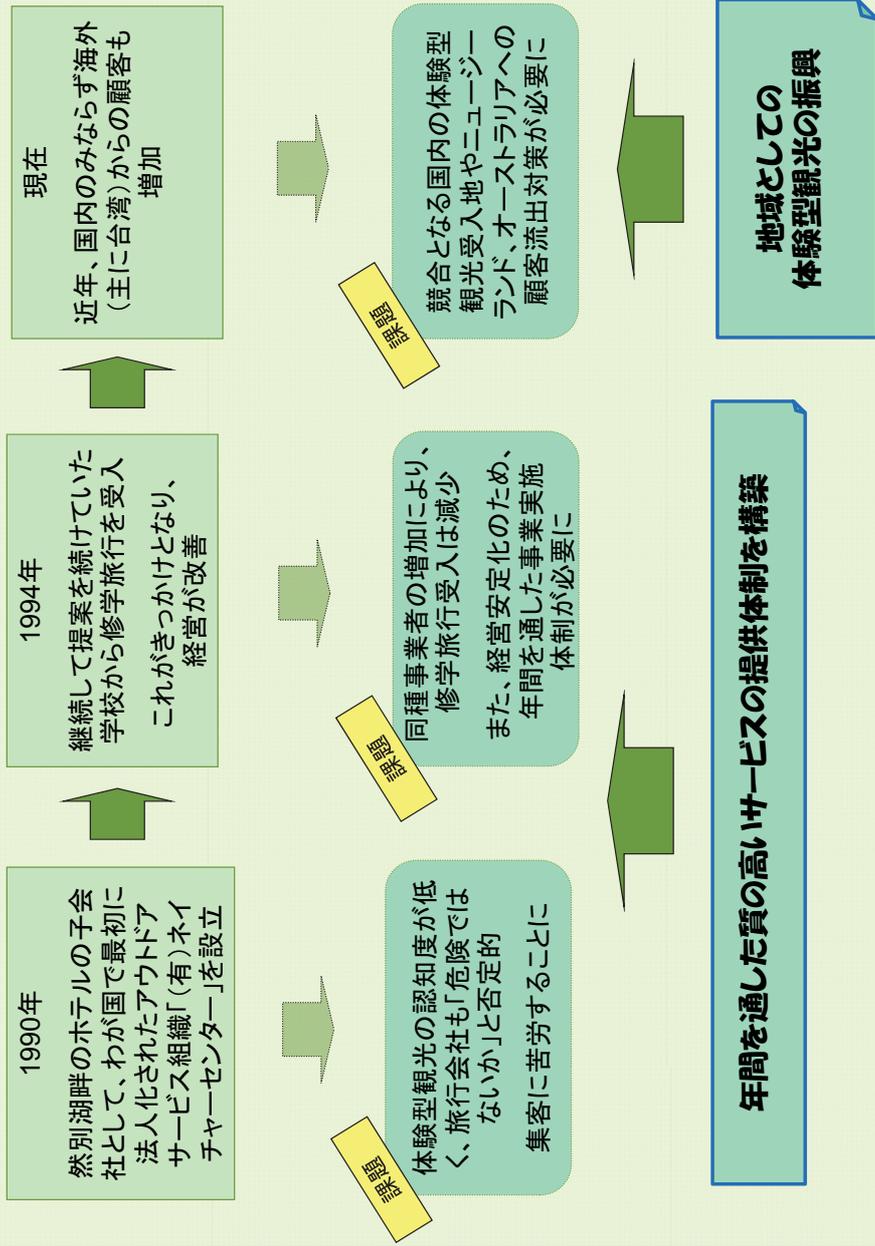
事業内容

- 年間を通じた質の高いサービスの提供
- 地域としての体験型観光の振興



カヌーのガイドは経歴5年以上、年間100時間以上出動のベテラン

地域が一体となった体験型観光への流れ



年間を通した質の高いサービスの提供体制を構築

- 冬季イベントを活用することで季節変動の少ない集客対策を実現。
- 体験型観光に止まらず多様な事業を実施し、経営の安定化を図る。
- 上記の取組みによりスタッフの通年雇用を実現し、確かなスキルを持った優秀な人材を確保。旅行会社や顧客から信頼されるサービスを提供している。

通年雇用の実現と質の高いサービスの提供により 経営の安定化を図る

経営の安定化には、季節変動の少ない事業展開が必要となる。また、体験型観光サービス、特に危険を伴う可能性のあるアウトドアアクティビティの提供には、訓練された専門ガイドによる丁寧な指導・誘導にもとづく安心なサービス提供が不可欠である。そこで冬季イベントを活用した集客や体験型観光に止まらない事業を実施し、スタッフの通年雇用を実現。ガイドはオフシーズンなどを勉強の時間に充てて長いスパンで人材を育成する体制をとっている。

冬季イベントは、かつては1日に200人程度の集客であった町内の冬祭りを「然別湖コタン」として本格的に観光客を受け入れるため、海外の取組などを参考に内容を検討。現在では期間中に2万5000人を集める一大イベントに成長させた。

体験型観光事業以外では、官公庁や自治体からのキャンプ場管理・環境アセスメント調査などの受託事業、総合学習の企画・委託・講師派遣事業などを実施した結果、こうした体験型観光事業以外の収入が全体の6割を占めるまでになり、更なる人材の定着に貢献している。



雪に覆われる「然別湖コタン」での体験メニュー

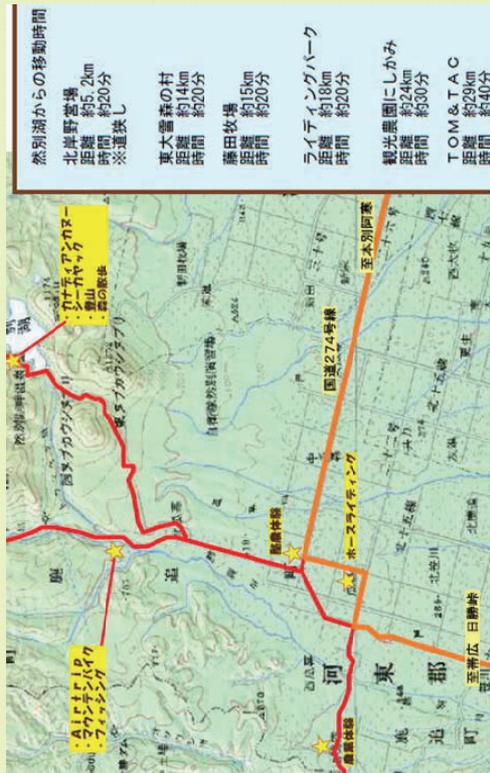
地域としての体験型観光の振興

- 体験型観光の認知度が向上し、類似の取組団体が増えるに従って、北海道ネイチャーセンターの体験受入数は減少。
- 近年、主に台湾からの観光客が増加しているが、より受入態勢の整ったニューオーランドやオーストラリアへの流出が懸念された。
- 北海道ネイチャーセンターだけの取組に止まらず、地域としての受入態勢の更なるレベルアップが急務であり、北海道ネイチャーセンターのリーダーシップのもと、民間活力を中心とした体験型観光振興が展開されている。

地域で総合的な体験型観光メニューを提供できる体制を整備

体験型観光の先駆者である同社だが、競合事業者が多数出現したことや、海外からの観光客の受入のため、更なる受入態勢の整備が必要であった。

地域では、同社の成功に刺激され、体験型観光に取り組みたいという意欲を持った人が増加。そこで周囲の小規模な体験型観光事業者に対して自立支援を実施したり、農家など不慣れな地元関係者などと人材やノウハウを共有しながら受入基盤を整えたり、同業者のネットワークを形成して団体客の受入機会を拡大するなど、地域全体としての取組み拡大に向けた連携を行っている。



周辺農家などと連携して受入を実施

5 コラム（参考）

（1）農家による宿泊サービス等の関係法令（開業のためのQ&A）

農家が宿泊サービス等のツーリズム事業を始めるには、人を宿泊させようとする場合に
関係してくる「旅館業法」、食事を提供しようとする場合の
「食品衛生法」、民宿としての施設を整備しようとする場合
の「建築基準法」や「消防法」など様々な法律が関係して
きます。また、どのような事業とするかによって必要な許
認可等の手続きが異なります。

このコラムでは、Q&A方式により、下表の網掛けをした
法律に関係する4つの事例を分かりやすく紹介します。



規制緩和で農家民宿は手軽に開設できるようになりました

（資料：長野県農業政策課HP）

農家民宿の開業に関する主な法令

区分	法律名	農家民宿との関係	
総合	農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律	規制緩和措置を受けるためには、農家民宿に該当するかどうか確認する必要があります。	→Q1
土地	自然公園法	自然公園の区域内に新築・改築・増築をする場合は、許可又は届出が必要となります。	
	都市計画法	農家民宿の営業ができる場所か、確認が必要です。	
	農業振興地域の整備に関する法律（農振法）	農用地区域内に新築する場合は除外が必要です。	
	農地法	農地に新築する場合は転用許可が必要となります。	
施設・設備	建築基準法	農家民宿として新築・増築・改築又は移転する場合は建築確認が必要です（一定の条件を満たせば一部規制の対象となりません）。	→Q2
	消防法	防火対象物として適合しているかの確認及び消防設備等の設置が必要です（一定の条件を満たせば一部規制の対象となりません）。	→Q2
	下水道法	公共下水道に新たに接続する場合は届出が必要です。	
	浄化槽法	新築やくみ取り便所の改造により、浄化槽を設置しようとする場合は届出が必要となります。	
	水質汚濁防止法	公共用水域に排水を排出し、厨房・入浴施設・洗濯施設や一定規模以上の浄化槽を設置する場合は届出や許可が必要です。	
営業	旅館業法	農家民宿を営業するための営業許可が必要です。	→Q2
	食品衛生法	宿泊客に食事を提供する場合は営業許可が必要（自炊や修学旅行などで共同調理する場合は不要）です。	→Q3
その他	道路運送法	農家民宿が宿泊サービスの一環として行う送迎輸送は許可は不要です。	
	旅行業法	農家民宿がグリーン・ツーリズムの企画（体験ツアーなど）を販売する場合、ツアー主催者が自ら行う販売・広告は旅行業法の対象になりません。	

1 質問

農家が宿泊サービス等の事業をすることができると聞きました。具体的に、どのようなサービスを提供することができるのでしょうか？

2 回答

主として都市の住民に対して、農林漁業に関する作業体験、農林水産物の加工又は調理体験、農山漁村の生活及び文化に触れる体験やその知識を与えるサービス等を提供できる宿泊施設のことを「農林漁業体験民宿業」と言います。これらの事業を農家が営む場合のことを一般的に「農家民宿」と呼びます。ご質問の「農家が提供する宿泊サービス等の事業」とはこの農家民宿のことを指します。

そこで提供できるサービスは上記のとおりですが、余暇法施行規則に定められた農村滞在型余暇活動に必要な役務であることが必要です。

なお、経営者が農家でなくても、農林漁業体験民宿業を営むことはできますが、旅館業法等における規制緩和の対象となるのは、あくまで農家が経営する場合に限られます。



農業体験などのサービスが提供できます

（資料：長野県農業政策課HP）

（参考）法律等の規定 ～関連する条文等と趣旨～

①農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律（余暇法）第2条5項

（条文）

この法律において「農林漁業体験民宿業」とは、施設を設けて人を宿泊させ、農林水産省令で定める農村滞在型余暇活動又は山村・漁村滞在型余暇活動（以下「農山漁村滞在型余暇活動」という。）に必要な役務を提供する営業をいう。

（趣旨）

余暇法において、農村滞在型余暇活動とは、主として都市住民が余暇を利用して農村に滞在しつつ行う農作業の体験その他農業に対する理解を深めるための活動をいい、施設を設けて人を宿泊させ、農村滞在型余暇活動に必要な役務を提供するサービスを農林漁業体験民宿業といいます。

②農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律（余暇法）施行規則 第2条（抄）

（条文）

法第二条第五項の農林水産省令で定める農村滞在型余暇活動に必要な役務は、次に掲げる役務とする。

- 一 農村滞在型余暇活動に必要な次に掲げる役務
 - イ 農作業の体験の指導
 - ロ 農産物の加工又は調理の体験の指導
 - ハ 地域の農業又は農村の生活及び文化に関する知識の付与

（趣旨）

農村滞在型余暇活動に必要な役務の具体例は以下（例示）のとおりです。

- イ 農作業の体験の指導：田植え、稲刈り、いも堀り、リンゴの摘果、野菜の収穫等の指導
- ロ 農産物の加工又は調理の体験の指導：手打ち蕎麦、野沢菜漬け、おやきづくり等の指導
- ハ 地域の農業又は農村の生活及び文化に関する知識の付与：和紙すき、機織り、雪かき、お祭り等に関する知識の付与

1 質問

農家が宿泊サービス等の事業をするためにはどんな準備が必要ですか？

2 回答

農家民宿を開業するに当たっては、人を宿泊させようとする場合に関係してくる「旅館業法」、民宿としての施設を整備しようとする場合の「建築基準法」や「消防法」などの様々な法律が関係してきます。これらの法律に基づく手続きや改装などの工事にかかる経費を考えた場合、農林漁業を営みながら副業的に取り組みやすい宿泊施設とは、旅館業法の「簡易宿所」に区分される小規模な宿泊施設です。

農家民宿については、「簡易宿所」の営業許可に関して客室面積の規制が緩和されていますので、例えば客室が8畳間の1部屋だけであっても開業が可能です。ほぼ既存の住宅そのままで営業許可が受けられる場合もあります。

また、一定の条件を満たせば、建築基準法上必要となる新たな内装制限が適用されなかったり、地元の消防長又は消防署長の判断により、消防法上義務付けられている誘導灯及び誘導標識、火災報知機といった消防用設備の設置が不要とされたりします。しかし、個々のケースで異なることがありますので、相談窓口（保健所、地方事務所、消防署など）に相談してください。



農家民宿には規制緩和による様々な特例があります

(資料:長野県農業政策課HP)

(参考) 法律等の規定 ～関連する条文等と趣旨～

①旅館業法 第2条(抄)

(条文)

この法律で「旅館業」とは、ホテル営業、旅館営業、簡易宿所営業及び下宿営業をいう。…この法律で「宿泊」とは、寝具を使用して前各項の施設を利用することをいう。

(趣旨)

旅館業とは、人を特定するしないにかかわらず、宿泊料を受けて寝具を使用して宿泊させることを繰り返して行う営業のことをいいます。

②旅館業法施行令 第1条(抄)・第2条(抄)

(条文)

旅館業法第三条第二項の規定によるホテル営業の施設の構造設備の基準は、次のとおりとする。

- 一 客室の数は、十室以上であること。
- 二 洋式の構造設備による客室は、次の要件を満たすものであること。
 - イ 一客室の床面積は、九平方メートル以上であること。
 - ロ ……

ホテル営業、旅館営業又は簡易宿所営業の施設のうち、季節的に利用されるもの、交通が著しく不便な地域にあるものその他特別の事情があるものであつて、厚生労働省令で定めるものについては、前条第一項から第三項までに定める基準に関して、厚生労働省令で必要な特例を定めることができる。

(趣旨)

旅館業はホテル、旅館、簡易宿所、下宿に分類されますが、いわゆる民宿の営業許可は旅館と簡易宿所があります。各施設の構造設備の基準（一部）については以下のとおりですが、厚生労働省令で特例を定めることができるものとされています。

項目	ホテル	旅館	簡易宿所
定義	洋式の構造設備を主とする施設	和式の構造設備を主とする施設	宿泊する場所を多人数で共用する構造設備を主とする施設
客室の数	10室以上	5室以上	—
客室の床面積	洋式：1客室 9㎡以上 和式：1客室 7㎡以上		客室の延床面積33㎡以上
定員	洋式：宿泊床面積4.5㎡に1人 和式：宿泊床面積3.3㎡に1人		宿泊床面積2.5㎡に1人
玄関帳場など	宿泊者との面接に適するものであること		—
浴室	洋式浴室又はシャワー室を有すること	近接して公衆浴場があり、入浴に支障をきたさない場合を除き、適当な規模の入浴施設を有すること	

③旅館業法施行規則 第5条（抄）

(条文)

旅館業法施行令第二条に規定する施設は、次のとおりとする。

一

四 農林漁業者が農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律 第二条第五項に規定する農林漁業体験民宿業を営む施設

2 次の表の上欄に掲げる施設については、同表の下欄に掲げる基準は、適用しない。

前項第四号に掲げる施設
令第一条第三項第一号の基準

(趣旨)

簡易宿所については、客室の延床面積が33㎡以上ないと営業許可を受けられないことになっていますが、農家民宿に限り、客室延床面積が33㎡未満であっても許可を受けられることになりました。

④農家民宿等に係る建築基準法上の取扱いについて（技術的助言）（国住指第2496号 国土交通省住宅局建築指導課長通知）（抄）

(条文)

住宅の一部を農家民宿等として利用するもののうち、客室の床面積の合計が33㎡未満であって、各客室から直接外部に容易に避難できる等避難上支障がないと認められる建築物については、. . . 建築基準法上旅館に該当しないものとして取り扱われたい。

(趣旨)

農家民宿について、小規模（客室の延床面積33㎡未満）で避難上支障がなければ、建築基準法上必要となる新たな内装制限は適用しないことを明確化しました。

⑤農家民宿に対する消防用設備等の技術上の基準の特例の適用について（消防予第234号 消防庁予防課長通知）（抄）

(条文)

1 「誘導灯」及び「誘導標識」について

農家民宿等の避難階において、以下. . . の条件のすべてに該当する場合には、. . . 当該避難階における誘導灯及び誘導標識の設置を要しないものとする。

2 「消防機関へ通知する火災報知設備」について

. . . 農家民宿等において、以下. . . の条件のすべてに該当する場合には、. . . 当該農家民宿等における消防機関へ通報する火災報知設備の設置を要しないものとする。

(趣旨)

農家民宿について、地元の消防長又は消防署長の判断により、消防法上義務付けられている誘導灯及び誘導標識、火災報知機といった消防用設備の設置が不要とされました。

1 質問

農家が普段作っている手料理を宿泊客に提供するにはどんな準備が必要ですか？

2 回答

農家民宿で食事の提供を行う場合は、食品衛生法上の「飲食店営業許可」を受ける必要があります。

また、家庭の台所を調理室(厨房)として利用する場合、長野県では「シンクは2つで可」などの独自の規制緩和がありますが、調理をする場所と食事をする場所は区分されていること、専用の手指洗浄設備があることは求められていますので留意が必要です。

ただし、宿泊客自らが農家等の台所を借りて調理等を行い飲食する場合や、宿泊客自らが飲食物を農家と一緒に調理し飲食する場合は、飲食店営業許可は不要となります。



共同調理する場合は許可は不要になります

(資料:長野県農業政策課HP)

(参考) 法律等の規定 ～関連する条文等と趣旨～

①食品衛生法 第51条・第52条

(条文)

都道府県は、飲食店営業その他公衆衛生に与える影響が著しい営業であつて、政令で定めるものの施設につき、条例で、業種別に、公衆衛生の見地から必要な基準を定めなければならない。
前条に規定する営業を営もうとする者は、厚生労働省令で定めるところにより、都道府県知事の許可を受けなければならない。

(趣旨)

農家民宿で食事の提供をする場合には、旅館業法の営業許可とは別に、食品衛生法の飲食店としての営業許可も必要となります。

②食品衛生法施行令 第35条(抄)

(条文)

法第五十一条の規定により都道府県が施設についての基準を定めるべき営業は、次のとおりとする。
一 飲食店営業(・・・)

(趣旨)

飲食店営業の施設についての基準は都道府県(長野県)が定めることとされています。

③食品衛生法に基づく営業の施設についての基準等に関する条例第1条(長野県条例第58号)

(趣旨)

飲食店が公衆衛生上講ずべき措置の基準、当該施設についての基準を都道府県(長野県)が定めています。

④飲食店営業及び喫茶店営業における営業の施設の基準の取扱いについて(17食環第272号長野県衛生部長通知)(抄)

(趣旨)

(長野県独自の規制緩和として)以前は食品洗浄設備とは別に、器具容器洗浄設備、器具容器消毒設備の3つのシンクが必要でしたが、これにより器具洗浄・消毒設備として共用が可能となりました(2つのシンクで良い)。また、消毒効果が認められる自動食器洗浄機については、器具洗浄・消毒設備として認められることとなりました。

農家による宿泊サービス等の開業に関するQ & A (Q 4)

1 質問

提供する宿泊サービス等で事故が起こった場合に備えて、どんな保険に入っておくべきですか？

2 回答

宿泊中の怪我や食中毒などによる宿泊客に対する補償、火災や災害による損害などに対処するため保険の加入を検討する必要があります。また、体験メニューを提供する場合、レクリエーション保険の加入も必要です。

補償の内容については、公的な共済から民間の損害保険会社まで、多様な商品があり、それぞれのサービス等の特性に応じて保険設計することが大切です。

なお、(財)都市農山漁村交流活性化機構では、旅館賠償責任保険・参加者傷害保険・指導者賠償責任保険を組み合わせた「グリーン・ツーリズム総合補償制度」が用意されています。



不測の事態に備えて保険に加入しましょう
(資料:長野県農業政策課HP)

【農家民宿・体験指導者が加入する保険(例)】

対象	内容	保険商品(例)
宿泊・体験施設内での事故や災害	施設事故 (例) 施設の欠陥により宿泊客がけがをした、失火で宿泊客が死傷したなど	<ul style="list-style-type: none"> ・農林漁家民泊賠償責任保険 ・登録体験民宿賠償責任保険 ・民宿賠償責任保険 ・旅館賠償責任保険 ・ファームステイ保険
	生産物事故 (例) 提供した食事が原因で食中毒が発生したなど	
	保管物事故 (例) 客室の宿泊客の品物が盗難にあったなど	
屋外での事故や災害	対人・物賠償 (例) 誤った指導で体験者がけがをしたなど	<ul style="list-style-type: none"> ・体験指導者賠償責任保険 ・認定グリーン・ツーリズムインストラクター賠償責任保険

【宿泊客が加入する保険(例)】

対象	内容	保険商品(例)
宿泊客・体験者自身でけがをした、加害者になった場合	傷害事故 (例) 宿泊客・体験者が不注意でけがをした場合など	<ul style="list-style-type: none"> ・国内旅行傷害保険 ・グリーンツーリズム参加者傷害保険 ・レクリエーション保険
	賠償責任 (例) 宿泊客・体験者が喧嘩をし相手にけがを負わせたなど	

(参考) 法律等の規定 ～関連する条文等と趣旨～

－ (農家民宿の保険加入に際し、特段の法規制はありません)

(2) 農家による宿泊サービス等の事業収支（簡易シミュレーション）

農家が宿泊サービス等のツーリズム事業を始めるにあたって、どのような事業内容で、どの程度の集客をすれば事業採算が取れるのか、参考としていただくために、2つの事業モデルについて、その事業収支を計算しました。

なお、これらはあくまで仮の条件のもとでの簡易なシミュレーションですので、実際の事業実施にあたっては、より現場に即した具体的かつ現実的な条件における詳細な収支予測を行う必要があります。



民宿の規模やどのような体験メニューを提供するかによって事業の採算は異なります

（資料：茨城県都市農村交流推進協議会HP）

事業モデル1：農家民宿

既存の一件の農家が、建物の改修等をして、定員8名規模¹の農家民宿を単独で開業する基本モデル

（地域外からの来訪者が、数日、農家に宿泊し、農家の生活を体験することを想定した、「施設の確保や改善等の多額の初期投資」が不要のモデル）

事業モデル2：体験メニュー付き農家民宿

既存の複数件の農家が、それぞれ定員8名規模の農家民宿を開業すると同時に、共同で体験施設・設備等を導入し、付加価値を高めたサービス（体験メニュー）を提供する応用モデル

（地域外からの来訪者が、数日、農家に宿泊し、農家の生活を体験することに加え、特定の体験メニューを目的としているため、「施設の確保や改善等の多額の初期投資」を要するモデル）

次ページ以降に、事業収支（簡易シミュレーション）の前提条件と結果（ポイント）をご紹介します。

¹ 「滞在型グリーン・ツーリズム等振興調査報告書」（(財)都市農山漁村交流活性化機構 H19.3）における「農林漁家民宿に関するアンケート調査結果」の宿泊定員の平均値が8名であることから、ここでも定員8名規模の農家民宿を開業するものと想定した。

事業モデル1: 農家民宿

既存の一件の農家が、建物の改修等をして、定員8名規模の農家民宿を単独で開業する基本モデル

1 前提条件(仮定)

簡易シミュレーションの前提条件(仮定)は以下のとおりです。

- ・ 事業収支の計算にあたっての変数は宿泊客数
- ・ 宿泊料は1人1泊2食で6,000円(前ページ脚注1「農林漁家民宿に関するアンケート調査結果」の平均値)
- ・ 建物の改修費等の開業費用250万円(同「農林漁家民宿に関するアンケート調査結果」の平均値)を耐用年数10年で償却
- ・ 人件費については、経営形態を個人経営(夫婦)と想定し、長野県における農家の農外収入の平均値である170万円(H19年度)のうち70~80%をこの事業でカバーするものと想定
- ・ 飲食業における食費の原価率は30~40%(「中小企業実態基本調査」中小企業庁H21年度)だが、加工なしの食材原価率は10%程度なので、宿泊料6,000円のうち食材原価に水道光熱費等を含めても(多くても)1,000円程度の直接経費がかかっていると想定

2 結果(ポイント)

簡易シミュレーションの結果は以下のとおりです。そのポイントは以下のように整理することができます。

(単位:円)

宿泊客数(人)	100	200	300	400	500	600	
売上	600,000	1,200,000	1,800,000	2,400,000	3,000,000	3,600,000	
費用	改修等の開業費用	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000
	人件費	1,275,000	1,275,000	1,275,000	1,275,000	1,275,000	1,275,000
	食費原価等	60,000	120,000	180,000	240,000	300,000	360,000
収支計	▲ 985,000	▲ 445,000	95,000	635,000	1,175,000	1,715,000	

- ・ 宿泊客数300人弱で事業採算を確保することができる(=損益分岐点)。これは4人家族が2週間のうち3組ぐらい(夫婦2人であれば1週間のうち3組ぐらい)が、定員8名の宿に宿泊する場合に相当する。
- ・ 損益分岐点を下げるためには、費用として最も大きいのが人件費であることから、家族(子供)に民宿を手伝ってもらったり、宿泊客に農作業そのものを手伝ってもらうなどして、この事業でカバーする人件費を下げる工夫が必要である。
- ・ また、自家生産の(味は変わらない)半端もの農作物を活用することで、食材原価を下げることも考えられる。

事業モデル2:体験メニュー付き農家民宿

既存の複数件の農家が、それぞれ定員8名規模の農家民宿を開業すると同時に、共同で体験施設・設備等を導入し、付加価値を高めたサービス(体験メニュー)を提供する応用モデル

1 前提条件(仮定)

簡易シミュレーションの前提条件は以下のとおりです。

- ・ 事業収支の計算にあたっての変数は宿泊客数
- ・ 宿泊料は1人1泊2食で8,000円(事業モデル1の宿泊料に体験メニュー代として2,000円を追加(例えば「第2章 事例調査 3.鹿追町」の体験メニュー例の多くは2,000円~3,000円程度))
- ・ 建物の改修費等の開業費用350万円(事業モデル1の開業費用に100万円を追加(農家10件が共同で1,000円程度の体験施設・設備等を導入することを想定)を耐用年数10年で償却)
- ・ 人件費については、経営形態を個人経営(夫婦)と想定し、長野県における農家の農外収入の平均値である170万円(H19年度)の100%をこの事業でカバーするものと想定(体験メニューの追加により農業外の稼働をすべてこの事業に提供することを想定)
- ・ 飲食業における食費の原価率は30~40%(「中小企業実態基本調査」中小企業庁H21年度)だが、加工なしの食材原価率は10%程度なので、宿泊料6,000円のうち食材原価に水道光熱費等を含めても(多くても)1,000円程度の直接経費がかかっていると想定

2 結果(ポイント)

簡易シミュレーションの結果は以下のとおりです。そのポイントは以下のように整理することができます。

(単位:円)

宿泊客数(人)	100	200	300	400	500	600
売上	800,000	1,600,000	2,400,000	3,200,000	4,000,000	4,800,000
費用	改修等の開業費用	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000
	人件費	1,700,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000
	食費原価等	80,000	160,000	240,000	320,000	400,000
収支計	▲ 1,330,000	▲ 610,000	110,000	830,000	1,550,000	2,270,000

- ・ この場合も宿泊客数300人弱で事業採算を確保することができる(=損益分岐点)が、事業モデル1と比較して、宿泊客数が損益分岐点を超えるほど黒字幅が大きくなる(収益性が高い)。
- ・ 損益分岐点を下げるために、共同で体験施設・設備等に投資する農家を増やすことで開業費用をおさえることができる(ただし、体験施設・設備等で体験できる定員があることに留意が必要)。
- ・ 人件費や食費原価等のコスト軽減については事業モデル1と同様である。

第5章 八坂地区・美麻地区のソフト事業のあり方

第5章 八坂地区・美麻地区のソフト事業のあり方

1 基本的な考え方

八坂地区・美麻地区のソフト事業を検討するにあたって、次の5つの考え方を基本方針とし、これらの基本的な考え方は、八坂地区・美麻地区の具体的なソフト事業案に反映している。

(1) 市民意識調査の重視

今後のソフト事業の検討においては、その事業の担い手となる市民の意向を十分に反映させるべきであるとの考えから、本調査研究において実施した「市民意識調査」の結果を重視することとした。

特に、「これからの地域づくりにとって重要だと考えること」という質問に対して、八坂地区・美麻地区ともに、①若者の就業の場をつくり若者の移住を促進すること、②高齢者の生活支援を行うこと、③地元産の農産物や加工品をPRし、地域ブランドをつくることなどが重要を指摘されていることを考慮している。

(2) 定住促進事業の重視

過疎地域の振興策は、他地域の人々との交流を活発化し、事業活動に不可欠な人材や将来を担う人々の定住を促進し、地域を活性化していくことにある。特に、若者の定住は、将来人口や教育などに大きな影響を与えるものであり、地域の将来を決定づけるといっても過言ではない状況にある。

しかしながら、若者を誘致できるだけの職場が確保されていないことも事実であり、産業振興による雇用の確保につとめるとともに、移住してくる若者自らが新たな事業を切り開くチャンスを与えるような仕組みづくりにも力を入れることとしている。

(3) 既存事業の推進

八坂地区、美麻地区においては、地域づくり委員会、地域づくり協議会、地域づくり会議等の住民自治に基づく組織が、多くの地域活動を実施している。これらの活動を、地域の特性として継続させ、あるいは地域ブランドとして発展させていくことが、地区住民の誇りを一層形成していくためにも重要であることから、既存事業を継続・発展させていくことに注力している。

(4) 新規事業の積極的な取組み

既存事業の推進に取組む一方、定住促進のための職場の確保や特産品を活用した地域ブランドの構築による地域経済の発展を目的として、従来から検討しつつも実現できていなかった事業や既存事業の発展型としての新規事業も多く取り入れている。このことは、八坂地区・美麻地区の田舎暮らしの魅力を一層高めることになると期待されている。

(5) 地域連携の推進

過疎地域における事業活動は、事業の担い手の高齢化や後継者の不在が課題になっている場合が多く、その解決策として地域間の連携による人材の補完が不可欠であり急務となっている。八坂地区・美麻地区においても、両地区間の連携、母都市である旧大町市との連携、事業の性格に応じては、近隣市町村との連携を図り、事業に必要な資源の確保に努めることとしている。

2 地域の自立促進の基本方針

当市では、本計画の策定にあたり、八坂、美麻地区の16歳以上全住民を対象にアンケート調査を実施したほか、自治会の代表者や識見者等で組織する「地域づくり委員会」での意見集約、地域づくり活動団体等へのヒアリング調査を行ってきた。

この基本方針は、八坂、美麻地区の過疎対策の中で最も意見が多かった次の3項目を主体として策定する。

- 1 若者の定住促進と就業の場の創設
- 2 高齢者福祉の向上と生活支援
- 3 農林産物等の高付加価値化による販売促進

(1) 自立促進の基本方針

過疎地域である八坂・美麻地区は、歴史や文化、伝統に支えられたそれぞれの個性を輝かせながら、住民参加と協働、相互扶助の精神を地域づくりの基本理念として、旧市内との連携を一層強めるとともに、若者の定住を促進し、住民一人ひとりが誇りと愛着を持って、安心安全に暮らせる魅力ある地域、「若者が集うきらり輝く地域」として、一層の発展を目指すこととする。

具体的には、高齢者・子育て世代・若者等、それぞれの世代が、将来に向けて「安全で安心できる農ある暮らし」が維持できるよう、定住や交流の促進と相互扶助による高齢者支援を行っていくとともに、豊かな地域資源を活用し、「高齢者や女性が主体となって活躍できる産業づくり」や「若者の定住を促進する魅力ある産業づくり」を進める。

このような地域活力の創出は、住民と行政との協働により推進し、住民が地域に対する誇りと愛着を持ち、個性あふれる地域の創造と自立した地域づくりを目指す。

(2) 地域の目指すべき将来像

平成19年度を初年度として策定された「大町市第4次総合計画」では、「市民参加と協働の市政による地域の再生」を基本理念とし、市民一人ひとりの「参加」から始まり、地域・団体・企業・NPO、更にはこの地域に訪れる人々など、本市に関わる全ての皆さんの「参加」によって、知恵と力を結集し、ともに汗を流しながら「協働」の力で課題を乗り越え、地域を再生して、みんなが住んで良かった、訪れて良かったと、心から思える心豊かな新大町市の創造を目指しています。

また、「豊かな観光資源や地域文化と新たな息吹とを融合させ、大町市を日本の心のふるさととして、内外に向け個性と魅力ある光を発信し、人々の交流の基地となるまちを目指すとともに、地域への愛着と誇りを持って笑顔で暮らし、一人ひとりがきらりと光り輝く人づくりを目指す。」とし、将来像を次のとおり定めています。

【大町市の将来像】

美しく豊かな自然 文化の風薫る きらり輝くおおまち

このため、本計画においては、「長野県過疎地域自立促進方針（平成 22 年度～平成 27 年度）」との整合性を確保しつつ、「大町市第 4 次総合計画」における将来像及び基本理念を共通の柱として、地域の実情に応じた施策を展開し、個性あふれる自立した地域づくりを促進します。

（3）主要施策

- 活力あふれる豊かな地域の創造
- 安心・安全なまちづくりの推進
- 人を育む地域づくりの推進
- 市民参加と協働によるまちづくりの推進

（4）施策の内容

■活力あふれる豊かな地域の創造

八坂、美麻地区は、過去から移住を促進する施策を進めてきたことから、八坂地区は全住民の 23%が、美麻地区は全住民の 32%が I ターン者であり、各方面で地域の担い手となって活躍している。

都市等からの移住や若者の定住をさらに促進していくため、集落内の空き家等の調査を進め有効活用を図るとともに、定住促進住宅の整備を促進し、集落機能の再興を図る。

また、定住を目的として新たに住宅等の建設を行う場合や空き家等に入居する者に対する助成措置を制度化していくほか、移住者と地区住民との交流を促進するためのネットワークづくりや移住希望者を対象とした体験活動の実施、田舎暮らしの良さや集落のルール等を説明した「地域の教科書」づくり、都市や地域間交流による結婚対策など、若者が定住しやすく、移住者に優しい環境づくりを総合的に推進する。

定住促進や地域経済の活性化に不可欠な就業の場の確保については、農林業や観光などで、意欲ある若者が起業、就業にチャレンジできる制度を創設するほか、女性が主体となって地場産業を創出できる体制づくりと人材育成を進めるとともに、高付加価値化に向けた取り組みとして、マーケティング事業を実施し、地域資源を活かした新たな働き場所の創造に努める。

体験、交流では、(財) 育てる会とアウトドア業者との連携により、修学旅行生等の体験の受け入れや棚田オーナー制度等の導入による都市との定期的交流、メンドシーノ交流事

業の拡充による芸術文化国際交流の推進など、魅力ある地域資源を活かした複合型交流による地域活性化に取り組む。

■安心・安全なまちづくりの推進

高齢化が進行する中で、住み慣れた地域で、健康で、安心して、安全に暮らすことは住民共通の願いであるとともに、定住を促進していくためにも安全で安心なまちづくりは重要な取り組みである。

地域医療の確保については、診療所の改修や医療機器の整備等、診療体制の充実を図っていくとともに、診療所へのきめ細かな送迎を実現し、移動の負担軽減を図っていくこととする。また、高齢者福祉では、要介護前の高齢者を対象に、自治会等の単位でサテライトデイサービスを実施していくとともに、高齢者が生活上で困難な業務を地域内の相互扶助により支援する制度（例えば、地域通貨制度）を創設し、地域で支えあう高齢者福祉の充実を図る。さらに、地区内唯一の公共交通機関である市民バスの拡充を図り、地域住民の生活の足を確保する。

■人を育む地域づくりの推進

八坂地区が発祥の地である山村留学制度や美麻地区で実施しているメンドシーノ交流事業など特色ある教育環境を発展させ、特色ある学校づくりに取り組むとともに、地域との交流を促進する中で、地域で支える子育て支援を実践していくこととする。

この取り組みから保育園、小学校、中学校とどの世代においても、豊かな自然の中で、学校や保育園と地域、保護者が連携して行う、子育て環境の素晴らしさが実感でき、田舎ならではの個性豊かな人間を育てる仕組みを地域ブランドとして構築していく。

地域づくり活動を行っていく担い手の育成については、若年層や女性を主体として地域づくりコーディネーターの育成を行うとともに、ふるさと学習を促進する中で、郷土の魅力を再発見していく活動を進めていくこととする。

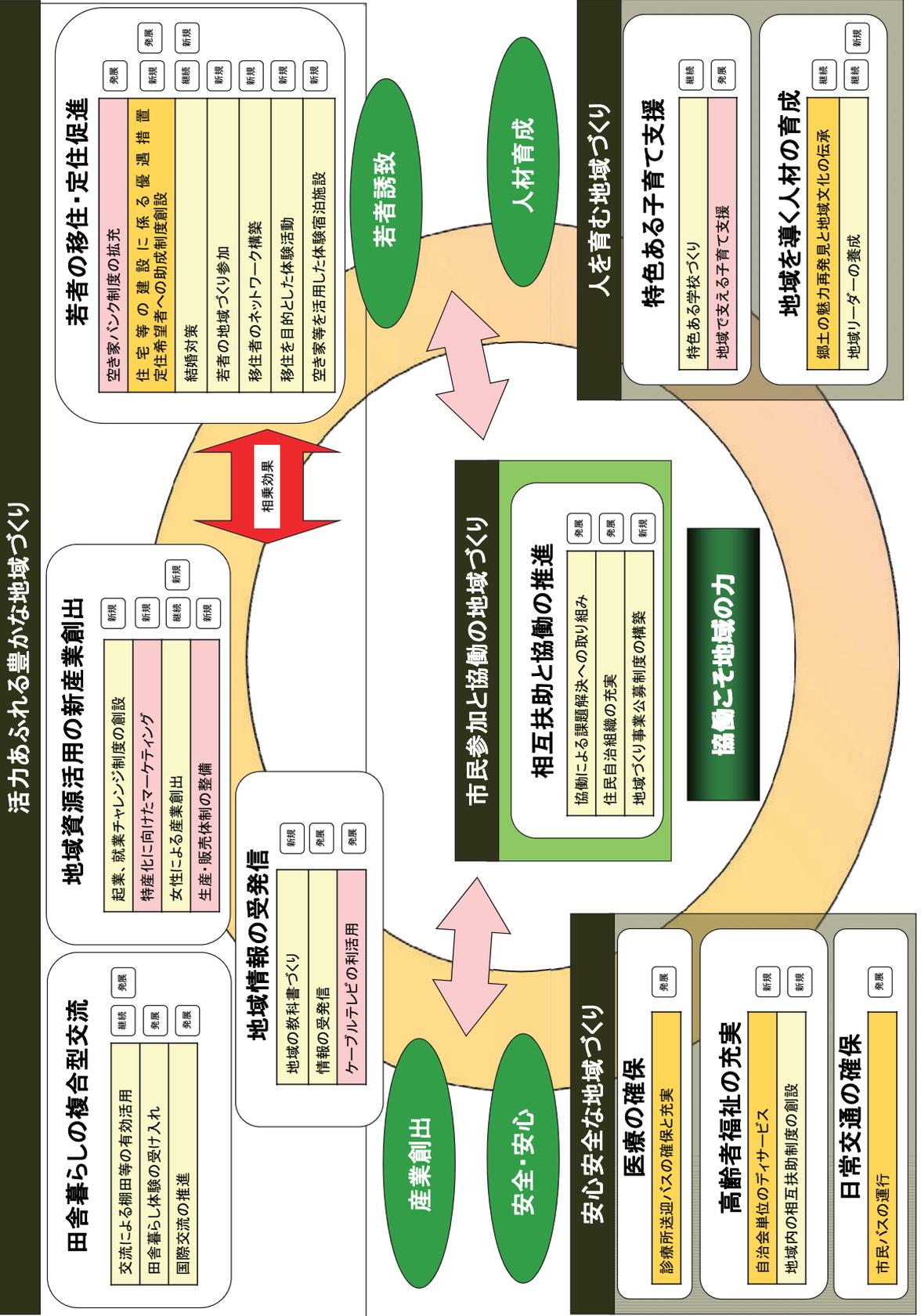
■市民参加と協働のまちづくりの推進

住民と行政が相互信頼のもと、お互いが役割を分担しながら、多くの住民の「参加」によって、知恵と力を結集し、ともに汗を流しながら「協働」の力で課題を解決し、地域の再生に向けた有効な地域づくりを参加と協働によって進めていくこととする。

地区住民の英知を地域づくりに直接反映させることができる公募制度を構築するとともに、地域内の自治組織のあり方を検証し、地域住民が一層参加しやすく、時代と住民ニーズに対応した住民自治組織を構築していくこととする。

八坂地区・美麻地区のソフト事業体系図

美しく豊かな自然 文化の風薫る きらり輝くおおまち



過疎地域自立促進計画策定に伴う新たな、発展させるソフト事業

項目	事業名	参考内容	事業主体	参考ソフト事業	関連するハード事業	備考
1 活力あふれる豊かな地域づくり	空き家バンク制度の拡充	<ul style="list-style-type: none"> 空き家の実態調査を実施し、利用可能な空き家について、市及び自治組織等が入居者の斡旋及び選考、所有者の紹介を行い定住促進を図る 併せて、移住相談を一元化し(移住コンシェルジュ機能)、定住促進を図る 	市・自治組織等	<ul style="list-style-type: none"> 空き家実態調査の実施 専門窓口の調整及び開設 入居者の斡旋、選考 所有者の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 定住促進住宅の整備 	発展
	定住希望者への助成制度創設	<ul style="list-style-type: none"> 定住の意志のある者が空き家に入居する場合等に助成金を交付する 移住者又は、定住の意思がある卒業者が市内の企業に就職した場合は助成金を交付する 	市	<ul style="list-style-type: none"> 対象者への助成 	—	新規
	住宅等の建設に係る優遇措置	<ul style="list-style-type: none"> 住宅等新增改築借入金利子補給金制度を継続する。(利子額20%・新築8年・増改築5年) 	市	<ul style="list-style-type: none"> 対象者への利子補給 	—	継続
	結婚対策	<ul style="list-style-type: none"> 「八坂YOU・MEくらぶ」を他地区に発展させ、都市交流や地域間交流を通じて出会いの場を創出し、独身の地域づくりへの参加を促進する 	自治組織等	<ul style="list-style-type: none"> 交流会に対する助成 グループの育成及び支援 	—	発展
	若者が集まり自由に意見交換をできる場所(サロンのような若者の活動拠点)や体制を整備し、若者の地域づくりへの参加を促進する	<ul style="list-style-type: none"> 若者が集まり自由に意見交換をできる場所(サロンのような若者の活動拠点)や体制を整備し、若者の地域づくりへの参加を促進する 	自治組織等	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備に係る助成 施設管理に係る助成 	—	新規
	移住者のネットワーク構築	<ul style="list-style-type: none"> 移住者と地区住民の交流等を促進するため、「地域の教科書」(後述事業)を活用し、地域での生活の実態を情報発信する懇談会及びイベント等を開催する 	自治組織等	<ul style="list-style-type: none"> イベント等への助成 	—	新規
	移住を目的とした体験活動	<ul style="list-style-type: none"> 移住希望者を対象とした「短期的田舎暮らし体験ツアー」を実施し、移住を促進する 	自治組織等	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動への助成 体験のメニュー化及び運営支援 	—	新規
	空き家等を活用した体験宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> 空き家や老朽化した教員住宅等を「短期的田舎暮らし体験ツアー」の宿泊施設や居住体験施設として活用していくために整備する 	自治組織等	<ul style="list-style-type: none"> 空き家の購入及び改修に対する助成 	—	新規
	起業、就業チャレンジ制度の創設	<ul style="list-style-type: none"> Iターン等で研修生を募集し、研修費等の負担や地区住民、団体との連携、研修場所の斡旋等の支援を行いながら、農業や加工業、観光業等の起業やブランド化を通じて、地区内の産業振興や創出を図る 	自治組織等	<ul style="list-style-type: none"> 研修生の研修費助成 地区住民等との連携支援 	—	新規
	高付加価値化による産業振興と創出	<ul style="list-style-type: none"> 地元食材や加工品から、特産品の価値を還元し、独自の加工方法や販売チャネルを確立して、特産品としてのブランド化を図る 特に、高付加価値化の方法や販売チャネルを確立するためのマーケティング事業を実施する 地域の農林産物及び加工品等を利用して、販売所、レストランの運営等、女性、特に、高齢者の経験や技を活用した新たな産業創出が可能な体制整備を行う 	市・自治組織等	<ul style="list-style-type: none"> マーケティング事業への助成 	—	新規
生産・販売体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 特産物等のブランド化を図るための生産、販売に必要な体制整備を行う 	市・自治組織等	<ul style="list-style-type: none"> 既存施設の改修等 	—	新規	

項目	事業名	参考内容	事業主体	参考ソフト事業	関連するハード事業	備考
魅力を活かした複合型交流	・交流による棚田等の有効活用	・棚田のオーナー制、稲作の指導、収穫祭の開催等、地域の状況に即した都市及び地域間の交流により、棚田や傾斜畑の保全を図る	自治組織等	・棚田等の保全に対する助成	—	発展
	・田舎暮らし体験の受け入れ	・(財)育てる会等と連携し、山村留学生や修学旅行生の受け入れを推進していく ・老人クラブ等と連携し、体験のメニュー化を図る等、受け入れ体制の整備を進める	自治組織等	・新たに農家民宿を行う者に対する助成 ・受け入れ態勢構築の支援 ・体験のメニュー化支援	—	発展
	・国際交流の推進	・ムドシニア交流事業を発展させるため、芸術家の交流や音楽を通じた交流等の地区間連携の強化と支援を行う	自治組織等	・交流促進に対する助成	—	発展
	・地域の教科書づくり	・自治会や集落の情報、行事、ルール、歴史等を分かり易くまとめた「地域の教科書」を作成し、移住希望者や地域の若者が、その地域での日常生活の魅力を実感できるようにする	自治組織等	・作成に対する助成	—	新規
	・情報の受発信	・インターネットを活用した動画配信や双方向コミュニケーションにより、八坂・美麻情報を発信し、田舎暮らしの魅力伝えていく ・地区内の地域づくり広報紙やマイメディアの充実を図る	自治組織等	・ホームページの管理に対する助成 ・地域づくり広報紙への助成	—	発展
・ケープルテレビ等の利活用	・住民ディレクター等の育成を促進し、地域活動等を動画ライブラリーとして記録するとともに、インターネットを活用して地域や都市住民に発信していく ・インターネット事業の運営及び拡充を推進する	市・自治組織等	・関連機器の整備 ・住民ディレクターの育成	・センター装置の更	発展	
2 安心安全な地域づくり						
項目	事業名	参考内容	事業主体	参考ソフト事業	関連するハード事業	備考
医療の確保	・診療所送迎バスの確保と拡充	・停留所まで来れない住民のために集落内までバスを運行する等、きめ細かな送迎を実施する ・利用状況を勘案し、便数ルート等を検証し、拡充を検討する	市	・運行業務委託	・送迎バスの更新	発展
	・自治会単位のダイヤサービス	・要介護前の高齢者を主体に、自治会等の単位でサテライトダイヤサービスを実施する	市	・保健師等配置の充実	・送迎バス購入	新規
高齢者福祉の充実	・地域内の相互扶助制度の創設	・庭仕事、家の修理、買い物、送迎、除雪、事務処理等、高齢者には困難な業務の助勢を地域内の相互扶助により行っていく制度を創設する (参考例 地域通貨制度) 地域内の相互扶助を助長するため、高齢者等にチップ(地域通貨)を発行し、業務の時間により、サービス提供者にチップを渡す。チップは提供者宅の高齢者も利用できる。チップは年1回、自治会への補助金、個人へのお礼品授与等として清算する。	自治組織等	・チップ(地域通貨)の発行、清算 ・自治会への補助金交付	—	新規
	・市民バスの運行	・市民バス八坂線、山手線、境の宮線、川手線の維持及び拡充を図る	市	・市民バスの運行	・車両の更新	発展

3 人を育む地域づくり		事業名	参考内容	自治組織等	参考ソフト事業	関連するハード事業	備考
項目	子育て支援	・特色ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 山村留学への支援及び留学生の受け入れ態勢の強化を図る ・メドシーノ国際交流を支援する 	自治組織等	<ul style="list-style-type: none"> ・山村留学への助成及び支援 ・メドシーノ交流への助成及び支援 	—	継続
		・地域で支える子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児を持つ母親の育児支援を充実する ・保育園児の延長保育を充実する ・地域との連携による特色ある保育園、児童クラブ、社会体育を運営する ・高校生で組織する学友会活動(八坂)を支援する 	市・自治組織等	<ul style="list-style-type: none"> ・母親学級等の充実 ・高齢者等との連携強化 ・学友会活動の支援(八坂) 	—	発展
項目	人材の育成	・郷土の魅力再発見と地域文化の伝承	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の自然、歴史、文化等のふるさと学習、研修会を開催する ・伝統芸能と郷土文化伝承活動への助成及び支援を図る 	市	<ul style="list-style-type: none"> ・学習、研修会の開催 ・郷土文化の伝承活動の助成 	—	発展
		・地域リーダーの養成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりコーディネーターの養成を支援し、地域づくり事業への参加を促進する 	自治組織等	<ul style="list-style-type: none"> ・養成研修会への支援 ・地域づくり活動への支援 	—	新規
4 市民参加と協働のまちづくり							
項目	事業名	参考内容	自治組織等	参考ソフト事業	関連するハード事業	備考	
協働による地域づくり	・協働による課題解決への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・「八坂地域づくり協議会」、「美麻地域づくり会議」が行う地域課題の解決に向けた取り組みを支援する 	自治組織等	<ul style="list-style-type: none"> ・八坂地域づくり協議会、美麻地域づくり会議への助成 	—	発展	
	・住民自治組織の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内の自治組織のあり方を検証し、時代と住民ニーズに見合う、より参加しやすしい組織への再編を検討していく 	自治組織等	<ul style="list-style-type: none"> ・住民組織のあり方の検証 	—	発展	
	・地域づくり事業公募制度の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO等、地区住民の英知を地域づくりに反映し、多くの住民が参加できるよう地域づくり事業を公募し、選定する制度を構築する 	自治組織等	<ul style="list-style-type: none"> ・選定事業の助成及び支援 	—	新規	

資料編

資料編

1 住民意識調査票（八坂地区）

八坂地区・美麻地区における 地域づくり事業に関する住民意識調査

日頃から、大町市のまちづくりに、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。
大町市では、本年4月に新過疎法が制定されたのを受けて、財団法人地方自治研究機構と
共同で、過疎地域に指定されている「八坂地区と美麻地区」の振興計画を検討しています。

この検討は、八坂地区・美麻地区を元気にするための地域づくり事業に対し両地区の「地
域づくり委員会」を中心に、次の3つの視点から進めています。

- ・ 現在、両地区が共同で実施している地域づくり事業をいかに発展させるべきか
- ・ 各地区が独自で取り組んでいる事業のうち、どの事業を重視すべきか
- ・ 新たな地域づくり事業について、どのように取り組むべきか

その中で、住民の皆様の声を反映させるため、市民意識調査を実施することにしました。

この市民意識調査は、16歳以上の住民の皆様を対象に、「八坂地区・美麻地区において
現在実施されている地域づくり事業」や「今後新たに期待する地域づくり事業」に対するご意
見をお尋ねするものであり、最も重要な基礎資料となるものです。

つきましては、大変お忙しいなか誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協
力くださいますようお願い申し上げます。

ご記入いただきました内容や個人情報に関しては、すべてコンピューターで統計的に処理
し、統計データとしてのみ使用させていただきますので、個々の内容を外部に公表することや、
回答者ご本人及びご家族の方にご迷惑をお掛けすることは決してございません。なお、この意
識調査については、株式会社日本総合研究所に委託して実施するものであることを申し添えま
す。

平成22年7月
大町市

【ご記入、ご返送に際してのお願い】

- ・ ご回答は、宛名のご本人が記入してください。
- ・ 回答は、各質問にそって、あてはまる番号（数字）を○で囲んでください。
- ・ 記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて返送してください。

返送期限 平成22年8月9日（月）

（お問い合わせ先） 大町市総務部企画財政課 （担当：曾根原・内山／電話：22-0420）
（協 力） 八坂地域づくり委員会

質問1-3

これからの八坂地区の地域づくりを考える際に、特に重要と思われるものを、次の中から**最大5つまで〇**をつけてください。

(定住促進事業)

1. 他の地域からの移住を促進すること（八坂・美麻の魅力紹介や移住相談窓口の創設等）
2. 新たに農業に就く人を支援すること（技術指導や農機具の貸出し等）
3. 若者の就業の場をつくり若者の移住を促進すること
4. 職をもつ働き手の移住を促進すること（デザイナー、ソフト開発者、伝統工芸職人、芸術家等）

(地域経済活性化事業)

5. 都会との交流を促進し、賑わいをつくること
6. 地元産の農産物や加工品をPRし、地域ブランドをつくること
7. 特産品の開発や販売を行うこと

(少子高齢化対策事業)

8. 子育て支援策を充実すること（保育所の充実や経済的支援等）
9. 高齢者の生活支援を行うこと（一人暮らしの老人に対する見守りや高齢者の買い物支援等）
10. 高齢者の介護支援サービスを充実すること

八坂地区の地域づくりに関する私の意見

上記以外で、八坂地区の地域づくりにおいて重要と思われることを自由にご記入下さい。

質問2 お住まいの地域で行われている各活動に対する、あなたの考えをお尋ねします。

質問2-1

八坂・美麻地区の共通する事業についてお尋ねします。あてはまる番号に○をつけて下さい。

注：質問項目中の「地区外」とは、大町市内で八坂・美麻地区以外の地区のことを表しています。

共通する事業-01 山村留学

財団法人育てる会が主催し、児童生徒が年間留学する長期留学（年間約30名）と夏休み等の長期休暇に来訪する短期留学制度（年間約650名）がある。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

共通する事業-02 そば祭り

10月下旬から11月初旬にかけて、八坂地区では「明日香荘」と「ふるさと体験館」で、美麻地区では新行において、そば祭りを実施している。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

共通する事業-03 棚田や畑を守る活動

田舎らしい景観と環境を取り戻そうと、長年荒廃していた棚田や畑を復活させ、そばや菜の花を栽培する活動が八坂・美麻両地区で行われている。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

共通する事業－04 花いっぱい活動

小学校やPTA、老人クラブ、自治会等が、道路や公共施設に花を植栽し、美しい地域づくりを進める活動が八坂・美麻両地区で行われている。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

共通する事業－05 体験活動

八坂地区では、そば打ちやおやき作り・犀川ラフティング・ふるさと体験（農林体験）、美麻地区では学生の夏季合宿などが行われている。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

共通する事業－06 伝統芸能継承活動

各地区でお囃子を保存する活動や、八坂青龍太鼓、八坂音頭保存会、源流美麻太鼓など、地域の伝統芸能を継承する活動がある。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

質問 2-2

八坂地区の主な地域づくり事業についてお尋ねします。あてはまる番号に○をつけて下さい。

八坂事業-01 道路愛護事業

住民自らが地域の道水路や公共施設等の美化を図ろうと清掃や草刈、支障木の除去などの公共作業を年 4 回実施しているもので、昭和 43 年から継続されている。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

八坂事業-02 結婚対策事業

女性との出会いの機会をつくり結婚に結び付けようと「八坂 You・Me くらぶ」を結成し、名古屋近郊の女性に、ツアーへの参加を呼びかけ年 1~2 回の交流会を実施し、これまでに 23 組が成婚している。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

八坂地区の地域づくり事業に関する私の意見

八坂地区の地域づくり事業について、自由にご記入下さい。

質問2-3

美麻地区の主な地域づくり事業についてお尋ねします。あてはまる番号に○をつけて下さい。

美麻事業-01 メンドシーノ交流事業

昭和55年に旧美麻村と米国カリフォルニア州メンドシーノと国際姉妹村を締結して今年で30年目である。平成4年から隔年の相互派遣交流を行っており、今年、10回目の訪問団を派遣している。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

美麻事業-02 市民農園運営

市民農園には、おおしお市民農園とふたえ市民農園があり、おおしお市民農園はシルバー人材センターに、ふたえ市民農園は美麻地域づくり会議に管理を委託している。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

美麻地区の地域づくり事業に関する私の意見

美麻地区の地域づくり事業について、自由にご記入下さい。

質問3 これまでの過疎対策についてお尋ねします。あてはまる番号に○をつけて下さい。

過去10年間の過疎対策で様々な事業が行われてきましたが、これらの事業は生活や暮らしに役立ったと思いますか。

分野	項目	実際に行った内容	選択肢	
道路	市道整備	市道（旧村道）の改良	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	
交通	公共交通設備の充実	バスの待合所設置	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	
生活環境	情報通信施設の整備	ケーブルテレビ・インターネット・有線放送設備の整備	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	
消防防災	消防施設の整備	防災無線・消防車両・防火水槽の整備	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	
保健福祉・医療	診療設備の整備	超音波診断装置・血圧脈波検査装置の整備	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	
産業施設整備	農業施設	堆肥センター・新規就農者研修住宅の整備	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	
	農業基盤	水田の圃場・農道・水路・農業機械の整備	1. 思う	2. 思わない
3. どちらともいえない				
	商業・観光施設	明日香荘、さざなみ、レストランたかがりの建設	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	

過疎対策事業に関する私の意見

これまでの事業・今後の事業について、自由にご記入下さい。

2 住民意識調査票（美麻地区）

八坂地区・美麻地区における 地域づくり事業に関する住民意識調査

日頃から、大町市のまちづくりに、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。
大町市では、本年4月に新過疎法が制定されたのを受けて、財団法人地方自治研究機構と
共同で、過疎地域に指定されている「八坂地区と美麻地区」の振興計画を検討しています。

この検討は、八坂地区・美麻地区を元気にするための地域づくり事業に対し両地区の「地
域づくり委員会」を中心に、次の3つの視点から進めています。

- ・ 現在、両地区が共同で実施している地域づくり事業をいかに発展させるべきか
- ・ 各地区が独自で取り組んでいる事業のうち、どの事業を重視すべきか
- ・ 新たな地域づくり事業について、どのように取り組むべきか

その中で、住民の皆様の声を反映させるため、市民意識調査を実施することにしました。

この市民意識調査は、16歳以上の住民の皆様を対象に、「八坂地区・美麻地区において
現在実施されている地域づくり事業」や「今後新たに期待する地域づくり事業」に対するご意
見をお尋ねするものであり、最も重要な基礎資料となるものです。

つきましては、大変お忙しいなか誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協
力くださいますようお願い申し上げます。

ご記入いただきました内容や個人情報に関しては、すべてコンピューターで統計的に処理
し、統計データとしてのみ使用させていただきますので、個々の内容を外部に公表することや、
回答者ご本人及びご家族の方にご迷惑をお掛けすることは決してございません。なお、この意
識調査については、株式会社日本総合研究所に委託して実施するものであることを申し添えま
す。

平成22年7月
大町市

【ご記入、ご返送に際してのお願い】

- ・ ご回答は、宛名のご本人が記入してください。
- ・ 回答は、各質問にそって、あてはまる番号（数字）を○で囲んでください。
- ・ 記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて返送してください。

返送期限 平成22年8月9日（月）

（お問い合わせ先） 大町市総務部企画財政課 （担当：曾根原・内山／電話：22-0420）
（協 力） 美麻地域づくり委員会

質問1-3

これからの美麻地区の地域づくりを考える際に、特に重要と思われるものを、次の中から**最大5つまで〇**をつけてください。

(定住促進事業)

1. 他の地域からの移住を促進すること（八坂・美麻の魅力紹介や移住相談窓口の創設等）
2. 新たに農業に就く人を支援すること（技術指導や農機具の貸出し等）
3. 若者の就業の場をつくり若者の移住を促進すること
4. 職をもつ働き手の移住を促進すること（デザイナー、ソフト開発者、伝統工芸職人、芸術家等）

(地域経済活性化事業)

5. 都会との交流を促進し、賑わいをつくること
6. 地元産の農産物や加工品をPRし、地域ブランドをつくること
7. 特産品の開発や販売を行うこと

(少子高齢化対策事業)

8. 子育て支援策を充実すること（保育所の充実や経済的支援等）
9. 高齢者の生活支援を行うこと（一人暮らしの老人に対する見守りや高齢者の買い物支援等）
10. 高齢者の介護支援サービスを充実すること

美麻地区の地域づくりに関する私の意見

上記以外で、美麻地区の地域づくりにおいて重要と思われることを自由にご記入下さい。

質問2 お住まいの地域で行われている各活動に対する、あなたの考えをお尋ねします。

質問2-1

八坂・美麻地区の共通する事業についてお尋ねします。あてはまる番号に○をつけて下さい。

注：質問項目中の「地区外」とは、大町市内で八坂・美麻地区以外の地区のことを表しています。

共通する事業-01 山村留学

財団法人育てる会が主催し、児童生徒が年間留学する長期留学（年間約 30 名）と夏休み等の長期休暇に来訪する短期留学制度（年間約 650 名）がある。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

共通する事業-02 そば祭り

10 月下旬から 11 月初旬にかけて、八坂地区では「明日香荘」と「ふるさと体験館」で、美麻地区では新行において、そば祭りを実施している。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

共通する事業-03 棚田や畑を守る活動

田舎らしい景観と環境を取り戻そうと、長年荒廃していた棚田や畑を復活させ、そばや菜の花を栽培する活動が八坂・美麻両地区で行われている。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

共通する事業－04 花いっぱい活動

小学校やPTA、老人クラブ、自治会等が、道路や公共施設に花を植栽し、美しい地域づくりを進める活動が八坂・美麻両地区で行われている。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

共通する事業－05 体験活動

八坂地区では、そば打ちやおやき作り・犀川ラフティング・ふるさと体験（農林体験）、美麻地区では学生の夏季合宿などが行われている。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

共通する事業－06 伝統芸能継承活動

各地区でお囃子を保存する活動や、八坂青龍太鼓、八坂音頭保存会、源流美麻太鼓など、地域の伝統芸能を継承する活動がある。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

質問2-2

美麻地区の主な地域づくり事業についてお尋ねします。あてはまる番号に○をつけて下さい。

美麻事業-01 メンドシーノ交流事業

昭和55年に旧美麻村と米国カリフォルニア州メンドシーノと国際姉妹村を締結して今年で30年目である。平成4年から隔年の相互派遣交流を行っており、今年、10回目の訪問団を派遣している。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

美麻事業-02 市民農園運営

市民農園には、おおしお市民農園とふたえ市民農園があり、おおしお市民農園はシルバー人材センターに、ふたえ市民農園は美麻地域づくり会議に管理を委託している。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

美麻地区の地域づくり事業に関する私の意見

美麻地区の地域づくり事業について、自由にご記入下さい。

質問 2 - 3

八坂地区の主な地域づくり事業についてお尋ねします。あてはまる番号に○をつけて下さい。

八坂事業-01 道路愛護事業

住民自らが地域の道水路や公共施設等の美化を図ろうと清掃や草刈、支障木の除去などの公共作業を年 4 回実施しているもので、昭和 43 年から継続されている。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

八坂事業-02 結婚対策事業

女性との出会いの機会をつくり結婚に結び付けようと「八坂 You・Me くらぶ」を結成し、名古屋近郊の女性に、ツアーへの参加を呼びかけ年 1~2 回の交流会を実施し、これまでに 23 組が成婚している。

この事業を知っていますか	1. 知っている	2. 知らない	
この事業に参加したり関わったりしたことがありますか	1. ある	2. ない	
この事業で明るくなったり元気になったと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業の運営に参加・応援したいと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
この事業に行政は支援すべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
地区外とも連携して行うべきだと思いますか	1. 思う	2. 思わない	3. わからない

八坂地区の地域づくり事業に関する私の意見

八坂地区の地域づくり事業について、自由にご記入下さい。

質問3 これまでの過疎対策についてお尋ねします。あてはまる番号に○をつけて下さい。

過去10年間の過疎対策で様々な事業が行われてきましたが、これらの事業は生活や暮らしに役立ったと思いますか。

分野	項目	実際に行った内容	選択肢	
道路	市道・林道整備	市道（旧村道）・林道の改良	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	
交通	公共交通設備の充実	村営バス・スクールバスの更新	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	
生活環境	情報通信施設の整備	情報センターの整備	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	
	除雪機の整備	除雪ドーザーの更新	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	
消防防災	消防施設の整備	消防ポンプ車の更新、防火水槽の整備	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	
教育・文化	学校施設の整備	美麻小中学校の改築	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	
	体験交流施設	市民農園の整備	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	
保健福祉 ・医療	患者輸送車両の整備	患者輸送車両の更新	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	
	保育所整備	美麻保育園の拡張工事	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	
定住促進	定住促進団地の整備	定住促進団地の道路・水路等の基盤整備	1. 思う	2. 思わない
			3. どちらともいえない	

過疎対策事業に関する私の意見

これまでの事業・今後の事業について、自由にご記入下さい。

3 小中学生向け意識調査票（八坂地区）

八坂地域づくりアンケート

あなたの性別は？ 男性 女性

あなたの学年は？ 1. 小学4年生 2. 小学5年生 3. 小学6年生
4. 中学1年生 5. 中学2年生 6. 中学3年生

1 あなたの住んでいる地域の良いところは何ですか？
(1つに○をしてください)

- ① やさしい人が多い
- ② 遊ぶ場所がたくさんある
- ③ 自然がたくさんある
- ④ そのほか ()

2 あなたの住んでいる地域で気になることは何ですか？
(1つに○をしてください)

- ① 学校までが遠い
- ② お店が近くにない
- ③ 遊ぶ場所が少ない
- ④ 住んでいる人が少ない
- ⑤ そのほか ()

3 大人になったとき、あなたの地域がどんなふうになっていたら良いと思いますか？ (3つまで○をしてください)

- ① 働く場所がたくさんある地域
- ② 山や川、田んぼなどの自然を大切にする地域
- ③ お店が多く、生活に便利な地域
- ④ たくさんの人が旅行にきて、にぎやかな地域
- ⑤ お祭りなど、地域の行事を大切にする地域
- ⑥ 子どもやお年寄りが、安心して暮らせる地域
- ⑦ そのほか ()

- 4 住んでみたい街や、好きな街はありますか。その理由も書いてください。
(例：松本市 いろいろなお店があるから。 など)

- 5 あなたの住んでいる地域を良くするために、あなたが協力するとしたら、どんなことをしたいと思いますか？

- 6 おとなの人に言いたいことがあったら、なんでも書いてください。

4 小中学生向け意識調査票（美麻地区）

美麻地域づくりアンケート

あなたの性別は？ 男性 女性

あなたの学年は？ 1. 小学4年生 2. 小学5年生 3. 小学6年生
4. 中学1年生 5. 中学2年生 6. 中学3年生

1 あなたの住んでいる地域の良いところは何ですか？
(1つに○をしてください)

- ① やさしい人が多い
- ② 遊ぶ場所がたくさんある
- ③ 自然がたくさんある
- ④ そのほか ()

2 あなたの住んでいる地域で気になることは何ですか？
(1つに○をしてください)

- ① 学校までが遠い
- ② お店が近くにない
- ③ 遊ぶ場所が少ない
- ④ 住んでいる人が少ない
- ⑤ そのほか ()

3 大人になったとき、あなたの地域がどんなふうになっていたら良いと思いますか？ (3つまで○をしてください)

- ① 働く場所がたくさんある地域
- ② 山や川、田んぼなどの自然を大切にする地域
- ③ お店が多く、生活に便利な地域
- ④ たくさんの人が旅行にきて、にぎやかな地域
- ⑤ お祭りなど、地域の行事を大切にする地域
- ⑥ 子どもやお年寄りが、安心して暮らせる地域
- ⑦ そのほか ()

- 4 住んでみたい街や、好きな街はありますか。その理由も書いてください。
(例：松本市 いろいろなお店があるから。 など)

- 5 あなたの住んでいる地域を良くするために、あなたが協力するとしたら、どんなことをしたいと思いますか？

- 6 おとなの人に言いたいことがあったら、なんでも書いてください。

5 住民意識調査の年齢別クロス集計結果

本クロス集計においては、年齢の記入がなかった回答を除き、次の回答について集計している。

- ・ 八坂地区：年齢無記入 12 名を除く 366 名
- ・ 美麻地区：年齢無記入 10 名を除く 338 名

図表 1 八坂地区 現状の暮らしの中で困っていること

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
近くで食料や日用品を買えないこと	10	90.9	15	50.0	11	44.0	17	41.4
病院・診療所への行き来に時間がかかること	2	18.1	6	20.0	8	32.0	14	34.1
学校が遠いこと	5	45.4	2	6.6	6	24.0	9	21.9
近くに働き口がないこと	6	54.5	14	46.6	12	48.0	22	53.6
バスの便が悪いこと	7	63.6	7	23.3	5	20.0	17	41.4
郵便局や農協が近くになく不便なこと	0	0.0	2	6.6	0	0.0	8	19.5
携帯電話の電波が届かないこと(電波状態が悪いこと)	3	27.2	5	16.6	6	24.0	16	39.0
農林地の管理が充分にできないこと	0	0.0	1	3.3	0	0.0	5	12.1
サルやイノシシ、シカなどの被害が多いこと	1	9.0	3	10.0	4	16.0	17	41.4
台風、地震、豪雪など被災のおそれがあること	1	9.0	7	23.3	4	16.0	10	24.3
自分や家族の身体が不自由で介護が必要なこと	1	9.0	0	0.0	1	4.0	5	12.1
近所に住んでいる人が少ないこと	1	9.0	4	13.3	8	32.0	4	9.7
その他	0	0.0	2	6.6	5	20.0	3	7.3
回答者数	11	-	30	-	25	-	41	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
近くで食料や日用品を買えないこと	37	50.0	35	61.4	86	67.1	211	57.6
病院・診療所への行き来に時間がかかること	30	40.5	24	42.1	59	46.0	143	39
学校が遠いこと	14	18.9	4	7.0	9	7.0	49	13.3
近くに働き口がないこと	43	58.1	34	59.6	26	20.3	157	42.8
バスの便が悪いこと	16	21.6	13	22.8	40	31.2	105	28.6
郵便局や農協が近くになく不便なこと	9	12.1	7	12.2	38	29.6	64	17.4
携帯電話の電波が届かないこと(電波状態が悪いこと)	10	13.5	5	8.7	6	4.6	51	13.9
農林地の管理が充分にできないこと	17	22.9	20	35.0	34	26.5	77	21
サルやイノシシ、シカなどの被害が多いこと	32	43.2	28	49.1	75	58.5	160	43.7
台風、地震、豪雪など被災のおそれがあること	18	24.3	11	19.2	23	17.9	74	20.2
自分や家族の身体が不自由で介護が必要なこと	1	1.3	5	8.7	17	13.2	30	8.1
近所に住んでいる人が少ないこと	17	22.9	15	26.3	29	22.6	78	21.3
その他	10	13.5	3	5.2	7	5.4	30	8.1
回答者数	74	-	57	-	128	-	366	-

図表 2 八坂地区 行政に力を入れて欲しい施策

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
道路・水道など生活基盤の強化	6	54.5	10	33.3	7	28.0	12	29.2
働く場所や機会の確保・創出	3	27.2	16	53.3	13	52.0	28	68.2
病院・診療所・福祉施設などの医療・福祉サービスの充実	3	27.2	12	40.0	6	24.0	21	51.2
洪水・火災・積雪など、災害に対する対策	5	45.4	10	33.3	15	60.0	20	48.7
農地や山林の管理、農作業や林業などへの支援	1	9.0	2	6.6	6	24.0	14	34.1
バスの巡回・宅配サービスなどの生活支援サービス	7	63.6	4	13.3	4	16.0	12	29.2
集落内の自主的な活動や他地域との交流活動に対する支援	2	18.1	4	13.3	4	16.0	4	9.7
住宅の整備など、都市部からの移住を促進する事業	3	27.2	6	20.0	13	52.0	12	29.2
公民館・集会所・公園など、地域住民が利用できる施設の整備	2	18.1	2	6.6	1	4.0	2	4.8
レクリエーション施設など、住民が楽しむ場所の整備	2	18.1	5	16.6	2	8.0	6	14.6
学校や保育所などの教育・保育サービスの充実	4	36.3	9	30.0	8	32.0	13	31.7
その他	0	0.0	0	0.0	3	12.0	3	7.3
回答者数	11	-	30	-	25	-	41	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
道路・水道など生活基盤の強化	22	29.7	17	29.8	29	22.6	103	28.1
働く場所や機会の確保・創出	50	67.5	38	66.6	33	25.7	181	49.4
病院・診療所・福祉施設などの医療・福祉サービスの充実	41	55.4	29	50.8	74	57.8	186	50.8
洪水・火災・積雪など、災害に対する対策	29	39.1	14	24.5	49	38.2	142	38.7
農地や山林の管理、農作業や林業などへの支援	24	32.4	35	61.4	55	42.9	137	37.4
バスの巡回・宅配サービスなどの生活支援サービス	25	33.7	13	22.8	54	42.1	119	32.5
集落内の自主的な活動や他地域との交流活動に対する支援	21	28.3	16	28.0	19	14.8	70	19.1
住宅の整備など、都市部からの移住を促進する事業	18	24.3	15	26.3	29	22.6	96	26.2
公民館・集会所・公園など、地域住民が利用できる施設の整備	10	13.5	7	12.2	12	9.3	36	9.8
レクリエーション施設など、住民が楽しむ場所の整備	7	9.4	6	10.5	21	16.4	49	13.3
学校や保育所などの教育・保育サービスの充実	13	17.5	6	10.5	7	5.4	60	16.3
その他	7	9.4	2	3.5	1	0.7	16	4.3
回答者数	74	-	57	-	128	-	366	-

図表 3 八坂地区 地域づくりにとって重要だと思うこと

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
他の地域からの移住を促進すること	4	36.3	12	40.0	14	56.0	12	29.2
新たに農業に就く人を支援すること	0	0.0	10	33.3	5	20.0	15	36.5
若者の就業の場をつくり若者の移住を促進すること	8	72.7	15	50.0	18	72.0	29	70.7
職をもつ働き手の移住を促進すること	4	36.3	7	23.3	4	16.0	9	21.9
都会との交流を促進し、賑わいをつくること	4	36.3	3	10.0	8	32.0	7	17.0
地元産の農産物や加工品をPRし、地域ブランドをつくること	5	45.4	15	50.0	13	52.0	16	39.0
特産品の開発や販売を行うこと	1	9.0	4	13.3	3	12.0	14	34.1
子育て支援策を充実すること	6	54.5	13	43.3	15	60.0	20	48.7
高齢者の生活支援を行うこと	7	63.6	18	60.0	9	36.0	19	46.3
高齢者の介護支援サービスを充実すること	3	27.2	8	26.6	6	24.0	13	31.7
回答者数	11	-	30	-	25	-	41	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
他の地域からの移住を促進すること	26	35.1	20	35.0	37	28.9	125	34.1
新たに農業に就く人を支援すること	20	27.0	11	19.2	23	17.9	84	22.9
若者の就業の場をつくり若者の移住を促進すること	52	70.2	46	80.7	86	67.1	254	69.3
職をもつ働き手の移住を促進すること	8	10.8	2	3.5	15	11.7	49	13.3
都会との交流を促進し、賑わいをつくること	13	17.5	11	19.2	25	19.5	71	19.3
地元産の農産物や加工品をPRし、地域ブランドをつくること	29	39.1	30	52.6	53	41.4	161	43.9
特産品の開発や販売を行うこと	28	37.8	24	42.1	40	31.2	114	31.1
子育て支援策を充実すること	23	31.0	16	28.0	6	4.6	99	27
高齢者の生活支援を行うこと	43	58.1	33	57.8	71	55.4	200	54.6
高齢者の介護支援サービスを充実すること	28	37.8	21	36.8	66	51.5	145	39.6
回答者数	74	-	57	-	128	-	366	-

図表 4 美麻地区 現状の暮らしの中で困っていること

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
近くで食料や日用品を買えないこと	8	66.6	10	71.4	13	56.5	21	44.6
病院・診療所への行き来に時間がかかること	2	16.6	5	35.7	9	39.1	14	29.7
学校が遠いこと	7	58.3	3	21.4	1	4.3	5	10.6
近くに働き口がないこと	3	25.0	7	50.0	10	43.4	18	38.2
バスの便が悪いこと	9	75.0	3	21.4	5	21.7	14	29.7
郵便局や農協が近くに不便なこと	0	0.0	0	0.0	5	21.7	7	14.8
携帯電話の電波が届かないこと(電波状態が悪いこと)	3	25.0	7	50.0	8	34.7	9	19.1
農林地の管理が充分にできないこと	0	0.0	0	0.0	1	4.3	7	14.8
サルやイノシシ、シカなどの被害が多いこと	1	8.3	4	28.5	2	8.6	13	27.6
台風、地震、豪雪など被災のおそれがあること	0	0.0	2	14.2	4	17.3	8	17.0
自分や家族の身体が不自由で介護が必要なこと	0	0.0	1	7.1	1	4.3	4	8.5
近所に住んでいる人が少ないこと	2	16.6	2	14.2	3	13.0	3	6.3
その他	0	0.0	3	21.4	7	30.4	2	4.2
回答者数	12	-	14	-	23	-	47	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
近くで食料や日用品を買えないこと	26	49.0	34	50.7	61	50.0	173	51.1
病院・診療所への行き来に時間がかかること	21	39.6	24	35.8	57	46.7	132	39
学校が遠いこと	8	15.0	3	4.4	3	2.4	30	8.8
近くに働き口がないこと	29	54.7	23	34.3	27	22.1	117	34.6
バスの便が悪いこと	13	24.5	12	17.9	39	31.9	95	28.1
郵便局や農協が近くに不便なこと	11	20.7	19	28.3	49	40.1	91	26.9
携帯電話の電波が届かないこと(電波状態が悪いこと)	10	18.8	13	19.4	11	9.0	61	18
農林地の管理が充分にできないこと	15	28.3	19	28.3	46	37.7	88	26
サルやイノシシ、シカなどの被害が多いこと	23	43.3	28	41.7	66	54.0	137	40.5
台風、地震、豪雪など被災のおそれがあること	10	18.8	10	14.9	27	22.1	61	18
自分や家族の身体が不自由で介護が必要なこと	6	11.3	4	5.9	19	15.5	35	10.3
近所に住んでいる人が少ないこと	6	11.3	10	14.9	24	19.6	50	14.7
その他	4	7.5	8	11.9	7	5.7	31	9.1
回答者数	53	-	67	-	122	-	338	-

図表 5 美麻地区 行政に力を入れて欲しい施策

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
道路・水道など生活基盤の強化	5	41.6	4	28.5	7	30.4	16	34.0
働く場所や機会の確保・創出	3	25.0	8	57.1	10	43.4	26	55.3
病院・診療所・福祉施設などの医療・福祉サービスの充実	3	25.0	7	50.0	12	52.1	18	38.2
洪水・火災・積雪など、災害に対する対策	0	0.0	2	14.2	5	21.7	14	29.7
農地や山林の管理、農作業や林業などへの支援	1	8.3	4	28.5	7	30.4	17	36.1
バスの巡回・宅配サービスなどの生活支援サービス	6	50.0	3	21.4	6	26.0	13	27.6
集落内の自主的な活動や他地域との交流活動に対する支援	0	0.0	1	7.1	1	4.3	4	8.5
住宅の整備など、都市部からの移住を促進する事業	0	0.0	4	28.5	7	30.4	13	27.6
公民館・集会所・公園など、地域住民が利用できる施設の整備	1	8.3	2	14.2	4	17.3	10	21.2
レクリエーション施設など、住民が楽しむ場所の整備	1	8.3	5	35.7	3	13.0	4	8.5
学校や保育所などの教育・保育サービスの充実	4	33.3	2	14.2	13	56.5	12	25.5
その他	0	0.0	1	7.1	4	17.3	2	4.2
回答者数	12	-	14	-	23	-	47	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
道路・水道など生活基盤の強化	11	20.7	11	16.4	33	27.0	87	25.7
働く場所や機会の確保・創出	28	52.8	30	44.7	37	30.3	142	42
病院・診療所・福祉施設などの医療・福祉サービスの充実	17	32.0	37	55.2	75	61.4	169	50
洪水・火災・積雪など、災害に対する対策	19	35.8	19	28.3	55	45.0	114	33.7
農地や山林の管理、農作業や林業などへの支援	24	45.2	30	44.7	61	50.0	144	42.6
バスの巡回・宅配サービスなどの生活支援サービス	16	30.1	13	19.4	39	31.9	96	28.4
集落内の自主的な活動や他地域との交流活動に対する支援	9	16.9	16	23.8	22	18.0	53	15.6
住宅の整備など、都市部からの移住を促進する事業	9	16.9	22	32.8	25	20.4	80	23.6
公民館・集会所・公園など、地域住民が利用できる施設の整備	3	5.6	9	13.4	5	4.0	34	10
レクリエーション施設など、住民が楽しむ場所の整備	6	11.3	17	25.3	14	11.4	50	14.7
学校や保育所などの教育・保育サービスの充実	7	13.2	5	7.4	7	5.7	50	14.7
その他	7	13.2	5	7.4	7	5.7	26	7.6
回答者数	53	-	67	-	122	-	338	-

図表 6 美麻地区 地域づくりにとって重要だと思うこと

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
他の地域からの移住を促進すること	2	16.6	4	28.5	6	26.0	13	27.6
新たに農業に就く人を支援すること	4	33.3	4	28.5	5	21.7	14	29.7
若者の就業の場をつくり若者の移住を促進すること	3	25.0	8	57.1	15	65.2	27	57.4
職をもつ働き手の移住を促進すること	3	25.0	1	7.1	7	30.4	8	17.0
都会との交流を促進し、賑わいをつくること	1	8.3	3	21.4	1	4.3	4	8.5
地元産の農産物や加工品をPRし、地域ブランドをつくること	2	16.6	2	14.2	9	39.1	21	44.6
特産品の開発や販売を行うこと	3	25.0	1	7.1	5	21.7	11	23.4
子育て支援策を充実すること	7	58.3	8	57.1	19	82.6	21	44.6
高齢者の生活支援を行うこと	6	50.0	3	21.4	10	43.4	17	36.1
高齢者の介護支援サービスを充実すること	5	41.6	3	21.4	5	21.7	15	31.9
回答者数	12	-	14	-	23	-	47	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
他の地域からの移住を促進すること	20	37.7	25	37.3	43	35.2	113	33.4
新たに農業に就く人を支援すること	10	18.8	20	29.8	19	15.5	76	22.4
若者の就業の場をつくり若者の移住を促進すること	30	56.6	39	58.2	69	56.5	191	56.5
職をもつ働き手の移住を促進すること	10	18.8	16	23.8	18	14.7	63	18.6
都会との交流を促進し、賑わいをつくること	6	11.3	14	20.8	26	21.3	55	16.2
地元産の農産物や加工品をPRし、地域ブランドをつくること	20	37.7	42	62.6	42	34.4	138	40.8
特産品の開発や販売を行うこと	16	30.1	27	40.2	31	25.4	94	27.8
子育て支援策を充実すること	15	28.3	11	16.4	20	16.3	101	29.8
高齢者の生活支援を行うこと	32	60.3	34	50.7	66	54.0	168	49.7
高齢者の介護支援サービスを充実すること	17	32.0	22	32.8	56	45.9	123	36.3
回答者数	53	-	67	-	122	-	338	-

図表 7 山村留学 八坂地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	11	100.0	28	93.3	22	88.0	41	100.0
②参加経験度	9	81.8	16	53.3	14	56.0	20	48.7
③地域活性化への貢献度	8	72.7	18	60.0	15	60.0	29	70.7
④運営参加希望度	9	81.8	17	56.6	17	68.0	25	60.9
⑤行政支援必要度	10	90.9	21	70.0	22	88.0	30	73.1
⑥他地域との連携可能度	8	72.7	21	70.0	19	76.0	28	68.2
回答者数	11	-	30	-	25	-	41	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	66	89.1	53	92.9	105	82.0	326	89
②参加経験度	34	45.9	22	38.5	44	34.3	159	43.4
③地域活性化への貢献度	46	62.1	37	64.9	65	50.7	218	59.5
④運営参加希望度	38	51.3	27	47.3	49	38.2	182	49.7
⑤行政支援必要度	51	68.9	41	71.9	79	61.7	254	69.3
⑥他地域との連携可能度	43	58.1	35	61.4	60	46.8	214	58.4
回答者数	74	-	57	-	128	-	366	-

図表 8 山村留学 美麻地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	12	100.0	12	85.7	20	86.9	42	89.3
②参加経験度	10	83.3	9	64.2	6	26.0	22	46.8
③地域活性化への貢献度	9	75.0	7	50.0	9	39.1	15	31.9
④運営参加希望度	5	41.6	6	42.8	9	39.1	10	21.2
⑤行政支援必要度	7	58.3	9	64.2	17	73.9	21	44.6
⑥他地域との連携可能度	6	50.0	7	50.0	14	60.8	22	46.8
回答者数	12	-	14	-	23	-	47	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	50	94.3	58	86.5	98	80.3	292	86.3
②参加経験度	25	47.1	11	16.4	20	16.3	103	30.4
③地域活性化への貢献度	31	58.4	34	50.7	42	34.4	147	43.4
④運営参加希望度	17	32.0	20	29.8	20	16.3	87	25.7
⑤行政支援必要度	34	64.1	46	68.6	59	48.3	193	57.1
⑥他地域との連携可能度	32	60.3	33	49.2	46	37.7	160	47.3
回答者数	53	-	67	-	122	-	338	-

図表 9 そば祭り 八坂地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	11	100.0	28	93.3	25	100.0	41	100.0
②参加経験度	6	54.5	12	40.0	13	52.0	26	63.4
③地域活性化への貢献度	9	81.8	17	56.6	16	64.0	26	63.4
④運営参加希望度	8	72.7	14	46.6	14	56.0	19	46.3
⑤行政支援必要度	6	54.5	17	56.6	14	56.0	19	46.3
⑥他地域との連携可能度	8	72.7	18	60.0	16	64.0	23	56.0
回答者数	11	-	30	-	25	-	41	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	72	97.2	57	100.0	120	93.7	354	96.7
②参加経験度	45	60.8	39	68.4	68	53.1	209	57.1
③地域活性化への貢献度	38	51.3	35	61.4	62	48.4	203	55.4
④運営参加希望度	32	43.2	23	40.3	45	35.1	155	42.3
⑤行政支援必要度	38	51.3	31	54.3	64	50.0	189	51.6
⑥他地域との連携可能度	43	58.1	35	61.4	64	50.0	207	56.5
回答者数	74	-	57	-	128	-	366	-

図表 10 そば祭り 美麻地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	11	91.6	14	100.0	17	73.9	46	97.8
②参加経験度	9	75.0	9	64.2	10	43.4	21	44.6
③地域活性化への貢献度	6	50.0	9	64.2	12	52.1	22	46.8
④運営参加希望度	5	41.6	5	35.7	10	43.4	13	27.6
⑤行政支援必要度	4	33.3	8	57.1	10	43.4	22	46.8
⑥他地域との連携可能度	7	58.3	9	64.2	14	60.8	22	46.8
回答者数	12	-	14	-	23	-	47	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	51	96.2	67	100.0	114	93.4	320	94.6
②参加経験度	34	64.1	29	43.2	56	45.9	168	49.7
③地域活性化への貢献度	34	64.1	34	50.7	50	40.9	167	49.4
④運営参加希望度	26	49.0	21	31.3	36	29.5	116	34.3
⑤行政支援必要度	23	43.3	31	46.2	48	39.3	146	43.1
⑥他地域との連携可能度	33	62.2	35	52.2	53	43.4	173	51.1
回答者数	53	-	67	-	122	-	338	-

図表 11 棚田や畑を守る活動 八坂地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	6	54.5	9	30.0	16	64.0	25	60.9
②参加経験度	3	27.2	4	13.3	9	36.0	7	17.0
③地域活性化への貢献度	3	27.2	10	33.3	14	56.0	11	26.8
④運営参加希望度	4	36.3	11	36.6	13	52.0	12	29.2
⑤行政支援必要度	6	54.5	20	66.6	20	80.0	25	60.9
⑥他地域との連携可能度	4	36.3	17	56.6	16	64.0	21	51.2
回答者数	11	-	30	-	25	-	41	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	48	64.8	43	75.4	101	78.9	248	67.7
②参加経験度	7	9.4	12	21.0	21	16.4	63	17.2
③地域活性化への貢献度	26	35.1	20	35.0	39	30.4	123	33.6
④運営参加希望度	27	36.4	20	35.0	37	28.9	124	33.8
⑤行政支援必要度	43	58.1	34	59.6	60	46.8	208	56.8
⑥他地域との連携可能度	41	55.4	32	56.1	54	42.1	185	50.5
回答者数	74	-	57	-	128	-	366	-

図表 12 棚田や畑を守る活動 美麻地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	5	41.6	5	35.7	12	52.1	34	72.3
②参加経験度	1	8.3	5	35.7	5	21.7	8	17.0
③地域活性化への貢献度	4	33.3	5	35.7	6	26.0	21	44.6
④運営参加希望度	7	58.3	7	50.0	7	30.4	13	27.6
⑤行政支援必要度	8	66.6	7	50.0	14	60.8	28	59.5
⑥他地域との連携可能度	8	66.6	7	50.0	15	65.2	27	57.4
回答者数	12	-	14	-	23	-	47	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	44	83.0	51	76.1	92	75.4	243	71.8
②参加経験度	14	26.4	13	19.4	22	18.0	68	20.1
③地域活性化への貢献度	27	50.9	25	37.3	36	29.5	124	36.6
④運営参加希望度	20	37.7	22	32.8	23	18.8	99	29.2
⑤行政支援必要度	31	58.4	35	52.2	57	46.7	180	53.2
⑥他地域との連携可能度	33	62.2	36	53.7	49	40.1	175	51.7
回答者数	53	-	67	-	122	-	338	-

図表 13 花いっぱい活動 八坂地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	10	90.9	18	60.0	23	92.0	39	95.1
②参加経験度	10	90.9	10	33.3	15	60.0	27	65.8
③地域活性化への貢献度	7	63.6	16	53.3	19	76.0	29	70.7
④運営参加希望度	8	72.7	13	43.3	14	56.0	27	65.8
⑤行政支援必要度	7	63.6	11	36.6	16	64.0	27	65.8
⑥他地域との連携可能度	5	45.4	13	43.3	13	52.0	21	51.2
回答者数	11	-	30	-	25	-	41	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	71	95.9	56	98.2	117	91.4	334	91.2
②参加経験度	54	72.9	38	66.6	91	71.0	245	66.9
③地域活性化への貢献度	54	72.9	42	73.6	78	60.9	245	66.9
④運営参加希望度	53	71.6	40	70.1	74	57.8	229	62.5
⑤行政支援必要度	52	70.2	37	64.9	81	63.2	231	63.1
⑥他地域との連携可能度	42	56.7	36	63.1	56	43.7	186	50.8
回答者数	74	-	57	-	128	-	366	-

図表 14 花いっぱい活動 美麻地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	5	41.6	9	64.2	17	73.9	46	97.8
②参加経験度	4	33.3	5	35.7	6	26.0	33	70.2
③地域活性化への貢献度	5	41.6	7	50.0	9	39.1	28	59.5
④運営参加希望度	7	58.3	7	50.0	9	39.1	24	51.0
⑤行政支援必要度	4	33.3	9	64.2	15	65.2	32	68.0
⑥他地域との連携可能度	4	33.3	8	57.1	14	60.8	27	57.4
回答者数	12	-	14	-	23	-	47	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	50	94.3	55	82.0	108	88.5	290	85.7
②参加経験度	36	67.9	41	61.1	91	74.5	216	63.9
③地域活性化への貢献度	32	60.3	31	46.2	64	52.4	176	52
④運営参加希望度	30	56.6	38	56.7	67	54.9	182	53.8
⑤行政支援必要度	35	66.0	47	70.1	74	60.6	216	63.9
⑥他地域との連携可能度	31	58.4	32	47.7	60	49.1	176	52
回答者数	53	-	67	-	122	-	338	-

図表 15 体験活動 八坂地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	11	100.0	25	83.3	20	80.0	38	92.6
②参加経験度	9	81.8	13	43.3	8	32.0	18	43.9
③地域活性化への貢献度	8	72.7	14	46.6	13	52.0	21	51.2
④運営参加希望度	7	63.6	13	43.3	11	44.0	14	34.1
⑤行政支援必要度	8	72.7	14	46.6	13	52.0	15	36.5
⑥他地域との連携可能度	8	72.7	17	56.6	16	64.0	21	51.2
回答者数	11	-	30	-	25	-	41	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	67	90.5	52	91.2	110	85.9	323	88.2
②参加経験度	28	37.8	18	31.5	32	25.0	126	34.4
③地域活性化への貢献度	32	43.2	27	47.3	48	37.5	163	44.5
④運営参加希望度	31	41.8	20	35.0	36	28.1	132	36
⑤行政支援必要度	37	50.0	31	54.3	57	44.5	175	47.8
⑥他地域との連携可能度	45	60.8	30	52.6	50	39.0	187	51
回答者数	74	-	57	-	128	-	366	-

図表 16 体験活動 美麻地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	5	41.6	6	42.8	6	26.0	31	65.9
②参加経験度	2	16.6	3	21.4	1	4.3	2	4.2
③地域活性化への貢献度	3	25.0	4	28.5	6	26.0	9	19.1
④運営参加希望度	5	41.6	4	28.5	3	13.0	9	19.1
⑤行政支援必要度	5	41.6	7	50.0	7	30.4	19	40.4
⑥他地域との連携可能度	4	33.3	7	50.0	11	47.8	17	36.1
回答者数	12	-	14	-	23	-	47	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	35	66.0	41	61.1	61	50.0	185	54.7
②参加経験度	9	16.9	5	7.4	8	6.5	30	8.8
③地域活性化への貢献度	15	28.3	15	22.3	23	18.8	75	22.1
④運営参加希望度	10	18.8	13	19.4	14	11.4	58	17.1
⑤行政支援必要度	17	32.0	23	34.3	38	31.1	116	34.3
⑥他地域との連携可能度	21	39.6	25	37.3	37	30.3	122	36
回答者数	53	-	67	-	122	-	338	-

図表 17 伝統芸能承継活動 八坂地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	11	100.0	20	66.6	21	84.0	36	87.8
②参加経験度	4	36.3	8	26.6	4	16.0	10	24.3
③地域活性化への貢献度	6	54.5	14	46.6	8	32.0	24	58.5
④運営参加希望度	6	54.5	14	46.6	6	24.0	16	39.0
⑤行政支援必要度	6	54.5	14	46.6	12	48.0	24	58.5
⑥他地域との連携可能度	6	54.5	13	43.3	15	60.0	23	56.0
回答者数	11	-	30	-	25	-	41	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	64	86.4	51	89.4	118	92.1	321	87.7
②参加経験度	21	28.3	20	35.0	29	22.6	96	26.2
③地域活性化への貢献度	37	50.0	35	61.4	67	52.3	191	52.1
④運営参加希望度	27	36.4	20	35.0	38	29.6	127	34.6
⑤行政支援必要度	39	52.7	33	57.8	66	51.5	194	53
⑥他地域との連携可能度	43	58.1	33	57.8	53	41.4	186	50.8
回答者数	74	-	57	-	128	-	366	-

図表 18 伝統芸能承継活動 美麻地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	7	58.3	14	100.0	14	60.8	42	89.3
②参加経験度	6	50.0	6	42.8	4	17.3	15	31.9
③地域活性化への貢献度	6	50.0	5	35.7	7	30.4	29	61.7
④運営参加希望度	4	33.3	8	57.1	8	34.7	17	36.1
⑤行政支援必要度	4	33.3	7	50.0	10	43.4	29	61.7
⑥他地域との連携可能度	4	33.3	8	57.1	10	43.4	26	55.3
回答者数	12	-	14	-	23	-	47	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	49	92.4	51	76.1	106	86.8	283	83.7
②参加経験度	17	32.0	15	22.3	20	16.3	83	24.5
③地域活性化への貢献度	37	69.8	30	44.7	58	47.5	172	50.8
④運営参加希望度	23	43.3	15	22.3	29	23.7	104	30.7
⑤行政支援必要度	33	62.2	34	50.7	58	47.5	175	51.7
⑥他地域との連携可能度	34	64.1	33	49.2	47	38.5	162	47.9
回答者数	53	-	67	-	122	-	338	-

図表 19 道路愛護事業 八坂地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	8	72.7	20	66.6	23	92.0	36	87.8
②参加経験度	4	36.3	10	33.3	17	68.0	24	58.5
③地域活性化への貢献度	3	27.2	14	46.6	16	64.0	16	39.0
④運営参加希望度	5	45.4	18	60.0	14	56.0	24	58.5
⑤行政支援必要度	7	63.6	20	66.6	17	68.0	30	73.1
⑥他地域との連携可能度	4	36.3	16	53.3	8	32.0	20	48.7
回答者数	11	-	30	-	25	-	41	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	64	86.4	48	84.2	113	88.2	312	85.2
②参加経験度	54	72.9	40	70.1	101	78.9	250	68.3
③地域活性化への貢献度	40	54.0	29	50.8	73	57.0	191	52.1
④運営参加希望度	50	67.5	38	66.6	73	57.0	222	60.6
⑤行政支援必要度	56	75.6	42	73.6	96	75.0	268	73.2
⑥他地域との連携可能度	44	59.4	34	59.6	74	57.8	200	54.6
回答者数	74	-	57	-	128	-	366	-

図表 20 道路愛護事業 美麻地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	3	25.0	1	7.1	3	13.0	7	14.8
②参加経験度	2	16.6	1	7.1	0	0.0	4	8.5
③地域活性化への貢献度	3	25.0	3	21.4	3	13.0	9	19.1
④運営参加希望度	4	33.3	3	21.4	3	13.0	7	14.8
⑤行政支援必要度	4	33.3	5	35.7	8	34.7	13	27.6
⑥他地域との連携可能度	3	25.0	5	35.7	7	30.4	13	27.6
回答者数	12	-	14	-	23	-	47	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	15	28.3	10	14.9	14	11.4	53	15.6
②参加経験度	5	9.4	4	5.9	5	4.0	21	6.2
③地域活性化への貢献度	12	22.6	7	10.4	10	8.1	47	13.9
④運営参加希望度	4	7.5	7	10.4	6	4.9	34	10
⑤行政支援必要度	14	26.4	12	17.9	16	13.1	72	21.3
⑥他地域との連携可能度	12	22.6	8	11.9	13	10.6	61	18
回答者数	53	-	67	-	122	-	338	-

図表 21 結婚対策事業 八坂地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	2	18.1	9	30.0	19	76.0	33	80.4
②参加経験度	0	0.0	1	3.3	3	12.0	8	19.5
③地域活性化への貢献度	4	36.3	9	30.0	15	60.0	20	48.7
④運営参加希望度	3	27.2	9	30.0	5	20.0	12	29.2
⑤行政支援必要度	4	36.3	15	50.0	12	48.0	20	48.7
⑥他地域との連携可能度	3	27.2	15	50.0	13	52.0	20	48.7
回答者数	11	-	30	-	25	-	41	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	60	81.0	47	82.4	105	82.0	275	75.1
②参加経験度	8	10.8	5	8.7	17	13.2	42	11.4
③地域活性化への貢献度	36	48.6	29	50.8	63	49.2	176	48
④運営参加希望度	21	28.3	18	31.5	47	36.7	115	31.4
⑤行政支援必要度	41	55.4	35	61.4	83	64.8	210	57.3
⑥他地域との連携可能度	46	62.1	38	66.6	68	53.1	203	55.4
回答者数	74	-	57	-	128	-	366	-

図表 22 結婚対策事業 美麻地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	0	0.0	2	14.2	3	13.0	4	8.5
②参加経験度	0	0.0	0	0.0	1	4.3	3	6.3
③地域活性化への貢献度	4	33.3	4	28.5	4	17.3	10	21.2
④運営参加希望度	2	16.6	4	28.5	4	17.3	6	12.7
⑤行政支援必要度	3	25.0	5	35.7	6	26.0	11	23.4
⑥他地域との連携可能度	4	33.3	5	35.7	6	26.0	14	29.7
回答者数	12	-	14	-	23	-	47	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	10	18.8	9	13.4	6	4.9	34	10
②参加経験度	2	3.7	1	1.4	2	1.6	9	2.6
③地域活性化への貢献度	6	11.3	10	14.9	5	4.0	43	12.7
④運営参加希望度	4	7.5	4	5.9	9	7.3	33	9.7
⑤行政支援必要度	12	22.6	13	19.4	14	11.4	64	18.9
⑥他地域との連携可能度	14	26.4	13	19.4	13	10.6	69	20.4
回答者数	53	-	67	-	122	-	338	-

図表 23 メンディーノ交流活動 八坂地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	6	54.5	10	33.3	15	60.0	24	58.5
②参加経験度	2	18.1	5	16.6	6	24.0	7	17.0
③地域活性化への貢献度	4	36.3	7	23.3	6	24.0	14	34.1
④運営参加希望度	5	45.4	8	26.6	8	32.0	8	19.5
⑤行政支援必要度	6	54.5	11	36.6	12	48.0	17	41.4
⑥他地域との連携可能度	5	45.4	9	30.0	7	28.0	14	34.1
回答者数	11	-	30	-	25	-	41	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	33	44.5	28	49.1	37	28.9	153	41.8
②参加経験度	12	16.2	8	14.0	7	5.4	47	12.8
③地域活性化への貢献度	17	22.9	10	17.5	15	11.7	73	19.9
④運営参加希望度	18	24.3	9	15.7	8	6.2	64	17.4
⑤行政支援必要度	24	32.4	16	28.0	24	18.7	110	30
⑥他地域との連携可能度	13	17.5	15	26.3	18	14.0	81	22.1
回答者数	74	-	57	-	128	-	366	-

図表 24 メンディーノ交流活動 美麻地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	11	91.6	13	92.8	18	78.2	42	89.3
②参加経験度	10	83.3	12	85.7	3	13.0	30	63.8
③地域活性化への貢献度	8	66.6	9	64.2	11	47.8	25	53.1
④運営参加希望度	9	75.0	10	71.4	11	47.8	19	40.4
⑤行政支援必要度	9	75.0	9	64.2	13	56.5	29	61.7
⑥他地域との連携可能度	4	33.3	7	50.0	9	39.1	24	51.0
回答者数	12	-	14	-	23	-	47	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	51	96.2	62	92.5	110	90.1	307	90.8
②参加経験度	37	69.8	22	32.8	32	26.2	146	43.1
③地域活性化への貢献度	33	62.2	34	50.7	58	47.5	178	52.6
④運営参加希望度	27	50.9	21	31.3	29	23.7	126	37.2
⑤行政支援必要度	34	64.1	40	59.7	62	50.8	196	57.9
⑥他地域との連携可能度	32	60.3	27	40.2	42	34.4	145	42.8
回答者数	53	-	67	-	122	-	338	-

図表 25 市民農園運営 八坂地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	2	18.1	3	10.0	9	36.0	13	31.7
②参加経験度	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	4.8
③地域活性化への貢献度	2	18.1	4	13.3	4	16.0	7	17.0
④運営参加希望度	2	18.1	3	10.0	2	8.0	5	12.1
⑤行政支援必要度	4	36.3	6	20.0	6	24.0	11	26.8
⑥他地域との連携可能度	4	36.3	7	23.3	7	28.0	11	26.8
回答者数	11	-	30	-	25	-	41	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	23	31.0	17	29.8	24	18.7	91	24.8
②参加経験度	4	5.4	2	3.5	1	0.7	9	2.4
③地域活性化への貢献度	12	16.2	11	19.2	9	7.0	49	13.3
④運営参加希望度	8	10.8	8	14.0	6	4.6	34	9.2
⑤行政支援必要度	16	21.6	16	28.0	19	14.8	78	21.3
⑥他地域との連携可能度	15	20.2	16	28.0	14	10.9	74	20.2
回答者数	74	-	57	-	128	-	366	-

図表 26 市民農園運営 美麻地区 事業カルテ

	10代		20代		30代		40代	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	7	58.3	8	57.1	13	56.5	37	78.7
②参加経験度	1	8.3	4	28.5	6	26.0	7	14.8
③地域活性化への貢献度	3	25.0	5	35.7	5	21.7	18	38.2
④運営参加希望度	4	33.3	3	21.4	6	26.0	11	23.4
⑤行政支援必要度	7	58.3	6	42.8	12	52.1	21	44.6
⑥他地域との連携可能度	6	50.0	7	50.0	9	39.1	20	42.5
回答者数	12	-	14	-	23	-	47	-

	50代		60代		70代～		合計	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
①認知度	43	81.1	61	91.0	90	73.7	259	76.6
②参加経験度	13	24.5	21	31.3	37	30.3	89	26.3
③地域活性化への貢献度	25	47.1	28	41.7	42	34.4	126	37.2
④運営参加希望度	16	30.1	21	31.3	31	25.4	92	27.2
⑤行政支援必要度	33	62.2	34	50.7	54	44.2	167	49.4
⑥他地域との連携可能度	29	54.7	33	49.2	35	28.6	139	41.1
回答者数	53	-	67	-	122	-	338	-

委員会名簿

委員会名簿

「新たな過疎対策に関する調査研究委員会」

委員長	鈴木 輝隆	江戸川大学社会学部教授	
委員	坂井 欽吾	八坂地域づくり委員会	
	鳥屋 隆一	八坂地域づくり委員会	
	鮎井 洋一	八坂地域づくり委員会	
	平林 操	八坂地域づくり委員会	
	竹村 信吉	八坂地域づくり委員会	
	北沢伊絃男	美麻地域づくり委員会	
	傘木 則興	美麻地域づくり委員会	
	柳沢 勇	美麻地域づくり委員会	
	門脇 佳子	美麻地域づくり委員会	
	江津 吉雄	美麻地域づくり委員会	
	鳥屋 寿和	大町市 八坂支所長	
	飯澤 壮一	大町市 美麻支所長	
	藤田 萬豊	財団法人 地方自治研究機構事務局長	
	事務局	宮坂 佳宏	大町市企画財政課長
		曾根原耕平	大町市企画調整長
内山雄太郎		大町市企画調整係	
勝野 健一		大町市八坂支所 総務民生課長補佐	
細井 忠		大町市美麻支所 総務民生課長補佐	
岸田 拓士		財団法人 地方自治研究機構調査研究部主任研究員	
小野瀬孝之		財団法人 地方自治研究機構調査研究部研究員	
家中 賢作		財団法人 地方自治研究機構調査研究部研究員	
基礎調査機関	矢野 勝彦	株式会社 日本総合研究所 公共コンサルティング部長	
	中山紗央里	株式会社 日本総合研究所 公共コンサルティング部研究員	

(順不同)

新たな過疎対策に関する調査研究

－平成23年3月発行－

大町市

〒398-8601 長野県大町市大町3887
電話 0261-22-0420（代表）

大町市八坂支所

〒398-8601 長野県大町市八坂1108-1
電話 0261-22-2001（代表）

大町市美麻支所

〒398-8601 長野県大町市美麻11810-イ
電話 0261-22-2311（代表）

財団法人 地方自治研究機構

〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 全国町村議員会館3階
電話 03-3237-1411（代表）

印刷 株式会社ワコープラネット